

## 第11節 第10面(黒色土2面)の調査内容

第9面の黒色土中の遺構調査に伴い、さらに竪穴竪穴建物、土坑等の遺構群が存在することが確認され、遺構検出を継続しながら調査を進めた。

竪穴建物6棟、掘立柱建物1棟、平地建物1棟、土坑5基、ピット7基、集石1基及び土器集中、焼土を調査した。

### 1. 竪穴建物

調査した竪穴建物は、第9面調査の竪穴建物と重複もしくは近接して分布し、7区全域が古墳集落域であったことがわかる。

古墳集落形成期から墳形から圓い状遺構造営、Hr-FA降下という時間的経過の中で形成されてきたことになる。

#### 7区5号竪穴建物(第128～131図 PL.35・79・80)

位置 X=57313～57319・Y=-75539～-75545

**重複** 1号竪穴建物、6号竪穴建物および1号掘立柱建物と重複する。調査経過に伴う平面確認状況から6号竪穴建物－5号竪穴建物－1号竪穴建物の順で時期的に新しくなるという調査所見が得られている。なお、1号掘立柱建物北東隅の柱穴が5号竪穴建物床面上で確認されていることから、1号掘立柱建物が時間的に新しい可能性が高い。1号竪穴建物と1号掘立柱建物は遺構間の重複関係はないが、近接した位置関係であることから同時期とは考えにくいことから時間差をもつものと思われる。すなわち、この地点では4期の建物変遷があったことになる。

**平面形** 竪穴北半部は1号竪穴建物が掘り込まれることから遺失するため平面形状は不明である。また、西壁についても6号竪穴建物と重複するため、本竪穴建物が新しいものの壁部の遺存状況が良好ではない部分もみられるため、やや不規則な形状となっている。なお、平面形状は不明であるが、確認される東壁規模により調査区内の竪穴建物と比較すると、4号竪穴建物が平面規模では近似している。

**規模** 西壁長4.85m 最大壁高0.20m

**床面積** — **主軸方位** —

**検出・埋没状況** 黒色土中で検出された竪穴建物で、1

号竪穴建物により北半部分が掘削され、同竪穴建物周堤下に南半部が遺存する。この周堤上が標高216.95m前後、5号竪穴建物床面が216.30m前後であることから考えれば、掘り込み面である旧地表面は失われているが、竪穴の深さは最大で0.65m程度となる。なお、重複する1号竪穴建物より竪穴深は浅いが、6号竪穴建物とは同程度の深さである。黒色土中に造営されるが、黄褐色粒、焼土粒、炭化物等を含む黒褐色土により埋没することから、竪穴形状が特定される。埋没土はおそらく周堤構成土の流入によるものと考えられる。

**周堤** 複数の時期にわたる遺構間の重複があり、周堤はすでに遺失し確認できない。

**上屋構造・壁構造** 上屋構造を推定できるような調査情報は得られていない。P 3は本竪穴建物に伴う柱穴とみられるが、他に確認されていない。

**床面** ロームを含む黒褐色土による掘方理土上面に床が形成される。床面はほぼ水平であるが、部分的に硬化面が確認される。また、床面上に灰もしくは灰色粘質物の広がりが認められた。炭化材、焼土等は認められないことから焼失建物ではないと思われるため、床面に敷設された灰もしくは植物痕跡の可能性がある。

なお、灰については自然科学分析により「イネ粉が多く確認され、稻藁も含まれていたとみられる」との分析結果が得られている。(『第6章自然科学分析』参照)

窓は遺構間重複により遺失するため不明であるが、調理行為による遺存体と考えられる。

**柱穴** 床面上でP 2、P 3のピットを確認した。P 3は柱穴といえる規模、形態を示すが、P 2は深度が浅く、柱を支える柱穴としてはにはふさわしくないとみられる。

確認されたピットの規模は下記の通りである。

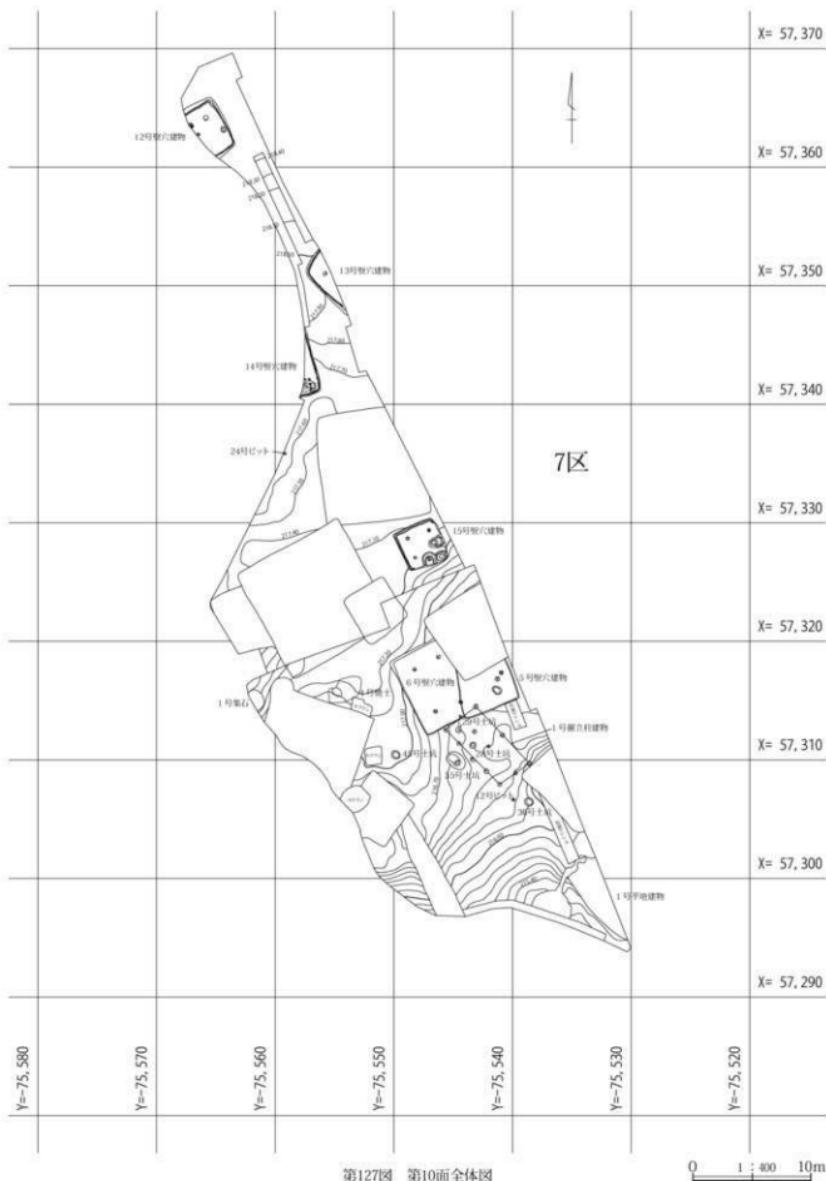
P 2 長径0.38m 短径0.38m 深さ0.18m

P 3 長径0.33m 短径0.31m 深さ0.60m

**竪穴** 竪穴北半部が1号竪穴建物と重複するため遺失し、南半部では認められていない。

**貯蔵穴** 竪穴南東寄りに土坑1が確認されている。長軸1.1m、短軸0.98m、深さ0.12mの楕円形平面を呈し、甕、壺類が砾とともに投入されている。土器類は、土坑内ののみではなく、開口部から逸脱した範囲にまで分布する。出土状況から竪穴建物廃絶時に投棄されたものと判断さ

## 第11節 第10面(黒色土2面)の調査内容



第127図 第10面全体図



## 7区 5号壁穴建物A-A'・C-C'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄橙色粒を少量含み、粘性を有し縮っている。遺物を混入する。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄橙色粒、暗褐色土、炭化物小片を含み、粘性を有し縮っている。
- 3 黒色土(10YR2/1)にぶい黄橙色粒を少量含み、粘性をもつ。
- 4 黒色土(10YR2/1)灰白色粒。にぶい黄橙色粒を少量含み、粘性をもつ。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄橙色粒、ロームブロックを少量含み、粘性をもつ。

## 7区 5号壁穴建物P2・P3

- 1 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄橙色粒、炭化物小片を含み、粘性を有し縮っている。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)暗褐色土を含み、縮っている。

第128図 7区 5号壁穴建物平断面図(1)

れる。建物内の土坑はこの土坑1のみであり、貯蔵穴とみられる土坑は確認されていない。

**壁際溝** 確認されていない。

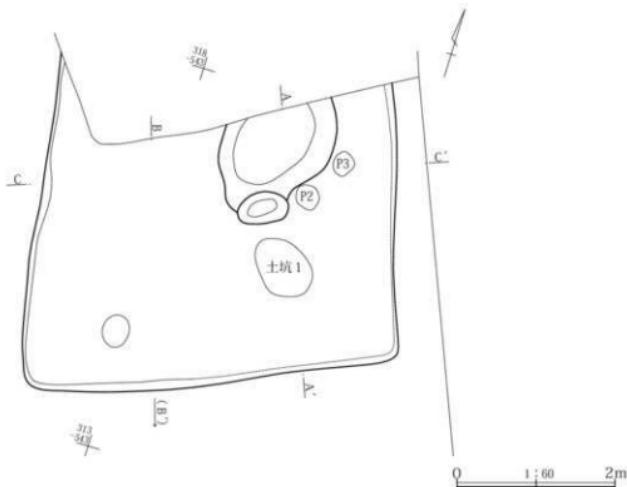
**床面小溝** 確認されていない。

**掘方** 黒褐色土層中に壁穴建物が構築されることから掘方形態は明確に把握されていない。全体を0.1m前後掘り下げた後、黒褐色土で埋し平坦面を形成し、上面を床とする。掘方として確認した痕跡は、壁穴掘削時の段階のものとみられる。

**床下土坑** 掘方掘削に伴う起伏が認められるが、床下土坑としての掘り込みは認められない。

**遺物と出土状況** 壁穴建物北半部は1号壁穴建物の重複により消失したことから、遺物の出土状況も全体的な傾向は不明となる。土器類は土坑1内および周間に集中出土するが、礫も含まれ壁穴廃絶時に一括廃棄されたものとみられる。出土状況から、この土器群が本壁穴建物に伴う遺物となるものと考えられる。土師器杯、高杯、甕類が集積状態を示すが、動物遺体が含まれる点が注意される。土器類に混在することから同時に廃棄されたものと思われる。なお、同定分析により鹿角の可能性が高いとも指摘されている。(「第6章自然科学分析」参照)

**調査所見** 出土土器から5世紀後半の壁穴建物である。



第129図 7区5号竪穴建物平面図(2)

北半部は重複により遺失するため竪の存否および形態は不明である。また、柱穴もP3のみの確認にとどまることから、構成等については不明となっている。なお、P1は1号掘立柱建物に伴う北東隅の柱穴とみられることから、本竪穴に付随するものではない。床面上で検出されることから、1号掘立柱建物が本竪穴建物より時間的に新しいものといえる。土坑1は内部および周囲に土器類、礫が一括出土するが、竪穴廃絶時の投棄と考えられる。おそらく、土坑1も土器類の廃棄行為に伴い掘削されたものとみられる。伴う礫には柱状礫等も伴うことから、竪の棄損による構成礫の可能性も考えられる。

#### 7区6号竪穴建物(第132～135図 PL.36・80～82)

**位置** X=57312～57321・Y=-75544～-75556

**重複** 本竪穴建物西半部に1号・5号竪穴建物が重複し遺失する。また、南壁に接して1号掘立柱建物が位置するが、本竪穴が時期的に古く、遺構間の重複関係について検出状況から整理すると、6号竪穴建物→5号竪穴建物→1号掘立柱建物→1号竪穴建物の順に新しくなる。

**平面形** 竪穴西側のみが残存するが、北西隅および南西隅は直角に屈曲し、各壁も直線的に連続する整然とした

方形平面を呈する。

**規模** 西壁長7.0m 最大壁高0.40m

**床面積** — **主軸方位** N-63°—E

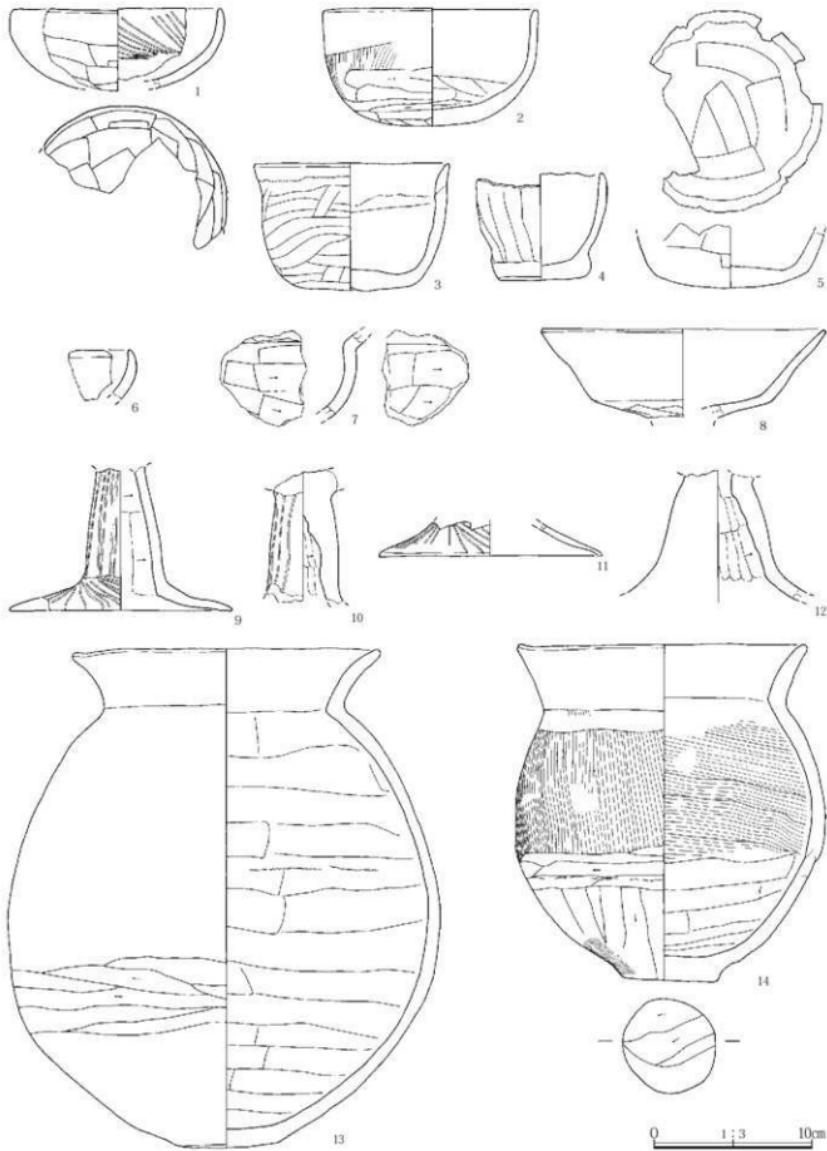
**検出・埋没状況** 1号・5号竪穴建物検出に伴い本竪穴建物の平面プランを確認した。黒褐色土層中に構築された竪穴であり遺構間重複により竪穴東半部は遺失する。埋没土は黒褐色土を主としていることから、周堤構成土の流入によるものと推定される。竪穴深は確認面から床面まで0.4m前後であるが、黒褐色土層上面である旧地表面が残存していた場合、最大で0.8m程度の深さになることが推定できる。

**周堤** 遺構間重複により周堤の痕跡は確認されていない。

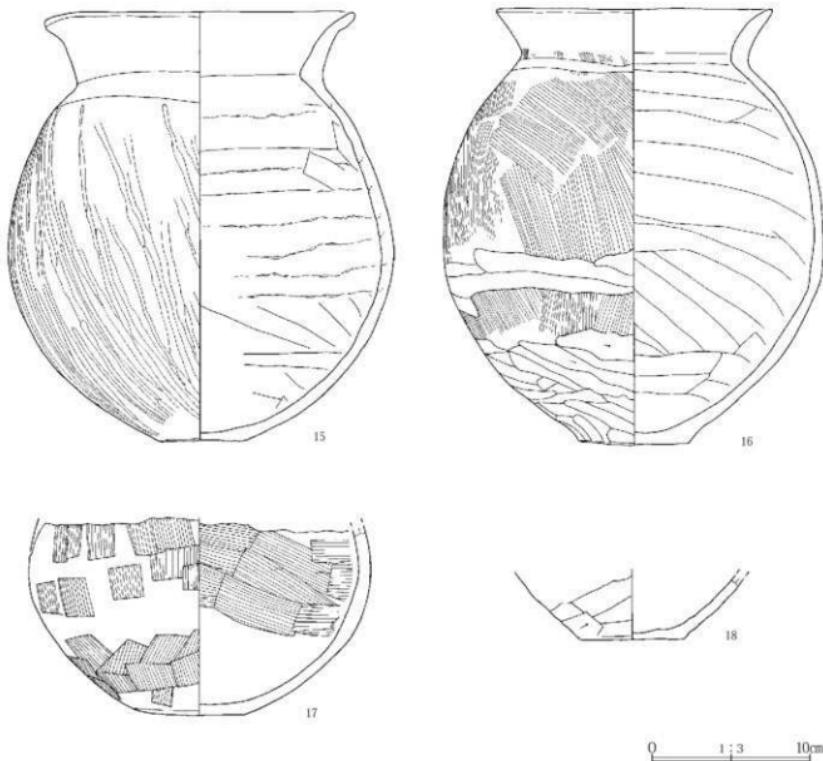
**上屋構造・壁構造** 竪穴埋没段階で上屋に伴う建築部材は撤去もしくは遺失しているため、不明である。

壁構造についても、掘方壁面が検出されたのみで竪穴壁に関する痕跡は認められていない。黒褐色土層中に構築されることから、掘削に伴う工具痕も確認されていない。

**床面** ロームを含む暗褐色土による掘方埋土上面に床が形成され、全体的には床状の平坦面が検出されているが、



第130図 7区5号竪穴建物出土遺物図(1)

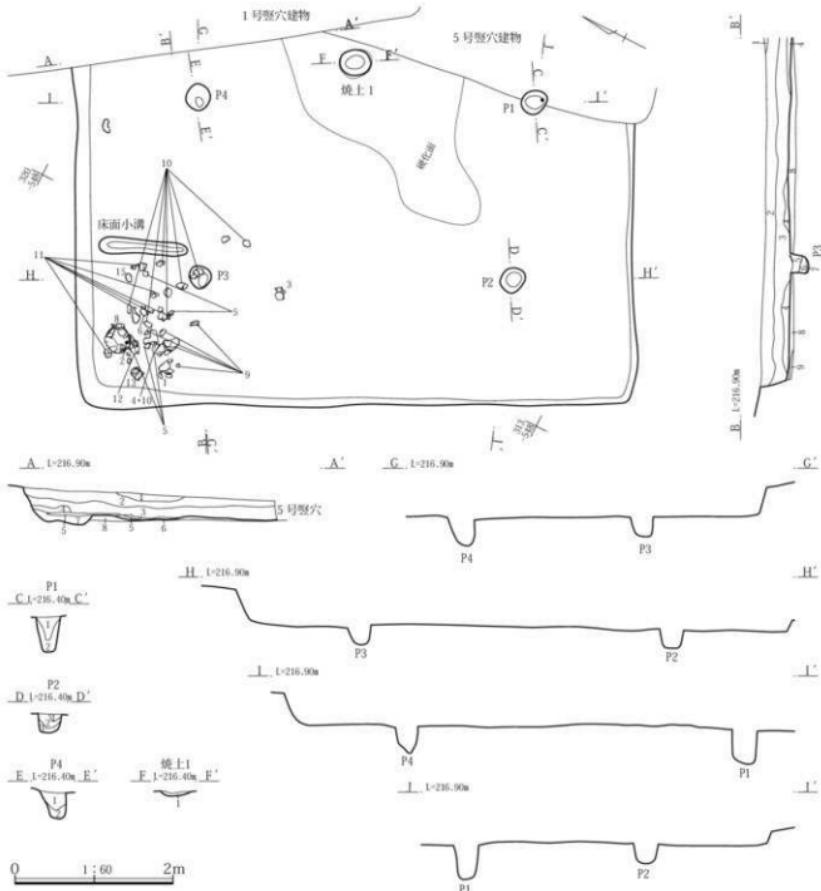


第131図 7区5号竪穴建物出土遺物図(2)

竪穴建物中央部の焼土1周辺を主として硬化面が認められている。他床面との相違が明確であることから、焼土1周辺については土間として継続的な利用が行われたものとみられ、焼土1を利用した作業空間であったと考えられる。なお、焼土1を含め、周囲からは作業内容を推定させる遺構、遺物の出土は認められていないことから工房であるのか、調理行為によるものか、もしくは作業痕跡を残さない行為等を含め特定できる情報は得られていない。なお、焼土1は地床炉で径0.4m、深さ0.1m前後の鍋底状断面を呈し、底面は燃焼による赤化硬化面形成され、焼土が堆積する。燃料材や炭化物はほとんど確認されていない。

P3付近には床面小溝とみられる痕跡が確認されている。1か所のみの確認であることから推定の域をでないが、竪穴外周部と柱穴に囲まれる中央部との空間利用が区別されていた可能性が推定できる。前記のように焼土1を含む竪穴中央部は土間として使用されることから、硬化面が形成され、外周部は土間利用ではない区画であったと考えられる。

**柱穴** 床面上でP1～P4のピットを確認した。配置をみると、竪穴外形と相似する位置であることがわかる。各柱穴は竪穴壁から1.5m内側に位置し、P1～P2、P3～P4間が2.3m、P1～P4、P2～P3間が4.0mという配置設計が読み取れる。しかし、P1はこの配



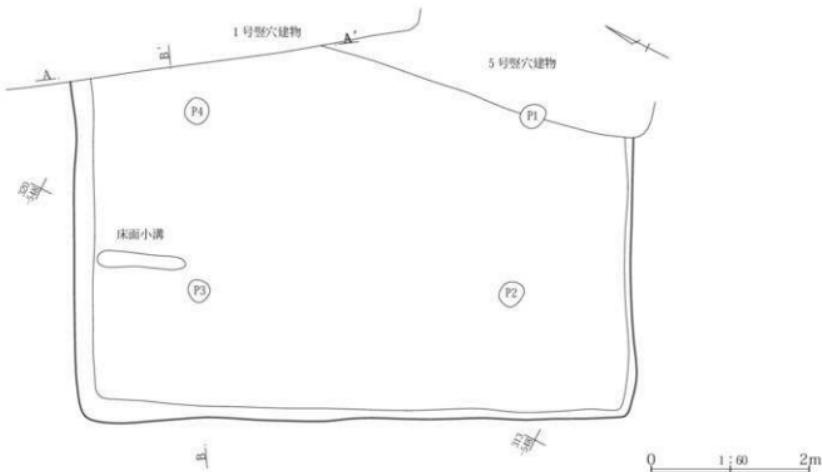
## 7区 6号竪穴建物A-A'

- 1 黒褐色土(10YR2/2)焼土粒、ローム粒、粘土粒等を少量含み。粘性強く綿りあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、炭化物片、暗褐色土を含み、粘性強く綿りあり。
- 3 黑褐色土(10YR3/1)にぶい黄褐色粒を多く含み、粘性を有し綿りあり。
- 4 黑褐色土(2.5Y3/1)灰白色粒を多く含み、粘性をもつ。
- 5 黑褐色土(2.5Y3/2)にぶい黄褐色粒、炭化物片を少量含み、粘性をもつ。
- 6 黑褐色土(10YR2/1)粘性が強く、綿っている。黄褐色粒子を含む。
- 7 黑褐色土(10YR2/1)粘性が強く、綿っている。
- 8 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、ロームブロックを少量含み、粘性をもつ。

## 7区 6号竪穴建物B-B'

- 1 黒褐色土(10YR2/2)焼土粒、ローム粒、粘土粒等を少量含み。粘性強く綿りあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、炭化物片、暗褐色土を含み、粘性強く綿りあり。
- 3 黑褐色土(10YR3/1)にぶい黄褐色粒を多く含み、粘性を有し綿りあり。
- 4 黑褐色土(2.5Y3/1)灰白色粒を多く含み、粘性をもつ。
- 5 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒を含む。
- 6 黑褐色土(10YR2/1)灰白色粒を含み、綿りをもつ。
- 7 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、ローム粒を含む。
- 8 黑褐色土(10YR2/2)にぶい黄褐色粒、ロームブロックを少量含み、粘性をもつ。
- 9 黑褐色土(10YR2/1)粘性が強く、綿っている。黄褐色粒子を含む。

第132図 7区 6号竪穴建物平面図

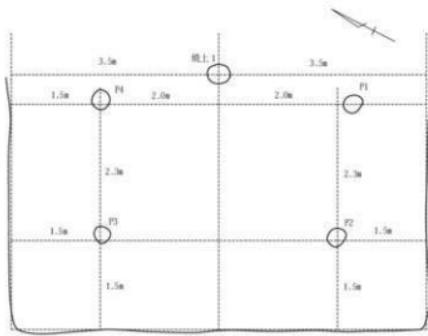


## 7区 6号竪穴建物P 1・P 2・P 4

- 1 黒褐色土(10YR3/2)に赤い黄橙色粒を含み、やや軟弱。
- 2 黒色土(10YR2/1)灰白色粒を含み、細りをもつ。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)に赤い黄橙色粒、ローム粒を含む。

## 7区 6号竪穴建物焼土 1

- 1 明赤褐色土(SYR5/6)焼土を主体とし、結っている。

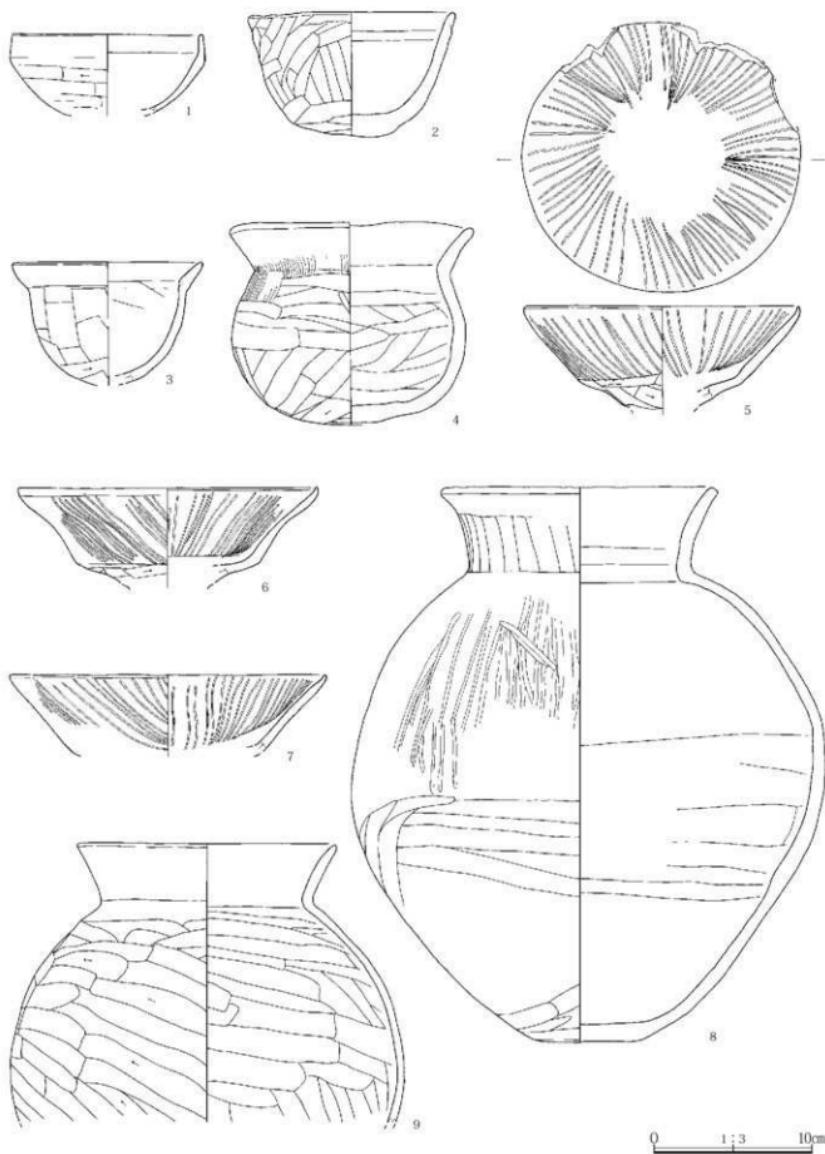


第133図 7区 6号竪穴建物掘方平面図

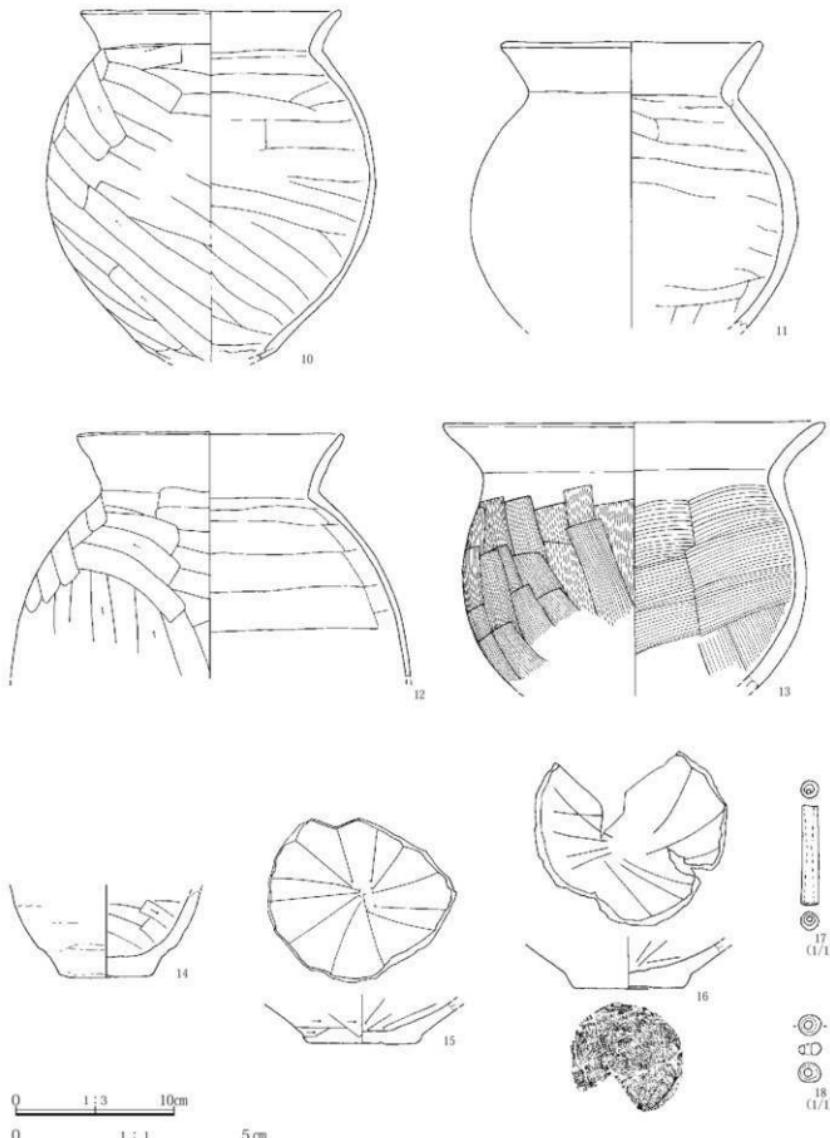
置設計から0.2m程度外側に検出されたが、造営時にずれが生じた可能性があるが、理由は特定できない。なお、焼土1は東・西壁から3.5mで、南壁から4.3mに位置する。北半部が遺失するため、竪穴内での位置関係は不明だが、東西方向で観察すれば竪穴中央に設置されることがわかる。柱穴および焼土1も計画的な配置が観察されることから、内部施設として竪穴造営時から設計されていたことが推定できる。

確認されたピットの規模は下記の通りである。

P 1	長径0.34m	短径0.30m	深さ0.45m
P 2	長径0.33m	短径0.29m	深さ0.25m
P 3	長径0.29m	短径0.28m	深さ0.24m
P 4	長径0.32m	短径0.31m	深さ0.36m
<b>竪穴</b>			確認された範囲では認められていない。
<b>貯藏穴</b>			調査範囲では認められていない。
<b>壁際溝</b>			認められない。



第134図 7区6号竪穴建物出土遺物図(1)



第135図 7区6号整穴建物出土遺物図(2)

**床面小溝** P 3に接した位置で、西壁との間に確認された。幅0.15m、深さ0.10m、長さ1.10m前後の規模で1か所のみである。

**掘方** 床面下0.1～0.2m程度掘り下げられ、黒褐色土が埋土され、上面が平坦面を形成し床面となる。

**床下土坑** 床下土坑については、認められていない。

**遺物と出土状況** 北西隅部に土器類が集中出土している。土師器甌、杯類が北東隅から竪穴内部に向かって傾斜状態で埋没する状況から、竪穴埋没時に一括廃棄されたものとみられ、建物廃絶に伴う行為の可能性がある。

**調査所見** 出土土器から5世紀後半の建物と考えられる。竪穴建物間での重複のため、北半部が遺失するため全体形状は不明であるが、竪穴外形や柱穴配置が規格的計画的であり、同様に焼土1とした地床炉も内部施設として計画配置されることからこの竪穴の必要設備であったと推定される。さらに炉の周囲は継続的な使用により硬化した床面が形成されることから、地床炉による作業を伴う工房とも考えることができる。しかし、工房としての機能を推定できる出土資料が認められないことから、日常生活に関わる可能性もあり特定できる情報が得られていない。

#### 7区12号竪穴建物(第136～140図 PL.37・38・82・83)

**位置** X=57360～57366・Y=-75563～-75568

**重複** 南西部は調査区外に位置する。

**平面形** 北東隅、南東隅は、やや丸みを帯びており、隅丸方形と想定される。

**規模** 南北軸は5.2mを測るが、東西軸は、西側が調査区外にあるため、計測不能である。

**検出・埋没状況** 第10面の黒色土中から確認された。覆土中からは、周堤から流出したと考えられるブロック状の黄色土がレンズ状に堆積し、上面に第9面相当の黒色土が堆積していた。

**周堤** 確認されていない。

**上屋構造・壁構造** 示す資料は確認されていない。

**床面** 炉周辺、約180cmの範囲に硬化面が確認されており、本建物の床面と判断した。床面は貼り床ではなく、黒色土を利用してあり、ほぼ平坦面を形成する。

**柱穴** 床面調査時にP1～P3、堀方調査時にP4～P

7を確認した。P2は縦位堆積が確認されたことから、柱穴と判断され、P7は縦位堆積が確認できなかったが、柱痕が確認されたことから、同じく柱穴と判断される。P2とP7間は、1.7mを測る。P2から直線方向にP1が構築されており、10cmほど残存するのみであるが、位置的に柱穴と判断され、1.1mを測る。南西部の柱穴は、確認できなかったが、方形状の掘立柱を形成している。P4～P6は南東隅に確認され、入口施設の可能性が考えられ、隣接する土坑1も同様の性格だと想定される。各ピットの規模は以下の通りである。

P 1	長径0.47m	短径0.28m	深さ0.17m
P 2	長径0.42m	短径0.41m	深さ0.47m
P 3	長径0.27m	短径0.25m	深さ0.11m
P 4	長径0.55m	短径0.44m	深さ0.10m
P 5	長径(0.70)m	短径0.42m	深さ0.12m
P 6	長径0.25m	短径0.23m	深さ0.11m
P 7	長径0.44m	短径0.37m	深さ0.27m

**土坑1** 長径0.52m 短径0.45m 深さ0.11m

**炉** 建物の中央部、南寄りに地床炉が確認された。焼土が180cm×110cmの不整形状に確認した。炉中央部には、60cm×30cmの方形状に石が組まれていた。石は河原石を用い、不規則に配置されているが、周囲にも石が確認されていることから、埋没移動したと考えられ、本来は方形を呈していたと考えられる。

**貯蔵穴** 確認されていない。

**壁際溝** 確認されていない。

**掘方** 床面から最大20cmの深さで確認され、中央部に方形状に掘り窪められていた。周囲には、工具痕による痕跡が確認されたが、方向などは、不明瞭であった。

**床下土坑** なし。

**遺物と出土状況** 炉周辺に確認された。

**調査所見** 竪成立以前の建物と考えられる。覆土中からはベンガラが出土したが、床面よりも高い位置で確認されており、埋没過程で流入したと捉えられる。

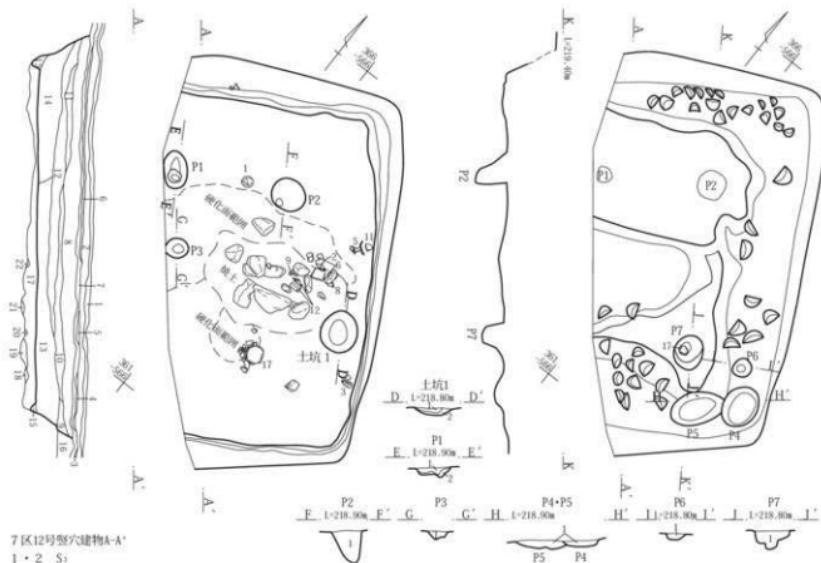
**時期** 5世紀末

#### 7区13号竪穴建物(第141図 PL.39・83)

**位置** X=57347～57354・Y=-75553～-75558

**重複** なし

**平面形** 確認された北壁と西壁は、直線方向に構築され



7区12号堅穴建物A-A'

- 1・2 S<sub>3</sub>  
3～6 S<sub>2</sub>  
7 S<sub>1</sub>  
8 黒褐色土(10YR2/2)焼土粒、ローム粒、粘土粒等を少量含む。  
9 黒褐色土(10YR2/2)にぶい黄褐色粒、炭化物片、暗褐色土を含む。  
10 黒褐色土(10YR3/1)にぶい黄褐色粒を多く含む。  
11 黒褐色土(2,5Y3/1)灰白色粒を多く含み、粘性をもつ。  
12 黒褐色土(2,5Y3/2)にぶい黄褐色粒、炭化物片を少量含み、粘性をもつ。  
13 黑褐色土(10YR2/1)黄褐色粒子を含む。  
14 黑褐色土(10YR2/1)粘性が強く、練っている。  
15 黑褐色土(10YR2/2)にぶい黄褐色粒を含み、粘性をもつ。  
16 黒色土(10YR2/1)にぶい黄褐色粒を少量含み、粘性をもつ。

- 17 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック、にぶい黄褐色粒を含む。  
18 黑褐色土(10YR2/2)にぶい黄褐色粒を含む。  
19 黑褐色土(10YR2/2)にぶい黄褐色粒、ローム粒を含む。  
20 黑褐色土(10YR2/1)ロームブロック、灰白色土を含む。  
21 黑褐色土(10YR2/1)にぶい黄褐色粒を含む。

7区12号堅穴建物土坑1・P1～P7

- 1 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、暗褐色土を含む。  
2 黑褐色土(10YR2/1)にぶい黄褐色粒を含む。

0 1:60 2m

第136図 7区12号堅穴建物平断面図

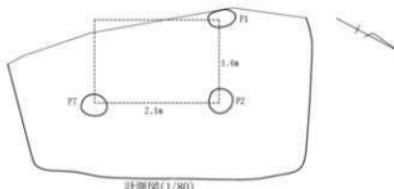


第137図 7区12号堅穴建物炉平断面図

7区12号堅穴建物炉

- 1 黑褐色土(10YR2/2)焼土粒、炭化物を含む。  
2 明赤褐色土(5YR5/8)焼土、灰を含む。  
3 赤褐色土(5YR4/8)燒土を主とする層。  
4 明赤褐色土(5YR5/8)燒土、灰、炭化物を含む。  
5 黑褐色土(10YR2/2)焼土粒、炭化物を含む。  
6 明赤褐色土(5YR5/8)燒土ブロック、灰を含む。  
7 明赤褐色土(5YR5/8)燒土、灰を含む。  
8 黑色土(10YR2/1)にぶい黄褐色粒を含む。  
9 明褐色土(10YR3/3)ローム粒、にぶい黄褐色粒を含む。  
10 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒を含む。  
11 黑褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、ローム粒を含む。  
12 黑褐色土(10YR3/1)ローム、灰白色土を含む。  
13 黑色土(10YR2/1)にぶい黄褐色粒を含む。  
14 黑褐色土(10YR3/2)暗褐色土を含む。

0 1:30 1m



第138図 7区12号竪穴建物設計図

ているが、隅角は丸みを帯びており、隅丸方形状の竪穴建物だった可能性が高い。

**規模** 竪穴建物の3／4は調査区外にあるため、規模は不明である。

**検出・埋没状況** 第10面に相当する黒色土層中に構築されていた。周堤から流出したと考えられるブロック状の黄色土がレンズ状に堆積し、上面に第9面相当の黒色土が堆積していた。

**周堤** 確認されていない。

**上屋構造・壁構造** 上屋構造・壁構造を示す材料は確認できなかった。西壁周溝内にピット状の掘り込みが確認されており、壁板を留める柱穴であった可能性が考えられる。

**床面** 全面にローム質の黄色土を貼り床とした硬化面が確認された。貼り床の厚さは最大で8cmを測り、竪穴建物構築時に地山相当のローム層を整地したと考えられる。

**柱穴** 床面調査時にP1が確認された。縦位堆積が確認されたことから、柱穴と判断した。他の柱穴は、調査区外にあると想定され、P1以外の柱穴は確認できないことから、規模や構造については、明らかではない。

確認されたピットの規模は下記の通りである。

P1 長径0.37m 短径0.30m 深さ0.64m

**炉** 確認されていない。

**貯蔵穴** 確認されていない。

**壁際溝** 深さ5cm、幅8cmの周溝が確認されたが、全周するかは不明である。周溝内に柱穴状の掘り込みが確認されており、壁面に壁材が存在したと考えられる。

**掘方** 床面から最大20cmの深さで確認された。掘り方面は、起伏が認められるが、工具痕の痕跡は確認できない。

**床下土坑** 確認されていない。

**遺物と出土状況** 床面から甕を中心に出土した。

**調査所見** 出土遺物から5世紀末葉の竪穴建物と考えられる。竪穴建物の一部のみ調査されているため、全容は不明だが、建物の形態から本調査区では古い部類に相当する可能性がある。

**時期** 5世紀末葉

#### 7区14号竪穴建物(第142～146図 PL.40・41・83・84)

**位置** X=57340～57347・Y=-75556～-75558

**重複** なし。

**平面形** 確認された南壁と東壁は、直線方向に構築されているが、隅角は丸みを帯びており、隅丸方形状の竪穴建物だった可能性が高い。竪穴建物の3／4は調査区外にあるため、規模は不明である。

**検出・埋没状況** 第10面に相当する黒色土層中に構築されていた。周堤から流出したと考えられるブロック状の黄色土がレンズ状に堆積し、上面に第9面相当の黒色土が堆積していた。

**周堤** 確認されていない。

**上屋構造・壁構造** 床面、壁面において上屋、壁の構造がわかるような資料は、確認できなかった。

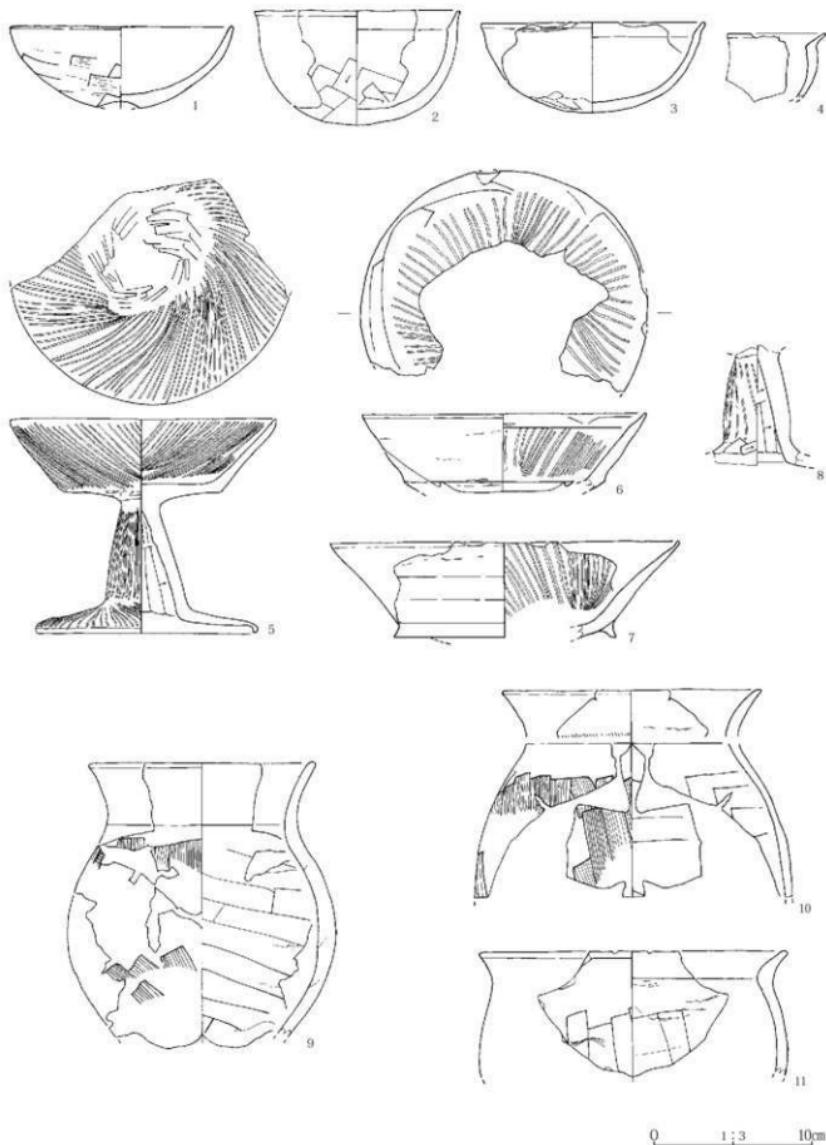
**床面** 明確な床は確認できなかった。想定される床上面に灰、焼土が確認され、焼失家屋と想定でき、焼土下面が床と判断される。

**柱穴** 確認されていない。

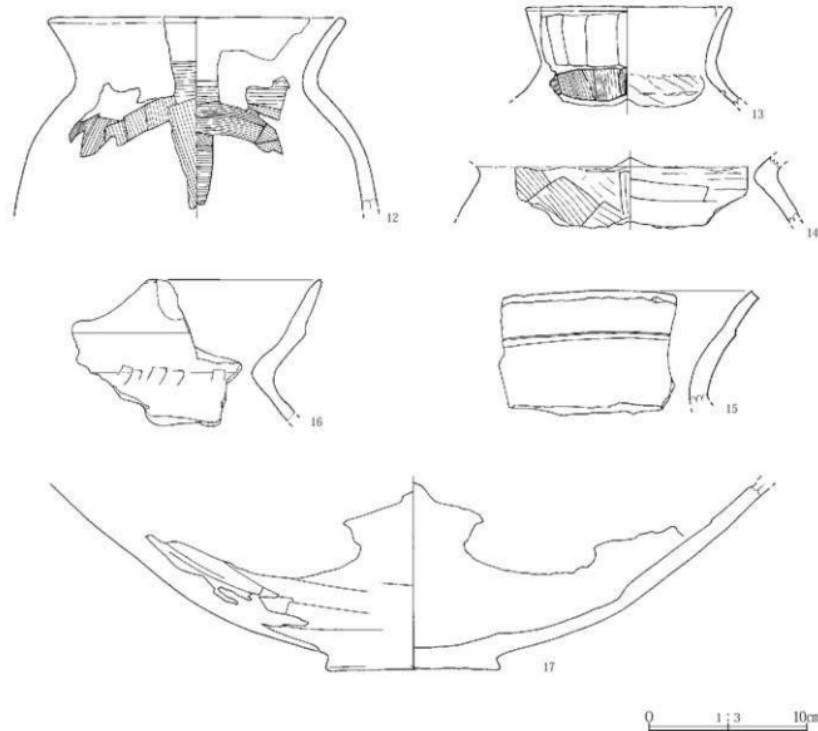
**炉** 確認されていない。

**貯蔵穴** 南東隅で1／3が調査区外にある為、形態は不明確であるが、長方形状を呈していたと考えられる。長軸は110cm、短軸幅70cm、深さ40cmを測る。覆土中、黒色土と炭化物が堆積し、直上は焼土に貯蔵穴部分が陥没した状態で堆積している。厚さは5cmほど堆積し、同一

第11節 第10面(黒色土2面)の調査内容



第139図 7区12号整穴建物出土遺物図(1)



第140図 7区12号竪穴建物出土遺物図(2)

の焼土は貯蔵穴付近を中心に広がっていた。貯蔵穴内からは、土師器が出土した。

**壁際溝** 壁際に全周した状態で確認された。幅10cm、深さ10cmの断面形態がU字状を呈していた。

**掘方** 確認されていない。構築時に平坦面をそのまま形成し、床としたと考えられる。

**床下土坑** 確認されていない。

**遺物と出土状況** 貯蔵穴周辺で土師器の集中が確認できた。遺物集中の下面に焼土や灰の堆積が確認できることから、本竪穴建物の焼失後に建物内に廃棄したとみられる。

**調査所見** 出土遺物から5世紀末の竪穴建物と考えられる。焼土、灰が床面上に確認できたことから、焼失建

物と判断される。貯蔵穴内に黒色土堆積後、焼土が堆積していることから、廃絶後に時間差を置いて、焼失したと考えられる。

**時期** 5世紀末

7区15号竪穴建物(第147～149図 PL.42・43・85)

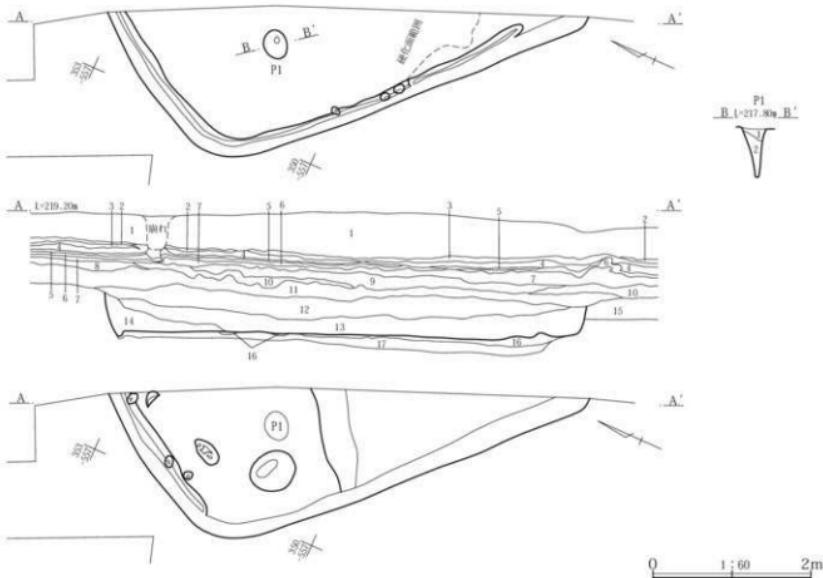
**位置** X=57326～57331・Y=-75545～-75551

**重複** なし

**平面形** 北壁と西壁は、直線的に構築され、北西隅も直角を呈する。東壁と南壁は、角は丸みを帯びており、隅丸方形形状の竪穴建物だった可能性が高い。

**床面積** 13.33m<sup>2</sup>      **主軸方位** N-70° -E

**検出・埋没状況** 第8面相当の黒色土層中から確認され

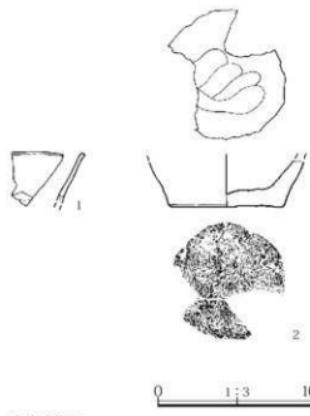


## 7区13号壁穴建物A-A'

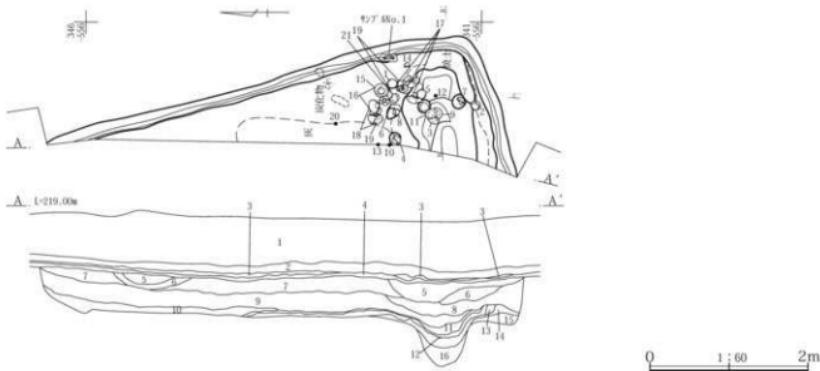
- 1 Si
- 2 Si
- 3 Si
- 4 Si
- 5 Si
- 6 Si
- 7 黒色土(10YR2/1)砂質 粘性あり やや締る。3~5mmの黄色粒子を少量、炭化物を微量含む。
- 8 黒色土(10YR2/2)砂質 粘性あり 1よりも粘性が弱い。やや締る。1~2cmのロームブロックを少量、3~5mmの黄色粒子を中量、炭化物を少量含む。
- 9 黒褐色土(10YR2/2)砂質 粘性ややあり 締りなし。2~3cmのロームブロックを中量、2~3mmの黄色粒子、炭化物を中量。
- 10 黒色土(10YR2/1)砂質 粘性ややあり やや締る。1cmのロームブロックを少量、3~5mmの黄色粒子を中量含む。やや酸味を帯びる。
- 11 黒色土(10YR2/1)砂質 粘性あり やや締る。3~5mmの黄色粒子、褐色粒子を中量、赤色粒子、炭化物を微量含む。
- 12 黒色土(10YR2/1)砂質 粘性ややあり 5より繰りあり。1cm程のロームブロックを微量、3~5mmの黄色粒子、褐色粒子を少量、燒土と炭化物を微量含む。
- 13 黒褐色土(10YR3/1)砂質 粘性あり やや締る。ロームブロックを中量、3~5mm黄色粒子、褐色粒子を中量、白色粒子を少量含む。
- 14 黒色土(10YR2/1)砂質 粘性ややあり やや締る。ロームブロックを多量に含み、3~5mmの黄色粒子、炭化物を中量、燒土を少量含む。
- 15 黒色土(10YR2/1)砂質 粘性ややあり 締りあり。硬い。2~3mmの褐色粒子中量、黄色粒子、白色粒子、炭化物少量含む。
- 16 黄褐色土(10YR5/0)粘性なし、硬くよく締る。床面。炭化物、燒土少量含む。
- 17 にぶい黄色粒子(10YR4/3)砂質 粘性なし 締りあり。炭化物、白色粒子を少量含む。

## 7区13号壁穴P 1

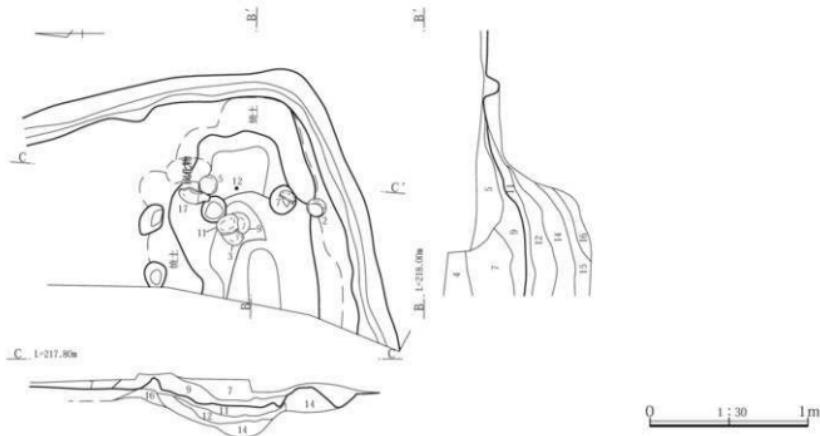
- 1 黒褐色土(10YR3/1)砂質 粘性あり 締りなし。黄色粒子中量、炭化物少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)砂質 粘性あり 締りなし。ロームをブロック状に含み、炭化物を少量含む。



第141図 7区13号壁穴建物断面図・出土遺物図



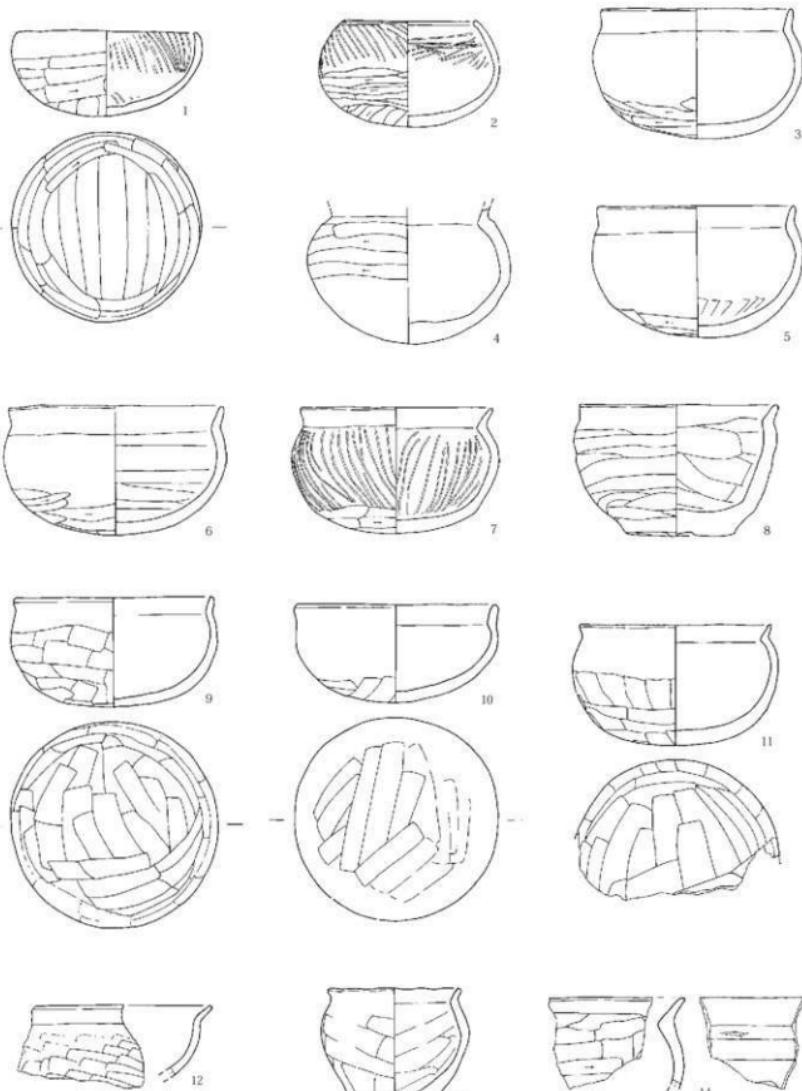
第142図 7区14号窯穴建物平面断面図



第143図 7区14号窯穴建物断面図

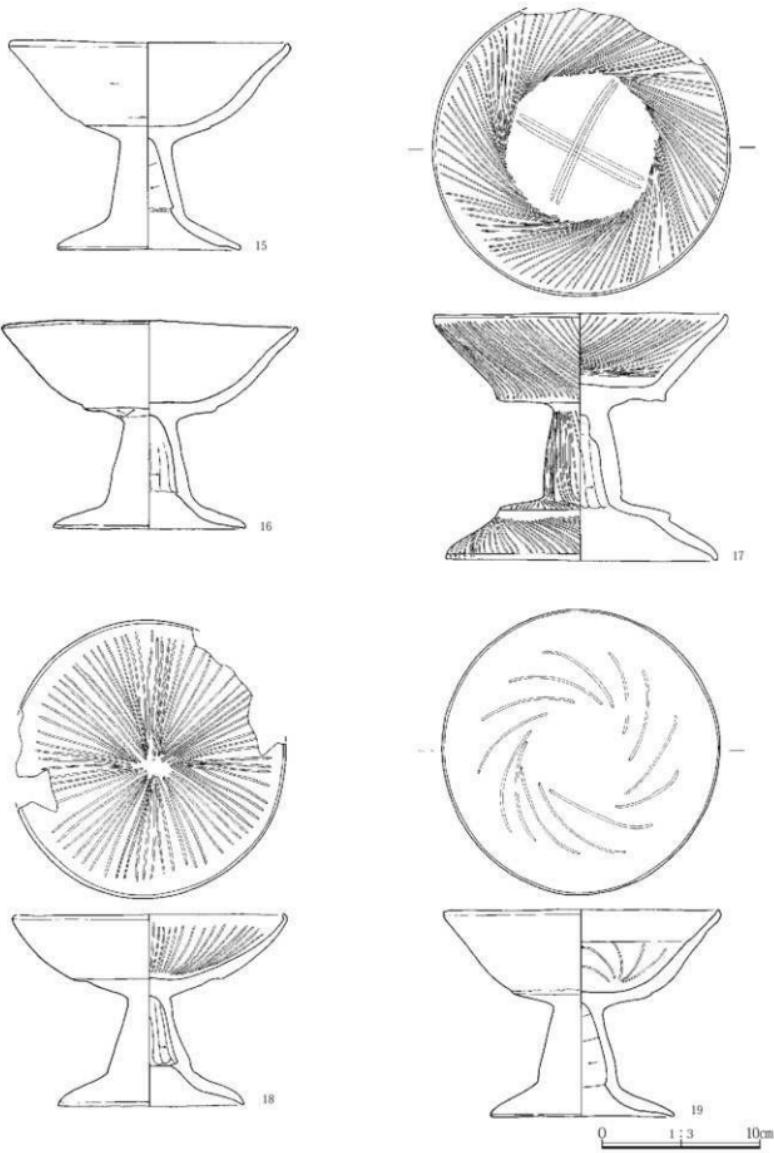
#### 14号窯穴建物A-A'・窓

- 1 黒色土(10YR2/1) 5mmの黄色粒子を微量、2~3mmの黄色粒子、炭化物を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)ロームブロックを少量含み、3~5mmの黄色粒子を中量、炭化物を少量含む。
- 3 黒色土(10YR2/1)ロームブロックを2より多く含み、5mmの黄色粒子と褐色粒子を少量含む。
- 4 黒色土(10YR2/1) 5mmの黄色粒子を中量含む。
- 5 黑褐色土(10YR2/1)ロームブロックを少量、3~5mmの黄色粒子、炭化物を中量、褐色粒子を少量含む。
- 6 黑褐色土(10YR2/1)よりも硬く繊り、3~5mmの黄色粒子と白色粒子を少量、炭化物を中量含む。
- 7 黒色土(10YR2/1) 5mmの黄色粒子、炭化物を中量含む。
- 8 黑褐色土(10YR2/1) 1~2mmの燒土粒子を中量、炭化物、灰を少量含む。
- 9 黑褐色土(10YR2/1) 1~2mmの黄色粒子、灰、炭化物を中量含む。
- 10 黑褐色土(10YR2/1) 2~3mmの黄色粒子を炭化物を少量含む、5mmほどの炭化物を中量、1~2mmの灰を少量含む。
- 11 黑褐色土(10YR2/1)燒土をブロック状に含み、5mmほどの炭化物を中量、1~2mmの灰を少量含む。
- 12 黑褐色土(10YR2/1) 2~3mmの黄色粒子を少量、炭化物を中量含む。
- 13 明褐色土(7.5YR5/6)焼土主体。炭化物を中量含む。
- 14 黑褐色土(10YR2/1)焼土。炭化物を中量含む。
- 15 黑褐色土(10YR2/1)燒土をブロック状に少量含み、黄色粒子、炭化物を少量含む。
- 16 黑褐色土(10YR2/1)燒土を多量に含み、炭化物、灰を中量含む。

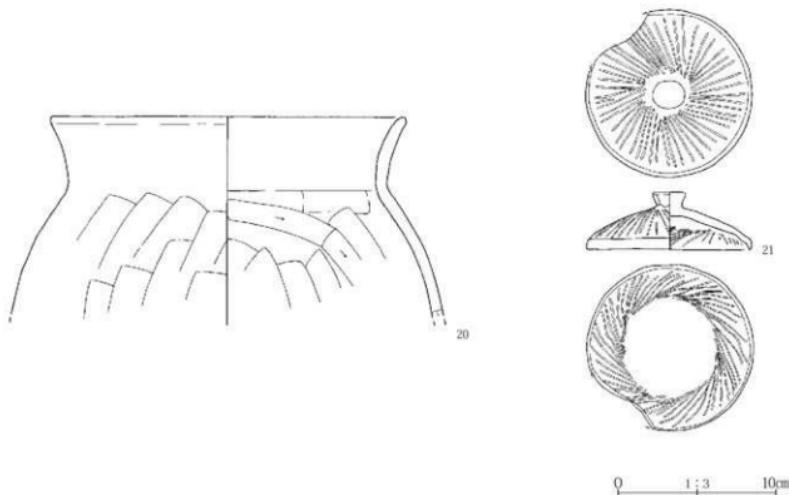


0 1:3 10cm

第144図 7区14号整穴建物出土遺物図(1)



第145図 7区14号整穴建物出土遺物図(2)



第146図 7区14号整穴建物出土遺物図(3)

た。覆土の堆積は浅く、20cmほどの厚さを確認した。覆土中には焼土を多く含有していた。焼土はブロック状に含有し、A断面で確認すると、東側の竈付近では多く、西側では少ない傾向が確認できることから、東側から黒色土が流入する過程で含有されたと想定される。竈で使用したとみられる石が東側で確認されていることも、土砂の流入による。

**周堤** 確認されていない。

**上屋構造・壁構造** 床面、壁面において上屋、壁の構造がわかるような材料は、確認できなかった。

**床面** 建物確認面から、20cmの深さで確認された。確認面から、さらに30cmほどの上面には、Hr-FA層が堆積しており、堅穴建物没後、第9面相当の時期に削平または、土砂が流入した可能性があり、本来は100cm前後の掘り込みを有していたと想定される。硬化面は、本建物の中央部から南東壁面にかけて確認され、竈の周辺に分布するため、長期に渡って竈を使用したことによるものと判断される。竈使用時にブロック状の黄色土を貼り床としていた。貼り床は、厚差は5cmほどを測り、竈周辺に限られた。

**柱穴** 床面調査時、P 1～P 4を確認した。確認された

ビットの土層堆積には、縦位堆積は確認できなかつたが、P 1とP 2間は1.6m、P 2とP 3は1.5mを測り、規則性を有することから、柱穴と判断される。P 4は、前者の柱穴と位置関係が大きくずれるが、P 1とP 2の等間隔の位置にP 4は構築されており、柱穴と判断される。性格としては、主柱穴の補助を担っていたと考えられる。

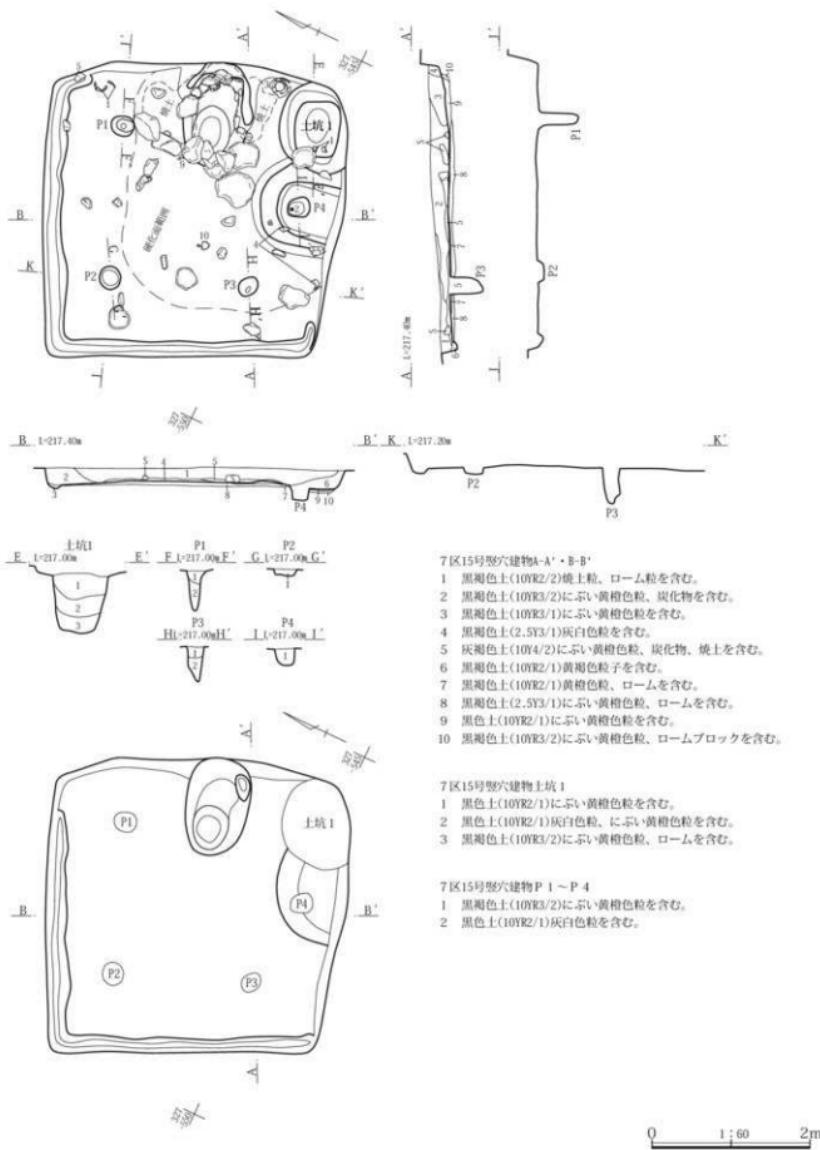
P 1 長径0.29m 短径0.26m 深さ0.51m

P 2 長径0.30m 短径0.28m 深さ0.10m

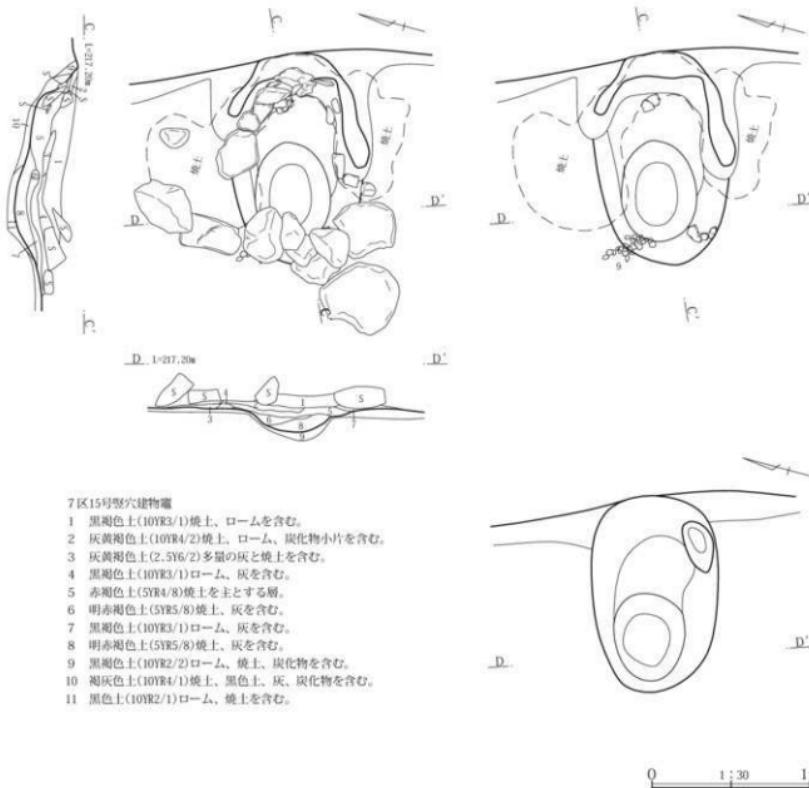
P 3 長径0.28m 短径0.22m 深さ0.45m

P 4 長径0.28m 短径0.25m 深さ0.20m

**竈** 東側壁中央部の位置に敷設されていた。残存する竈の規模は、確認長1.34m、幅1.0m、燃焼部長1.2m、幅0.8mを測る。燃焼部は竈の東寄りを確認面からU字状に掘られていた。支脚など煮沸に関わる痕跡は確認できなかった。燃焼部内は、1～3、5層は竈構築材として使用された黄色土由来の崩落土が堆積し、下面の6、8層は、焼土、灰が明瞭に残存しており、本竈の機能面と考えられる。袖は、右袖が部分的に残されているのみで、遺存状態は悪い。左袖は長さ0.70m、幅0.22mを測る。高さは、示す材料がないため不明であるが、写真から推測すると、遺存状態は良好ではない。本竈の周辺には、

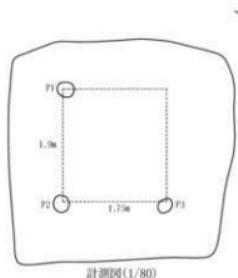


第147図 7区15号型穴建物平面図

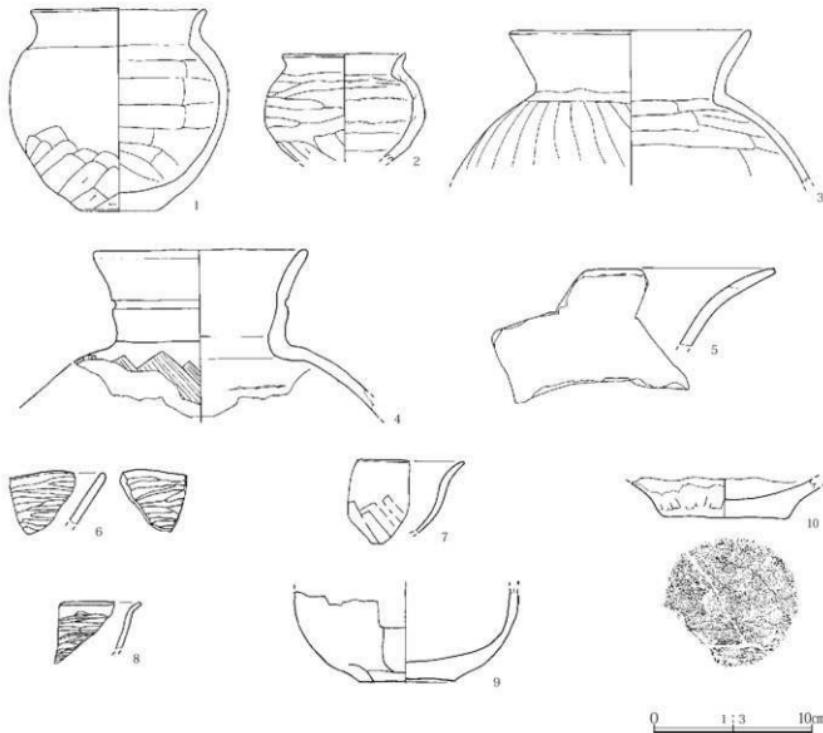


## 7区15号堅穴建物層

- 1 黒褐色土(10YR3/1)燒上、ロームを含む。
- 2 灰黃褐色土(10YR4/2)燒上、ローム、炭化物小片を含む。
- 3 灰黃褐色土(2.5Y6/2)多量の灰と燒上を含む。
- 4 黑褐色土(10YR3/1)ローム、灰を含む。
- 5 赤褐色土(5YR4/8)燒土を主とする層。
- 6 明赤褐色土(5YR5/8)燒上、灰を含む。
- 7 黑褐色土(10YR3/1)ローム、灰を含む。
- 8 明赤褐色土(5YR5/8)燒上、灰を含む。
- 9 黑褐色土(10YR2/2)ローム、燒土、炭化物を含む。
- 10 淩灰色土(10YR4/1)燒上、黑色土、灰、炭化物を含む。
- 11 黑色土(10YR2/1)ローム、燒土を含む。



第148図 7区15号堅穴建物層平面図



第149図 7区15号竪穴建物出土遺物図

30～50cmの角礫を中心とした石が散在している。堆積状況などから、竈の構築材だったと考えられ、周辺の焼土もこれらの崩落によって、流入したと考える。煙道部は削平され、残されていない。

**貯蔵穴** 土坑1として調査した。本建物の南東隅に構築され、100cm×90cmの隅丸方形を呈する。中段を有し、80cm×50cmの大きさの掘り込みを構築する。

**壁際溝** 北壁、西壁で確認した。幅20cm、深さ5cmの溝状を呈する。東壁と南壁では確認されていない。

**掘方** 部分的に確認でき、5cmの深さを有する箇所もみられた。確認状況から、竪穴建物構築時に、堀方掘削面を平らに形成し、床として利用したと考えられる。

**遺物と出土状況** 竈周辺で、杯を中心に出土した。

**調査所見** 出土遺物から5世紀末の竪穴建物と考えられる。北壁と西壁のみ、直角に形成されていた。最初に軸として北壁と西壁を構築したと考えられる。

**時期** 5世紀末

## 2. 掘立柱建物

7区1号掘立柱建物(第150図 PL.44・55・85)

**位置** X=57307～57315・Y=-75538～-75546

**主軸方位** N-45°-W

**重複** 7区5号及び6号竪穴建物と重複する。黒色土中で検出されることから、調査所見では新旧関係が特定できないが、1号掘立柱建物北東隅ピット(27号ピット)が5号竪穴建物床面で検出されていることから、1号掘立

柱建物が時間的に新しい可能性が高い。なお、27号ピットは調査時点では5号竪穴建物P1として記録されていたが、資料整理段階で名称を変更している。

**検出・埋没状況** 5号及び6号竪穴建物等の遺構検出に伴って周囲にピット類が確認された。ピットについての検出順にピット番号を付し調査を進めている。

1号掘立柱建物もこのような経過の中で確認された遺構であり、検出ピットの配置等から建物の存在を特定している。そのため、ピットについては、2号・3号・4号・5号・6号・7号・8号・9号・10号・11号・14号及び5号竪穴建物P1を変更した27号ピットの12ピットで構成されることになる。なお、8号ピットは調査時には掘立柱建物の構成ピットには加えられていなかったが、平面配置に関連性が看取されることから整理作業段階で建物構成ピットと判断した。

**建物構造** 黒色土中で検出されることから、旧地表面が遺失し床位置が把握できないことから掘立柱建物として報告する。

建物内側に8号・11号ピットが存在し、東柱とすれば高床構造とみることもできるが、南側内側には認められないため、平地+高床構造とも推定可能である。しかし、構成ピットの遺存状況が不良のため側柱、東柱としての形態差が不明瞭で特定は難しい。

平面構造は、桁行4間×梁行2間(6.5m×3.25m)規模であるが、東辺は3ピットであり、西辺の4間5ピットとは対応しない。また、ピットの平面配置も四辺が直交せず、平行四辺形平面を構成する。4号ピットから6号ピットによる西辺と10号ピットから27号ピットによる東辺を比較すると、東辺が1ピット分南側に位置している。そのため、方形平面ではなく平行四辺形平面の構成となる。この平面構成の歪みから、一連の建物構造となるか検討したが、周囲にピットの存在は認められず、平面構成の歪みも規則的であることから、1号掘立柱建物とした。簡易的な建物として構成された可能性もあるが、規模の推定値を検討すると規則性も看取できる。

第150図に示す計測図を仮定し検討すると、西辺6.5m(柱間1.625m)、東辺6.5m(柱間3.25m)、南・北辺3.25m(柱間1.625m)と一定していると推定できる。東柱の8号・11号ピットもわずかにずれながらも、推定基線の近接位置にある。柱間は一定した規格により設置されて

いたと仮定すると、西辺と東辺のずれが一層立つ。東辺とは直交させずに西辺基準とすれば98度程度の角度としていることで、平行四辺形平面を構成している。仮定した計測図のように方形平面にできない地形的もしくは他の要因は認められないことから、この形態が有意であったことになる。この建物の機能に関わるものと考えられるが、有効な調査所見は得られていない。

**上部構造・壁構造** 旧地表面を含め、上部は遺失するため不明である。また、上部もしくは壁構造を推定できる調査所見も得られていない。

**床面** 不明。

**遺物と出土状況** 土器片がわずかに確認された。

**調査所見** 平面構造に認められる平行四辺形状に歪むピット配列、西辺と東辺の構成ピット数の数差等、建物としての不明瞭さも観察されるが、一方で認められるピット列の規則的配列から掘立柱建物と判断した。搬出遺物は特定できないが、掲出状況から古墳時代の建物の可能性が高い。7区では、掘立柱建物は1棟のみであるが、5世紀後半の古墳集落の構成建物と考えられる。

### 3. 平地建物

7区1号平地建物(第151・152図 PL.44・85)

**位置** X=57294～57303・Y=-75530～-75536

**重複** 北側に擾乱があり、東側は調査区外となる。

**平面形** 一

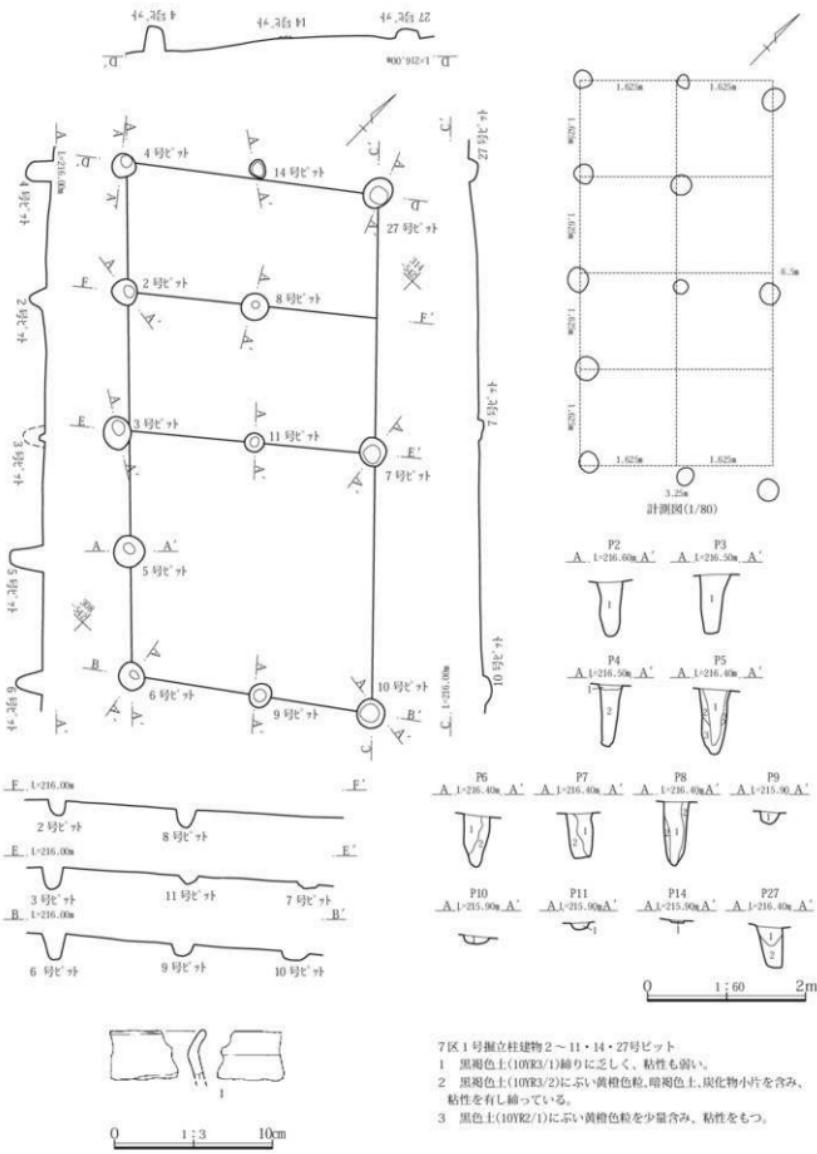
**規模** 西片確認長7.54m

**床面積** 一 **主軸方位** 一

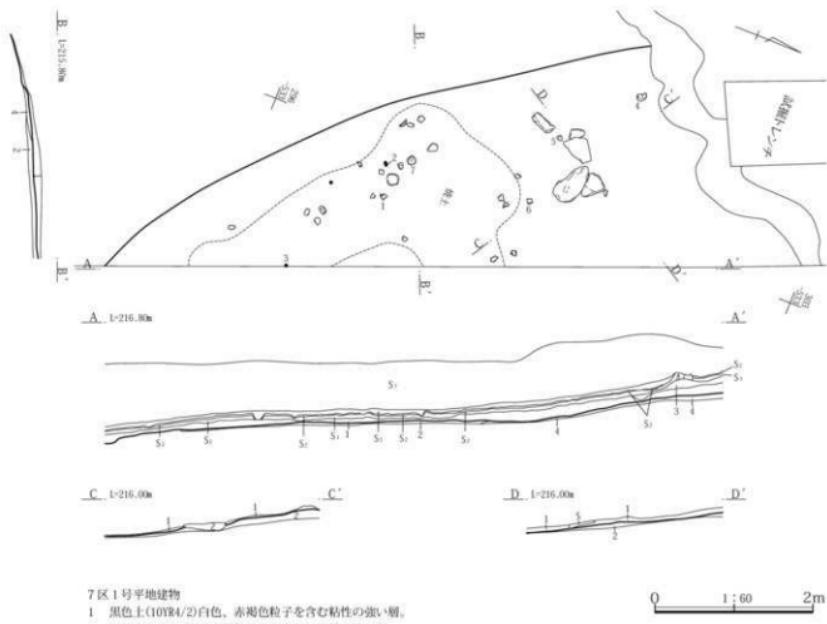
**検出・埋没状況** 第10面調査により黒色土中の遺構検出の経過で、床面状の硬化面及び<sup>燐</sup>の可能性のある礫の配列が確認された。床面上には焼土の散布状態も観察されたことから、鐵冶関連施設の可能性が考えられた。

建物構造の確認のため、床面上及び周囲に柱穴の検出を行ったが認められていないことから、掘立柱建物とは異なる建物と理解する必要が生じた。一方、建物の検出状況から判断すると床面を埋没する黒色土層が薄く、さらに床面に伴う竪穴壁が認められないことから、竪穴建物とも異なる建物であることが考えられた。

このような経過により平地建物の可能性が高いと判断し、調査を進めている。基本的には平地建物とするためには旧地表面の特定が必要条件であるが、黒色土中の調



第150図 7区1号掘立柱建物断面図・出土遺物図



第151図 7区1号平地建物平面断面図

査では旧地表面はすでに遺失しているため、確実に平地建物と断定することはできないが、調査経過に伴う観察所見により平地建物の可能性が高いものとして報告しておく。

**上屋構造・壁構造** 黒色土中で床面及び炉の検出により建物が確認されているため、上屋・壁構造に関する情報は得られていない。

**床面** ロームを含む暗褐色土による平坦面が形成され部分的に硬化面も認められる。また、床面上に焼土の散布が認められた。

**柱穴** 柱穴は確認されていない。

**炉** 板状礫による石組炉が設置される。礫は原位置を保っていないようで不規則な出土状況を示している。

**貯蔵穴** 調査範囲では認められていない。

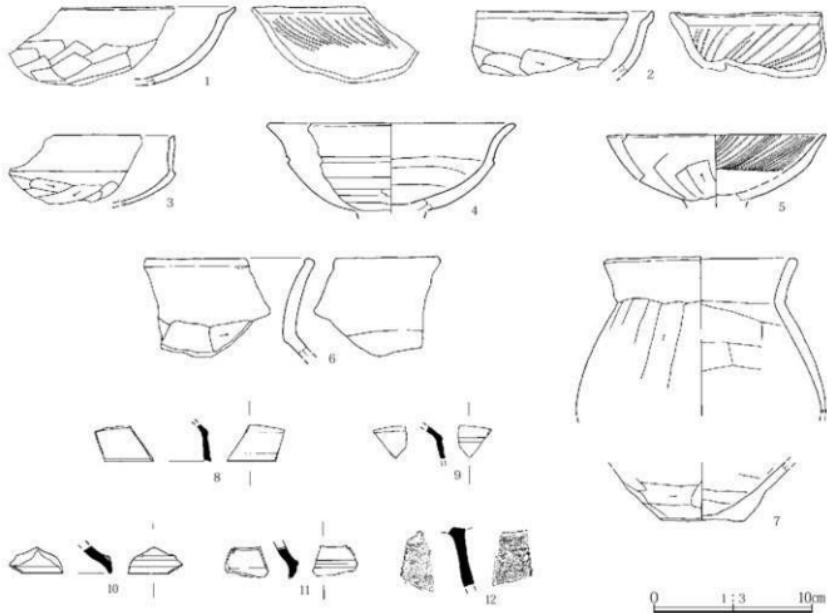
**壁際溝** 認められない。

**掘方** 床面を除去しながら、掘方の確認を行ったが明確な掘方は認められていない。

**床下土坑** 床下土坑については、認められていない。

**遺物と出土状況** 床面に土器類の分布が認められている。また、炉の存在から製鉄関連遺構の可能性を考慮し、鍛冶剥片確認調査も行ったが未検出であった。羽口や鉄滓等の出土も認められることから、製鉄関連建物ではないものといえる。

**調査所見** 調査所見から平地建物として報告したが確定はできない。建物構造として竪穴建物、掘立柱建物とは異なる形態の建物を推定すると平地建物とすることがふさわしいと考えたことによる。



第152図 7区1号平地建物出土遺物図

## 4. 土坑

## 7区28号土坑(第153図 PL.16)

位置 X=57310 ~ 57312・Y=-75543 ~ -75544

重複 直接する重複関係は認められないが、1号掘立柱建物域内に確認されている。

平面形 円形

長軸方位 N-42° -E

規模 長軸0.57m 短軸0.52m 深さ0.28m

検出・埋没状況 第10面遺構精査に伴い検出された小型土坑で鍋底状断面を呈する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 1号掘立柱建物に関連する可能性もあるが、不明である。

建物域内に確認されている。

平面形 円形

長軸方位 N-13° -E

規模 長軸0.50m 短軸0.44m 深さ0.30m

検出・埋没状況 第10面遺構精査に伴い検出された小型土坑で鍋底状断面を呈する。

遺物と出土状況 埋没土から土器片が出土している。

調査所見 28号土坑と共に1号掘立柱建物域内に位置することから関連性も想定されるが不明である。

## 7区35号土坑(第153図 PL.17)

位置 X=57309 ~ 57311・Y=-75543 ~ -75545

重複 遺構間の重複関係は認められない。

平面形 楕円形

長軸方位 N-42° -W

規模 長軸1.77m 短軸1.23m 深さ0.38m

検出・埋没状況 第10面遺構精査に伴い検出された楕円

## 7区29号土坑(第153図 PL.16・17・85)

位置 X=57312 ~ 57313・Y=-75544 ~ -75545

重複 直接する重複関係は認められないが、1号掘立柱

## 第11節 第10面(黒色土2面)の調査内容

形土坑で鍋底状断面を呈する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 1号掘立柱建物南西辺に近接するが、関連性は不明である。

### 7区36号土坑(第153図 PL.17)

位置 X=57306 ~ 57307・Y=-75538 ~ -75539

重複 直接する重複関係は認められない。

平面形 円形

長軸方位 N-44° -W

規模 長軸0.75m 短軸0.67m 深さ0.12m

検出・埋没状況 第10面遺構精査に伴い検出された小型土坑で鍋底状断面を呈する。7区南側の傾斜面に位置する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 2号竪穴建物周堤下で検出された土坑であるが、同竪穴建物構築に伴う痕跡の可能性もあるが特定できる調査所見は得られていない。

### 7区45号土坑(第153図 PL.17)

位置 X=57310 ~ 57311・Y=-75549 ~ -75551

重複 直接する重複関係は認められない。

平面形 円形

長軸方位 N-48° -W

規模 長軸0.78m 短軸0.68m 深さ0.20m

検出・埋没状況 第10面遺構精査に伴い検出された円形土坑で鍋底状断面を呈する。

遺物と出土状況 遺物は確認されていない。

調査所見 4号竪穴建物周堤下で検出された土坑であるが、同竪穴建物構築に伴う痕跡の可能性もあるが特定できる調査所見は得られていない。

## 5. ピット

### 7区12号ピット(第153図 PL.55)

位置 X=57306 ~ 57307・Y=-75539 ~ -75541

重複 他遺構との重複関係は認められない。

平面形 円形

長軸方位 -

規模 長軸0.25m 短軸0.25m 深さ0.09m

検出・埋没状況 第10面遺構精査に伴い検出された円形

ピットで浅い鍋底状断面を呈する。

遺物と出土状況 出土遺物は認められない。

調査所見 1号掘立柱建物南西辺南側に延長する位置に検出されている。掘立柱建物南西隅6号ピットとの距離は1.7mであり、建物に伴う可能性もあるが、他の構成ピットについては確認されていない。対応する位置になる北東側は2号竪穴建物が存在するため不明になるため特定は難しい。掘立柱建物に関連する可能性もあるが、単独ピットとして報告しておく。

### 7区24号ピット(第153図 PL.56)

位置 X=57335 ~ 57336・Y=-75559 ~ -75560

重複 他遺構との重複関係は認められない。

平面形 円形

長軸方位 -

規模 長軸0.22m 短軸0.19m 深さ0.05m

検出・埋没状況 第10面遺構精査に伴い検出された円形ピットで浅い鍋底状断面を呈する。調査区西端部で検出されるため、ピット構成は不明である。

遺物と出土状況 出土遺物は認められない。

調査所見 調査区端部に位置し周辺にも関連ピットは認められないため、遺構構成は不明であり単独ピットとして報告する。

## 6. 集石

### 7区1号集石(第154図 PL.57)

位置 X=57314 ~ 57316・Y=-75560 ~ -75563

重複 他遺構との重複関係は認められないが、3号竪穴建物周堤下に位置することから同竪穴建物より古いものといえる。

平面形 円形

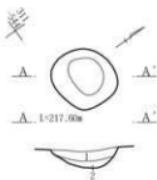
長軸方位 -

規模 検出長1.63m 深さ0.37m

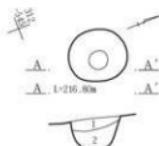
検出・埋没状況 7区西端部で検出され、1号集石西半部は調査区外になるため、掘方全形は不明であるが円形もしくは梢円形平面を呈するものとみられる。第10面精査に伴い礫の集中分布が検出され、掘方を伴う集石遺構であることが確認された。3号竪穴建物北側に接した部分で、同周堤下に位置することから構築面は不明である。掘方は、鍋底状断面を呈する土坑で礫は周囲から投入さ

#### 第4章 出土した遺構と遺物

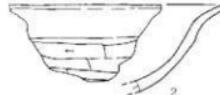
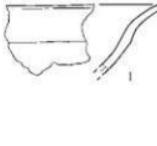
7区28号土坑



7区29号土坑



7区29号土坑



7区28・29号土坑

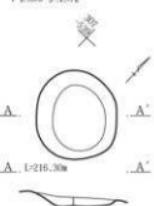
- 1 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、ロームブロックを含み、粘性をもつ。
- 2 黒褐色土(10YR3/1)ロームブロック、ローム粒を含み、粘性をもつ。

0 1 : 3 10cm

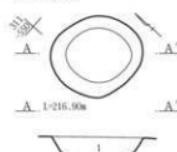
7区35号土坑



7区36号土坑



7区45号土坑



7区35・36号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、ロームブロックを含み、粘性をもつ。

7区45号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、ロームブロックを含み、粘性をもつ。

7区12号ピット



7区24号ピット

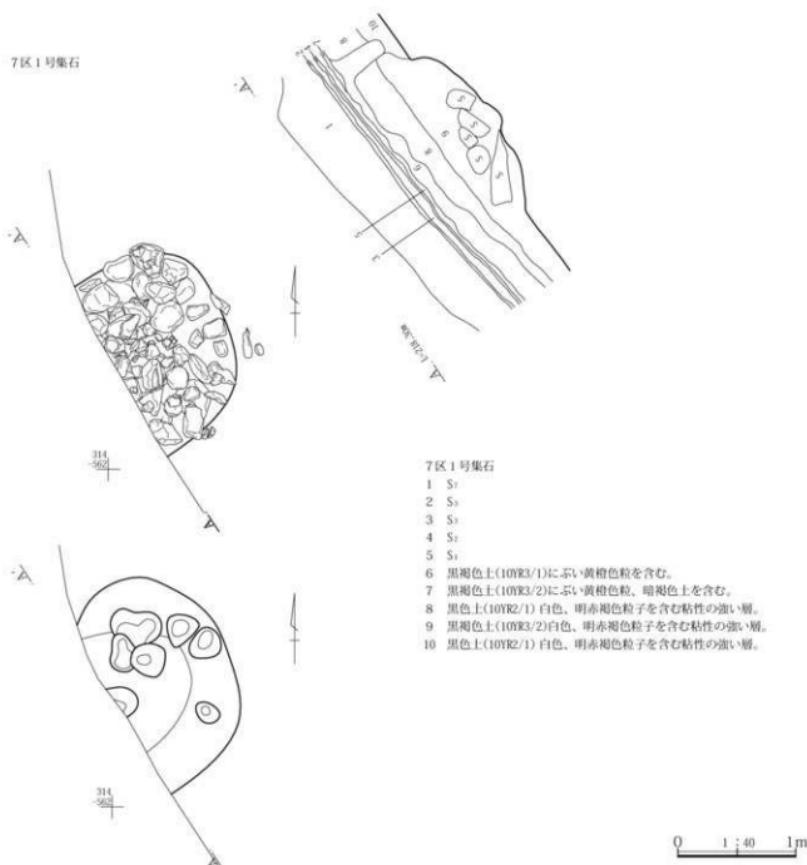


7区12・24号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/2)にぶい黄褐色粒、暗褐色土を含む。

0 1 : 40 1m

第153図 7区28・29・35・36・45号土坑、12・24号ピット平面面図、29号土坑出土遺物図



第154図 7区1号集石平断面図

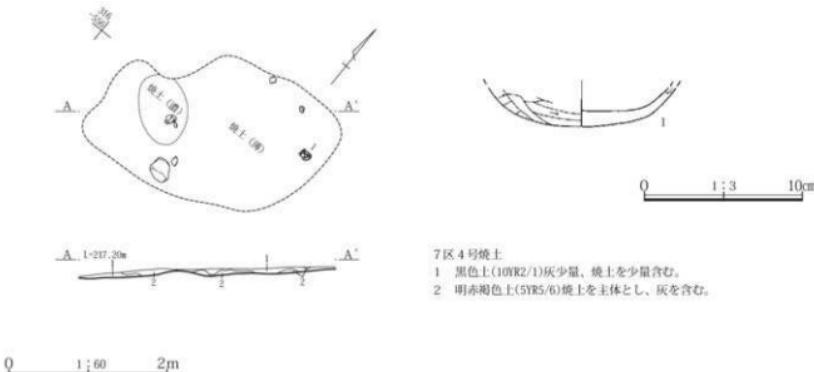
れたような状態で出土する。掘方内は礫を主として埋没し、部分的に黒色土も混入する。礫に被熱痕跡はみられず、焼土、炭化材等も認められていないことから、燃焼行為は伴わないと考えられる。また、骨等も未検出であることから墓坑の可能性は低いと思われる。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 土坑状の掘方内に礫の一括投入により形成された遺構である。掘方形状に沿って底部まで礫が集中す

ることから掘方に直接礫が投入された可能性が高い。検出時の礫も掘方形状を反映したように円状分布することから、攪乱による影響は少ないよう観察される。集石形成時の形態を保った状態で検出されたものとみられるが、性格は不明である。廃棄行為に伴うものである可能性もあるが、集石行為に有意性をもつ土坑ということとも推定される。

## 7区4号焼土



第155図 7区4号焼土平面図・出土遺物図

## 7. 焼土

第10面の調査に伴い焼土が確認された。

が、目的は不明である。分布域が共通することから、第9面1号遺物集中と関連する可能性が高いが、性格については不明である。

## 7区4号焼土(第155図 PL.59・85)

位置 X=57314 ~ 57318・Y=-75552 ~ -75556

重複 3号竪穴建物北東壁部に接し、1号遺物集中とも分布域が共通することから、関連性が高いものと考えられるが特定できる調査所見は得られていない。竪穴建物周堤部に位置し、調査経過から判断して周堤下に形成された焼土であるものとみられるが、関連性は不明である。調査では、これらの遺構とは別遺構の4号焼土として記録化している。

平面形 不整梢円形

長軸方位 N-52°-E

規模 長軸3.28m 短軸1.92m 深さ0.12m

検出・埋没状況 黒色土中に確認された焼土で、燃焼材もしくは炭化物等はほとんど認められないが、灰層も分布することからこの場で燃焼行為が行われたものとみられる。

遺物と出土状況 焼土形成に伴う遺物は確認されていないが、焼土域から土器片が出土していることから、4号焼土出土遺物として掲載した。

調査所見 燃焼行為により形成されたものと考えられる

## 第12節 第11面(黒褐色土面)の調査内容

第10面の遺構調査に伴い、土層中から弥生土器や縄文土器の出土が確認されると共に、これまでの周辺の調査状況から同期の遺構の存在が確実視されることから、第11面として黒褐色土層面の精査を行った。土層中からは弥生土器を中心に出土が認められたが、この時期の遺構は検出されていない。出土する遺物量は少なかったが、縄文時代後期の竪穴式建物1棟を確認した他、土坑、ピット、溝等を検出した。

### 1. 竪穴建物

7区7号竪穴建物(第157～159図 PL.45・46・85)

位置 X=57300～57305・Y=-75540～-75545

重複 なし

平面形 柄鏡形敷石建物

規模 全長4.3m 本体3.4m×3.3m

柄部1.2m×1.3m

床面積 10.46m<sup>2</sup> 主軸方位 N-45°～W

検出・埋没状況 第11面に相当する面を調査中に確認された。覆土中には、黒色土が堆積し、ロームがブロック状に少量含有し、形状は柄鏡形敷石建物。

床面 主体部は、全面硬化し、中央部には炉が構築されている。形態は円形状で、南東方向には柄が付属する。

炉 石囲炉。一辺1m前後の方形を呈する。炉の側面には、30cm前後の石を敷設し、外縁部を扁平礫と円礫で横位に敷設する。炉内には、炉体土器は確認されておらず、焼土、灰など多量に堆積していた。炉の堀方は円形で、60cm×50cmを測る。

柱穴 床面調査時にP1とP2が確認された。深さは、5cmにも満たないが配列から柱穴と判断される。P1とP2間は、90cmを測る。各柱穴の規模は、以下の通りである。

P1 長径0.33m 短径0.30m 深さ0.05m

P2 長径0.26m 短径0.26m 深さ0.07m

P3 長径0.51m 短径0.36m 深さ0.45m

P4 長径0.52m 短径0.30m 深さ0.51m

P5 長径0.45m 短径0.32m 深さ0.23m

P6 長径0.47m 短径0.33m 深さ0.17m

付属施設 炉と柄の間に一辺70cm程の方形形状に石で囲ま

れた施設が確認された。石は10cmほどの扁平礫を縦位に敷設している。南東方向には、石列は確認できず、柄部に続く敷石が敷設されている。以上の特徴から、石門い状施設と考えられる。

**敷石** 本体部と柄部の間で確認された。40～50cm程の礫を横位に北西から南東方向へ列状に敷設していた。敷石の東西輪縁辺にも小礫で敷設を行っていた。

**対ピット** 本体部と柄部の接続部分で確認された。敷石を挟んで両側に長さ80cm、幅25cm、深さ50cmを測る楕円形状のピット状の掘り込みを有する。入口施設の一部と考えられる。

**柄部** 長さ110cm、幅130cmを測る。周辺に柱穴、敷石は施されていない。

**出土遺物** 床面から堀之内2式が出土した。

**所見** 出土遺物から堀之内2式期の柄鏡形敷石建物と判断される。埋め戻から派生する石圓状施設の発達が特徴的である。本建物は接続部のみに敷石を敷設すること、柄部が矩形であることなどから、末葉に近い様相を呈している。

**時期** 堀之内2式

### 2. 土坑

7区46号土坑(第160図 PL.17)

位置 X=57295～57297・Y=-75533～-75535

重複 7区南端部の傾斜面に位置し、6号溝と重複する。

平面形 円形

長軸方位 N-75°～W

規模 長軸1.3m 短軸(1.2)m 深さ0.18m

検出・埋没状況 第11面遺構精査に伴い検出された円形土坑で銅底状断面を呈する。

遺物と出土状況 埋没土から土器片が出土している。

調査所見 北西方に7号竪穴建物が位置することから、本土坑も縄文時代に属する可能性がある。

7区47号土坑(第160図 PL.17)

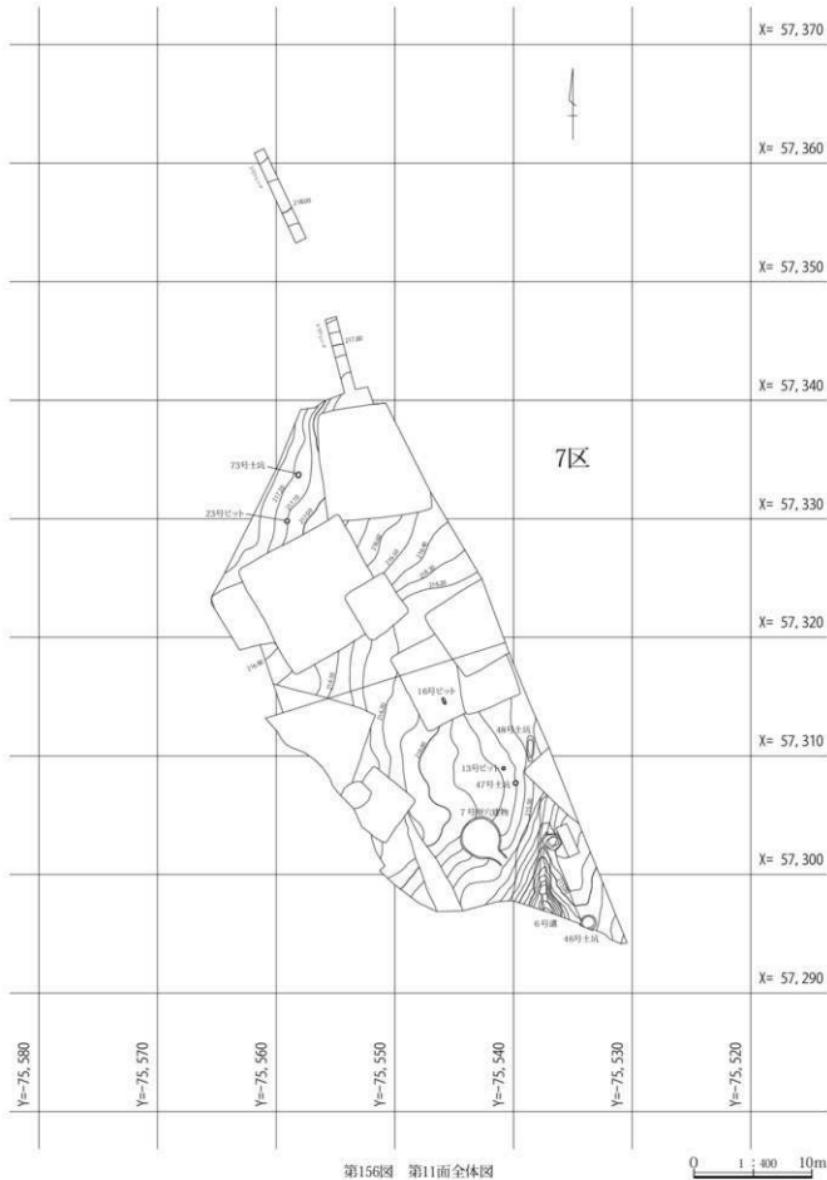
位置 X=57307～57308・Y=-75539～-75541

重複 遺構間の重複関係は認められない。

平面形 円形

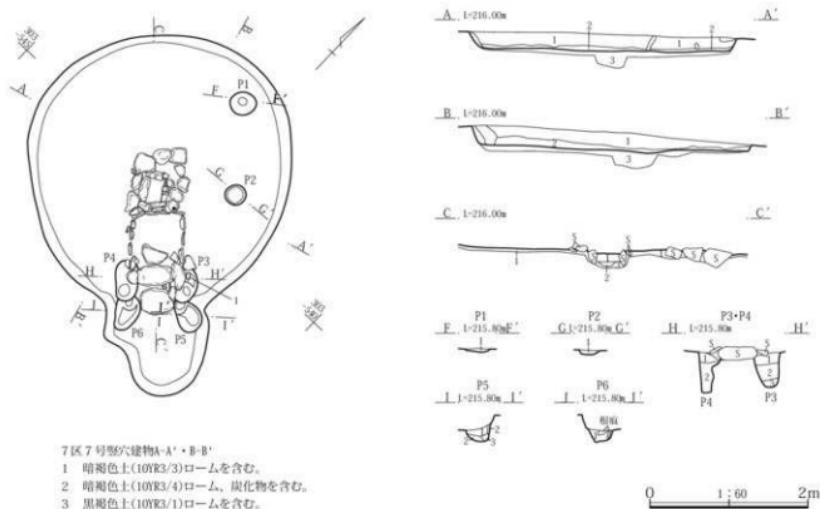
長軸方位 N-66°～E

規模 長軸0.46m 短軸0.43m 深さ0.13m



第156図 第11面全体図

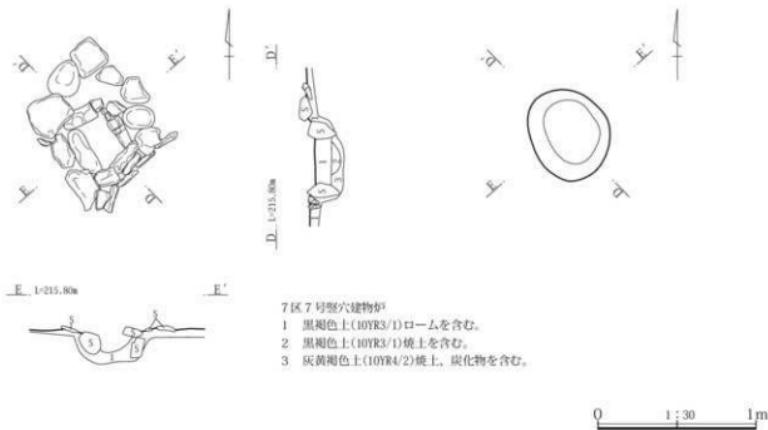
第12節 第11面(黒褐色土面)の調査内容



7区 7号型穴建物A-A'・B-B'  
1 黒褐色土(10YR3/3)ロームを含む。  
2 暗褐色土(10YR3/4)ローム、炭化物を含む。  
3 黒褐色土(10YR3/1)ロームを含む。

7区 7号型穴建物C-C'  
1 黒褐色土(2.5Y3/1)ローム粒を含む。  
2 黒褐色土(2.5Y3/2)ローム粒、炭化物を少量含む。  
3 黑褐色土(10YR2/1)ローム粒を少量含む。

第157図 7区 7号型穴建物平面図



7区 7号型穴建物E-E'  
1 黒褐色土 (10YR3/1) ロームを含む。  
2 黒褐色土 (10YR3/1) 硫土を含む。  
3 灰黄褐色土 (10YR4/2) 硫土、炭化物を含む。

第158図 7区 7号型穴建物炉平面図



第159図 7区7号竪穴建物出土遺物図

**検出・埋没状況** 第11面遺構精査に伴い検出された小型

円形土坑で浅い鍋底状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 7号竪穴建物の北東方向が位置することから、時期的にも関連性がもつ可能性がある。

7区48号土坑(第160図 PL.17)

**位置** X=57309～57312・Y=-75538～-75539

**重複** 南端部を1号掘立柱建物10号ピットにより切られる。

**平面形** 長円形

**長軸方位** N-0°

**規模** 長軸(1.86)m 短軸0.6m 深さ0.18m

**検出・埋没状況** 第11面遺構精査に伴い検出された長円形土坑で鍋底状断面を呈する。長軸を等高線に沿うように位置する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 南西方向に7号竪穴建物が位置することから、本土坑も縄文時代に属する可能性がある。

7区73号土坑(第160図 PL.17)

**位置** X=57333～57334・Y=-75557～-75559

**重複** 遺構間の重複関係は認められない。

**平面形** 円形

**長軸方位** N-20° -E

**規模** 長軸0.53m 短軸0.48m 深さ0.12m

**検出・埋没状況** 第11面遺構精査に伴い検出された小型円形土坑で浅い鍋底状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 遺物は確認されていない。

**調査所見** 小規模な土坑であることから建物を構成する柱穴の可能性があるが、不明であるため単独土坑として

報告する。

### 3. ピット

7区13号ピット(第160図 PL.55)

**位置** X=57308～57310・Y=-75540～-75541

**重複** 他遺構との重複関係は認められない。

**平面形** 円形

**長軸方位** N-64° -E

**規模** 長軸0.34m 短軸0.30m 深さ0.13m

**検出・埋没状況** 第11面遺構精査に伴い検出されたピットで浅い鍋底状断面を呈する。

**遺物と出土状況** 出土遺物は認められない。

**調査所見** 建物柱穴の可能性もあるが、不明である。

7区16号ピット(第160図 PL.55)

**位置** X=57314～57315・Y=-75545～-75547

**重複** 他遺構との重複関係は認められない。

**平面形** 楕円形

**長軸方位** N-26° -W

**規模** 長軸0.62m 短軸0.26m 深さ0.11m

**検出・埋没状況** 6号竪穴建物掘方面で検出された浅い鍋底状断面のピットである。

**遺物と出土状況** 出土遺物は認められない。

**調査所見** 単独ピットとして調査しているが、同竪穴建物掘方に伴う掘り込みの可能性も考えられる。

7区23号ピット(第160図 PL.56)

**位置** X=57329～57331・Y=-75558～-75560

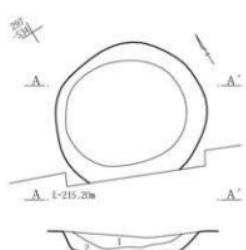
**重複** 他遺構との重複関係は認められない。

**平面形** 円形

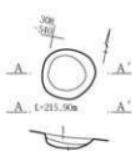
**長軸方位** N-55° -E

## 第12節 第11面(黒褐色土面)の調査内容

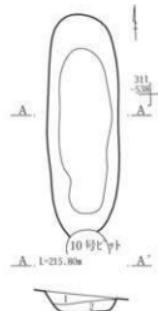
7区46号土坑



7区47号土坑



7区48号土坑



7区46～48号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1)ロームブロックを含み、粘性をもつ。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)ロームブロック、ローム粒を含み、粘性をもつ。

7区73号土坑



7区73号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)橙色粒を含み、粘性をもつ。

7区13号ピット



7区23号ピット



7区16号ピット



7区13・16・23号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/2)白色、明赤褐色粒子を含む。



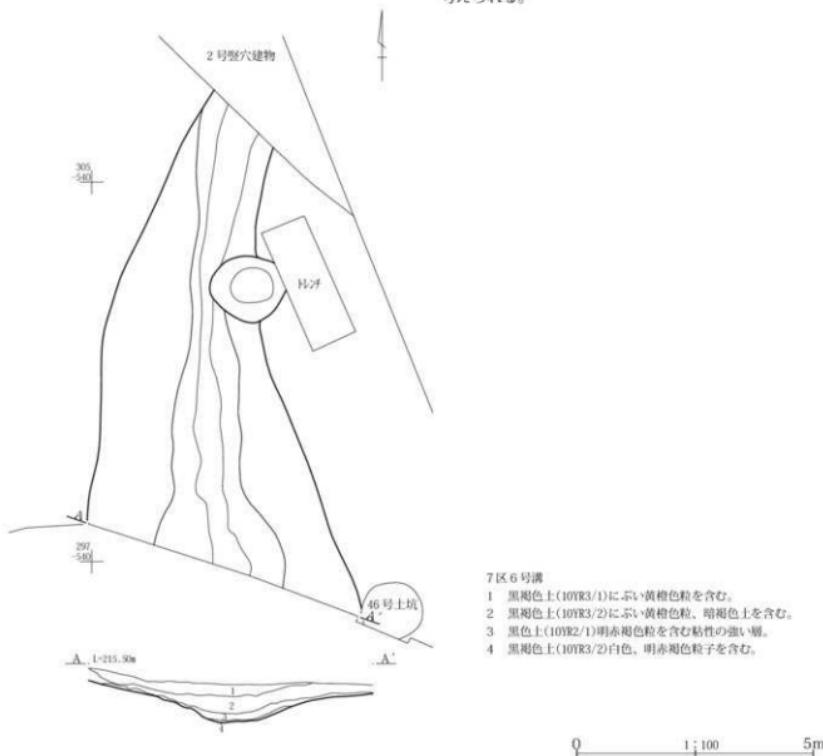
第160図 7区46～48号土坑、13・16・23号ピット平断面図

**規模** 長軸0.47m 短軸0.43m 深さ0.12m  
**検出・埋没状況** 第11面遺構精査に伴い検出されたピットで浅い鍋底状断面を呈する。  
**遺物と出土状況** 出土遺物は認められない。  
**調査所見** 建物柱穴の可能性もあるが、関連ピットは未検出のため不明である。

## 4. 溝

7区6号溝(第161図 PL.62)  
**位置** X=57296 ~ 57307・Y=-75534 ~ -75541  
**重複** 46号土坑と重複する。  
**走行方位** N-5°-E

**規模** 調査長10.10m 幅1.75 ~ 5.06m 深さ0.10 ~ 0.88m  
**調査所見** 7区南端部の傾斜面で検出された。傾斜に応じて北東から南西方向に扇形に広がりをもち、緩やかな鍋底状断面を呈する。底面には礫が分布する他、遺物は認められない。傾斜面にのみ認められる溝状遺構であるが、性格は不明である。上層の第10面では痕跡は認められず、第9面では2号竪穴建物、第8面では1号窓が存在する。第11面でのみ存在する溝痕跡となり、第10面時点では埋没していることになる。時期や性格は特定できないが、古墳時代以前の時期に存在したもので、傾斜面に位置することから自然要因により形成された可能性も考えられる。



第161図 7区6号溝平面図

## 第13節 鉄滓関連

### 1. 調査の経緯

平成30年度の調査に伴い7区第1面検出作業において、鉄滓類が多量に出土した。表土掘削及び第1面精査中に出土したもので、特に7区南西部にあたる和尚沢に近接する部分に多い傾向が認められた。Hr-FP堆積層の上層が出土層位であることから、古代から近世の時間幅があるが製鉄関連遺構の存在も想定されることになった。

平成31年度は、7区北半部および8・9区の調査を実施したが、前年度と同様に第1面調査に伴い鉄滓類が出土している。時期の特定および関連遺構の検出に注意したが、表土層を主とした鉄滓出土ということが確認されたのみで、他の調査所見は得られていない。

すなわち、各区とも出土層位がHr-FP上層であること、出土層位が表土層であること、第1面確認遺構には製鉄関連遺構が認められないこと等から、調査区北側からの流入の可能性が高いものと判断された。

以上のような経緯であり、時期の特定や関連遺構の検出には至っていない。

多量の鉄滓類の存在から東側に位置する金井製鉄遺跡（県指定史跡）との関連も想定する必要がある。

金井製鉄遺跡は8世紀代と考えられ、製鉄炉1基、炭窯8基が調査されている。製鉄炉は丸長方形で、長軸90cm、短軸55cm、壁高55cmの規模で、羽口や多量の鉄滓、砂鉄が出土している。また、炭窯は窓窯で、炭はナラ、クヌギなどが確認されている。

近接地にこのような製鉄炉が存在することから、今回出土した鉄滓類についても、時期の特定ができないが、この地域の製鉄の歴史的動向を知る上では有効な資料となり得ると考えられる。

今回の報告では、出土状況および出土種別などを一覧することで、資料化し提示しておくものとする。

### 2. 出土状況

鉄滓類は第1面から出土しているが、第2面以下では検出されていない。出土層位からも確認できるが、時期的には古代から近世の時間的範囲に含まれることになる。

第1面遺構確認面であるHr-FP面には、製鉄関連の遺構等の痕跡は認められていない。また、出土遺物は陶磁器、銭貨が主体で、製鉄関連遺物は含まれないことから、調査区には製鉄遺構は存在しないと判断できる。

遺跡は扇状地南端部に位置することから、北東から南西方向に傾斜面が形成され、さらに上方は和尚沢に連なる急傾斜地にもある。今回出土した鉄滓類は、調査区北西侧から流出した可能性が高いとみられる。すなわち、山裾部に製鉄炉が存在し、土砂流出などの影響により移動した一部が出土したものと考えられる。

今後、周辺調査では、関連遺構が確認される可能性が高いと推定できる。

### 3. 遺物の概要

金井下新田遺跡7～9区から出土した鉄滓類は、総重量635.03kgであり、内訳は第3表に示す通りである。出土した鉄滓類は、時期を特定できるものではなく、また遺構に伴うものではないため、第1面出土資料として一括



第162図 鉄滓類の分類・観察作業の状況

鉄滓掲載一覧表

No	層位	名称
1	1面	炉壁送風孔周辺
2	1面	炉壁送風孔周辺
3	1面	炉壁送風孔周辺
4	1面	炉壁下段上位
5	1面	炉壁下段上位
6	1面	炉壁下段上位
7	1面	炉壁下段上位
8	1面	鉄塊系遺物
9	1面	鉄塊系遺物
10	1面	マグネタイト系遺物
11	1面	含鉄鉄滓
12	1面	炉内滓
13	1面	炉内滓
14	1面	炉内滓
15	1面	炉内滓
16	1面	炉内滓 石つき(構造材か?)
17	1面	炉内滓
18	1面	炉内滓
19	1面	炉内滓
20	1面	炉内滓
21	1面	炉内滓
22	1面	炉内滓
23	1面	炉内滓
24	1面	炉内滓
25	1面	炉内滓
26	1面	流動滓(流動性高)
27	1面	流動滓(流動性高)
28	1面	流動滓(流動性高)
29	1面	流動滓(流動性高)
30	1面	流動滓(流動性高)
31	1面	流動滓(流動性高)
32	1面	流動滓(流動性高)
33	1面	流動滓(粘性高)
34	1面	流動滓(粘性高)
35	1面	流動滓(粘性高)
36	1面	流動滓(粘性高)
37	1面	流動滓(粘性高)
38	1面	流動滓(粘性高)
39	1面	流動滓(粘性高)
40	1面	流動滓(粘性高)
41	1面	鉄製品
42	1面	鉄製品

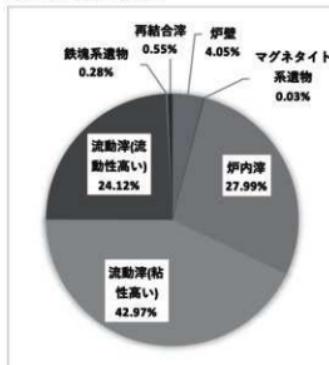
して扱うことにしている。

出土した鉄滓類全資料について、分類・観察を行った結果、出土割合が高い順に粘性の高い流動滓(42.97%)、炉内滓(27.99%)、流動性の高い流動滓(24.12%)、炉壁(4.05%)となった。

粘性が高い流動滓が42.97%と量が多いことから、縦型炉から出土する傾向に類似するとの指摘があり、調査区北東側の山裾部周辺に製鉄炉および製鉄関連遺構が存在する可能性が確実視されるものといえる。

なお、鉄滓類の分類・観察については、群馬県教育委員会主幹(総括)笹澤泰史氏に指導・助言を得ている。

出土鉄滓重量 円グラフ



鉄滓の種別重量

種別	重量 (kg)
炉壁	25.72
マグネタイト系遺物	0.20
炉内滓	177.76
流動滓(粘性高い)	272.9
流動滓(流動性高い)	153.17
鉄塊系遺物	1.76
再結合滓	3.52
炭	0.02
鉄滓総量(炭除く)	635.03

第3表 鉄滓一覧・計測表

## 第14節 繩文・弥生時代の遺物

これまで調査された金井下新田遺跡1区～6区においても黒色土から縄文時代から弥生時代の遺構・遺物が出土している。7区も連続する遺跡であることから、これらの調査成果の一端を形成するものといえる。

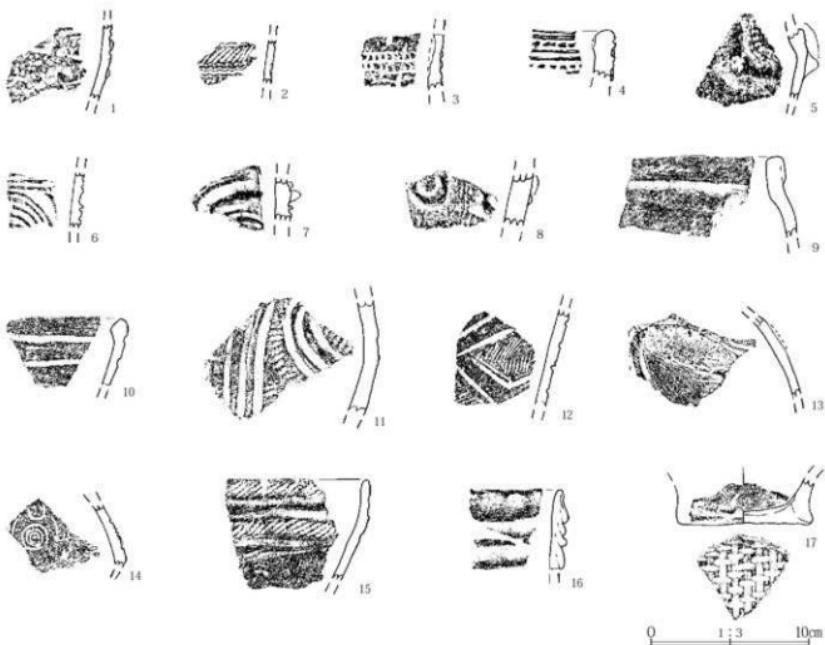
それでは、これまでの経過も含めながら縄文時代および弥生時代の調査概要を報告する。

### 1. 縄文時代

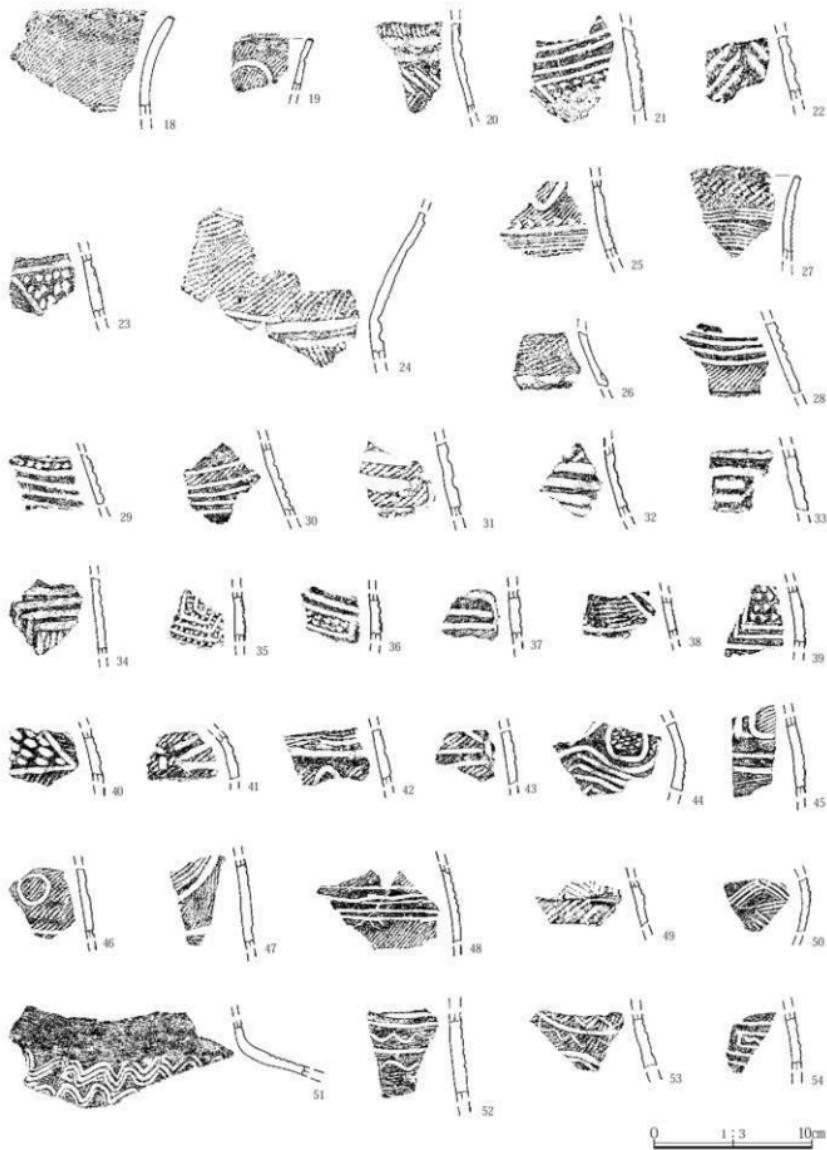
金井下新田遺跡1区では、縄文時代中期の集落が調査されている。竪穴建物41棟、土坑182基等が検出され、遺構分布状況から弧状の集落構成が推定されている。1区は金井扇状地先端部にあたり、中期集落の形成域とすれば典型的な地点ともいえる。金井下新田遺跡が立地する吾妻川と利根川合流地域周辺では、赤城山麓を含め同様の大規模集落の存在が確認されているが、1区集落も

その動向の中で形成されたものといえる。2区では、縄文時代中期の竪穴建物1棟が調査されている。1区とは谷を隔てているため、異なる集落形成があったことになる。3区では、縄文時代前期の竪穴建物3棟が確認された。扇状地南端部にあたる台地上に集落が形成されていたことが確認された。4区は陥穴を含む土坑が調査されている。5区では、縄文時代前期の竪穴建物1棟が確認された。扇状地中央に近い扇端部には中期集落が形成され、扇状地南端部にかけては縄文時代前期の集落域が認められるものの、遺構分布は希薄となる傾向がある。

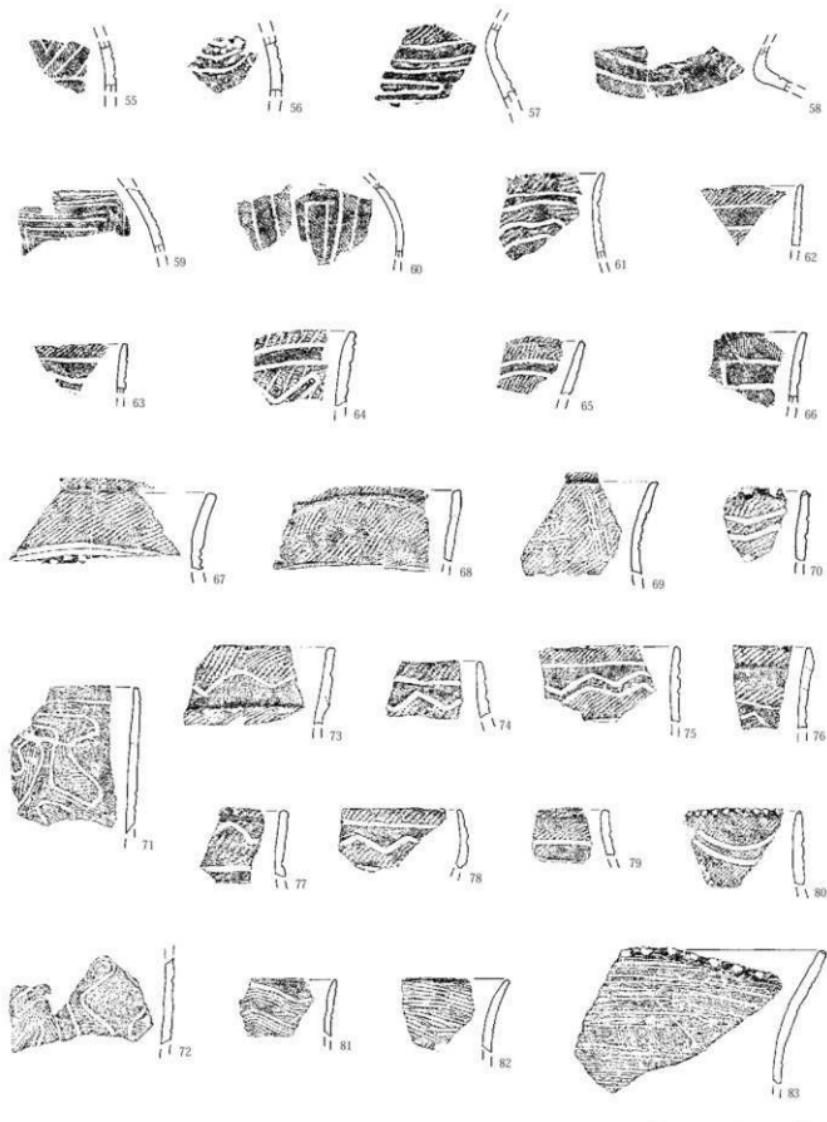
この傾向は7区の調査でも同様といえる。竪穴建物は縄文時代後期の堀之内2式に相当する柄鏡形敷石竪穴建物(7区7号竪穴建物)1棟が確認されたのみである。土坑も分布するが、時期の特定ができない。また、黒色土中からは出土量は少ないが、前期から後期の土器片および打製石器、石錐、打製石斧等が出土している。



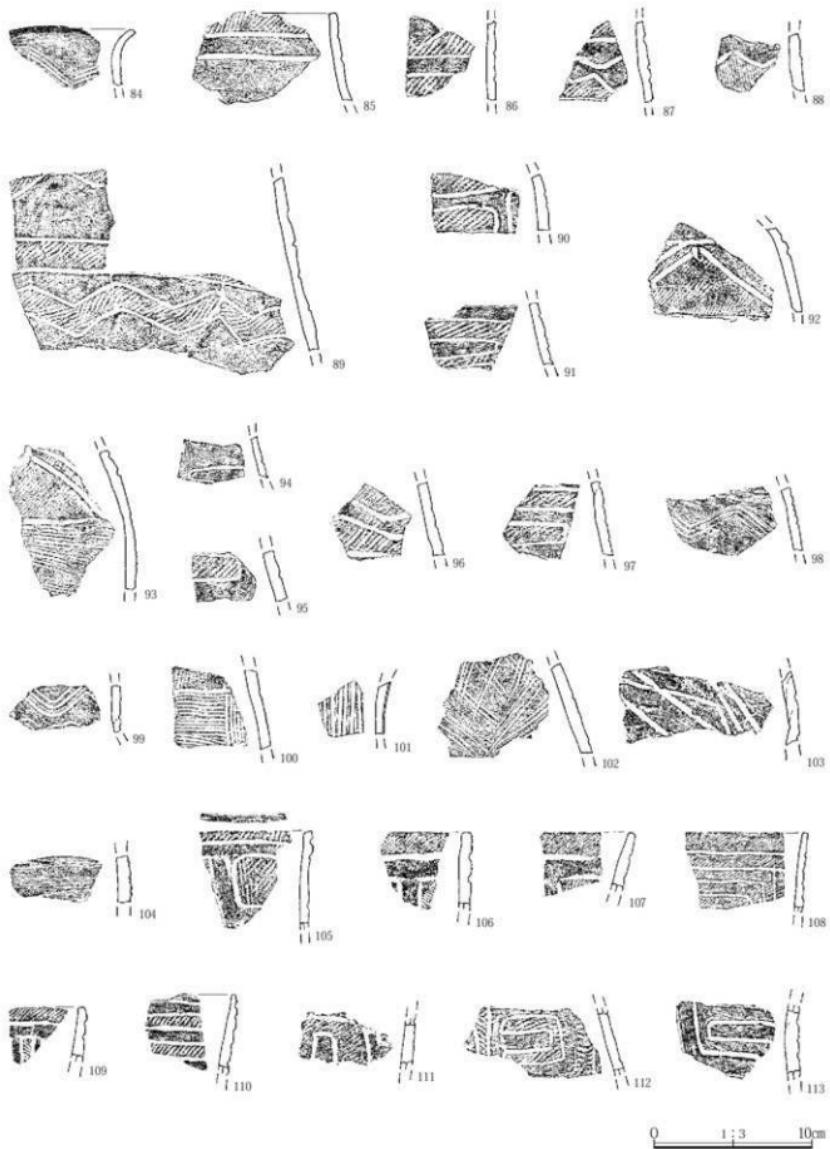
第163図 7区縄文・弥生時代出土遺物図(1)



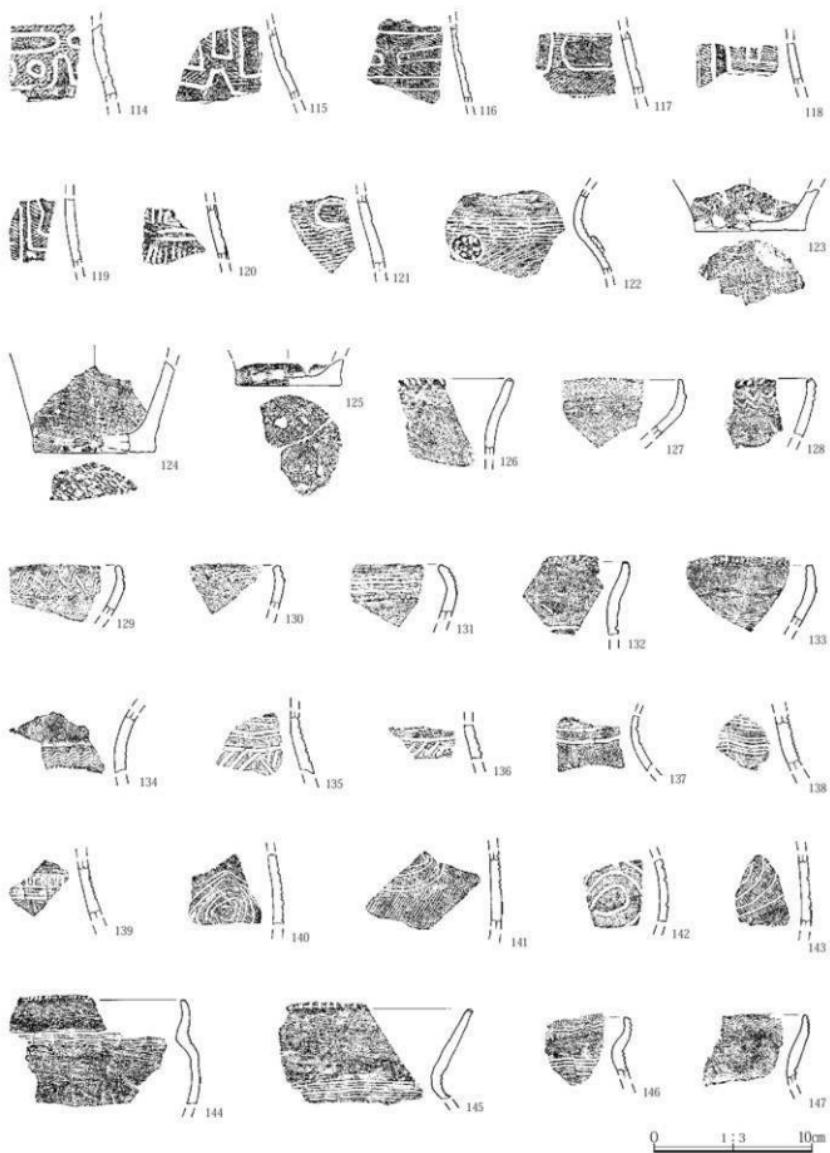
第164図 7区縄文・弥生時代出土遺物図(2)



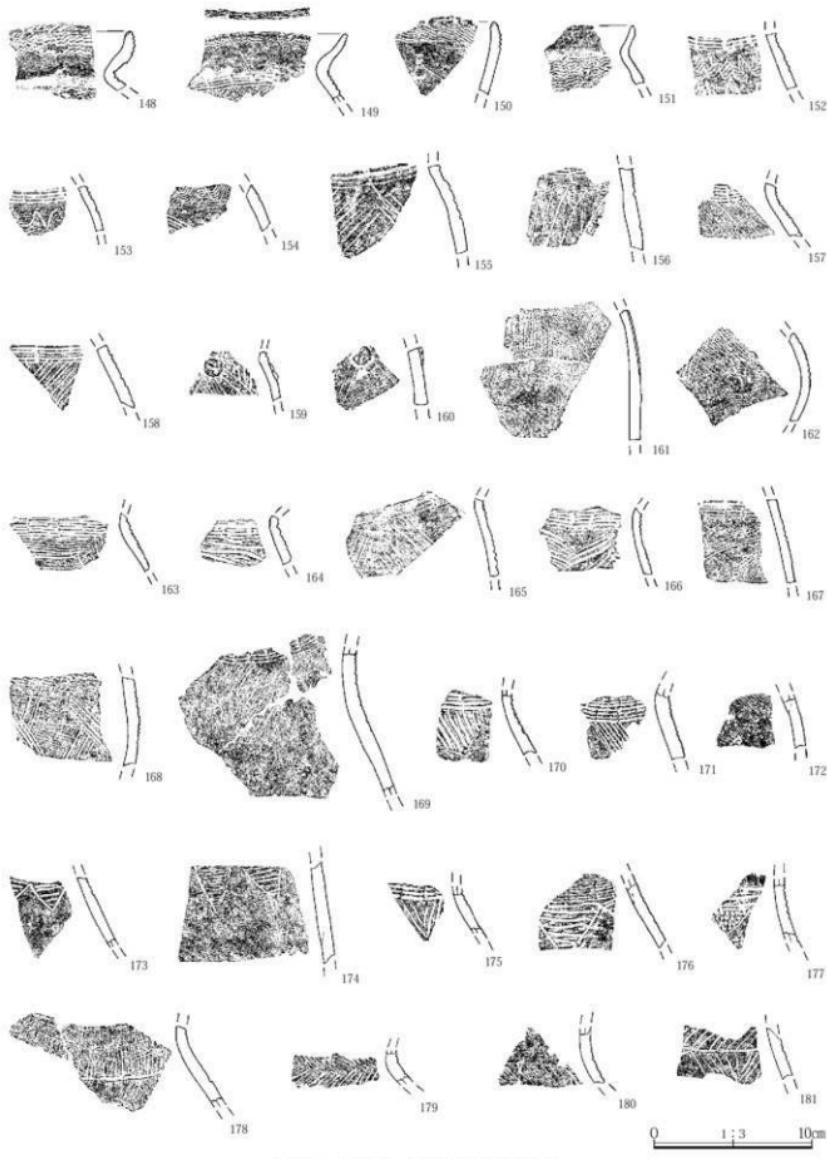
第165図 7区繩文・弥生時代出土遺物図(3)



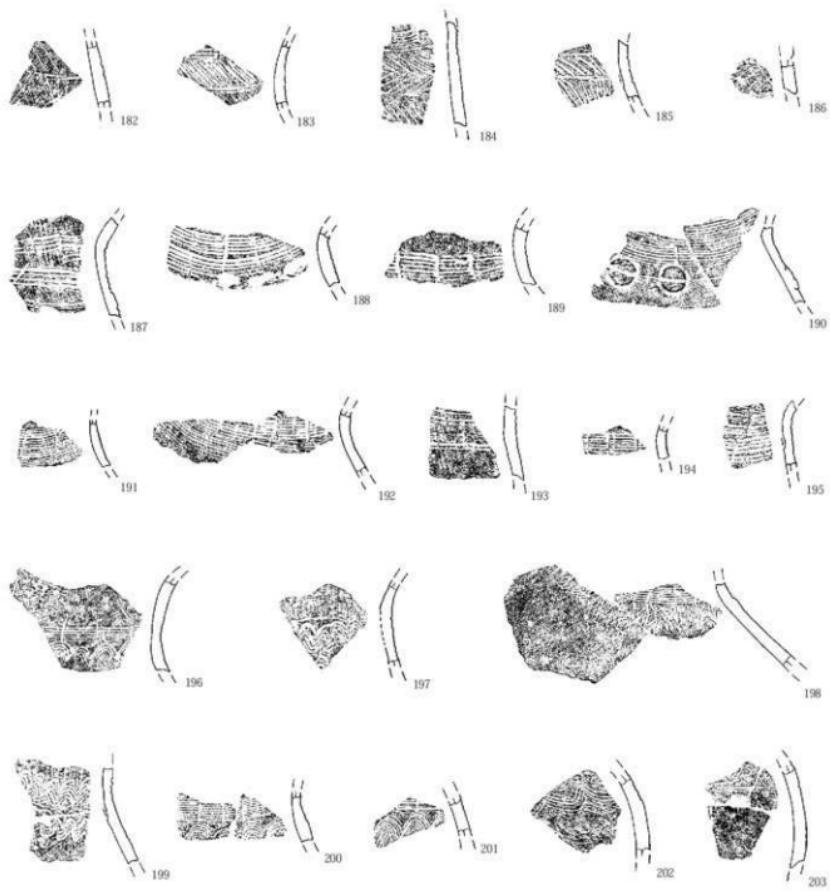
第166図 7区縄文・弥生時代出土遺物図(4)



第167図 7区縄文・弥生時代出土遺物図(5)

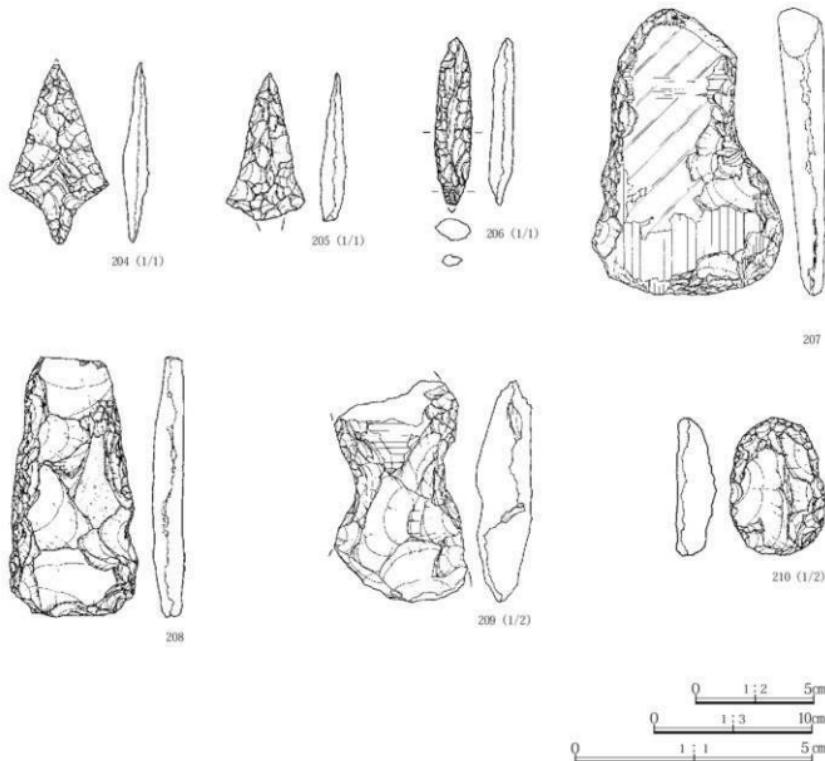


第168図 7区縄文・弥生時代出土遺物図(6)



0 1:3 10cm

第169図 7区縄文・弥生時代出土遺物図(7)



第170図 7区縄文・弥生時代出土遺物図(8)

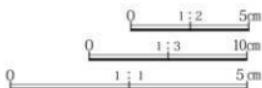
## 2. 弥生時代

1区では、土坑、焼土、集石等が確認されるが、遺構・遺物とも出土量は少ない。2区では、弥生時代後期の竪穴建物1棟、土坑が検出されている。3区では、礎床木棺墓10基が分布し、後期の墓域が形成されることが確認された。4区では、中期中葉の再葬墓1基が調査された。5区では、中期中葉の再葬墓、後期の竪穴建物7棟、表棺墓1基等が確認された。中期は墓域として、後期には集落が形成される傾向が把握された。

7区では、土器や石器の出土は確認されたが、遺構に関しては認められていない。土器は、古墳時代遺構埋没

土および黒色土中から出土し、後期を主とした資料である。後期の集落に近接することから、竪穴建物等の遺構は存在しないが、7区も集落域に含まれるものといえる。

なお、石器は出土量は少ないが石鏡が確認されている。



## 第5章 総括

### 第1節 金井下新田遺跡7区出土の 須恵器の様相

はじめに

金井東裏遺跡と金井下新田遺跡(以下、金井遺跡群と呼称)からは、これまでの発掘調査においてTK23・47型式からMT15型式(註1)を中心とした時期の須恵器が出土しており((公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2019・2021)、Hr-FA降下前の須恵器の様相を知るうえで非常に重要な情報が得られた。また、筆者は出土遺構・器種構成・編年的位置づけ・生産地などの基本事項について整理を行った(藤野2019a・2021)。

今回報告される金井下新田遺跡7区(以下、7区と呼称)においても、破片資料が大部分であるものの須恵器の出土が一定量認められるため、これまでと同様の視点から検討し基礎的な部分の整理を行う。

#### 1. 出土遺構と器種構成

##### (1) 出土遺構と出土状況

須恵器が出土した遺構は、Hr-FA下から検出された堅穴建物・平地建物・祭祀遺構・遺物集中・墓・土坑・不明遺構であり、それ以外に遺構外からも多くの須恵器の出土が認められるが、すべての遺構から出土しているわけではないので、これまでの様相と同様に集落内において須恵器の使用が一般的であったとは評価できない。須恵器が出土した遺構の主体は堅穴建物であり、7軒(1・2・3・8・9・10・11号)からの出土が認められ、それ以外の遺構では出土が少なく遺構1基あたりの出土量も少ない。7区から出土した須恵器の大部分は、完存しておらず小破片の状態のものが多くみられ、完形に近い個体は3個体(2号堅穴建物高环蓋15、3号遺物集中高环蓋13、遺構外环身33)程度である。

遺構内の出土状況は、覆土中からの出土が多い一方、2号堅穴建物の环身2点(13・14)や8号堅穴建物の龜2

点(23・24)は床面からの出土であり、建物の時期を知るうえで有益な資料となる。このほか、7区で注目されるのは複数の遺構から出土した破片に接合関係が認められる、いわゆる遺構間接合であるがこの点については後述する。

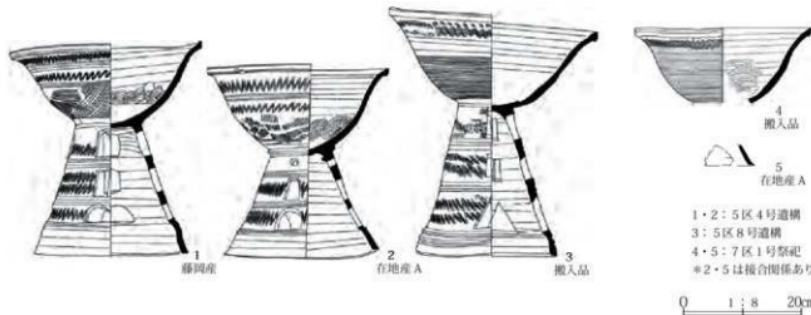
##### (2) 器種構成

7区から出土した須恵器の器種は、环蓋・环身・無蓋高环・高环蓋・龜・提瓶・高环形器台・甕に加え、平底を呈する小型器種(8号堅穴建物25)などが認められ、基本的な器種構成はこれまでの金井遺跡群の様相と大きく異なる点はない。このうち、7区では無蓋高环の出土がもっとも多いのが特徴で、ついで环蓋や环身となり龜・提瓶・高环形器台・甕の出土量は少ない。また、高环蓋が4点出土しているが確実に有蓋高环となる個体は出土していない。

遺構別の器種構成に着目すると、堅穴建物では环蓋・环身・無蓋高环・高环蓋・龜・甕など多様な器種が出土しているが、主体は环蓋・环身・無蓋高环である。また、1～3号遺物集中からも須恵器の出土が認められるが、出土量は少なく完形に近いものは3号遺物集中の高环蓋(13)のみである。

##### (3) 金井下新田遺跡と高环形器台

1号祭祀では、複数個体の須恵器の出土が確認できるが、この遺構でも破片が多く金井東裏遺跡3号祭祀遺構や金井下新田遺跡5区4・8号遺構など須恵器の多くが完形の状態となる祭祀遺構とは違った様相を示している。1号祭祀からは、环身や無蓋高环に加えて高环形器台の环部(44)と脚端部片(46)が出土していることが特筆される。高环形器台は、环部と脚端部片の胎土が異なるため別の生産地で生産されたものであり、いずれも欠損部分が多いため金井下新田遺跡5区4・8号遺構から出土した高环形器台とは異なる様相をもつ。なお、高环形器台にどのような器種を載せたのか不明であり、器台の使用方法は判然としない。



第171図 金井下新田遺跡出土の高環形器台

金井下新田遺跡では、高環形器台が5区4号遺構から2個体、5区8号遺構から1個体出土しており7区においても1号祭祀から2個体の出土が確認できるが、後述するように5区4号遺構(第684集第327図31)と1号祭祀(46)は接合関係が認められた。このため、多少の時期差はあるものの、近接した場所から4個体の高環形器台が出土したことになり(第171図)、一つの集落において複数個体の高環形器台の保有・使用は古墳時代中期後半から後期前半における東日本の集落では非常に特異な事例となる。

## 2. 編年の位置づけ

7区から出土した須恵器は、多くが破片の状態で全体形状が不明であり、すべての須恵器の編年的位置づけについて言及することは困難である。そのため、比較的形態的特徴を捉えやすい個体を対象として検討する。

**TK208型式並行** 8号竪穴建物から出土した躰2点(23・24)は、頭基部が細く体部は肩が張り24の底部は尖り気味の形態を呈する。TK208型式並行と考えられるが、口縁部から頸部を欠損するため断定はできない。また、10号竪穴建物出土の环蓋(7)は口唇部が平坦を呈する点はTK208型式の特徴を示しているが、稜部は明瞭に突出せず断面が三角形状を呈する。

**TK23・47型式並行** TK23・47型式に位置づけられる須恵器は7区出土須恵器のなかでもっとも多く、この特徴はこれまでの金井遺跡群の傾向と同様である。代表的な例は、2号竪穴建物の环身(13・14)や高环蓋(15)、3号

遺物集中の高环蓋(13)などである。このほか、高环脚部である3号竪穴建物(26)・1号遺物集中(12)・遺構外(51・52)についても脚端部の屈曲が弱い、あるいは屈曲せず垂下するなど在地化の様相が認められるが、おむねTK23・47型式に位置づけてよいと考えられる。なお、高环のうち3号竪穴建物(26)・1号遺物集中(12)・遺構外(51)の脚部の透かしは四方透かしである。また、遺構外出土の环身(33)は口唇部が丸く新しい様相を呈するが、立ち上がりは高く体部も深身であることからTK23・47型式に並行すると判断した。

**MT15型式並行** 7区においても、MT15型式に位置づけられる須恵器が出土しているが、全体的な出土量は少なく3号竪穴建物の無蓋高环(28)や遺構外の環状把手(18)が提瓶の把手であれば、これらがMT15型式に位置づけられる。3号竪穴建物の無蓋高环は、脚部の透かしが四方透かしであるが長脚の傾向が認められ、环部もほかの無蓋高环より小型となり下位の突線も丸みを帯びるため、MT15型式並行と考えられる。また、1号祭祀の高环形器台(44)は、环部に1条の緩やかな直線が巡り、上段に1段の波状文、下段にカキ目を施すという文様構成や調整が金井下新田遺跡5区8号遺構の高环形器台と類似するが、脚部を欠損しているため全体の形状が分からずMT15型式並行と断定はできない。

以上、須恵器の編年的位置づけについては破片資料が多く詳細に検討することができないが、TK23・47型式並行の須恵器が多く、一部TK208型式やMT15型式並行のものが認められ、この傾向は金井遺跡群のこれまでの発掘

調査成果と同様である。また、TK208型式並行に位置づけられるのは龜が中心であり、金井遺跡群から出土した須恵器のうちTK23・47型式以前に位置づけられる器種は、龜が多く認められるため、特筆される現象である。

### 3. 須恵器の生産地

生産地の検討方法としては、肉眼観察による胎土の特徴や胎土に含まれる鉱物などの特徴の把握に加え、形態的特徴も加味して検討を行った。7区から出土した須恵器の生産地は、これまでの金井遺跡群で出土した須恵器と同様に、東海地方以西の地域で生産された搬入品と群馬県内で生産されたと考えられる在地産に大きく分けることができる。また、7区で確認された生産地や生産地ごとの出土量の傾向は基本的にこれまでの金井遺跡群の様相と大きく異なる点はない。以下では、それぞれの生産地について整理する。

#### (1) 搬入品

搬入品は、陶邑窯産の一群と生産地は特定できないものの、胎土が緻密であるため在地産ではなく搬入品と推測できる一群が認められる。

**陶邑窯産** 陶邑窯産と考えられる須恵器のうち、代表的なものは遺構外の环蓋(29・35・36)や龜(28)などがあり、時期はTK23・47型式期である。このほか、8号竪穴建物の平底器種(25)も陶邑窯産の可能性があり、2号竪穴建物の高环蓋(15)・3号遺物集中の高环蓋(13)・遺構外の高环蓋(34)も胎土が緻密で陶邑窯産の可能性があるが、内面は灰白色に発色し鉄分の噴出が認められるため検討の余地がある。

**陶邑窯産以外の搬入品** 8号竪穴建物の龜2点(23・24)は、いずれも胎土は緻密であるが内面は鉄分が噴出し外面にはやや濃い緑色の自然釉が付着している。体部には、櫛刺突文を2段施文するのが特徴であり、このような文様構成の龜は陶邑窯の調査では報告が認められないため、陶邑窯以外の搬入品と捉えておく。また、1号祭祀の高环形器台(44)も胎土が緻密であり搬入品と考えられるが生産地は特定できない。

#### (2) 在地産

在地産の須恵器は、これまで筆者が藤岡産・在地産A

と呼称してきた一群(註2)、加えてそれらに該当しない在地で生産されたと考えられる須恵器が確認できた。

**藤岡産** 藤岡産と判断できたのは、3号竪穴建物の無蓋高环(24)、8号竪穴建物の無蓋高环(21)・11号竪穴建物の無蓋高环(6)・遺構外の無蓋高环2点(42・44)の合計5点であり、いずれも無蓋高环である点は、これまでの金井遺跡群での様相とは異なる。また、これらの須恵器の多くはTK23・47型式並行に位置づけられ、MT15型式並行のものは出土していない。

**在地産A** 在地産Aの一群は、7区から出土した須恵器のなかでもっとも多く20点以上確認できる。代表例としては、2号竪穴建物の环身(13)と無蓋高环(16)・1号祭祀の器台脚部(46)・1号遺物集中の高环脚部(12)などで、TK23・47型式並行が主体である。

**その他の在地産** 8号竪穴建物の高环蓋(22)は、胎土中に砂粒を多く含むが在地産Aの特徴とは異なり、また青灰色に発色する点も相違がある。また、8号竪穴建物の無蓋高环(45)は石英・長石に加え、1mm以下の細かい白色砂粒を含むという特徴の胎土は、遺構外の無蓋高环(41)や高环脚部(51)などでも共通して認められる。このような、藤岡産・在地産Aのどちらにも該当しない在地産須恵器は10点程度が確認できる。

**出土遺構と生産地の相関関係** 特定の遺構から、特定の生産地の須恵器が出土するような傾向は認められないが、3号竪穴建物からは在地産Aを中心に在地産須恵器が多く出土しており、1号平地建物でも同様である。

### 4. 須恵器の遺構間接合 (第172図)

**遺構間接合の概要** 7区の特徴として、複数個体の須恵器の遺構間接合が認められたため、この点について検討を行う。これらの須恵器は、出土状況から火碎流によって移動したとは考えにくいため、複数の遺構から出土したのは人為的な行動の結果であると判断できる。なお、8・10・11号竪穴建物は重複関係にあるため、8・10号竪穴建物で接合関係にある环蓋(22)は混入の可能性も残る。

遺構間接合が認められた須恵器は、12点あり器種は环蓋・無蓋高环・高环蓋・龜・高环形器台とさまざままで、出土遺構は竪穴建物(1～4・8～11号)・祭祀遺構(1号)・畠(1・2号)・遺物集中(1～3号)のほか、遺構

外出土のものでも確認できる。また、遺構間接合が認められた須恵器はいずれも破片の状態であり、接合によって完形になるものは存在しないため、欠損部分の破片は調査区域外に存在していることは確実である。遺物の接合関係は、2基の遺構間での接合、3基以上の遺構間接合などが認められるが、先述のとおりいずれも完形になることがないため、今回の接合結果の遺構数以上と接合関係にあると考えられる。

無蓋高环(45)は25m程度離れた位置関係にある2・8号竪穴建物に加え、1号祭祀から出土した破片と接合が確認された。また、竪(24)は8号竪穴建物の床面と9・11号竪穴建物の覆土中から出土した破片が接合しているが、8号竪穴建物の床面での出土状況も4点の破片が散在した状況であった。この竪が破片の状態となったのは、意図的か否か判然としないが8号竪穴建物の廃絶時に床面に複数の破片を置き、また埋没途中であった窪地(9・11号竪穴建物)にも破片をまいたという行動が復元できる(註3)。

**高环形器台の遺構間接合** さらに、1号祭祀から出土した2個体の高环形器台は、それぞれ遺構間接合が認められる点でも注目される。このうち环部(44)は、脚部と环部の一部を欠損しているため出土地点を含めたどこかの場所で打ち割り、环部のうち一部の破片を1号祭祀・埋没途中の窪地(1・10号竪穴建物)・人為的な掘り込みが確認できない平場(遺構外)にまき、脚部を含むそれ以外の破片もこれまでの調査地点以外のどこかにまいたと想定することができる。

高环形器台の脚端部片(46)は、胎土の特徴から在地産Aの一群と考えられたため、念のため金井下新田遺跡5

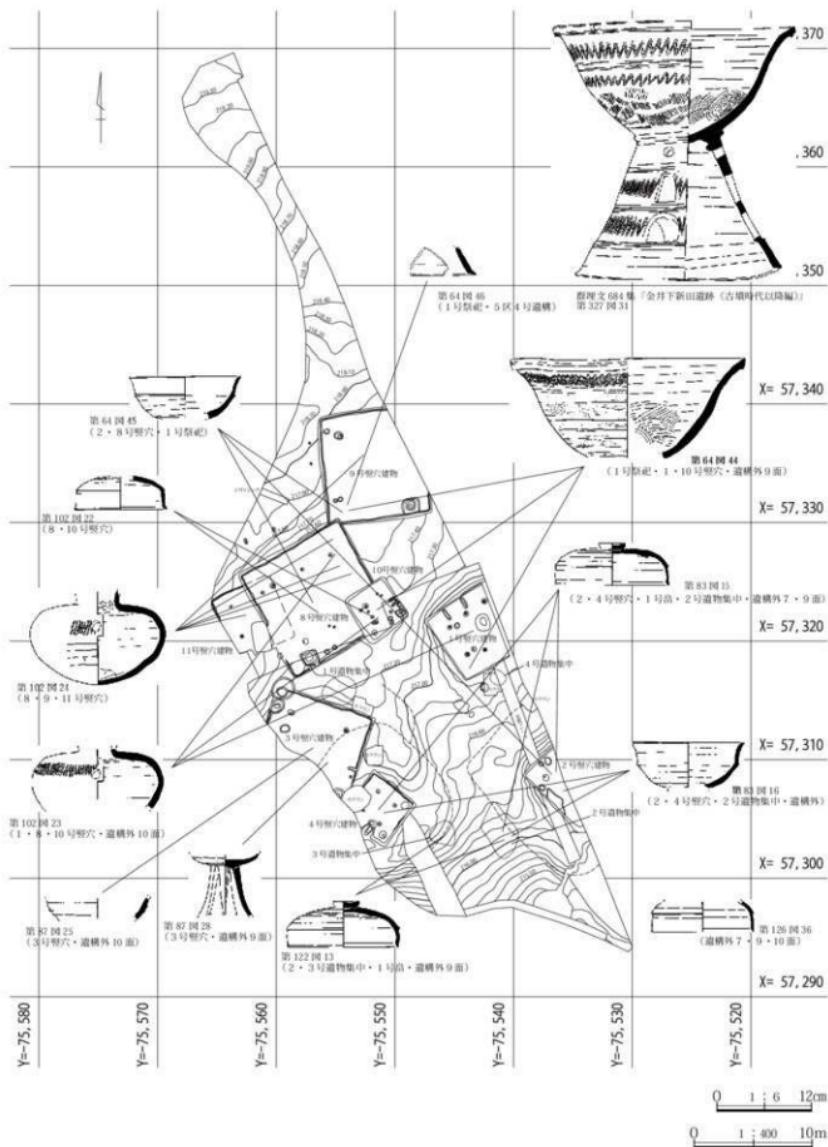
区4号遺構の高环形器台(第684集第327図31)と接合関係の確認をお願いしたところ、約25m離れている両遺構間で接合関係にあることが判明したため(註4)、この接合関係により両遺構の同時性が確認できる。5区4号遺構では、藤岡産と在地産Aという生産地の異なる高环形器台が2点出土しており、いずれも环部の見込み部を打ち割り脚部と分離させ(藤野2021)、意図的に环部を逆位にして置き脚部も土中に押し込むことで埋設していることが発掘調査で明らかとなった(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2021)。それに加え、上述したように7区1号祭祀出土の脚端部と接合関係にあるということは、5区4号遺構において脚部を埋設する前に脚端部を打ち割り一片を意図的に7区1号祭祀へまいとと考えられる。この事象は一例であるが、古墳時代の祭祀において土器を打ち割り窪地(埋没途中の遺構)などにまくということが祭祀における所作の一つとして復元できる。また、遺構間接合が認められたほかの須恵器についても、すべてとはいえないが数例はこのような祭祀に関連する事象であった可能性が大いに考えられるが、どのような根拠を示せば祭祀関連と指摘できるかは課題である。

遺構間接合は、接合した遺物の出土位置や層位から各遺構の細かな新旧関係を知ることができ、集落の景観を復元するための有効な材料となる。さらに、転用目的以外での意図的な破壊によって生じた土器の破片同士の遺構間接合は、集落内における須恵器のライフサイクルのプロセスを考えるうえで重要なが、複数の遺構から出土する現象についてどのように歴史的に復元するか、深く考える必要がある。

第4表 遺構間接合が確認された須恵器

遺物番号	器種	接合関係 (区名がない遺構はすべて7区)		備考
		1号祭祀・1号竪穴建物(覆土)・10号竪穴建物(覆土)・遺構外(第9面)	脚部欠損	
44	高环形器台	1号祭祀・5区4号遺構	1号祭祀出土は脚端部近	
46	高环形器台	1号祭祀・5区4号遺構	1号祭祀出土は脚端部近	
45	無蓋高环	8号竪穴建物(覆土)・2号竪穴建物(覆土)・1号祭祀	破片	
22	高环蓋	8号竪穴建物(覆土)・10号竪穴建物(覆土)	破片	
23	竪	8号竪穴建物(床面)・1号竪穴建物(覆土)・10号竪穴建物(覆土)・遺構外(第10面)	破片	
24	竪	8号竪穴建物(床面)・9号竪穴建物(覆土)・11号竪穴建物(覆土)	破片	
15	高环蓋	2号竪穴建物(周溝)・4号竪穴建物(周溝)・1号品・2号遺物集中・遺構外(第7・9面)	破片	
16	無蓋高环	2号竪穴建物(周溝)・4号竪穴建物・2号遺物集中・遺構外	破片	
25	無蓋高环	3号竪穴建物(覆土)・遺構外(第10面)	破片	
28	無蓋高环	3号竪穴建物(覆土)・遺構外(第9面)	破片	
13	高环蓋	2号遺物集中・3号遺物集中・1号品・遺構外(第9面)	破片	
36	环蓋	遺構外(第7・9・10面)	破片	

第1節 金井下新田遺跡7区出土の須恵器の様相



第172図 遺構間接合関係図(各遺構での出土地点は正確ではない)

おわりに

金井遺跡群出土須恵器について、本稿を含め3回にわたりて出土遺構や器種構成・編年の位置づけ・生産地など基礎的な検討を試みてきた。金井遺跡群では、ほかの集落と比較して須恵器の出土量が多い傾向にあり器種構成にも特徴を見出すことができる。しかし、金井東裏遺跡では3号祭祀遺構において複数器種かつ多量の須恵器が用いられている一方、金井下新田遺跡では廻い状遺構の周辺において高環形器台が3個体出土するなど、金井遺跡群内においても須恵器の使用のあり方が異なる点は注目され、祭祀の主体者や内容が異なっていたことを示していると考えられる。さらに、鉢环高环・脚付鉢・二重巻・胴部に屈曲をもつ短頸壺など、出土事例の少ない器種が出土し、弧状の透かしを穿つ高環形器台や今回言及した複数個体の須恵器で遺構間接合が認められる点も、金井遺跡群出土須恵器の特筆事項である。

#### 註

- (1)須恵器編年については、田辺編年(田辺1981)を用いるが、TK23型式とTK47型式については、それぞれを分けずに「TK23・47型式」として扱う。その理由については、藤野2019bにて述べた。
- (2)在地産Aとは、胎土が粗く白色砂粒を多く含む一群、藤岡産とは胎土中に結晶片岩と海綿骨針化石の内者を含む一群のことを指す。
- (3)これらの現象を表現する用語として、「置く」・「まく」などの用語を選択するのが適切か現状では結論が出せないが、祭祀行為の一環であれば「覆す」とは異なる用語での説明が必要となる。
- (4)接合の確認は、担当の鈴木氏にお願いした。ご多忙のなか対応していただき、深謝いたします。

#### 引用・参考文献

- 麻生俊一 1975 「原位置」論の現代的意義」物質文化24、物質文化研究会、1-14頁
- 五十嵐彰 2000 「接合」『用語解説 現代考古学の方法と理論II』同成社、164-175頁
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2019 「金井東裏遺跡」公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第652集
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2021 「金井下新田遺跡(古墳時代編)本文編」公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第684集
- 田辺昭三 1966 「陶邑古窯址群」平安学園研究論集第10号、平安学園考古学クラブ
- 田辺昭三 1981 「須恵器大成」角川書店
- 中村耕作 2019 「縄文土器と儀礼」季刊考古学第148号、雄山閣、44-48頁
- 中村浩一 1978 「和泉陶邑窯出土遺物の時期編年」『陶邑』Ⅲ大阪府文化財調査報告書第10輯、大阪府教育委員会、168-241頁
- 藤野一之 2019a 「須恵器からみた金井東裏遺跡」『金井東裏遺跡(古墳時代編)理学分析編・考察編』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第652集、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、433-436頁
- 藤野一之 2019b 「古墳時代の須恵器と地域社会」六一書房
- 藤野一之 2021 「金井下新田遺跡出土須恵器の基礎的考察」『金井下新田遺跡(古墳時代以降編)分析・論考編』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第688集、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団、467-480頁

#### 図表出典

- 第171図 下記文献より引用  
1～3：(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2021  
4～5：本書
- 第172図 本書より引用・一部修正  
第4表 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団より提供していただいたデータをもとに筆者作成

## 第2節 金井下新田遺跡7区の調査成果

### 1. 古墳時代集落の変遷について

7区の調査により古墳時代の遺構として、1～6号竪穴建物、8～15号竪穴建物、1号祭祀、1号墓および遺物集中等が確認された。それぞれの調査状況については第4章の報告によるが、ここでは古墳集落の時期について概観しておきたい。

金井下新田遺跡はすでに1～6区が調査され、「金井下新田遺跡 古墳時代以降編」<sup>(1)</sup>（以下、「報告書」）、「金井下新田遺跡 分析・論考編」<sup>(2)</sup>（以下、「分析・論考編」）が刊行されている。同書に古墳時代の集落変遷や年代的推移について考察されていることから、7区に関してもその成果を前提に整理しておきたい。

金井下新田遺跡の古墳集落は、4～6区で検出された囲い状遺構の造営から解体および榛名山噴火といふ経緯と密接に関連しながら推移することが確認されている。

さらに、金井東裏遺跡を含む金井遺跡群の変遷、金井扇状地の開発動向の中で理解する必要がある。これらのこととを前提に、ここでは7区の古墳集落の変遷について概観しておこう。

さて、古墳集落の概要であるがHr-FA被覆面の第8面から下層の黒色土中の第9・10面が対象となる。第8面では1号祭祀、1号墓、遺物集中、焼土が検出されている。1号祭祀は、5区4号遺構出土の高杯形器台との接合資料が確認されたことから、一連の祭祀行為により形成されたものと考えられる。5区4号遺構が祭祀行為の最終的な状況を示すと考えられることから、その直前に高杯形器台の一部破砕が行われ、1号祭祀に破片が含まれる結果となったことになる。しかし、破碎行為が行われた場についてはさらに検討する必要がある。

1号墓は寄歛タイプの墓であり、歛形態が撹乱されていないことから、火山灰降下時点では植栽中であったと考えられる。

第9・10面は黒色土層に遺存する竪穴建物が順次確認され、調査されたもので、その確認経過により遺構面としている。そのため、確認面と竪穴建物の関係は相対的なものとなり、層位の確認によるものではないことも前提としておく必要がある。

それでは、「分析・論考編」「囲い状遺構造営直前の古

墳時代集落」（P236-P251）の段階設定を確認しよう。

古墳集落の段階設定として、①土師器、②須恵器、③榛名山噴火による火山噴出物堆積層、④重複の4指標により分析を行い、1段階から5段階を設定している。各段階の内容は次のとおりである。

1段階 5世紀中葉、金井遺跡群の集落形成期。

2段階 5世紀第3四半期前半、竈導入、TK23・47型式伴出。

3段階 5世紀第3四半期後半、この段階は土器の相違は顯著ではないものの、竪穴内の火山噴出堆積状態の差により3～1段階、3～2段階に分類している。TK23・47型式伴出、3～1段階には鍛冶炉をもつ建物。囲い状遺構造営準備段階。

4段階 5世紀第4四半期、MT15型式伴出、囲い状遺構造営。

5段階 囲い状遺構解体期、祭祀遺構群形成。

6段階 榛名山噴火、S<sub>1</sub>・S<sub>2</sub>堆積後、人・馬の移動。

S<sub>2</sub>により、古墳人被災、建物倒壊。このような段階で推移することが推定されている。金井下新田遺跡の古墳集落は、5世紀中葉以降を中心に形成され、囲い状遺構造営から解体といふ動向に沿って繰り起したことになる。

7区の集落もこの経過に沿って推移しているものと考えられるが、調査範囲が狭く、完掘された竪穴建物がないことから主として出土土器を対象として位置づけることにしたい。

なお、①土師器の觀察指標は、下記の項目による。

- ・口縁部から緩やかに屈曲する杯a

- ・口縁部が内湾する杯b

- ・口縁部が内傾する杯c

- ・口縁部が内斜する杯d

- ・須恵器蓋模倣杯e

- ・有稜高杯f

- ・低脚高杯g

- ・甕h

②須恵器は、TK208型式からMT15型式が出土し、中心はTK23・47型式であり、7区の傾向も同様である。その詳細は第5章第1節の藤野一之氏の論考に拠るが、ここでは年代的関係の確認を主としておきたい。

なお、竈形態も時期指標として重要であるが、部分確

認のため不明な点が多い。

7区の古墳時代集落の段階的変遷は、概ね下記のとおりである。

1段階(第175図) 5・6・12号竪穴建物が該当する。5・6号竪穴建物は重複関係にあり、継続的な竪穴形成が行われたと推定されるが、5号竪穴建物は遺構形態に不規則な部分もあり、居住施設ではない可能性も考えられる。

2段階(第176図) 9・14・15号竪穴建物が該当する。

杯aが主体的で、有稜高杯fが伴出し、小型鉢も出土が目立つ。検出状況からみると、9号竪穴建物が15号竪穴建物より時間的に新規の可能性がある。

3-1段階(第177図) 8・11・13号竪穴建物が該当する。8・11号竪穴建物は重複することから、時間差をもつが、継続的な経過の中で推移したことになる。竪穴規模がそれぞれ異なることから、機能差を背景に継起の必要が生じた結果によるものかも知れない。

3-2段階(第178図) 1・2・3・4・10号竪穴建物が該当する。3・4号竪穴建物は近接することから時間差があることになる。建物は7区南側に偏在する傾向があり、いずれもHr-FA降下時点では竪穴埋没域が凹地として残存している。2号竪穴建物埋没後の凹地域には畠が形成される。

4段階(第179図) 4段階は囲い状遺構運営期に推定される。これまでの調査でも周囲には竪穴建物の存在は確認できないが、7区も集落は形成されず、無住域であったことになる。囲い状遺構運営に伴う空閑地確保の動向に沿うものと理解できる。

5段階(第180図) 1号祭祀、1号畠が相当する。1号祭祀は、前記のように5区4号遺構出土器高杯形器台との接合関係が確認されたことから、関連遺構である可能性が高い。一連の祭祀行為に伴い形成されたものと考えられるが、具体的な機能は不明である。さらに検討することで、祭祀行動について有効な情報が得られるものといえる。

1号畠は次項「(3)7区1号畠」で検討するが、金井遺跡群で特徴的に検出される畠形態である。耕作土の分析によっても有効な情報が得られていないがサトイモ栽培の可能性を指摘し、この形態の畠を「寄畠」と呼称した。畠形状が保たれた状態でSに被覆されることから、植栽中であるものと考えられる。すなわち、囲い状遺構解体および祭祀遺構群の形成という時間経過と隔たることなく耕作が継続していた可能性が高い。

6段階 S面に人足跡、馬蹄跡が確認された。金井遺跡群を特徴づける火山災害時の生物痕跡である。基本的に、西から東方向への移動痕跡として確認されることから、避難行動によるものと考えられる。人足跡は、裸足跡も多く確認されているが、7区では履物による足跡が注目されている。草鞋等ではなく、足裏形状に沿って覆うような履物が使用されていると観察されるが、具体的な形態は特定できていない。馬蹄跡はやや蛇行しながら東へ移動し5区へ連続することが確認された。人足跡が伴わないことから馬のみ、もしくは騎乗による移動が考えられるが、特定できる情報は得られていない。

人足跡、馬蹄跡とも、これまでの確認例と同様に歩行状態を示し、走行行動や転倒および足跡以外の部分の痕跡は確認されていない。

以上の経過により古墳集落が形成されたものとなる。金井下新田遺跡南西端部に位置する7区では、このような集落変遷により形成されているが、この経過はこれまでの金井下新田遺跡の動向と一連の動向であり、当然のことながら連続した集落形成が反映した結果であるといえる。

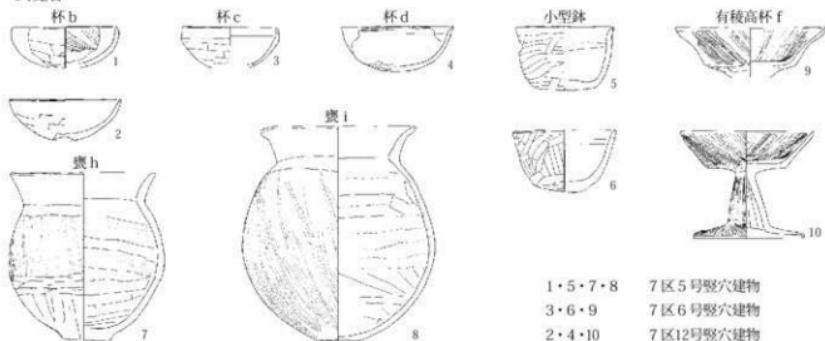
金井下新田遺跡は5世紀中葉に集落が形成され、5世紀第3四半期後半まで継続しながら、囲い状遺構運営の竪穴建物は廃絶され造営地が確保される。そして、5世紀第4四半期の中で造営され、10年から20年前後の期間を経て、Hr-FA降下前には解体が行われることになる。

さらに周囲には祭祀遺構群が形成されるが、このことも囲い状遺構解体に関連して行われたと考えることが妥当だろう。(飯田陽一・原雅信)

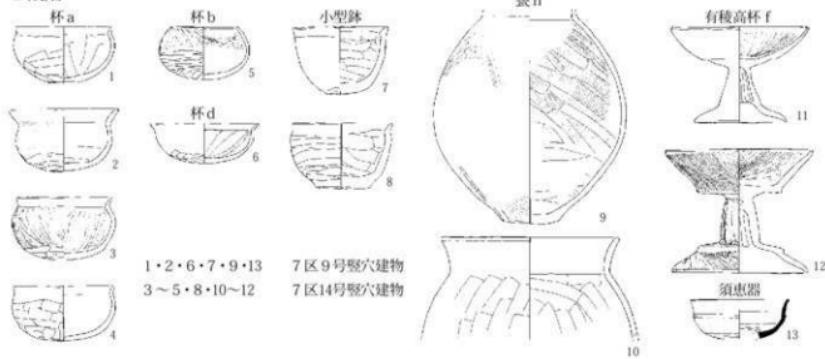
(1)『金井下新田遺跡 古墳時代以降編』2021 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第684集

(2)『金井下新田遺跡 古墳時代以降編 分析・論考編』2021 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第689集

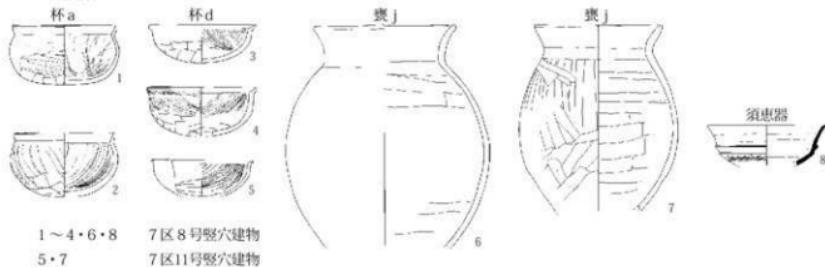
## 1段階



## 2段階



## 3-1段階

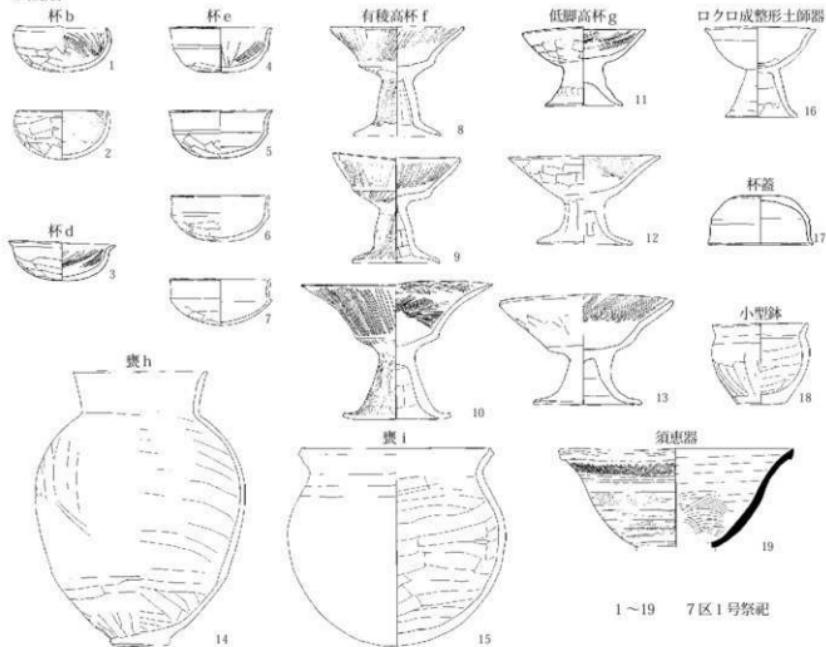


第173図 1・2・3-1段階の土器

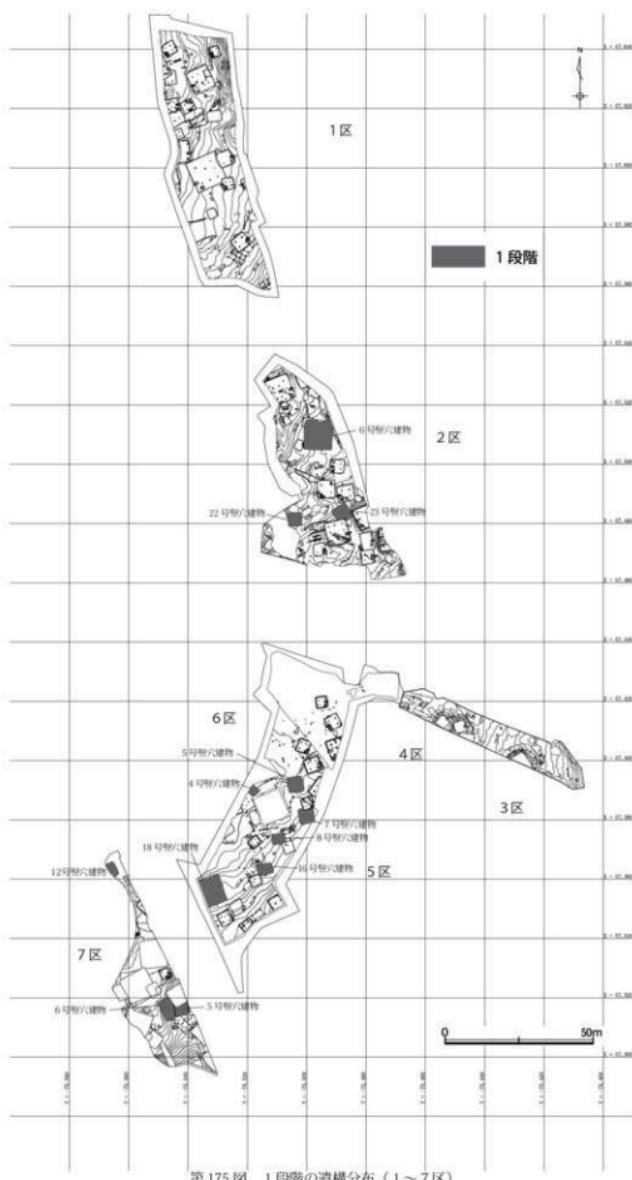
3-2段階

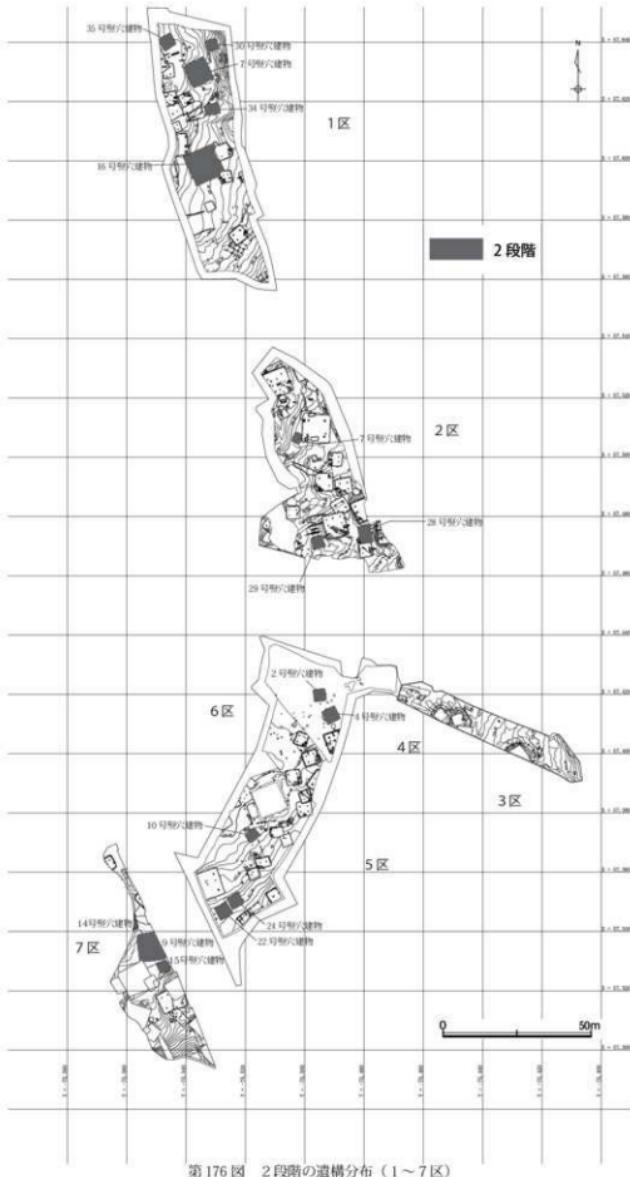


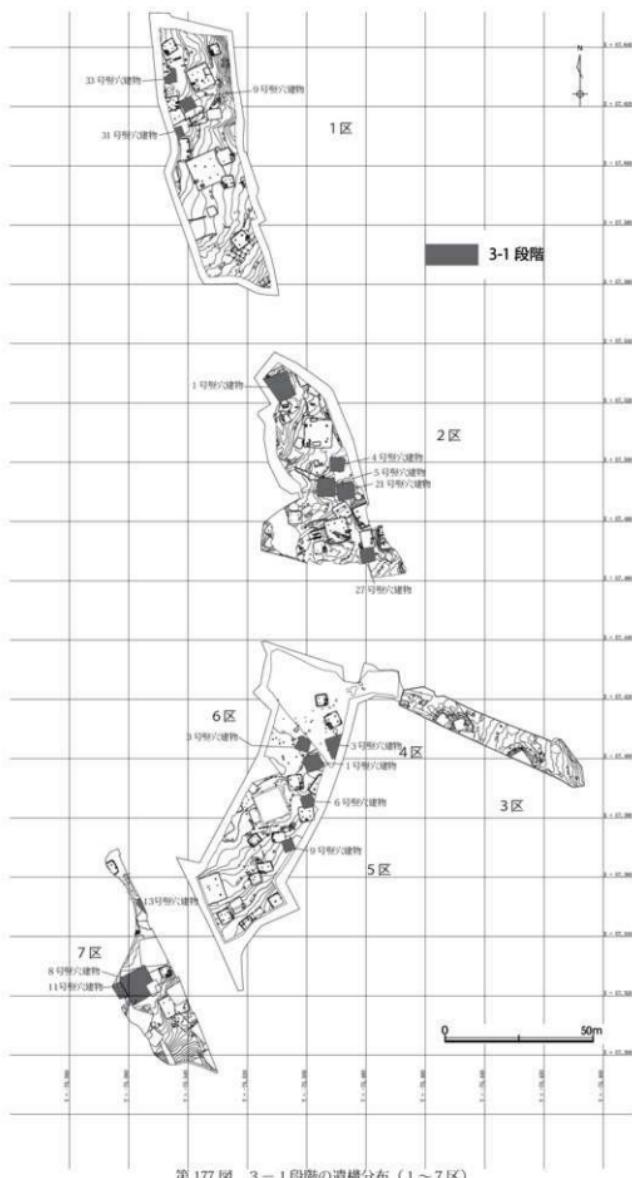
5段階



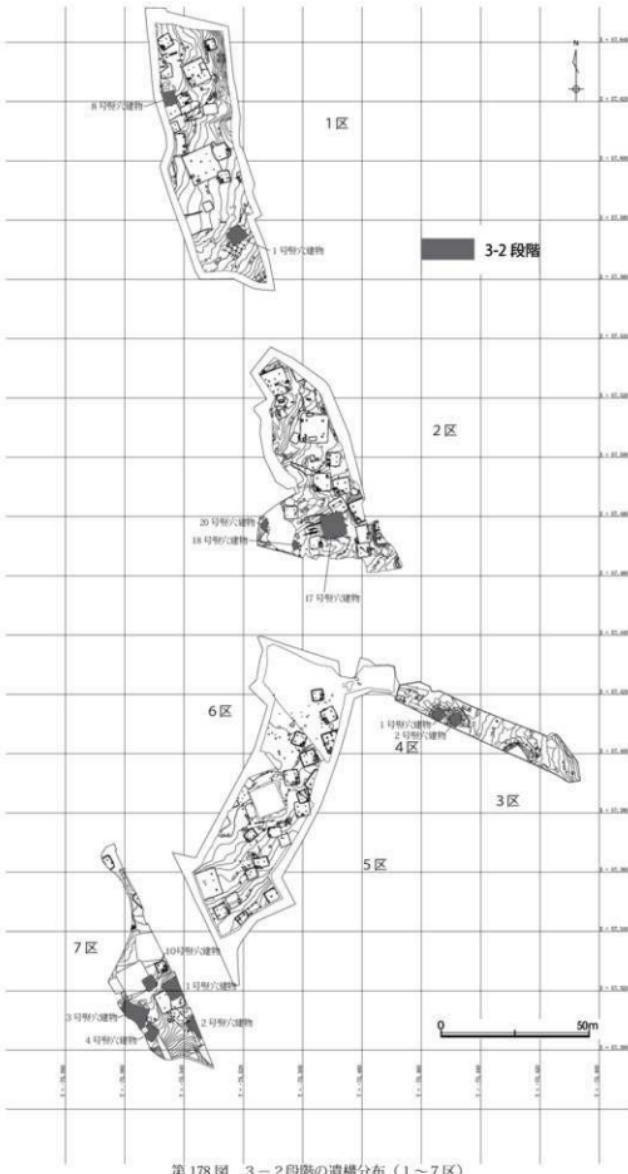
第174図 3-2・5段階の土器

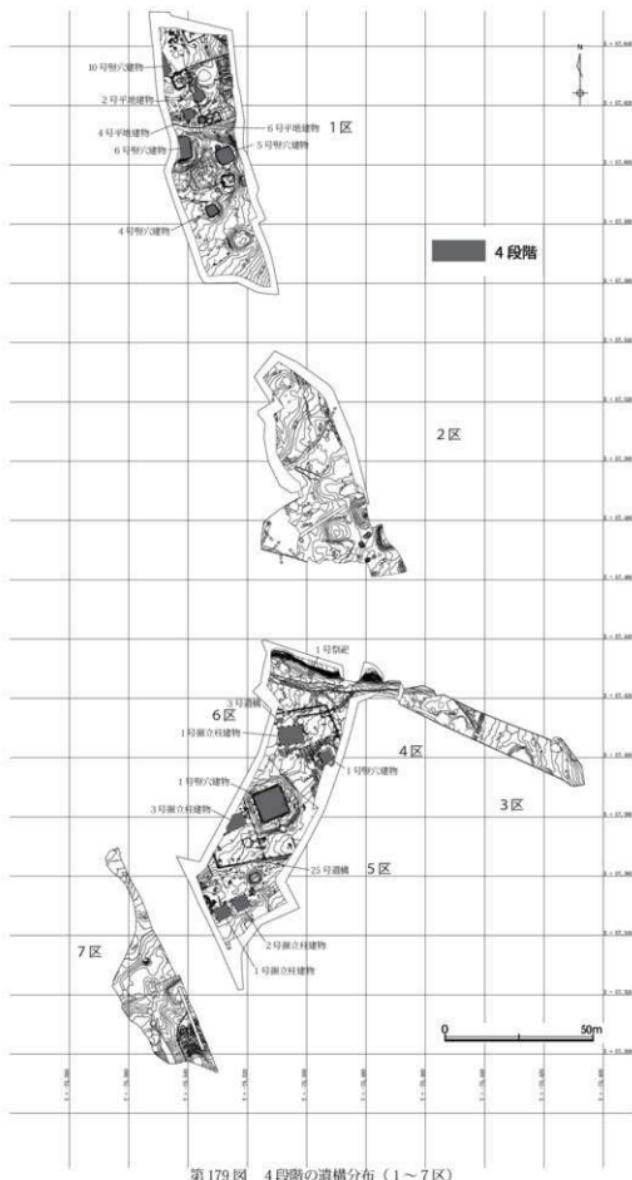


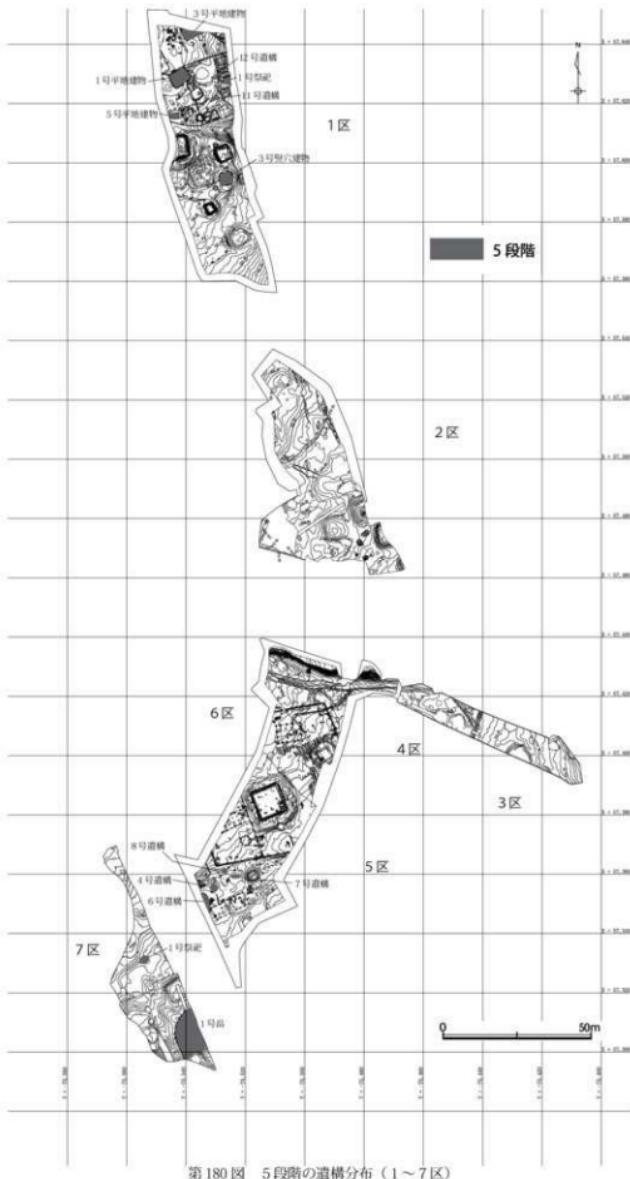




第177図 3-1段階の造構分布（1～7区）







## 2. 第8面(Hr-FA埋没面)の遺構について

第8面はHr-FA直下で6世紀初頭の古墳時代旧地表面になり、金井遺跡群では重要な遺構面である。東接する5区では匂い状遺構および祭祀遺構群の検出により注目されるが、7区も同一遺構面が連続していることから重要な遺構面となっている。

7区第8面で確認された遺構は1号祭祀、1号窟、遺物集中、焼土等が検出されているが、匂い状遺構に関連するとみられる遺構は確認されていない。

また、埋没竪穴建物が凹地として痕跡が確認できることから、匂い状遺構群による整地も行われていないことがわかる。加えて、恒常的な往来により形成される通路の存在も検出されていない。

7区南西側には、和尚沢から流下する水路が存在することから、第8面でも扇状地南西部を画する沢が認められる可能性を想定した。

和尚沢は古墳時代に遡る水源の可能性があり、金井下新田遺跡の理解には重要な意味を有する存在である。和尚沢湧出地点である吾妻山山麓には金井古墳(7世紀後半)が存在するが、造営の背景にはこの水源の存在が関わるものと推定している。すなわち、この地域の古墳遺跡を考えるには必要な景観情報となるものである。さらに沢沿いには和尚坂と呼ばれる山道もあるが、この道自体も古墳時代に遡る可能性を想定している。

このような課題を前提に調査内容を検討したが、第9面で南西側に竪穴建物が延長することが確認されたため、和尚沢はさらに南西側に位置することになるだろう。

今回の調査では、和尚沢について有効な情報は得られないが、周辺調査に際しては和尚坂を含め注視しておく必要がある。

ここでは、5号遺物集中、1号祭祀、1号窟について調査成果から考えられる金井遺跡群における関連性をみることにしよう。

### (1) 5号遺物集中について(第181図)

遺物集中とした遺構は、祭祀遺構とする遺物集積に比し、遺物量が少なく、祭祀遺物である白玉、石製模造品等が含まれないことから祭祀遺構とは判断できないことから呼称したものである。量が少ないとはいえ、土器類

が集中することは、人間行動が介在していると考えるべきである。

5号遺物集中はS<sub>1</sub>による倒木痕と重複する位置にあることから、立木の存在が前提で形成された可能性が想定できる。つまり、立木の根元に土器が集積されS<sub>1</sub>に被覆された後、S<sub>1</sub>により倒木したということになる。

金井遺跡群では倒木痕の調査例は極めて珍しい。立木がほとんど存在しないことを意味していることになるが、集落域であることから伐採されているという事情かも知れない。このことを前提にすれば、7区で検出された倒木は偶然この地点に立木があった、ということではなく有意な存在である可能性が生じてくる。そして、周囲に遺物(土器)集中が形成されるということから、祭祀行為により形成されたという推定が可能である。

古墳時代の祭祀形態について評価することは難しいが、立木と土器による祭祀行為の可能性を指摘することで、今後の事例検討に向けた一例として報告しておきたい。(原雅信)

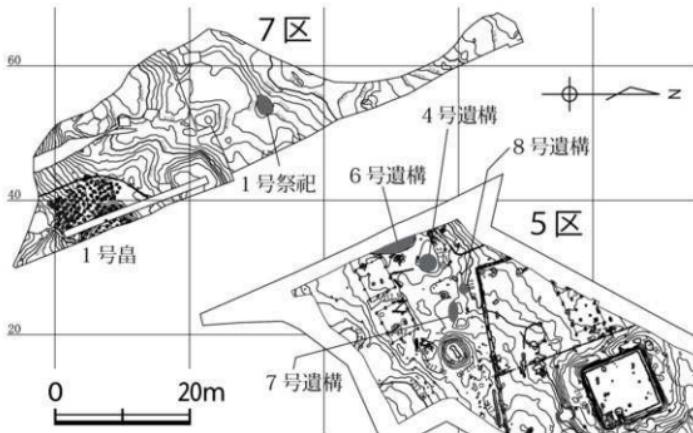


第181図 7区第8面5号遺物集中(南西から)

### (2) 7区1号祭祀について(第182図)

1号祭祀は少なくとも匂い状遺構解体時には形成されていたものと考えられるが、5区で検出された匂い状遺構周辺の祭祀遺構群とは、含まれる土器、石製模造品、鉄器類等の量・種類に相違がある。1号祭祀はこれらの祭祀遺構群に比し、大型疊が伴う点および土器破片が多く集積される点が異なる。一方で、土器類が集積されるという特長は共通することから、祭祀関連遺構としてみることができる。

なお、資料整理に伴い藤野一之氏により7区1号祭祀



1. 7区1号祭祀・5区4号遺構の位置



2. 7区1号祭祀の調査状況



3. 7区1号祭祀の出土状況



4. 5区4号遺構の調査状況



5. 5区4号遺構高杯形器台の出土状況

(脚部端欠損部に7区1号祭祀出土破片が接合)

第182図 7区1号祭祀・5区4号遺構

出土須恵器片と5区4号遺構出土の高杯形器台との接合関係が確認された(第182図)。

この遺構はHt-F1に被覆され、同一遺構面で形成されることから関連性はあるとの認識はあったが、具体的に示す調査所見は得られていなかった。しかし、遺構間での土器の接合関係が確認されたことで、直接的な関係をもつことが具体的に示された。

5区4号遺構では高杯形器台が2個体出土し、象徴的な土器でもある。1個体は完形であったが、もう一方の高杯形器台の脚部端辺が7区1号祭祀から出土したこと、両遺構が時間的な関連性を超えて、一連の遺構として祭祀行為の動向に関わる可能性が示されたといえる。

5区4号遺構と7区1号祭祀は、直線距離で37m程度の距離を有している。その間にやはり祭祀遺構である5区6号遺構が位置している。この祭祀遺構群もしくは祭祀遺構エリアに7区1号祭祀も含まれるということになる。

5区4号遺構の周囲には祭祀遺構(5区6・7・8号遺構)が集中すると共に、解体された1・2号掘立柱建物域でも祭祀遺構が形成されている。ここで確認された祭祀遺構は、主要な祭祀が終了した後に使用した祭具を集積した場として形成されたものである。主要な祭祀の場については特定できていないが、囲い状遺構解体に伴い執り行わた可能性を推定している。この時点では、個々の遺構で完結したものと考えていたが、7区1号祭祀出土土器との接合関係が確認されたことで、複数の遺構間での関係性をあらためて認識する必要性を感じた。

まず、5区4号遺構での高杯形器台の出土状況を確認しておこう。

高杯形器台は脚部を土中に押し込まれた後に器受部が取り外され、脇に置かれている。この状態は2個体とも同様である。脚部には押し込まれる際の土圧により透孔間に縦位に亀裂が生じている。

接合関係が確認された高杯形器台は、欠損する端部から透孔にかけて亀裂が生じ、破損した状態で出土した。負荷に対してより脆弱な部分が断裂したことになる。すなわち、5区4号遺構に埋置される時点で脚部端が欠損していたことになり、その破片が7区1号祭祀から出土したことになる。

5区祭祀遺構群では、集積時に破碎することが土器に

限らず、石製模造品や子持勾玉でも確認されている。祭祀終了後に、意図的に破碎することが集積行為時点に行われていることは確実である。このことから考えれば、高杯形器台脚部の欠損も集積前の破碎行為に関連した可能性が高い。これまでの調査例では、破碎断片は近接した位置に出土する場合が多かった。脚部端片は37m前後南西に離れた7区1号祭祀である点が相違する。

さらに両遺構とも祭祀行為の最終段階である祭具の集積状態を示すことからも、両遺構の性格を評価づらい。

7区1号祭祀は、大型礫がやや不規則に並置され、土器類を集積するが、破片が目立ち山積状態を示し、石製模造品もほとんど伴わない。完形土器が大半を占め、石製模造品も多く鉄器も含まれる5区4号遺構とは対照的な出土状況となっている。接合関係が確認される前は祭祀遺構であるものの、性格が異なるものと考えていた。両遺構の関連性をどのように考えるのかについては、現状では結論できない。主要な祭祀行為が終了し、最終的に祭具を集積するまでの経過とその行動については、5区の祭祀遺構群および囲い状遺構の動向を含めて再検討する必要がある。また、他にも遺構間での接合資料も確認されることから、併せて理解することが必要である。

今回は、金井遺跡群理解の一つの課題として提議することで報告をしておきたい。

なお、詳細は第5章第1節の藤野一之氏の論考を参照していただきたい。(原雅信)

### (3) 7区1号畠について(第183～185図)

#### ～寄畠畠の提唱～

7区1号畠は金井遺跡群で特徴的に確認される特異な畠形態の畠で、今回「寄畠」と名称した生産遺構である。

これまでに金井東裏遺跡9区、金井下新田遺跡1区で確認され「方形畠の畠」と報告されている。そして、耕作域が埋没窪穴建物の凹地域であることも共通する特徴として指摘されている。畠(畠)形態および耕作域も共通することから、同様の耕作物を栽培することが推定できる。また、これらの調査事例では、短冊状の畠立てによる畠も検出されていることから、同時期に両形態の畠が耕作されていたことになる。同時期における畠形態の相違は耕作物の相違が反映している可能性が高いだろう。

短冊状の畠は規模の相違はあるものの、畠が連続的に

平行する形態で、畠としては一般的なものといえる。

しかし、「方形畝の畠」は類例が極めて乏しいことから特異な存在といえる。のことから、地域的に限定された畠とみることも可能であるが、特徴的な畝立てや凹地を耕作域に選地するということから考えれば、他地域の古墳集落にも存在する可能性を否定はできない。特定作物の栽培を目的にした畠形態であるという推定が可能なら、地域的に限定する理由はないだろう。

ここでは、7区1号畠の特異な形態の畠について、参考例を提示して「寄畠畠」として分類することを提案し、今後の調査に資することにしたい。

円錐状の盛土が連続するような特徴的な畝立てをもつ畠は、いずれも埋没竪穴建物の凹地部に形成されることが選地上の特徴となっている。のことから、湿地を好む作物の可能性が推定されてはいるが、耕作土壤分析によても有効な作物情報は得られていない。

金井東裏遺跡報告書では「温氣対策を講じる必要がある。そのための方形畝」という形をとったものと想定している。参考となるのは、現代のスイカ栽培で、乾燥を好むために、個々のスイカに方形の畝を作成している。作物の種類や特性を考慮した畝であることは間違いないものと考える。」(P312-P313)との見方を示している。

おそらく、この形態の畠は畝立て、選地とも作物に適した形態をとったものと考えられ、湿気を好む作物種がふさわしい畠と考えられる。しかし、推定は可能であつたが有効な手がかりを得るには至らなかった。そのような中、2019年2月に金井下新田遺跡7区において1号畠が確認された。やはり、埋没竪穴建物の凹地を耕作域に選地し、さらに囲いを伴うものであった。他区の調査例と同様に個々の畝は攢乱された痕跡がないことから、S:堆積時には植栽中であったことになる。

検出例は少ないが、金井遺跡群では広範囲に認められる畠であることがわかってきた。7区では1号祭祀が北側に位置するが、同期の竪穴建物は検出されていないことから、集落に付随するものではない。東接する5区には囲い状遺構や祭祀遺構群が集中する遺構面に連続し、囲い状遺構に関わる構成景観の一部をこの畠が形成していたことになる。

その後、2019年11月に伊勢崎市北千木町に所在する里芋畠の耕作状況を実見することになる。そこで7区1号

畠と類似する畝立ての畠に遭遇したのである。

集落の合間に畠地が点在する地域であるが、その一角で発見した(第184図)。盛土状の単独の畝により形成された里芋畠で、金井遺跡群の調査事例に合致する畝形態が認められた。

同畠の耕作者によると、先代から伝えられている耕作方法とのことで詳細な情報は得られていない。耕作法は種芋を植栽し、親芋、子芋が増殖した際、露出による日照障害を防ぎ、生育促進のために植付け毎に土寄せすることで、単独の土盛り状の畝が形成されることになる。形状は「方形畝の畠」に酷似する。形態上の類似は、耕作方法に関する可能性が高い。周囲には短冊状の平行する畝による畠が広がり、盛土状の単独畝はこの地点のみであった。特異な畝形状は偶然の一一致ではなく、系統的な関連があるのでないか、との印象を強く感じた。

このような耕作方法による畝形成を前提にすれば、「寄畠畠」として理解することがふさわしいと考え、先行事例である「方形畝」名称は使用していない。

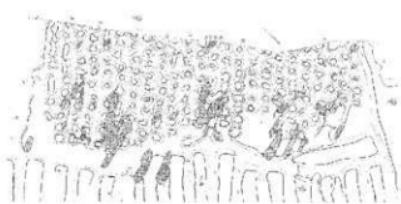
現在の耕作事例と直接比較することで解決するものではないが、有効な情報として報告するものである。

さて、里芋は湿地起源とされかつては水田で栽培される田芋と呼ばれる品種も存在した。現在は、南西諸島に伝統的に残る栽培種であるが、湿润な環境に適した作物の栽培法といえる。また、新しい方法として湛水栽培の有効性が指摘され、実施例もみることができる。

里芋が湿润環境に適した作物であることを前提にすれば、金井遺跡群の寄畠畠が埋没竪穴建物の凹地を選択することにも整合性があるといえる。植付け毎に畝立てし、子芋の生育に沿って土寄せする耕作方法および湿润地に適した栽培種である里芋、という点から寄畠畠も里芋栽培の可能性が高い。なお、Hr-F降下季節はこれまでの分析により初夏と考えられている。検出された寄畠畠は畝形態が形状を保っていることから、植栽状態で被災したものとみられる。里芋は収穫期が秋期であることから、火山噴火との時間的関係にも齟齬がない。

現在の里芋畠の類似例からの推定であるが、金井遺跡群の寄畠畠は、里芋栽培を目的にしたと理解しておこう。

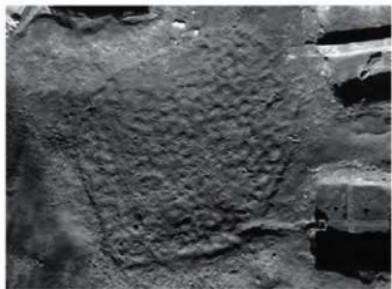
今後、調査事例の集積、寄畠畠の系統、里芋の栽培作物としての役割等の課題を指摘することで、今回の提案および報告をしておきたい。(原雅信)



1. 金井東裏遺跡9区11号窟平面図



2. 金井東裏遺跡9区11号窟(東から)



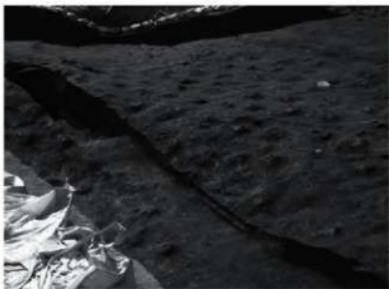
3. 金井下新田遺跡1区5号窟(上空から)



4. 金井下新田遺跡1区5号窟(北東から)



5. 金井下新田遺跡7区1号窟(北西上空から)



6. 金井下新田遺跡7区1号窟(北東から)

第183図 寄藏窟の検出状況



7. 現在の里芋畠(伊勢崎市北千木町) 2019年11月撮影 盛土状の寄せにより形成される里芋畠。畠間隔は20 ~ 30cm程度。



8. 現在の里芋畠(伊勢崎市北千木町) 2019年11月撮影 寄せは列状に並ぶ。畠高は15 ~ 20cm程度。

第184図 里芋畠(伊勢崎市北千木町)



9. 金井下新田遺跡7区1号畠。(北西から)

5:被覆状況と寄歟の状態



10. 金井下新田遺跡7区1号畠。寄歟の断面状態。

火山噴出物が歟内に流入する。作物痕跡を示すものとみられる。



11. 金井下新田遺跡7区1号畠。寄歟の断面状態。

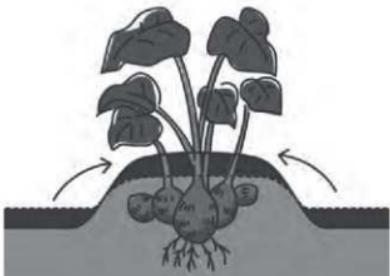
火山噴出物が歟内に流入する。作物痕跡を示すものとみられる。



12. 現在の里芋畠の歟状況。(伊勢崎市北千木町) 2019年11月撮影



13. 現在の里芋畠の歟状況。(伊勢崎市北千木町) 2019年11月撮影



14. 寄歟の歟立て法

造構一覧表

第5表 造構一覧表

## 1. 穴穴建物

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	主軸方位	長軸 m	短軸 m	最大壁高 m	床面積 m <sup>2</sup>	時期	重複
				X座標	Y座標								
7	9	1	整穴建物	57316 ~ 57325	-75540 ~ -75548	長方形	N-54° - E	-	6.35	0.70	-	3-2段階	
7	9	2	整穴建物	57303 ~ 57312	-75533 ~ -75540	-	-	西壁長(7.00)	-	0.65	-	3-2段階	
7	9	3	整穴建物	57307 ~ 57317	-75551 ~ -75561	-	N-18° - E	北壁長6.60	-	0.60	-	3-2段階	
7	9	4	整穴建物	57302 ~ 57310	-75548 ~ -75554	正方形	N-38° - E	4.60	4.60	0.65	(17.76)	3-2段階	
7	10	5	整穴建物	57313 ~ 57319	-75539 ~ -75545	-	-	西壁長4.85	-	0.20	-	1段階	6号整穴 1号獨立
7	10	6	整穴建物	57312 ~ 57321	-75544 ~ -75556	方形	N-63° - E	西壁長7.00	-	0.40	-	1段階	5号整穴 1号獨立
7	11	7	整穴建物	57300 ~ 57305	-75540 ~ -75545	椭圓形	N-45° - W	全長4.30 ×3.30	柄部1.20 ×3.30	10.46	礎文		
7	9	8	整穴建物	57316 ~ 57331	-75551 ~ -75564	方形	N-62° - E	西壁長9.90	-	0.60	(71.82)	3-1段階	9 ~ 11号穴
7	9	9	整穴建物	57329 ~ 57340	-75546 ~ -75557	方形	-	西壁長9.00	-	1.00	-	2段階	8号整穴
7	9	10	整穴建物	57319 ~ 57326	-75548 ~ -75555	圓角方形	N-55° - E	北西3.95 南東3.60	東北3.60	0.95	17.28	3-2段階	8号整穴
7	9	11	整穴建物	57318 ~ 57326	-75558 ~ -75566	方形	-	-	-	0.65	-	3-1段階	8号整穴
7	10	12	整穴建物	57360 ~ 57366	-75563 ~ -75568	(圓角方形)	-	-	-	0.70	-	1段階	
7	10	13	整穴建物	57347 ~ 57354	-75553 ~ -75558	-	-	-	-	0.50	-	3-1段階	
7	10	14	整穴建物	57340 ~ 57347	-75556 ~ -75558	-	-	-	-	0.60	-	2段階	
7	10	15	整穴建物	57326 ~ 57331	-75545 ~ -75551	圓角方形	N-70° - E	3.80	3.75	0.25	13.33	2段階	

## 2. 振立柱建物

区	面	造構番号	造構名称	位置		柱間桁行	間 × 梁行	間	主軸方位	桁行 m	梁行 m
				X座標	Y座標						
7	10	1	振立柱建物	57307 ~ 57315	-75538 ~ -75546	桁行4間	×梁行2間		N-45° - W	6.50 ~ 6.56	3.07 ~ 3.20
9	1	1	振立柱建物	57377 ~ 57385	-75565 ~ -75570	桁行3間	×梁行2間		N-20° - W	5.80	2.20

## 3. 振立柱建物柱穴

区	面	造構番号	造構名称	平面形		主軸方位	長軸 m	短軸 m	深さ m
				X座標	Y座標				
7	10	2	ビット	円形	-	-	0.33	0.33	0.70
7	10	3	ビット	梢円形	N-38° - W	0.42	-	0.35	0.75
7	10	4	ビット	円形	-	-	0.31	0.30	0.79
7	10	5	ビット	円形	-	-	0.41	0.40	0.83
7	10	6	ビット	円形	N-45° - W	0.37	-	0.33	0.68
7	10	7	ビット	円形	N-38° - W	0.37	-	0.34	0.58
7	10	8	ビット	円形	-	-	0.35	0.35	0.81
7	10	9	ビット	梢円形	N-6° - W	0.32	-	0.28	0.17
7	10	10	ビット	円形	-	-	0.37	0.36	0.12
7	10	11	ビット	円形	N-51° - E	0.26	-	0.24	0.10
7	10	14	ビット	梢円形	N-76° - W	0.24	-	0.21	0.04
7	10	27	ビット	梢円形	N-2° - W	0.42	-	0.34	0.54
9	1	1	土坑	b類梢円形土坑	N-71° - E	0.50	-	0.40	0.34
9	1	2	土坑	b類梢円形土坑	N-87° - E	0.60	-	0.50	0.36
9	1	9	土坑	a類梢円形土坑	N-6° - W	0.60	-	0.55	0.49
9	1	13	土坑	b類梢円形土坑	N-81° - E	0.60	-	0.40	0.30
9	1	14	土坑	a類梢円形土坑	N-34° - W	0.50	-	0.45	0.45
9	1	15	土坑	b類梢円形土坑	N-82° - W	0.50	-	0.40	0.35
9	1	18	土坑	a類梢円形土坑	N-30° - W	0.45	-	0.40	0.23

## 4. 平地建物

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	主軸方位	長軸 m	短軸 m	最大壁厚 m	床面積 m <sup>2</sup>
				X座標	Y座標						
7	10	1	平地建物	57294 ~ 57303	-75530 ~ -75536	-	-	西邊確認長7.54	-	-	-

## 5. 土坑

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	主軸方位	長軸 m	短軸 m	深さ m
				X座標	Y座標					
7	1	1	土坑	57310 ~ 57312	-75554 ~ -75556	b類梢円形土坑	N-31° - W	1.40	1.15	0.57
7	1	2	土坑	57311 ~ 57314	-75554 ~ -75557	b類梢円形土坑	N-36° - W	2.05	1.70	0.08
7	1	3	土坑	57312 ~ 57315	-75555 ~ -75557	b類梢円形土坑	N-36° - W	(1.30)	0.95	0.06
7	1	4	土坑	57299 ~ 57303	-75546 ~ -75548	a類円形土坑	-	1.10	1.10	0.66
7	1	5	土坑	57298 ~ 57300	-75543 ~ -75546	d類溝狀土坑	N-63° - E	2.13	0.57	0.20
7	1	6	土坑	57299 ~ 57300	-75532 ~ -75535	b類梢円形土坑	N-78° - E	1.30	0.85	0.13
7	1	7	土坑	57299 ~ 57301	-75532 ~ -75534	b類梢円形土坑	N-78° - E	1.45	0.95	0.48
7	1	8	土坑	57298 ~ 57299	-75546 ~ -75547	a類円形土坑	N-40° - W	0.85	0.75	0.20
7	1	9	土坑	57295 ~ 57297	-75530 ~ -75532	a類円形土坑	N-9° - W	1.30	1.20	0.51
7	1	10	土坑	57294 ~ 57296	-75529 ~ -75531	a類円形土坑	N-82° - W	1.30	1.25	0.26

遺構一覧表

区	面	遺構番号	遺構名称	位置		平面形	主軸方位	長軸m	短軸m	深さm	
				X座標	Y座標						
7	1	11	土坑	57302 ~ 57304	-75530 ~ -75531	a 頸円形土坑	N-69° ~ E	(0.85)	0.75	0.33	
7	1	12	土坑	57300 ~ 57303	-75529 ~ -75531	b 頸楕円形土坑	—	1.35	—	0.62	
7	1	13	土坑	57298 ~ 57300	-75542 ~ -75544	b 頸楕円形土坑	N-76° ~ E	0.80	0.60	0.32	
7	1	14	土坑	57291 ~ 57293	-75530 ~ -75531	c 長円形土坑	—	(0.80)	0.50	0.29	
7	1	15	土坑	57291	-75293	-75528 ~ -75531	a 頸円形土坑	N-2° ~ E	(1.40)	1.30	0.70
7	1	16	土坑	57298	-75291	-75539 ~ -75541	b 頸楕円形土坑	N-79° ~ E	1.00	0.80	0.50
7	1	17	土坑	57299	-57301	-75536 ~ -75538	b 頸楕円形土坑	N-61° ~ E	0.90	0.70	0.27
7	1	18	土坑	57300 ~ 57302	-75539 ~ -75541	a 頸円形土坑	N-19° ~ E	0.90	0.80	0.24	
7	1	19	土坑	57303 ~ 57304	-75538 ~ -75540	b 頸楕円形土坑	N-56° ~ E	0.85	0.62	0.22	
7	1	20	土坑	57302 ~ 57303	-75548 ~ -75549	b 頸楕円形土坑	N-30° ~ W	0.50	0.42	0.40	
7	1	21	土坑	57302 ~ 57303	-75549 ~ -75551	a 頸円形土坑	N-65° ~ E	1.17	1.05	0.37	
7	1	22	土坑	57299	-57301	-75529 ~ -75531	b 頸楕円形土坑	N-66° ~ E	—	0.87	0.43
7	1	23	土坑	57304 ~ 57306	-75549 ~ -75550	a 頸円形土坑	—	0.55	0.55	0.32	
7	1	24	土坑	57304 ~ 57306	-75547 ~ -75549	c 長円形土坑	N-18° ~ W	1.33	0.57	0.33	
7	1	25	土坑	57304 ~ 57306	-75545 ~ -75548	c 長円形土坑	N-60° ~ E	2.25	0.85	0.36	
7	1	26	土坑	57305 ~ 57307	-75543 ~ -75545	b 頸楕円形土坑	N-26° ~ W	1.00	0.65	0.24	
7	1	27	土坑	57307 ~ 57309	-75554 ~ -75555	c 長円形土坑	N-28° ~ E	1.30	0.70	0.50	
7	10	28	土坑	57310 ~ 57312	-75543 ~ -75544	円形土坑	N-42° ~ E	0.57	0.52	0.28	
7	10	29	土坑	57312 ~ 57313	-75544 ~ -75545	円形土坑	N-13° ~ E	0.50	0.44	0.30	
7	9	30	土坑	57315 ~ 57317	-75559 ~ -75560	楕円形土坑	N-69° ~ W	0.90	0.83	0.13	
7	9	31	土坑	57313 ~ 57316	-75559 ~ -75561	楕円形土坑	N-38° ~ E	1.39	1.10	0.30	
7	9	32	土坑	57312 ~ 57313	-75558 ~ -75560	楕円形土坑	N-77° ~ E	0.83	0.67	0.08	
7	9	33	土坑	57306 ~ 57308	-75554 ~ -75556	楕円形土坑	—	1.07	—	0.67	
7	9	34	土坑	57315 ~ 57317	-75558 ~ -75561	楕円形土坑	N-52° ~ E	2.08	1.80	0.62	
7	10	35	土坑	57309 ~ 57311	-75543 ~ -75545	楕円形土坑	N-42° ~ W	1.77	1.23	0.38	
7	10	36	土坑	57306 ~ 57307	-75538 ~ -75539	円形土坑	N-44° ~ W	0.75	0.67	0.12	
7	1	37	土坑	57364 ~ 57365	-75556 ~ -75557	b 頸楕円形土坑	N-53° ~ W	0.55	0.37	0.30	
7	1	38	土坑	57363 ~ 57366	-75556 ~ -75557	a 頸円形土坑	N-12° ~ W	0.55	0.50	0.24	
7	1	39	土坑	57361 ~ 57363	-75556 ~ -75557	c 長円形土坑	N-18° ~ W	0.87	0.50	0.25	
7	1	40	土坑	57357 ~ 57359	-75553 ~ -75555	a 頸円形土坑	N-71° ~ E	1.00	0.90	0.24	
7	1	41	土坑	57356 ~ 57357	-75553 ~ -75554	b 頸楕円形土坑	N-35° ~ W	0.65	0.50	0.18	
7	1	42	土坑	57348 ~ 57349	-75548 ~ -75550	b 頸楕円形土坑	N-9° ~ W	0.65	0.47	0.22	
7	1	43	土坑	57344 ~ 57346	-75548 ~ -75549	a 頸円形土坑	N-74° ~ W	0.35	0.30	0.25	
7	1	44	土坑	57341 ~ 57344	-75544 ~ -75546	—	—	2.15	—	0.73	
7	10	45	土坑	57310 ~ 57311	-75549 ~ -75551	円形土坑	N-48° ~ W	0.78	0.68	0.20	
7	11	46	土坑	57295 ~ 57297	-75533 ~ -75535	円形土坑	N-75° ~ W	1.30	(1.20)	0.18	
7	11	47	土坑	57307 ~ 57308	-75539 ~ -75541	円形土坑	N-66° ~ E	0.46	0.43	0.13	
7	11	48	土坑	57309 ~ 57312	-75538 ~ -75539	長円形土坑	N-0° ~	(1.86)	0.60	0.18	
7	1	49	土坑	57369 ~ 57370	-75566 ~ -75568	b 頸楕円形土坑	N-18° ~ W	0.90	0.70	0.86	
7	1	50	土坑	57366 ~ 57368	-75566 ~ -75568	c 長円形土坑	N-71° ~ E	1.45	0.75	0.18	
7	1	51	土坑	57364 ~ 57365	-75562 ~ -75564	c 長円形土坑	N-63° ~ E	1.40	0.55	0.17	
7	1	52	土坑	57359 ~ 57361	-75558 ~ -75559	a 頸円形土坑	N-62° ~ E	0.57	0.50	0.33	
7	1	53	土坑	57358 ~ 57360	-75557 ~ -75558	b 頸楕円形土坑	N-79° ~ E	0.53	0.35	0.20	
7	1	54	土坑	57362 ~ 57364	-75559 ~ -75561	a 頸円形土坑	N-13° ~ W	1.05	0.95	0.53	
7	1	55	土坑	57363 ~ 57364	-75559 ~ -75561	b 頸楕円形土坑	N-27° ~ W	0.55	0.45	0.25	
7	1	56	土坑	57360 ~ 57361	-75558 ~ -75559	a 頸円形土坑	N-44° ~ E	0.45	0.40	0.19	
7	1	57	土坑	57347 ~ 57350	-75554 ~ -75555	d 溝溝口土坑	N-67° ~ E	4.05	0.75	0.23	
7	1	58	土坑	57347 ~ 57349	-75557 ~ -75559	a 頸円形土坑	N-30° ~ E	1.10	1.05	0.12	
7	1	59	土坑	57356 ~ 57360	-75561 ~ -75563	d 頸溝形土坑	N-26° ~ W	確認長(3.00)	0.60	0.26	
		60	欠番								
7	1	61	土坑	57330 ~ 57332	-75551 ~ -75553	c 長円形土坑	N-64° ~ E	1.95	0.70	0.41	
7	1	62	土坑	57332 ~ 57336	-75548 ~ -75550	d 頸溝形土坑	N-12° ~ W	2.80	0.70	0.53	
7	1	63	土坑	57337 ~ 57340	-75550 ~ -75552	d 頸溝形土坑	N-18° ~ W	2.60	0.65	0.24	
7	1	64	土坑	57335 ~ 57337	-75550 ~ -75552	c 長円形土坑	N-69° ~ E	1.45	0.70	0.29	
7	1	65	土坑	57337 ~ 57338	-75559 ~ -75560	b 頸楕円形土坑	N-30° ~ W	0.85	0.62	0.25	
7	1	66	土坑	57336 ~ 57337	-75558 ~ -75559	a 頸円形土坑	N-82° ~ E	0.65	0.55	0.27	
7	1	67	土坑	57338 ~ 57341	-75559 ~ -75561	a 頸円形土坑	N-25° ~ E	(1.15)	1.05	0.15	
7	1	68	土坑	57339 ~ 57341	-75558 ~ -75560	a 頸円形土坑	N-42° ~ W	1.35	1.15	0.20	
7	1	69	土坑	57332 ~ 57335	-75556 ~ -75558	a 頸円形土坑	N-48° ~ E	1.35	1.30	0.39	
7	1	70	土坑	57331 ~ 57333	-75562 ~ -75565	c 長円形土坑	N-34° ~ W	1.85	0.95	0.16	
7	1	71	土坑	57327 ~ 57329	-75552 ~ -75557	d 頸溝形土坑	N-82° ~ W	確認長(3.70)	0.85	0.58	
7	9	72	土坑	57318 ~ 57319	-75559 ~ -75560	楕円形土坑	—	0.52	—	0.65	
7	11	73	土坑	57333 ~ 57334	-75557 ~ -75559	円形土坑	N-20° ~ E	0.53	0.48	0.12	
8	1	1	土坑	57293 ~ 57295	-75571 ~ -75572	b 頸楕円形土坑	N-20° ~ W	0.85	0.55	0.25	
9	1	1	土坑	57381 ~ 57382	-75565 ~ -75566	b 頸楕円形土坑	N-71° ~ E	0.50	0.40	0.34	
9	1	2	土坑	57383 ~ 57385	-75566 ~ -75568	b 頸楕円形土坑	N-87° ~ E	0.60	0.50	0.36	
9	1	3	土坑	57386 ~ 57388	-75566 ~ -75568	b 頸楕円形土坑	N-15° ~ E	0.70	0.55	0.12	
9	1	4	土坑	57386 ~ 57390	-75568 ~ -75570	d 頸溝形土坑	N-18° ~ W	3.00	0.90	0.30	

造構一覧表

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	主軸方位	長軸m	短軸m	深さm
				X座標	Y座標					
9	1	5	土坑	57388 ~ 57389	-75567 ~ -75569	a 頸円形上坑	—	0.70	0.70	0.44
9	1	6	土坑	57386 ~ 57388	-75569 ~ -75571	b 頸楕円形土坑	N-64° ~ W	1.18	0.95	0.10
9	1	7	土坑	57385 ~ 57386	-75569 ~ -75571	a 頸円形上坑	—	0.25	0.25	0.27
9	1	8	土坑	57383 ~ 57384	-75569 ~ -75570	b 頸楕円形土坑	N-78° ~ E	0.45	0.32	0.18
9	1	9	土坑	57383 ~ 57384	-75568 ~ -75570	a 頸円形上坑	N-6° ~ W	0.60	0.55	0.49
9	1	10	土坑	57382 ~ 57384	-75568 ~ -75570	(楕円形上坑)	—	—	0.55	0.47
9	1	11	土坑	57382 ~ 57384	-75568 ~ -75570	c 頸長円形上坑	N-80° ~ E	1.30	0.60	0.10
9	1	12	土坑	57381 ~ 57383	-75566 ~ -75568	c 頸長円形上坑	N-60° ~ E	(1.00)	0.65	0.19
9	1	13	土坑	57383 ~ 57384	-75567 ~ -75569	b 頸楕円形上坑	N-81° ~ E	0.60	0.40	0.30
9	1	14	土坑	57381 ~ 57382	-75567 ~ -75569	a 頸円形上坑	N-34° ~ W	0.50	0.45	0.45
9	1	15	土坑	57379 ~ 57381	-75567 ~ -75568	b 頸楕円形上坑	N-82° ~ W	0.50	0.40	0.35
9	1	16	土坑	57378 ~ 57380	-75567 ~ -75570	a 頸円形上坑	N-21° ~ W	1.55	(1.40)	0.27
9	1	17	土坑	57379 ~ 57381	-75569 ~ -75570	(楕円形上坑)	—	(0.75)	0.60	0.69
9	1	18	土坑	57377 ~ 57379	-75566 ~ -75568	a 頸円形上坑	N-30° ~ W	0.45	0.40	0.23
9	1	19	土坑	57383 ~ 57385	-75515 ~ -75517	—	—	1.50	—	0.20
9	1	20	土坑	57384 ~ 57385	-75574 ~ -75576	(楕円形上坑)	N-45° ~ W	(0.60)	0.45	0.14
9	1	21	土坑	57383 ~ 57385	-75574 ~ -75575	b 頸楕円形上坑	N-10° ~ E	0.40	0.30	0.14
9	1	22	土坑	57381 ~ 57382	-75573 ~ -75575	b 頸楕円形上坑	N-8° ~ W	0.45	0.35	0.10
9	1	23	土坑	57381 ~ 57383	-75575 ~ -75577	a 頸円形上坑	N-52° ~ W	1.05	0.90	0.23
9	1	24	土坑	57381 ~ 57382	-75574 ~ -75576	a 頸円形上坑	N-54° ~ E	0.65	0.55	0.48
9	1	25	土坑	57380 ~ 57382	-75574 ~ -75576	b 頸楕円形上坑	N-26° ~ W	0.55	0.45	0.36
9	1	26	土坑	57380 ~ 57382	-75573 ~ -75574	b 頸楕円形上坑	N-36° ~ E	0.65	0.45	0.18
9	1	27	土坑	57380 ~ 57381	-75575 ~ -75576	b 頸楕円形上坑	N-79° ~ E	0.30	0.25	0.32
9	1	28	土坑	57378 ~ 57381	-75572 ~ -75574	—	—	1.80	—	0.83
9	1	29	土坑	57378 ~ 57379	-75574 ~ -75575	b 頸楕円形上坑	N-15° ~ W	0.40	0.30	0.16
9	1	30	土坑	57376 ~ 57379	-75572 ~ -75575	a 頸円形上坑	N-65° ~ E	1.55	1.45	0.40
9	1	31	土坑	57381 ~ 57383	-75576 ~ -75577	a 頸円形上坑	—	0.30	0.30	0.11
9	1	32	土坑	57375 ~ 57377	-75577 ~ -75580	c 頸長円形上坑	N-64° ~ E	(1.70)	0.70	0.41
9	1	33	土坑	57378 ~ 57380	-75578 ~ -75580	—	—	(1.05)	—	0.45
9	1	34	土坑	57375 ~ 57377	-75573 ~ -75576	c 頸長円形土坑	N-87° ~ E	(2.00)	(0.95)	0.42

6. ピット

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	主軸方位	長軸m	短軸m	深さm
				X座標	Y座標					
7	8	1	ピット	57294 ~ 57296	-75531 ~ -75532	楕円形	N-5° ~ W	0.37	0.29	0.48
7	10	2	ピット	57311 ~ 57312	-75544 ~ -75545	円形	—	0.33	0.33	0.70
7	10	3	ピット	57309 ~ 57311	-75543 ~ -75544	楕円形	N-38° ~ W	0.42	0.35	0.75
7	10	4	ピット	57312 ~ 57313	-75545 ~ -75546	円形	—	0.31	0.30	0.79
7	10	5	ピット	57308 ~ 57310	-75542 ~ -75543	円形	—	0.41	0.40	0.83
7	10	6	ピット	57307 ~ 57309	-75540 ~ -75542	円形	N-45° ~ W	0.37	0.33	0.68
7	10	7	ピット	57311 ~ 57313	-75540 ~ -75542	円形	N-38° ~ W	0.37	0.34	0.58
7	10	8	ピット	57312 ~ 57313	-75543 ~ -75544	円形	—	0.35	0.35	0.81
7	10	9	ピット	57308 ~ 57310	-75539 ~ -75540	楕円形	N-6° ~ W	0.32	0.28	0.17
7	10	10	ピット	57309 ~ 57310	-75538 ~ -75539	円形	—	0.37	0.36	0.12
7	10	11	ピット	57311 ~ 57312	-75541 ~ -75543	円形	N-51° ~ E	0.26	0.24	0.10
7	10	12	ピット	57306 ~ 57307	-75539 ~ -75541	円形	—	0.25	0.25	0.09
7	11	13	ピット	57308 ~ 57310	-75540 ~ -75541	円形	N-64° ~ E	0.34	0.30	0.13
7	10	14	ピット	57313 ~ 57314	-75544 ~ -75545	楕円形	N-76° ~ W	0.24	0.21	0.04
7	11	16	ピット	57314 ~ 57315	-75545 ~ -75547	楕円形	N-26° ~ W	0.62	0.26	0.11
7	1	17	ピット	57333 ~ 57335	-75557 ~ -75559	楕円形	N-25° ~ E	0.30	0.27	0.20
7	1	18	ピット	57329 ~ 57330	-75551 ~ -75553	楕円形	N-72° ~ E	0.45	0.38	0.17
7	1	19	ピット	57329 ~ 57330	-75552 ~ -75554	楕円形	N-74° ~ W	0.50	0.45	0.23
7	10	20	ピット	57328 ~ 57329	-75562 ~ -75563	円形	—	0.29	0.27	0.24
7	10	21	ピット	57328 ~ 57329	-75562 ~ -75563	楕円形	N-25° ~ W	(0.23)	0.23	0.20
7	10	22	ピット	57329 ~ 57330	-75560 ~ -75561	円形	—	0.29	0.28	0.40
7	11	23	ピット	57329 ~ 57331	-75558 ~ -75560	円形	N-55° ~ E	0.47	0.43	0.12
7	10	24	ピット	57335 ~ 57336	-75559 ~ -75560	円形	—	0.22	0.19	0.05
7	10	25	ピット	57334 ~ 57335	-75556 ~ -75558	楕円形	N-21° ~ W	0.24	0.17	0.05
7	10	26	ピット	57336 ~ 57337	-75557 ~ -75558	楕円形	N-42° ~ W	0.20	0.18	0.08
7	10	27	ピット	57314 ~ 57315	-75542 ~ -75544	楕円形	N-2° ~ W	0.42	0.34	0.54

7. 溝

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	走行方位	調査長m	幅m	深さm
				X座標	Y座標					
7	1	1	溝	57294 ~ 57314	-75544 ~ -75563	凸曲	N-45° ~ W	25.80	0.30 ~ 1.30	0.10 ~ 0.38
7	1	2	溝	57295 ~ 57303	-75545 ~ -75556	蛇行	N-52° ~ W	11.50	0.28 ~ 0.68	0.08 ~ 0.29
7	1	3	溝	57292 ~ 57297	-75526 ~ -75535	蛇行	N-58° ~ W	8.10	0.40 ~ 0.84	0.11 ~ 0.26
7	1	4	溝	57294 ~ 57307	-75527 ~ -75536	蛇行	N-34° ~ W	13.70	0.50 ~ 1.28	0.36 ~ 0.85

## 造構一覧表

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	走行方位	調査長m	幅m	深さm
				X座標	Y座標					
7	1	5	溝	57300 ~ 57308	-75550 ~ -75558	直線	N -51° ~ -W	6.75	0.28 ~ 0.60	0.09 ~ 0.12
7	11	6	溝	57296 ~ 57307	-75534 ~ -75541	鴨曲	N -5° ~ -E	10.10	1.75 ~ 5.06	0.10 ~ 0.88
7	1	7	溝	57352 ~ 57355	-75555 ~ -75562	直線	N -70° ~ -E	(6.00)	0.78 ~ 0.89	0.42 ~ 0.47
7	1	8	溝	57329 ~ 57336	-75541 ~ -75567	直線	N -75° ~ -E	25.00	1.00 ~ 2.20	0.21 ~ 0.55
7	1	9	溝	57330 ~ 57333	-75550 ~ -75554	直線	N -67° ~ -E	3.20	0.34 ~ 0.48	0.07 ~ 0.10
7	1	10	溝	57327 ~ 57331	-75554 ~ -75564	直線	N -68° ~ -E	8.35	0.60 ~ 1.15	0.28 ~ 0.41
7	1	11	溝	57327 ~ 57330	-75556 ~ -75558	直線	N -19° ~ -W	2.30	0.40 ~ 0.58	0.07 ~ 0.11
7	1	12	溝	57326 ~ 57329	-75556 ~ -75563	鴨曲	N -74° ~ -W	5.46	0.50 ~ 1.00	0.12 ~ 0.31
7	1	13	溝	57326 ~ 57329	-75559 ~ -75561	直線	N -5° ~ -W	1.86	0.40 ~ 0.46	0.15 ~ 0.17
7	1	14	溝	57323 ~ 57329	-75561 ~ -75567	直線	N -47° ~ -W	6.00	2.90 ~ 3.30	0.52 ~ 0.93
8	1	1	溝	57296 ~ 57306	-75566 ~ -75576	直線	N -46° ~ -W	11.35	0.50 ~ 1.52	0.14 ~ 0.57

## 8. 集石

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	長軸方位	長軸m	短軸m	深さm
				X座標	Y座標					
7	10	1	集石	57314 ~ 57316	-75560 ~ -75563	円形	—	(1.03)	1.63	0.37

## 9. 通

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	走行方位	調査長m	幅m	深さm
				位置	X座標	位置	Y座標			
7	2	1	通	57296 ~ 57331	-75543 ~ -75564	鴨曲	N -30° ~ -W	37.50	0.53 ~ 3.50	0.20 ~ 1.30
7	2	2	通	57307 ~ 57325	-75548 ~ -75557	鴨曲	N -28° ~ -W	14.30	0.58 ~ 2.40	0.18 ~ 0.36
7	2	3	通	57322 ~ 57335	-75546 ~ -75564	蛇行	—	25.80	0.22 ~ 0.92	0.05 ~ 0.10
8	1	1	通	57292 ~ 57301	-75571 ~ -75578	直線	N -32° ~ -W	8.50	2.70 ~ 3.00	0.08 ~ 0.20
9	1	1	通	57374 ~ 57376	-75575 ~ -75580	直線	N -85° ~ -E	3.90	0.28 ~ 0.34	0.05 ~ 0.13

## 10. 煙

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	残存限間溝			
				X座標	位置		幅m	長m	深さm	間隔
8	1	1	煙	57301 ~ 57305	-75570 ~ -75574	不明	0.18 ~ 0.25	1.10 ~ 1.73	0.03 ~ 0.05	0.30 ~ 0.85

## 11. 岩

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	残存限間溝			
				位置	X座標		幅m	長m	深さm	間隔
7	8	1	岩	57297 ~ 57315	-75533 ~ -75545	円形	0.40 ~ 0.70	5.00 ~ 8.00	0.08 ~ 0.13	0.07 ~ 0.50

## 12. 禁祀

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	長軸方位	長軸m	短軸m	深さm
				X座標	Y座標					
7	8	1	禁祀	57330 ~ 57334	-75552 ~ -75556	不整橢円形	N -65° ~ -E	3.2	2.2	—

## 13. 造物集中

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	長軸方位	長軸m	短軸m	深さm
				X座標	Y座標					
7	9	1	造物集中	57314 ~ 57318	-75552 ~ -75557	不整橢円形	N -76° ~ -E	3.10	2.40	—
7	9	2	造物集中	57301 ~ 57307	-75539 ~ -75543	不整橢円形	N -11° ~ -W	4.80	3.80	—
7	9	3	造物集中	57302 ~ 57305	-75545 ~ -75548	不整橢円形	N -10° ~ -W	4.30	2.20	—
7	9	4	造物集中	57316 ~ 57317	-75540 ~ -75542	不整橢円形	N -47° ~ -W	1.70	1.35	—
7	8	5	造物集中	57345 ~ 57348	-75553 ~ -75556	不整橢円形	N -12° ~ -E	1.40	0.90	—

## 14. 塵土

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	長軸方位	長軸m	短軸m	深さm
				X座標	Y座標					
7	2	1	塹土	57294 ~ 57295	-75529 ~ -75530	楕円形	N -23° ~ -W	0.50	0.36	0.05
7	9	2	塹土	57313 ~ 57316	-75543 ~ -75546	不整橢円形	N -72° ~ -W	1.50	1.00	0.10
7	9	3	塹土	57315 ~ 57317	-75542 ~ -75543	楕円形	N -33° ~ -W	0.78	0.70	0.17
7	10	4	塹土	57314 ~ 57318	-75552 ~ -75556	不整橢円形	N -52° ~ -E	3.28	1.92	0.12
7	8	5	塹土	57330 ~ 57333	-75546 ~ -75548	不整橢円形	—	(0.98)	1.80	0.06
7	8	6	塹土	57368 ~ 57370	-75563 ~ -75566	不整橢円形	—	(1.00)	1.38	0.10
7	8	7	塹土	57335 ~ 57337	-75548 ~ -75550	不整橢円形	—	(1.16)	1.32	0.22

## 15. 円状・楕状・溝状衝撃底

区	面	造構番号	造構名称	位置		長軸m	短軸m	主軸方位
				X座標	Y座標			
7	5	1	円状衝撃底	57328 ~ 57330	-75552 ~ -75555	1.42	1.22	N -81° ~ -E
7	5	2	円状衝撃底	57328 ~ 57330	-75550 ~ -75552	1.11	0.76	N -81° ~ -E
7	5	3	円状衝撃底	57328 ~ 57330	-75549 ~ -75551	0.95	0.30	N -32° ~ -W
7	5	4	円状衝撃底	57329 ~ 57331	-75548 ~ -75550	0.79	0.61	N -63° ~ -W
7	5	5	円状衝撃底	57329 ~ 57331	-75546 ~ -75549	1.37	0.77	N -70° ~ -E
7	5	1	楕状衝撃底	57301 ~ 57302	-75535 ~ -75538	1.41	0.35	N -66° ~ -W
7	5	2	楕状衝撃底	57304 ~ 57307	-75543 ~ -75544	1.70	0.43	N -8° ~ -W

造構一覧表

区	面	造構番号	造構名称	位置		長軸 m	短軸 m	主軸方位
				X座標	Y座標			
7	5	3	線状衝撃痕	57303 ~ 57304	-75538 ~ -75539	0.33	0.22	N-19° -W
7	5	4	線状衝撃痕	57367 ~ 57369	-75563 ~ -75566	(2.10)	1.05	N-81° -E
7	5	5	線状衝撃痕	57365 ~ 57367	-75565 ~ -75567	1.96	0.68	N-75° -E
7	5	6	線状衝撃痕	57367 ~ 57369	-75565 ~ -75567	(1.04)	0.51	N-72° -W
7	5	7	線状衝撃痕	57359 ~ 57362	-75560 ~ -75563	2.22	0.99	N-50° -W
7	5	8	線状衝撃痕	57357 ~ 57358	-75561 ~ -75562	(0.40)	0.30	N-81° -E
7	5	9	線状衝撃痕	57356 ~ 57359	-75559 ~ -75561	1.76	0.43	N-37° -W
7	5	10	線状衝撃痕	57356 ~ 57358	-75560 ~ -75562	(0.84)	0.47	N-81° -W
7	5	11	線状衝撃痕	57343 ~ 57345	-75555 ~ -75557	1.13	0.74	N-45° -W
7	5	12	線状衝撃痕	57342 ~ 57344	-75553 ~ -75556	1.12	0.45	N-62° -W
7	5	13	線状衝撃痕	57341 ~ 57343	-75551 ~ -75554	(1.41)	0.46	N-56° -W
7	5	14	線状衝撃痕	57339 ~ 57341	-75552 ~ -75554	0.54	0.32	N-62° -W
7	5	15	線状衝撃痕	57337 ~ 57339	-75550 ~ -75552	0.43	0.37	N-2° -W
		16	欠番					
7	5	17	線状衝撃痕	57337 ~ 57339	-75555 ~ -75556	0.74	0.30	N-82° -W
		18	欠番					
7	5	19	溝状衝撃痕	57323 ~ 57329	-75560 ~ -75564	(5.62)	0.23	N-35° -W
7	5	20	線状衝撃痕	57326 ~ 57328	-75562 ~ -75565	(1.13)	0.64	N-44° -W
7	5	21	線状衝撃痕	57320 ~ 57322	-75555 ~ -75557	1.45	0.26	N-36° -W
7	5	22	線状衝撃痕	57324 ~ 57325	-75559 ~ -75561	(0.70)	0.22	N-55° -W
7	5	23	線状衝撃痕	57324 ~ 57328	-75557 ~ -75560	2.98	0.40	N-49° -E

## 16. 例木痕

区	面	造構番号	造構名称	位置		平面形	長軸方位	長軸 m	短軸 m	深さ m
				位置X座標	位置Y座標					
7	5	1	例木痕	57345 ~ 57349	-75553 ~ -75558	不整梢円形	—	(2.50)	(1.60)	0.65

第6表 第2面馬蹄跡

## 馬蹄跡

区	面	造構番号	種別	長さ(上) cm	長さ(下) cm	幅(上) cm	幅(下) cm	方向	左右
				馬蹄跡	馬蹄跡	馬蹄跡	馬蹄跡	馬蹄跡	馬蹄跡
7	2	1	馬蹄跡	16.0	9.0	14.0	7.0	北西	
7	2	2	馬蹄跡	19.0	10.0	15.0	7.0	北西	
7	2	3	馬蹄跡	15.0	9.0	13.0	6.0	北東	
7	2	4	馬蹄跡	17.0	9.0	13.0	6.0	北西	
7	2	5	馬蹄跡	20.0	9.0	15.0	6.0	北	
7	2	6	馬蹄跡	18.0	9.0	13.0	6.0	南	
7	2	7	馬蹄跡	18.0	10.0	15.0	7.0	東	
7	2	8	馬蹄跡	17.0	9.0	15.0	7.0	北東	
7	2	9	馬蹄跡	13.0	9.0	12.0	8.0	西	
7	2	10	馬蹄跡	15.0	12.0	14.0	10.5	北西	
7	2	11	馬蹄跡	13.0	8.0	11.0	7.5	北西	
7	2	12	馬蹄跡	14.0	10.0	13.0	9.5	南西	
7	2	13	馬蹄跡	13.0	9.0	12.0	8.5	南西	
7	2	14	馬蹄跡	14.0	10.0	12.0	8.0	北西	
7	2	15	馬蹄跡	13.0	8.0	13.0	7.5	北西	
7	2	16	馬蹄跡	16.0	12.0	12.0	9.0	南東	
7	2	17	馬蹄跡	16.0	12.0	13.0	10.0	西	
7	2	18	馬蹄跡	15.0	10.0	12.5	9.0	西	
7	2	19	馬蹄跡	14.0	9.0	13.0	9.0	南西	
7	2	20	馬蹄跡	15.0	11.0	14.0	9.0	西	
7	2	21	馬蹄跡	18.0	13.0	16.0	11.0	北	
7	2	22	馬蹄跡	18.0	11.0	15.0	8.0	北	
7	2	23	馬蹄跡	14.0	9.5	12.0	8.5	北西	
7	2	24	馬蹄跡	17.0	11.0	14.0	9.0	北西	
7	2	25	馬蹄跡	16.0	10.0	14.0	8.5	北	
7	2	26	馬蹄跡	14.0	8.0	2.5	8.0	北	
7	2	27	馬蹄跡	18.0	9.0	13.0	6.0	南	
7	2	28	馬蹄跡	14.0	7.0	14.0	6.0	西	
7	2	29	馬蹄跡	16.0	13.0	12.0	9.0	北西	
7	2	30	馬蹄跡	16.0	11.0	13.0	9.0	南	
7	2	31	馬蹄跡	16.0	12.0	13.0	9.5	北西	
7	2	32	馬蹄跡	20.0	14.0	14.0	8.0	北東	
7	2	33	馬蹄跡	19.0	13.0	16.0	8.0	北東	
7	2	34	馬蹄跡	19.0	14.0	15.0	11.0	西	
7	2	35	馬蹄跡	18.0	11.0	15.0	10.0	東	

区	面	遺構番号	種別	長さ(上) cm	長さ(下) cm	幅(上) cm	幅(下) cm	方向	左右
7	2	36	馬蹄跡	16.5	12.0	15.0	10.0	南	
7	2	37	馬蹄跡	18.0	13.0	13.0	9.0	南	
7	2	38	馬蹄跡	18.0	14.0	15.0	12.0	南	
7	2	39	馬蹄跡	16.0	11.0	14.0	9.5	南	
7	2	40	馬蹄跡	18.0	10.0	14.0	6.0	南北	
7	2	41	馬蹄跡	17.0	9.0	13.0	6.0	南東	
7	2	42	馬蹄跡	16.0	13.5	9.0	8.0	南東	
7	2	43	馬蹄跡	15.0	14.0	9.0	9.0	西北	
7	2	253	馬蹄跡	13.0	6.0	14.0	7.0	西	
7	2	254	馬蹄跡	18.0	10.0	13.0	8.0	北	
7	2	255	馬蹄跡	18.5	9.0	15.0	8.0	北	
7	2	256	馬蹄跡	18.0	7.0	15.0	6.0	西北	
7	2	257	馬蹄跡	18.0	7.0	14.5	5.0	北東	
7	2	258	馬蹄跡	17.0	9.0	12.0	7.0	南	
7	2	259	馬蹄跡	23.0	12.5	16.0	8.0	南東	
7	2	260	馬蹄跡	18.0	10.0	15.0	7.5	南東	
7	2	261	馬蹄跡	20.0	12.0	18.0	10.0	北西	
7	2	262	馬蹄跡	17.5	9.0	15.0	8.0	西北	
7	2	263	馬蹄跡	14.0	9.0	13.0	8.0	北	
7	2	264	馬蹄跡	19.0	12.0	16.0	8.0	北西	
7	2	265	馬蹄跡	20.0	11.0	14.5	8.0	北	
7	2	266	馬蹄跡	17.5	10.0	14.5	8.0	西	
7	2	267	馬蹄跡	17.0	10.0	16.0	8.0	西	
7	2	268	馬蹄跡	16.5	10.0	12.0	6.0	西	
7	2	269	馬蹄跡	15.0	9.0	12.0	7.0	西	
7	2	270	馬蹄跡	15.0	8.0	14.0	6.0	西	
7	2	271	馬蹄跡	16.0	9.0	14.0	8.0	西	
7	2	272	馬蹄跡	19.0	11.0	16.0	9.0	西	
7	2	273	馬蹄跡	17.5	10.0	14.0	8.0	西	
7	2	274	馬蹄跡	17.0	9.0	17.0	8.0	北西	
7	2	275	馬蹄跡	18.0	11.0	16.0	10.0	北西	
7	2	276	馬蹄跡	18.0	10.0	16.0	10.0	北西	
7	2	277	馬蹄跡	20.0	12.0	13.0	8.0	北西	
7	2	278	馬蹄跡	20.0	14.0	15.0	9.0	北西	
7	2	279	馬蹄跡	20.0	12.0	16.0	9.5	北西	
7	2	280	馬蹄跡	19.0	13.0	16.0	11.0	南東	
7	2	281	馬蹄跡	17.0	10.0	16.0	8.0	北	
7	2	282	馬蹄跡	18.0	12.0	15.5	8.0	西	
7	2	283	馬蹄跡	16.0	9.0	15.0	9.0	北	
7	2	284	馬蹄跡	20.0	14.0	18.0	10.0	北東	
7	2	285	馬蹄跡	17.5	10.0	14.0	9.0	北	
7	2	286	馬蹄跡	16.0	9.0	14.5	6.5	北	
7	2	287	馬蹄跡	20.0	12.0	15.0	10.0	北	
7	2	288	馬蹄跡	17.0	10.0	17.0	11.0	北東	
7	2	289	馬蹄跡	22.0	12.0	19.0	10.0	東	
7	2	290	馬蹄跡	18.0	10.0	15.0	8.0	南	
7	2	291	馬蹄跡	17.0	10.0	15.0	8.0	北	
7	2	292	馬蹄跡	15.0	8.5	14.0	8.0	南東	
7	2	293	馬蹄跡	16.0	8.0	14.0	7.0	南東	
7	2	294	馬蹄跡	17.0	8.0	16.0	9.0	北	
7	2	295	馬蹄跡	14.0	7.0	12.0	8.0	北	
7	2	296	馬蹄跡	15.0	8.0	14.5	8.0	北東	
7	2	297	馬蹄跡	18.0	10.0	15.0	9.0	北東	
7	2	298	馬蹄跡	18.0	12.0	15.0	9.0	北東	
7	2	299	馬蹄跡	18.0	10.0	17.0	9.0	南	
7	2	300	馬蹄跡	18.0	11.0	13.0	6.0	西	
7	2	301	馬蹄跡	20.0	9.0	16.0	9.0	西	
7	2	302	馬蹄跡	16.0	9.0	13.0	9.0	北	
7	2	303	馬蹄跡	14.0	9.0	13.0	7.0	北	
7	2	304	馬蹄跡	12.0	9.0	13.0	9.0	北	
7	2	305	馬蹄跡	18.0	9.0	16.0	9.0	南東	
7	2	306	馬蹄跡	13.0	7.0	12.0	7.0	北東	
7	2	307	馬蹄跡	16.0	11.0	14.0	8.0	南東	
7	2	308	馬蹄跡	14.0	5.0	11.0	6.0	南東	
7	2	309	馬蹄跡	17.0	11.0	13.0	5.0	南	
7	2	310	馬蹄跡	18.0	10.0	14.0	8.0	南	
7	2	311	馬蹄跡	16.0	8.0	13.0	8.0	北西	
7	2	312	馬蹄跡	19.0	10.0	17.0	10.0	南東	

## 人足跡・馬蹄跡計測表

区	面	遺構番号	種別	長さ(上) cm	長さ(下) cm	幅(上) cm	幅(下) cm	方向	左右
7	2	313	馬蹄跡	19.0	10.0	16.0	9.0	西	
7	2	314	馬蹄跡	16.0	8.0	13.0	7.0	北	
7	2	315	馬蹄跡	16.0	10.0	13.0	8.0	西	
7	2	316	馬蹄跡	15.0	9.0	11.0	7.0	南	
7	2	317	馬蹄跡	17.0	11.0	15.0	9.0	南	
7	2	318	馬蹄跡	14.0	9.0	11.0	7.0	北東	
7	2	319	馬蹄跡	20.0	15.0	17.0	10.0	西	
7	2	320	馬蹄跡	19.0	10.0	21.0	12.0	西	
7	2	321	馬蹄跡	13.0	8.0	14.0	7.0	西	
7	2	322	馬蹄跡	15.0	8.0	13.0	7.0	北	
7	2	323	馬蹄跡	15.0	6.0	14.0	9.0	西	
7	2	324	馬蹄跡	14.0	6.0	11.0	5.0	北	
7	2	325	馬蹄跡	13.0	8.0	12.0	7.0	南東	
7	2	326	馬蹄跡	20.0	12.0	18.0	6.0	北東	
7	2	327	馬蹄跡	17.0	9.0	17.0	10.0	北西	
7	2	328	馬蹄跡	18.0	9.0	14.0	8.0	北東	
7	2	329	馬蹄跡	17.0	9.0	14.0	6.0	南	
7	2	330	馬蹄跡	20.0	14.0	17.0	12.0	東	
7	2	331	馬蹄跡	18.0	9.0	12.0	8.0	北東	
7	2	332	馬蹄跡	18.0	9.0	15.0	9.0	北東	
7	2	333	馬蹄跡	16.0	11.0	13.0	8.0	北東	
7	2	334	馬蹄跡	17.0	10.0	13.0	8.0	北東	
7	2	335	馬蹄跡	15.0	12.0	15.0	11.0	北西	
7	2	336	馬蹄跡	20.0	12.0	17.0	11.0	西	
7	2	337	馬蹄跡	16.0	10.0	14.0	9.0	西	
7	2	338	馬蹄跡	14.0	9.0	14.0	9.0	南西	
7	2	339	馬蹄跡	19.0	10.0	15.0	8.0	南西	
7	2	340	馬蹄跡	20.0	10.0	17.0	9.0	南	
7	2	341	馬蹄跡	18.0	10.0	16.0	9.0	南西	
7	2	342	馬蹄跡	18.0	10.0	17.0	9.0	北	
7	2	343	馬蹄跡	20.0	10.0	20.0	10.0	北	
7	2	344	馬蹄跡	17.0	9.0	17.0	9.0	南西	
7	2	345	馬蹄跡	15.0	9.0	13.0	5.0	北東	
7	2	346	馬蹄跡	17.0	9.0	15.0	8.0	北西	
7	2	347	馬蹄跡	17.0	11.0	13.0	6.0	北	
7	2	348	馬蹄跡	14.0	9.0	13.0	8.0	北	
7	2	349	馬蹄跡	16.0	6.0	10.0	5.0	西	
7	2	350	馬蹄跡	18.0	9.0	18.0	6.0	西	
7	2	351	馬蹄跡	16.0	7.0	14.0	8.0	西	
7	2	352	馬蹄跡	19.0	11.0	15.0	8.0	北東	
7	2	353	馬蹄跡	16.0	9.0	12.0	7.0	西	
7	2	354	馬蹄跡	13.0	7.0	12.0	7.0	西	
7	2	355	馬蹄跡	12.0	7.0	12.0	6.0	北西	
7	2	356	馬蹄跡	15.0	8.0	12.0	7.0	北西	
7	2	357	馬蹄跡	16.0	9.0	14.0	7.0	北西	
7	2	358	馬蹄跡	20.0	10.0	15.0	8.0	北	
7	2	359	馬蹄跡	20.0	12.0	16.0	9.0	北	
7	2	360	馬蹄跡	20.0	9.0	15.0	8.0	北西	
7	2	361	馬蹄跡	19.0	12.0	15.0	9.0	東	
7	2	362	馬蹄跡	18.0	9.0	13.0	8.0	東	
7	2	363	馬蹄跡	19.0	13.0	15.0	9.0	北東	
7	2	364	馬蹄跡	19.0	9.0	16.0	9.0	北	
7	2	365	馬蹄跡	19.0	13.0	15.0	9.0	北西	
7	2	366	馬蹄跡	16.0	7.0	13.0	6.0	西	
7	2	367	馬蹄跡	15.0	9.0	14.0	9.0	西	
7	2	368	馬蹄跡	12.0	8.0	12.0	8.0	西	
7	2	369	馬蹄跡	15.0	9.0	15.0	8.0	北西	
7	2	370	馬蹄跡	17.0	11.0	14.0	10.0	西	
7	2	371	馬蹄跡	14.0	7.0	12.0	6.0	西	
7	2	372	馬蹄跡	22.0	14.0	18.0	10.0	東	
7	2	373	馬蹄跡	18.0	9.0	14.0	9.0	北西	
7	2	374	馬蹄跡	22.0	11.0	18.0	12.0	北西	
7	2	375	馬蹄跡	20.0	9.0	14.0	8.0	北西	
7	2	376	馬蹄跡	18.0	14.0	15.0	9.0	北西	
7	2	377	馬蹄跡	15.0	9.0	12.0	6.0	北西	
7	2	378	馬蹄跡	20.0	10.0	16.0	7.0	北西	
7	2	379	馬蹄跡	16.0	9.0	13.0	6.0	北	
7	2	380	馬蹄跡	20.0	13.0	18.0	9.0	北	

区	面	遺構番号	種別	長さ(上) cm	長さ(下) cm	幅(上) cm	幅(下) cm	方向	左右
7	2	381	馬蹄跡	17.0	7.0	14.0	6.0	西北	
7	2	382	馬蹄跡	16.0	8.0	15.0	8.0	南西	
7	2	383	馬蹄跡	14.0	8.0	14.0	6.0	北	
7	2	384	馬蹄跡	12.0	6.0	13.0	5.0	北	
7	2	385	馬蹄跡	20.0	9.0	17.0	6.0	西北	
7	2	386	馬蹄跡	24.0	18.0	21.0	13.0	北	
7	2	387	馬蹄跡	20.0	15.0	16.0	11.0	北	
7	2	388	馬蹄跡	14.0	9.0	13.0	8.0	北	
7	2	389	馬蹄跡	17.0	10.0	13.0	7.0	北	
7	2	390	馬蹄跡	16.0	9.0	17.0	10.0	西	
7	2	391	馬蹄跡	20.0	12.0	18.0	15.0	西北	
7	2	392	馬蹄跡	18.0	15.0	20.0	10.0	西北	
7	2	393	馬蹄跡	18.0	8.0	15.0	8.0	北東	
7	2	394	馬蹄跡	12.0	15.0	16.0	9.0	西	
7	2	395	馬蹄跡	20.0	9.0	18.0	7.0	南東	
7	2	396	馬蹄跡	16.0	10.0	14.0	8.0	西	
7	2	397	馬蹄跡	17.0	10.0	16.0	9.0	西	
7	2	398	馬蹄跡	13.0	7.0	13.0	6.0	西	
7	2	399	馬蹄跡	23.0	15.0	18.0	9.0	北	
7	2	400	馬蹄跡	10.0	6.0	10.0	5.0	北	
7	2	401	馬蹄跡	12.0	6.0	12.0	6.0	西北	
7	2	402	馬蹄跡	12.0	7.0	16.0	8.0	西北	
7	2	403	馬蹄跡	16.0	6.0	15.0	6.0	南	
7	2	405	馬蹄跡	20.0	9.0	16.0	8.0	北	
7	2	406	馬蹄跡	18.0	10.0	17.0	10.0	西北	
7	2	407	馬蹄跡	18.0	9.0	14.0	9.0	南	
7	2	408	馬蹄跡	20.0	11.0	16.0	10.0	南西	
7	2	409	馬蹄跡	19.0	12.0	15.0	10.0	南	
7	2	410	馬蹄跡	16.0	10.0	15.0	7.0	南西	
7	2	411	馬蹄跡	11.0	9.0	12.0	8.0	西北	
7	2	412	馬蹄跡	8.0	5.0	8.0	5.0	南東	
7	2	413	馬蹄跡	22.0	17.0	15.0	11.0	西北	
7	2	414	馬蹄跡	20.0	16.0	13.0	10.0	西北	
7	2	415	馬蹄跡	18.0	10.0	16.0	9.0	東	
7	2	416	馬蹄跡	16.0	12.0	13.0	9.0	東	
7	2	417	馬蹄跡	15.0	6.0	14.0	8.0	北	
7	2	418	馬蹄跡	17.0	10.0	16.0	10.0	西北	
7	2	419	馬蹄跡	18.0	9.0	13.0	7.0	西北	
7	2	420	馬蹄跡	19.0	9.0	13.0	7.0	西北	
7	2	421	馬蹄跡	20.0	10.0	14.0	8.0	北	
7	2	422	馬蹄跡	16.0	9.0	12.0	7.0	北	
7	2	423	馬蹄跡	19.0	13.0	17.0	12.0	西	
7	2	424	馬蹄跡	17.0	10.0	15.0	7.0	西北	
7	2	425	馬蹄跡	19.0	10.0	14.0	8.0	西	
7	2	426	馬蹄跡	17.0	9.0	15.0	7.0	北	
7	2	427	馬蹄跡	24.0	17.0	14.0	9.0	西北	
7	2	428	馬蹄跡	20.0	14.0	15.0	8.0	北	
7	2	429	馬蹄跡	16.0	8.0	12.0	7.0	北	
7	2	430	馬蹄跡	17.0	9.0	16.0	10.0	西	
7	2	431	馬蹄跡	20.0	11.0	15.0	9.0	西北	
7	2	432	馬蹄跡	17.0	12.0	11.0	9.0	西北	
7	2	433	馬蹄跡	18.0	10.0	15.0	8.0	西	
7	2	434	馬蹄跡	19.0	11.0	16.0	11.0	西	
7	2	435	馬蹄跡	18.0	9.0	15.0	8.0	北	
7	2	436	馬蹄跡	19.0	13.0	16.0	10.0	西北	
7	2	437	馬蹄跡	20.0	14.0	16.0	10.0	北東	
7	2	438	馬蹄跡	16.0	6.0	12.0	7.0	北東	
7	2	439	馬蹄跡	20.0	15.0	15.0	6.0	西北	
7	2	440	馬蹄跡	17.0	10.0	16.0	8.0	北東	
7	2	441	馬蹄跡	15.0	8.0	14.0	8.0	北	
7	2	442	馬蹄跡	15.0	9.0	14.0	8.0	東	
7	2	443	馬蹄跡	18.0	12.0	12.0	8.0	西	
7	2	444	馬蹄跡	20.0	12.0	15.0	9.0	北東	
7	2	445	馬蹄跡	15.0	9.0	13.0	8.0	西北	
7	2	446	馬蹄跡	13.0	8.0	14.0	11.0	北西	
7	2	447	馬蹄跡	15.0	10.0	14.0	7.0	西	
7	2	448	馬蹄跡	15.0	8.0	16.0	8.0	北	

## 人足跡・馬蹄跡計測表

区	面	遺構番号	種別	長さ(上) cm	長さ(下) cm	幅(上) cm	幅(下) cm	方向	左右
7	2	449	馬蹄跡	9.0	5.0	12.0	9.0	北西	
7	2	450	馬蹄跡	10.0	5.0	12.0	8.0	北西	
7	2	451	馬蹄跡	18.0	12.0	13.0	9.0	南	
7	2	452	馬蹄跡	18.0	12.0	12.0	7.0	北	
7	2	453	馬蹄跡	13.0	7.0	12.0	9.0	北東	
7	2	454	馬蹄跡	13.0	8.0	12.0	5.0	北	
7	2	455	馬蹄跡	12.0	8.0	12.0	8.0	北	
7	2	456	馬蹄跡	19.0	13.0	14.0	9.0	西	
7	2	457	馬蹄跡	16.0	12.0	15.0	9.0	北西	
7	2	458	馬蹄跡	15.0	10.0	11.0	9.0	東	
7	2	459	馬蹄跡	18.0	10.0	14.0	9.0	東	
7	2	460	馬蹄跡	23.0	13.0	15.0	9.0	西	
7	2	461	馬蹄跡	23.0	13.0	16.0	9.0	北東	
7	2	462	馬蹄跡	24.0	17.0	18.0	12.0	北東	
7	2	463	馬蹄跡	15.0	8.0	14.0	8.0	東	
7	2	464	馬蹄跡	15.0	9.0	12.0	7.0	北東	
7	2	465	馬蹄跡	16.0	9.0	11.0	8.0	北西	
7	2	466	馬蹄跡	12.0	7.0	12.0	6.0	北	
7	2	467	馬蹄跡	29.0	18.0	19.0	13.0	北西	
7	2	468	馬蹄跡	18.0	10.0	15.0	10.0	南東	
7	2	469	馬蹄跡	18.0	10.0	16.0	10.0	南	
7	2	470	馬蹄跡	20.0	12.0	15.0	9.0	南東	
7	2	471	馬蹄跡	15.0	9.0	12.0	7.0	南東	
7	2	472	馬蹄跡	14.0	8.0	13.0	8.0	南	
7	2	473	馬蹄跡	15.0	10.0	15.0	10.0	南	
7	2	474	馬蹄跡	18.0	12.0	12.0	8.0	北	
7	2	475	馬蹄跡	14.0	8.0	12.0	7.0	北	
7	2	476	馬蹄跡	15.0	7.0	12.0	6.0	北	
7	2	477	馬蹄跡	17.0	10.0	15.0	7.0	南	
7	2	478	馬蹄跡	9.0	5.0	9.0	5.0	北	
7	2	479	馬蹄跡	13.0	7.0	10.0	6.0	北	
7	2	480	馬蹄跡	14.0	10.0	11.0	6.0	北東	
7	2	481	馬蹄跡	21.0	18.0	16.0	11.0	北東	
7	2	482	馬蹄跡	15.0	8.0	13.0	5.0	西	
7	2	483	馬蹄跡	13.0	6.0	15.0	7.0	南	
7	2	484	馬蹄跡	13.0	8.0	14.0	7.0	北	
7	2	485	馬蹄跡	16.0	8.0	11.0	6.0	北	
7	2	486	馬蹄跡	20.0	11.0	14.0	9.0	北西	
7	2	487	馬蹄跡	16.0	8.0	14.0	7.0	北西	
7	2	488	馬蹄跡	19.0	10.0	14.0	8.0	北西	
7	2	489	馬蹄跡	16.0	6.0	13.0	7.0	南	
7	2	490	馬蹄跡	15.0	7.0	13.0	8.0	北西	
7	2	491	馬蹄跡	17.0	12.0	12.0	7.0	北西	
7	2	492	馬蹄跡	16.0	9.0	16.0	8.0	北西	
7	2	493	馬蹄跡	16.0	8.0	12.0	7.0	北	
7	2	494	馬蹄跡	14.0	9.0	10.0	6.0	西	
7	2	495	馬蹄跡	16.0	6.0	15.0	6.0	南	
7	2	496	馬蹄跡	18.0	12.0	15.0	8.0	南	
7	2	497	馬蹄跡	19.0	11.0	15.0	9.0	西	
7	2	498	馬蹄跡	13.0	7.0	12.0	6.0	北東	
7	2	499	馬蹄跡	15.0	8.0	14.0	6.0	西	
7	2	500	馬蹄跡	16.0	9.0	13.0	6.0	西	
7	2	501	馬蹄跡	14.0	8.0	12.0	7.0	北東	
7	2	502	馬蹄跡	19.0	14.0	12.0	8.0	北東	
7	2	503	馬蹄跡	18.0	10.0	13.0	9.0	南西	
7	2	504	馬蹄跡	19.0	10.0	14.0	8.0	北西	
7	2	505	馬蹄跡	17.0	11.0	16.0	6.0	北	
7	2	506	馬蹄跡	16.0	8.0	15.0	7.0	南	
7	2	507	馬蹄跡	15.0	7.0	14.0	7.0	西	
7	2	508	馬蹄跡	18.0	11.0	16.0	8.0	南西	
7	2	509	馬蹄跡	20.0	15.0	14.0	10.0	南西	
7	2	510	馬蹄跡	21.0	8.0	18.0	8.0	北	
7	2	511	馬蹄跡	19.0	10.0	17.0	10.0	南西	
7	2	512	馬蹄跡	18.0	9.0	14.0	9.0	南西	
7	2	513	馬蹄跡	15.0	8.0	13.0	8.0	北西	
7	2	514	馬蹄跡	16.0	9.0	18.0	6.0	北西	
7	2	515	馬蹄跡	14.0	8.0	9.0	7.0	北西	
7	2	516	馬蹄跡	15.0	7.0	12.0	7.0	北東	

区	面	遺構番号	種別	長さ(上) cm	長さ(下) cm	幅(上) cm	幅(下) cm	方向	左右
7	2	517	馬蹄跡	16.0	7.0	13.0	5.0	北東	
7	2	518	馬蹄跡	12.0	8.0	13.0	8.0	西	
7	2	519	馬蹄跡	16.0	8.0	13.0	7.0	西	
7	2	520	馬蹄跡	9.0	6.0	9.0	5.0	西	
7	2	521	馬蹄跡	15.0	7.0	12.0	6.0	北	
7	2	522	馬蹄跡	14.0	9.0	11.0	6.0	南	
7	2	523	馬蹄跡	16.0	8.0	14.0	7.0	南	
7	2	524	馬蹄跡	22.0	12.0	18.0	8.0	北東	
7	2	525	馬蹄跡	23.0	10.0	16.0	9.0	南	
7	2	526	馬蹄跡	12.0	6.0	12.0	5.0	南	
7	2	527	馬蹄跡	13.0	9.0	15.0	8.0	南	
7	2	528	馬蹄跡	20.0	10.0	15.0	9.0	東	
7	2	529	馬蹄跡	20.0	9.0	16.0	8.0	東	
7	2	530	馬蹄跡	18.0	7.0	14.0	7.0	東	
7	2	531	馬蹄跡	17.0	10.0	13.0	7.0	北	
7	2	532	馬蹄跡	15.0	9.0	12.0	7.0	西	
7	2	533	馬蹄跡	18.0	12.0	13.0	8.0	西	
7	2	534	馬蹄跡	22.0	10.0	14.0	7.0	北	
7	2	535	馬蹄跡	21.0	10.0	16.0	9.0	北西	
7	2	536	馬蹄跡	22.0	11.0	16.0	8.0	西	
7	2	537	馬蹄跡	17.0	11.0	15.0	10.0	北西	
7	2	538	馬蹄跡	20.0	12.0	16.0	7.0	北東	
7	2	539	馬蹄跡	14.0	7.0	12.0	8.0	北	
7	2	540	馬蹄跡	16.0	10.0	11.0	6.0	北西	
7	2	541	馬蹄跡	15.0	8.0	14.0	10.0	西	
7	2	542	馬蹄跡	13.0	8.0	10.0	6.0	北東	
7	2	543	馬蹄跡	15.0	8.0	15.0	8.0	北東	
7	2	544	馬蹄跡	15.0	8.0	13.0	7.0	南	
7	2	545	馬蹄跡	10.0	6.0	12.0	7.0	南	
7	2	546	馬蹄跡	17.0	10.0	14.0	9.0	南東	
7	2	547	馬蹄跡	19.0	13.0	13.0	8.0	北東	
7	2	548	馬蹄跡	20.0	11.0	16.0	8.0	南東	

第7表 第6面人足跡、馬蹄跡

## 人足跡

区	面	遺構番号	種別	長さ(上) cm	長さ(下) cm	幅(上) cm	幅(下) cm	方向	左右
7	6	1	人足跡	24.5	20.0	12.0	8.0	南西	左
7	6	2	人足跡	26.0	22.0	13.0	8.0	西	(右)
7	6	3	人足跡	29.0	21.0	13.5	9.0	南西	左
7	6	4	人足跡	23.5	19.0	13.0	7.5	東	右
7	6	5	人足跡	22.0	18.0	9.0	5.5	北東	左
7	6	6	人足跡	26.0	19.0	15.5	9.0	北東	右
7	6	7	人足跡	24.5	20.0	12.5	8.0	南東	右
7	6	8	人足跡	25.0	21.0	10.0	6.0	東	左
7	6	9	人足跡	25.0	20.0	11.5	7.0	南西	左
7	6	10	人足跡	24.0	17.5	14.0	9.5	北西	左
7	6	11	人足跡	24.5	20.0	9.5	7.5	北東	左
7	6	12	人足跡	26.0	22.0	13.0	8.0	南東	右
7	6	13	人足跡	23.0	20.0	10.5	8.0	北西	右
7	6	14	人足跡	22.0	18.0	12.0	7.5	南東	左
7	6	15	人足跡	20.0	16.5	11.5	6.0	南東	(左)
7	6	16	人足跡	26.5	16.5	11.0	7.0	東	右
7	6	17	人足跡	28.0	21.0	15.0	6.5	南西	左
7	6	18	人足跡	25.0	16.0	14.0	7.0	西	(左)
7	6	19	人足跡	25.0	18.0	10.0	7.0	南東	(右)
7	6	20	人足跡	25.0	16.5	11.0	5.0	北東	左
7	6	21	人足跡	23.0	18.5	11.5	7.0	東	右
7	6	22	人足跡	27.0	24.0	11.5	5.5	南西	不明
7	6	23	人足跡	22.0	18.0	11.0	7.0	東	左
7	6	24	人足跡	22.0	19.5	13.5	8.0	西	右
7	6	25	人足跡	23.5	21.0	11.0	8.0	東	左
7	6	26	人足跡	26.0	21.0	13.0	9.0	南西	右
7	6	27	人足跡	24.0	15.5	12.0	5.5	西	不明
7	6	28	人足跡	25.0	17.0	13.0	8.0	東	左

## 人足跡・馬蹄跡計測表

区	面	遺構番号	種別	長さ(上) cm	長さ(下) cm	幅(上) cm	幅(下) cm	方向	左右
7	6	29	人足跡	25.5	22.0	11.0	7.5	北東	左
7	6	30	人足跡	25.0	19.0	11.0	7.0	西	右
7	6	31	人足跡	30.0	25.0	11.0	7.5	南西	左
7	6	32	人足跡	25.5	21.0	12.0	8.0	南西	右
7	6	33	人足跡	25.0	19.5	10.5	7.5	南東	不明
7	6	34	人足跡	24.0	19.5	11.5	7.5	南西	左
7	6	35	人足跡	22.0	17.0	10.5	8.5	南東	右
7	6	36	人足跡	25.0	20.0	14.0	8.0	南西	不明
7	6	37	人足跡	23.5	22.0	11.0	9.0	北東	左
7	6	38	人足跡	(16.0)	(12.0)	9.5	4.5	—	—
7	6	39	人足跡	(10.5)	(8.0)	15.0	10.0	—	—
7	6	40	人足跡	27.0	22.0	13.0	7.0	南西	左
7	6	41	人足跡	23.5	14.0	11.5	7.0	東	右
7	6	42	人足跡	25.5	20.5	11.0	7.0	不明	不明
7	6	43	人足跡	19.0	14.0	9.0	5.0	西北	不明
7	6	44	人足跡	18.0	15.0	9.5	7.5	東	左
7	6	45	人足跡	26.0	19.0	12.0	6.5	南東	右
7	6	46	人足跡	(15.0)	(12.0)	12.0	7.5	東	右
7	6	47	人足跡	19.0	14.0	10.0	5.0	西北	右
7	6	48	人足跡	24.5	20.5	11.0	6.0	北東	右

## 馬蹄跡

区	面	遺構番号	種別	長さ(上) cm	長さ(下) cm	幅(上) cm	幅(下) cm	方向	左右
7	6	44	馬蹄跡	16.0	11.0	14.0	9.0		
7	6	45	馬蹄跡	11.0	7.0	9.0	5.5		
7	6	46	馬蹄跡	14.5	11.0	9.0	7.0		
7	6	47	馬蹄跡	10.5	9.0	10.0	8.0		
7	6	48	馬蹄跡	14.0	10.0	9.0	7.0		
7	6	49	馬蹄跡	13.0	9.0	8.0	4.0		
7	6	50	馬蹄跡	15.0	10.5	11.5	8.0		
7	6	51	馬蹄跡	14.0	10.5	10.0	7.0		
7	6	52	馬蹄跡	12.0	9.0	8.0	5.5		
7	6	53	馬蹄跡	15.0	8.0	10.0	5.5		
7	6	54	馬蹄跡	9.5	6.0	8.0	3.5		
7	6	55	馬蹄跡	12.0	8.0	11.0	7.5		
7	6	56	馬蹄跡	9.0	5.0	9.0	5.0		
7	6	57	馬蹄跡	14.0	7.5	12.0	6.0		
7	6	58	馬蹄跡	10.0	6.0	8.5	6.0		
7	6	59	馬蹄跡	18.0	10.5	11.5	9.0		
7	6	60	馬蹄跡	21.0	18.0	16.0	14.0		
7	6	61	馬蹄跡	12.0	5.5	11.0	5.0		
7	6	62	馬蹄跡	15.0	11.0	13.0	9.0		
7	6	63	馬蹄跡	16.0	12.0	(11.0)	5.0		
7	6	64	馬蹄跡	11.0	8.5	10.0	7.0		
7	6	65	馬蹄跡	21.0	14.0	13.0	9.0		
7	6	66	馬蹄跡	10.0	4.0	10.0	5.5		
7	6	67	馬蹄跡	15.5	9.5	9.0	6.0		
7	6	68	馬蹄跡	10.0	5.5	8.5	5.0		
7	6	69	馬蹄跡	11.5	6.0	9.0	6.0		
7	6	70	馬蹄跡	16.0	8.0	13.5	7.0		
7	6	71	馬蹄跡	13.0	7.5	12.0	6.5		
7	6	72	馬蹄跡	19.0	8.0	14.0	8.0		
7	6	73	馬蹄跡	13.0	8.5	10.0	7.0		
7	6	74	馬蹄跡	12.5	7.0	11.0	6.0		
7	6	75	馬蹄跡	16.0	9.0	10.0	7.0		
7	6	76	馬蹄跡	15.0	7.0	13.0	7.5		
7	6	77	馬蹄跡	(19.0)	(12.0)	15.0	8.5		
7	6	78	馬蹄跡	15.0	7.5	10.5	5.5		
7	6	79	馬蹄跡	15.0	8.0	10.0	7.0		
7	6	80	馬蹄跡	15.0	8.0	15.0	8.0		
7	6	81	馬蹄跡	12.0	7.0	11.0	5.0		
7	6	82	馬蹄跡	11.0	6.0	10.0	7.0		
7	6	83	馬蹄跡	13.0	6.5	10.5	6.0		
7	6	84	馬蹄跡	19.5	7.5	14.0	7.0		
7	6	85	馬蹄跡	17.0	9.0	14.0	7.5		
7	6	86	馬蹄跡	13.0	6.0	9.0	5.5		
7	6	87	馬蹄跡	16.5	11.0	15.5	9.5		
7	6	88	馬蹄跡	9.0	4.5	7.5	4.5		

区	面	遺構番号	種別	長さ(上) cm	長さ(下) cm	幅(上) cm	幅(下) cm	方向	左右
7	6	89	馬蹄跡	11.0	7.0	9.0	5.0		
7	6	90	馬蹄跡	17.0	9.5	12.0	6.0		
7	6	91	馬蹄跡	17.0	14.0	16.0	12.0		
7	6	92	馬蹄跡	13.0	7.0	8.0	5.5		
7	6	93	馬蹄跡	15.5	9.5	12.0	8.5		
7	6	94	馬蹄跡	22.0	14.0	18.0	14.0		
7	6	95	馬蹄跡	14.0	11.0	14.0	10.5		
7	6	96	馬蹄跡	14.0	8.0	9.5	6.0		
7	6	97	馬蹄跡	20.0	13.0	13.0	10.0		
7	6	98	馬蹄跡	12.0	5.0	10.0	6.0		
7	6	99	馬蹄跡	15.0	12.0	13.0	9.0		
7	6	100	馬蹄跡	18.0	13.5	13.0	10.5		
7	6	101	馬蹄跡	11.5	6.0	10.0	5.0		
7	6	102	馬蹄跡	17.0	9.0	15.0	9.0		
7	6	103	馬蹄跡	15.0	6.5	13.0	6.0		
7	6	104	馬蹄跡	14.0	8.5	13.0	8.0		
7	6	105	馬蹄跡	15.0	7.0	11.0	5.5		
7	6	106	馬蹄跡	20.0	6.0	14.0	8.0		
7	6	107	馬蹄跡	11.0	4.5	9.0	5.0		
7	6	108	馬蹄跡	11.0	6.5	10.0	7.0		
7	6	109	馬蹄跡	16.0	7.0	14.0	8.0		
7	6	110	馬蹄跡	11.5	7.0	10.5	6.0		
7	6	111	馬蹄跡	13.5	9.5	13.0	8.0		
7	6	112	馬蹄跡	(13.0)	(8.0)	13.0	8.5		
7	6	113	馬蹄跡	13.0	9.0	10.0	6.0		
7	6	114	馬蹄跡	12.0	9.0	10.0	7.0		
7	6	115	馬蹄跡	11.0	8.0	9.0	7.0		
7	6	116	馬蹄跡	11.0	8.0	9.5	6.0		
7	6	117	馬蹄跡	12.5	7.0	12.0	8.0		
7	6	118	馬蹄跡	13.0	8.5	10.0	6.0		
7	6	119	馬蹄跡	13.0	8.0	11.0	6.0		
7	6	120	馬蹄跡	12.0	7.0	10.0	6.0		
7	6	121	馬蹄跡	16.0	11.0	10.5	5.0		
7	6	122	馬蹄跡	16.5	8.0	12.0	6.0		
7	6	123	馬蹄跡	16.0	9.0	15.5	11.0		
7	6	124	馬蹄跡	10.5	8.0	10.0	6.5		
7	6	125	馬蹄跡	12.0	7.0	11.0	6.0		
7	6	126	馬蹄跡	(8.0)	4.0	8.5	5.0		
7	6	127	馬蹄跡	14.0	9.0	10.0	7.0		
7	6	128	馬蹄跡	11.5	7.5	8.5	6.0		
7	6	129	馬蹄跡	9.0	6.0	8.0	5.0		
7	6	130	馬蹄跡	12.0	8.0	7.5	5.0		
7	6	131	馬蹄跡	11.0	6.0	8.0	5.0		
7	6	132	馬蹄跡	14.0	11.0	12.5	7.0		
7	6	133	馬蹄跡	10.5	6.0	8.5	5.0		
7	6	134	馬蹄跡	12.0	7.0	8.0	5.0		
7	6	135	馬蹄跡	10.0	7.0	7.0	5.0		
7	6	136	馬蹄跡	12.0	8.0	8.0	6.5		
7	6	137	馬蹄跡	12.5	8.0	10.5	7.0		
7	6	138	馬蹄跡	14.0	7.0	12.5	8.0		
7	6	139	馬蹄跡	14.5	7.0	13.0	8.0		
7	6	140	馬蹄跡	12.0	6.5	10.0	6.0		
7	6	141	馬蹄跡	13.0	9.0	10.0	6.5		
7	6	142	馬蹄跡	12.0	8.0	9.0	5.0		
7	6	143	馬蹄跡	14.0	11.0	8.0	5.5		
7	6	144	馬蹄跡	15.0	10.0	12.0	7.0		
7	6	145	馬蹄跡	14.0	10.0	11.0	6.5		
7	6	146	馬蹄跡	15.0	10.0	13.0	8.0		
7	6	147	馬蹄跡	13.0	9.0	12.0	7.0		
7	6	148	馬蹄跡	11.0	6.0	10.0	5.0		
7	6	149	馬蹄跡	13.0	8.0	10.5	8.0		
7	6	150	馬蹄跡	12.0	7.0	11.0	7.0		
7	6	151	馬蹄跡	18.0	7.0	10.5	5.0		
7	6	152	馬蹄跡	12.5	8.0	10.0	6.0		
7	6	153	馬蹄跡	11.0	8.0	10.0	7.0		
7	6	154	馬蹄跡	13.0	8.5	11.0	8.0		
7	6	155	馬蹄跡	16.5	12.0	12.5	7.5		
7	6	156	馬蹄跡	11.0	7.0	4.5	3.0		

## 人足跡・馬蹄跡計測表

区	面	遺構番号	種別	長さ(上) cm	長さ(下) cm	幅(上) cm	幅(下) cm	方向	左右
7	6	157	馬蹄跡	12.5	10.0	11.5	8.0		
7	6	158	馬蹄跡	10.5	5.0	8.0	5.5		
7	6	159	馬蹄跡	14.5	8.0	13.0	10.0		
7	6	160	馬蹄跡	(12.0)	7.0	11.0	6.0		
7	6	161	馬蹄跡	18.0	12.0	15.0	8.0		
7	6	162	馬蹄跡	17.0	9.0	14.0	10.0		
7	6	163	馬蹄跡	15.0	8.0	13.0	10.0		
7	6	164	馬蹄跡	10.5	7.5	9.0	5.0		
7	6	165	馬蹄跡	10.0	6.5	8.5	5.5		
7	6	166	馬蹄跡	15.5	6.5	12.0	7.0		
7	6	167	馬蹄跡	13.0	9.5	12.0	7.0		
7	6	168	馬蹄跡	20.0	10.0	17.0	11.0		
7	6	169	馬蹄跡	14.0	7.0	11.0	6.0		
7	6	170	馬蹄跡	16.0	8.5	11.0	4.0		
7	6	171	馬蹄跡	22.0	18.0	13.0	7.0		
7	6	172	馬蹄跡	11.5	6.0	10.0	5.0		
7	6	173	馬蹄跡	11.0	7.0	9.5	6.5		
7	6	174	馬蹄跡	12.0	6.0	10.0	6.0		
7	6	175	馬蹄跡	16.0	9.0	11.0	7.0		
7	6	176	馬蹄跡	15.0	10.0	11.5	7.0		
7	6	177	馬蹄跡	16.0	10.0	13.0	8.0		
7	6	178	馬蹄跡	(13.0)	5.0	12.0	7.0		
7	6	179	馬蹄跡	13.0	7.0	11.0	6.0		
7	6	180	馬蹄跡	18.0	13.5	13.0	10.0		
7	6	181	馬蹄跡	12.0	6.0	9.0	5.0		
7	6	182	馬蹄跡	16.0	8.0	12.0	7.0		
7	6	183	馬蹄跡	17.0	11.0	13.0	9.0		
7	6	184	馬蹄跡	11.0	8.0	9.5	7.0		
7	6	185	馬蹄跡	11.0	6.0	10.0	6.0		
7	6	186	馬蹄跡	19.0	12.0	13.0	9.0		
7	6	187	馬蹄跡	15.0	7.0	14.0	9.0		
7	6	188	馬蹄跡	13.5	5.5	10.0	4.0		
7	6	189	馬蹄跡	12.0	6.0	11.5	6.0		
7	6	190	馬蹄跡	20.0	14.0	14.0	9.5		
7	6	191	馬蹄跡	20.0	17.0	16.0	12.0		
7	6	192	馬蹄跡	10.0	5.0	10.0	6.0		
7	6	193	馬蹄跡	16.0	14.0	10.0	7.0		
7	6	194	馬蹄跡	9.5	5.0	7.5	4.0		
7	6	195	馬蹄跡	11.0	7.5	9.0	5.0		
7	6	196	馬蹄跡	12.0	9.0	10.0	7.0		
7	6	197	馬蹄跡	12.0	7.0	8.0	5.0		
7	6	198	馬蹄跡	13.0	9.0	10.0	7.0		
7	6	199	馬蹄跡	12.0	8.0	8.0	4.0		
7	6	200	馬蹄跡	17.0	13.5	9.0	4.0		
7	6	201	馬蹄跡	9.0	4.5	7.0	5.0		
7	6	202	馬蹄跡	11.5	5.5	8.0	4.5		
7	6	203	馬蹄跡	9.0	4.5	7.0	5.0		
7	6	204	馬蹄跡	12.0	10.0	9.0	7.0		
7	6	205	馬蹄跡	15.0	11.0	9.0	6.0		
7	6	206	馬蹄跡	8.0	6.0	(6.0)	4.0		
7	6	207	馬蹄跡	8.5	6.0	7.0	5.0		
7	6	208	馬蹄跡	10.0	6.0	9.5	7.0		
7	6	209	馬蹄跡	12.0	8.5	10.0	5.5		
7	6	210	馬蹄跡	11.0	6.5	8.5	5.0		
7	6	211	馬蹄跡	10.0	8.0	8.5	6.5		
7	6	212	馬蹄跡	15.0	8.0	11.0	6.0		
7	6	213	馬蹄跡	14.5	5.0	12.0	6.5		
7	6	214	馬蹄跡	15.0	9.0	13.0	6.0		
7	6	215	馬蹄跡	17.0	7.0	13.0	5.0		
7	6	216	馬蹄跡	19.0	9.0	14.0	5.0		
7	6	217	馬蹄跡	12.0	7.0	11.5	5.5		
7	6	218	馬蹄跡	14.0	6.0	11.0	5.0		
7	6	219	馬蹄跡	14.0	7.0	12.0	7.0		
7	6	220	馬蹄跡	14.0	8.0	9.0	6.0		
7	6	221	馬蹄跡	16.0	9.0	12.0	8.0		
7	6	222	馬蹄跡	11.5	6.5	10.0	6.5		
7	6	223	馬蹄跡	14.0	8.5	9.0	7.0		
7	6	224	馬蹄跡	8.5	5.0	6.0	4.0		

区	面	遺構番号	種別	長さ(上) cm	長さ(下) cm	幅(上) cm	幅(下) cm	方向	左右
7	6	225	馬蹄跡	15.0	12.0	11.0	6.0		
7	6	226	馬蹄跡	9.0	6.0	8.0	6.0		
7	6	227	馬蹄跡	12.0	6.5	7.5	4.0		
7	6	228	馬蹄跡	16.0	11.0	11.5	7.5		
7	6	229	馬蹄跡	9.0	4.0	7.5	5.0		
7	6	230	馬蹄跡	13.0	8.5	10.0	7.0		
7	6	231	馬蹄跡	11.5	6.5	10.0	5.0		
7	6	232	馬蹄跡	12.0	8.0	10.0	4.0		
7	6	233	馬蹄跡	12.0	8.0	10.0	3.5		
7	6	234	馬蹄跡	12.0	9.0	9.5	6.0		
7	6	235	馬蹄跡	12.0	8.0	10.0	4.5		
7	6	236	馬蹄跡	13.0	8.0	12.0	7.5		
7	6	237	馬蹄跡	15.0	6.0	11.5	6.0		
7	6	238	馬蹄跡	15.0	10.0	(9.0)	4.0		
7	6	239	馬蹄跡	12.0	7.0	8.5	5.0		
7	6	240	馬蹄跡	10.0	6.0	9.0	4.5		
7	6	241	馬蹄跡	(13.0)	(10.0)	14.0	11.0		
7	6	242	馬蹄跡	11.0	8.0	9.5	6.0		
7	6	243	馬蹄跡	10.0	7.0	9.0	6.5		
7	6	244	馬蹄跡	14.5	11.5	11.0	9.0		
7	6	245	馬蹄跡	12.5	10.0	11.0	8.0		
7	6	246	馬蹄跡	13.0	9.5	11.0	8.0		
7	6	247	馬蹄跡	12.0	10.0	10.0	7.0		
7	6	248	馬蹄跡	15.0	11.0	8.5	6.0		
7	6	249	馬蹄跡	10.0	8.0	7.5	5.5		
7	6	250	馬蹄跡	12.0	10.0	11.0	8.0		
7	6	251	馬蹄跡	12.5	10.0	11.0	8.0		
7	6	252	馬蹄跡	13.0	9.0	11.0	8.0		
7	6	549	馬蹄跡	13	10	11	6	北西	
7	6	550	馬蹄跡	18	15	6	4	北西	
7	6	551	馬蹄跡	11	9	9	6	北西	
7	6	552	馬蹄跡	10	8	9	7	北西	
7	6	553	馬蹄跡	15	8	10	6	北西	
7	6	554	馬蹄跡	20	11.5	10.5	8	北西	
7	6	555	馬蹄跡	23	20	12	8	北西	
7	6	556	馬蹄跡	15	9	12	7	北	
7	6	557	馬蹄跡	15	9	13	7	北西	
7	6	558	馬蹄跡	12	10	9	6	北西	
7	6	559	馬蹄跡	20	18	14	12	北	
7	6	560	馬蹄跡	14	10	8	7	北	
7	6	561	馬蹄跡	14	7	97	5	北東	
7	6	562	馬蹄跡	17	12	13	9	北東	
7	6	563	馬蹄跡	10	7	9	6	北東	
7	6	564	馬蹄跡	15	7	14	6	東	
7	6	565	馬蹄跡	13	9	9	7	北	
7	6	566	馬蹄跡	19	14	12	10	北	
7	6	567	馬蹄跡	13	8	10	7	北東	
7	6	568	馬蹄跡	12	7	9	6	北東	
7	6	569	馬蹄跡	16	13	16	9	北東	
7	6	570	馬蹄跡	20	14	12	7	南東	
7	6	571	馬蹄跡	22	17	15	12	東	
7	6	572	馬蹄跡	16	7	14	8	東	
7	6	573	馬蹄跡	22	17	16	10	北東	
7	6	574	馬蹄跡	12	7	9	4	東	
7	6	575	馬蹄跡	12	9	11	7	東	
7	6	576	馬蹄跡	14	11	13	7	東	
7	6	577	馬蹄跡	12	5	11	6	東	
7	6	578	馬蹄跡	12	8	11	7	東	
7	6	579	馬蹄跡	19	15	19	10	北東	
7	6	580	馬蹄跡	20	11	13	7	北東	
7	6	581	馬蹄跡	12	7	10	6	北東	
7	6	582	馬蹄跡	13	9	12	7	北東	
7	6	583	馬蹄跡	17	12	13	9	北東	
7	6	584	馬蹄跡	12	8	10	7	北東	
7	6	585	馬蹄跡	15	7	10	6	北東	
7	6	586	馬蹄跡	20	17	15	10	北	
7	6	587	馬蹄跡	10	7	8	5	北東	
7	6	588	馬蹄跡	12	8	11	7	東	

人足跡・馬蹄跡計測表

区	面	遺構番号	種別	長さ(上) cm	長さ(下) cm	幅(上) cm	幅(下) cm	方向	左右
7	6	589	馬蹄跡	11	5	9	4	北東	
7	6	590	馬蹄跡	8	6	7	5	北東	
7	6	591	馬蹄跡	11	7	10	6	北東	
7	6	592	馬蹄跡	10	7	9	6	北東	
7	6	593	馬蹄跡	11	8	10	6	北	
7	6	594	馬蹄跡	10	6	10	5	北東	
7	6	595	馬蹄跡	14	8	10	6	東	
7	6	596	馬蹄跡	13	7	12	6	東	
7	6	597	馬蹄跡	10	7	8	5	北	
7	6	598	馬蹄跡	10	8	9	6	東	
7	6	599	馬蹄跡	25	14	10	12	北東	
7	6	600	馬蹄跡	11	9	8	8	北東	
7	6	601	馬蹄跡	6	3	6	3	西北	
7	6	602	馬蹄跡	15	11	12	8	北	
7	6	603	馬蹄跡	12	7	8	5	西	
7	6	604	馬蹄跡	14	12	12	10	北東	
7	6	605	馬蹄跡	10	7	8	6	西	
7	6	606	馬蹄跡	10	7	9	5	西北	
7	6	607	馬蹄跡	25	18	10	9	北	
7	6	608	馬蹄跡	9	6	8	6	東	
7	6	609	馬蹄跡	15	8	8	7	南	
7	6	610	馬蹄跡	20	16	15	7	北東	
7	6	611	馬蹄跡	11	7	9	6	北東	
7	6	612	馬蹄跡	11	9	10	7	北	
7	6	613	馬蹄跡	13	7	8	6	北	
7	6	614	馬蹄跡	10	5	9	5	東	
7	6	615	馬蹄跡	20	17	12	8	北東	
7	6	616	馬蹄跡	19	15	10	9	東	
7	6	617	馬蹄跡	12	7	9	6	東	
7	6	618	馬蹄跡	10	8	8	4	東	
7	6	619	馬蹄跡	11	8	9	7	東	
7	6	620	馬蹄跡	12	7	10	5	北西	
7	6	621	馬蹄跡	12	8	10	7	北	
7	6	622	馬蹄跡	16	10	12	8	北西	
7	6	623	馬蹄跡	15	9	12	7	西	
7	6	624	馬蹄跡	22	12	12	8	西	
7	6	625	馬蹄跡	20	15	14	9	北西	
7	6	626	馬蹄跡	22	16	12	9	北西	
7	6	627	馬蹄跡	21	14	14	9	東	
7	6	628	馬蹄跡	14	10	11	8	北東	
7	6	629	馬蹄跡	19	14	16	8	東	
7	6	630	馬蹄跡	19	9	12	6	東	
7	6	631	馬蹄跡	16	11	12	9	東	
7	6	632	馬蹄跡	9	6	9	5	東	
7	6	633	馬蹄跡	16	9	10	7	東	
7	6	634	馬蹄跡	15	10	13	9	北東	
7	6	635	馬蹄跡	8	7	8	6	北東	
7	6	636	馬蹄跡	13	8	12	7	北東	
7	6	637	馬蹄跡	18	7	14	6	北東	
7	6	638	馬蹄跡	21	14	10	8	東	
7	6	639	馬蹄跡	22	12	15	8	北東	
7	6	640	馬蹄跡	20	8	9	3	北東	
7	6	641	馬蹄跡	20	11	14	9	北東	
7	6	642	馬蹄跡	16	10	12	8	東	
7	6	643	馬蹄跡	11	5	9	4	北東	
7	6	644	馬蹄跡	14	8	10	7	東	

第8表 遺物観察表

7区遺構外

神 国 PL.No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値(cm. g.)	特 徵	備 考
第32回 PL.65	1 銭貨 元符通寶	遺構外 完形	外径 2,388 厚 0.138 内径 1,968 重 3.0	面の文字は鉛箔まりによりつぶれている。輪、郭は明瞭。背はやや彫が深いが、輪、郭は確認できる。1098年初鋤。	
第32回 PL.65	2 銭貨 開元通寶	遺構外 完形	外径 2,510 厚 0.154 内径 2,078 重 3.0	面、背ともに文字、輪、郭は明瞭。背側の中心部分がわずかに凹んでいる。960年初鋤。	
第32回 PL.65	3 銭貨 新鑄永	遺構外 完形	外径 2,303 厚 0.127 内径 1,887 重 2.5	面、背の一部が不明瞭。一部ゆがみが生じており、ゆがんでいる部分の文字、輪、郭がはっきりしない。	
第32回 PL.65	4 銭貨 永楽通寶	遺構外 完形	外径 2,480 厚 0.167 内径 2,046 重 4.0	面の文字、輪、郭は明瞭。背は一部、ゆがんでいる部分は輪が不明瞭。1408年初鋤。	
第32回 PL.65	5 銭貨 錢種不明	遺構外 1/2 内径	— 厚 0.136 — 重 1.4	「通(ト)」字だけが確認できるため、銭種は特定できない。面の彫は深く、文字、輪、郭が明瞭。背は一部、郭が不明瞭。	
第32回 PL.65	6 銭貨 開元通寶	遺構外 完形	外径 2,553 厚 0.163 内径 2,037 重 4.4	面の彫は浅いが文字が鉛箔まりしている。また、凹み部分もゆがみが確認できる。背はやや彫が深いが輪、郭は明瞭。輪、郭がやや右上にずれる。	
第32回 PL.65	7 銭貨 新鑄永	遺構外 完形	外径 2,484 厚 0.184 内径 2,005 重 2.7	面、背ともに文字、輪、郭は明瞭。圧力を受けて、やや曲がっている。	
第32回 PL.65	8 銭貨 新鑄永(四文)	1/2 内径	— 厚 0.121 — 重 1.7	四文銭11波。面、背ともに文字、輪、郭が明瞭。	
第32回 PL.65	9 銭貨 新鑄永	遺構外 完形	外径 2,324 厚 0.129 内径 1,949 重 2.4	面、背ともに文字、輪、郭が明瞭。ややゆがみが生じている。	
第32回 PL.65	10 銭貨 天保通寶	遺構外 完形	長辺 4,921 厚 0.271 短辺 4,412 重 20.0	磁場方向の矢印目が確認できる。背の左下部分は反っており、ヤリ目自ら右上から左下へにく入っている。	

7区1号倒木痕

神 国 PL.No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値(cm. g.)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徵	備 考
第49回 PL.65	1 上師器 鉢部小片	埋土		細粒多、他の混入人物少/良好/にふい青緑	外面手持ちヘラ削りで一部にハケ目状の擦痕。内面上半横筋のナデ。下半斜筋のヘラナデ。ハケ目状の擦痕が外縁より明瞭。	推定鉢部23cm前後。

7区1号祭祀

神 国 PL.No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値(cm. g.)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徵	備 考
第58回 PL.65	1 上師器 杯	埋土 3/4	口 11.4 高 6.2	細砂粒、赤褐色 砂粒、石英粒/良好/ 好/橙	口縁部横ナデで上端は内側へ若干こまみ上げる。外面 は平な手持ちラブリ。内面はナデで平滑に仕上げた上に半横筋のナデ。下半斜筋のヘラ削り。	
第58回 PL.65	2 上師器 杯	埋土 一部欠損	口 11.0 高 5.8	細砂粒、細砂粒、 石英粒/良好/橙	外縁に横筋ナデ。底部丁寧な手持ちヘラ削り、内面横 ナデ。放射状のヘラ削き。	内面黒色処理。
第58回 PL.65	3 上師器 杯	埋土 ほぼ完形	口 13.4 高 5.0	細砂粒、細砂粒、 良好/橙	外縁に横筋ナデ。底部手持ちヘラ削り、内面横ナデ。 放射状のヘラ削き。	
第58回 PL.65	4 上師器 杯	埋土 一部欠損	口 12.8 高 12.0	細砂粒、細砂粒、 石英粒/良好/橙	外縁に横筋ナデ。底部手持ちヘラ削り、内面横ナデ。 放射状のヘラ削き。	被熱痕。
第58回 PL.65	5 上師器 杯	埋土 ほぼ完形	口 12.4 高 5.8	細砂粒、粗砂粒、 石英粒/良好/にふい 赤緑	口縁部横ナデ。内面ナデはほぼ一向向で削りのよう な削り、櫻模様が残る。底部は確かに強い手持ちヘラ削り。	外底は黒色味 強い。
第58回 PL.65	6 上師器 杯	埋土 ほぼ完形	口 12.6 高 12.6	細砂粒、赤褐色 砂粒、石英粒/良好/ 好/明赤	口縁部内外面横ナデ。底付丁寧な手持ちヘラ削り。外 底は広く黒斑。	
第58回 PL.65	7 上師器 杯	埋土 一部欠損	口 13.0 高 12.8	細砂粒、細砂粒、 石英粒/良好/橙	外縁に横筋ナデ。底部手持ちヘラ削り、内面横ナデ。 底部の調整。	外面上黒斑。
第58回 PL.65	8 上師器 杯	埋土 一部欠損	口 13.0 高 12.0	細砂粒、細砂粒、 石英粒/良好/橙	外縁に横筋ナデ。底部手持ちヘラ削り、内面横ナデ。 放射状のヘラ削き。	
第59回 PL.65	9 上師器 杯	埋土 一部欠損	口 13.9 高 10.4	細砂粒、細砂粒、 石英粒/良好/にふい 赤	外縁に横筋ナデ。口縁に二重の穂。底付手持ちヘラ削り、 内面横ナデ。底部消退状のナデ。	
第59回 PL.66	10 上師器 杯	埋土 一部欠損	口 13.0 高 6.2	細砂粒、粗砂粒/ 良好/橙	天井部外縁に棱を作る。口縁部は確かに外反し横ナデ。	
第59回 PL.66	11 上師器 杯蓋	埋土 一部欠損	口 13.6 高 6.2	細砂粒、粗砂粒/ 良好/にふい/橙	天井部外縁に棱を作る。口縁部は確かに外反し横ナデ。	
第59回 PL.66	12 上師器 杯	埋土 口縁部1/2欠	口 11.4 高 9.8	細砂粒、粗砂粒、 ベンガラ粒/良好/ 橙	外縁口縁部横ナデ。底部は右回転利用のヘラ削り。内 面横ナデで指添綱の二方向ナデ削退。	
第59回 PL.66	13 上師器 杯	埋土 口縁部上半1/2 欠	口 12.4 高 10.8	細砂粒、粗砂粒/ 良好/橙	口縁部内外面横ナデで外縁下側に2条の沈線状の鋸い 形。外底は方向不確かな手持ちヘラ削り。内底は横ナデ上に確かに削り、ヘラ削り。	破損後に被熱 の可能性。
第59回 PL.66	14 上師器 高杯	埋土 口縁部、脚部端 一部欠	口 17.0 高 10.8	赤褐色粗砂粒やや 多/良好/橙	杯部外縁横ナデ。端部上方へつまみ上げる。内面斜放 射状横筋のヘラ削き。底付外縁のヘラ削り。即柱部 外縁の複数のヘラ削き。内面は幅広の穂なヘラ削り。脚 部削り横ナデ。	
第59回 PL.66	15 上師器 高杯	埋土 口縁部1/3、脚 部端2/3欠	口 (16.8) 高 (11.0)	赤褐色粗砂粒やや 多/良好/明赤	杯部の外縁とも斜放射状右傾のヘラ削き。脚部外縁は 柱部で縦位、縦位で斜位のヘラ削き。内面柱部は幅広 の穂なヘラ削り。脚部削り横ナデ。	杯部内底は器 面剥落著し い。

遺物観察表

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第60回 PL.66	16	上飾器 高杯	埋土 口縁部2/3欠	口 底 (17.8) (11.6)	高 14.6		赤褐色粗砂粒や 多/良好/明赤褐色	杯部口縁部外面横ナデ。内面横ナデ上に斜放射状右傾のへラ磨き。底部難なきで6~7単位に分かれ、単位部位に長さが異なる。外底部は高いナデで脚部接合部附近に指頭痕状の凹凸が見られる。脚柱部外面は部位にヘラ磨き。内面へラ削りだが上部に絞り目が呪つていて、底部は内斜面とも横ナデ。	
第60回 PL.66	17	上飾器 高杯	埋土 ほぼ完形	口 底 17.0 11.6	高 13.8		粗砂粒、赤褐色粗 砂粒/良好/橙	杯部口縁部外面右側斜放射状の細かなへラ磨き。底部難な手持ちラ削り。杯部内面右側気味の放射状屈曲かなへラ磨き。脚部前面丁寧な横ナデの上に柱部と底部分位の丁寧なへラ削り。内面脚柱部は難な長身工具によるへラ削り。底部は横ナデ。	杯部口縁部下 半~底部、剥落し 著しい。
第60回 PL.66	18	上飾器 高杯	埋土 脚部半分欠	口 底 (21.9) (13.7)	高 13.8		粗砂粒、赤褐色粗 砂粒/良好/明赤褐色	口縁部外面難な横ナデ。内面丁寧な横ナデ上に左傾の斜放状左側ナデ。内面は横ナデで底部は斜放状左側のへラ磨き。内底部にも丁寧なナデ。脚柱部外面は斜放状左側ナデ。底部は厚手で短い、脚柱部内部は無調整。底部横ナデ。	口縁部外面下 半の部分剥落顯 著。
第60回 PL.66	19	上飾器 高杯	埋土 口縁部上半2/3、 脚部1/3欠	口 底 (24.0) (13.6)	高 17.3		赤褐色粗砂粒/良 好/橙	口縁部外面難な横ナデで左傾で一部は斜放状左側までつながる。口縁部内面は上方で弧状、下方で右傾の斜放射状、内面は左側に向かってへラ磨き。脚部は屈筋部が上削につぶされられる。外側は柱部から底部までつながるへラ磨きで、特に柱部は期間なく削られていて、柱部内面は幅広のへラ削りで、ボク部を壊すで強くナデ付けする。	
第61回 PL.66	20	上飾器 高杯	埋土 口縁部2/3、脚 部1/3欠	口 底 (16.0) 11.0	高 13.7		赤褐色粗砂粒/良 好/赤褐色	外脚部と底部に斜放状右傾、脚部に難位のへラ磨き。底部に間隔を留める磨きの追加あり。内面底部は斜放状右傾のへラ磨き。脚部外側は柱部に幅広の難なへラ削り。底部小~横ナデ。	
第61回 PL.66	21	上飾器 高杯	埋土 脚部端部大半 欠、他ほぼ完存	口 底 15.4 9.8	高 9.6		粗砂粒多、赤褐色 粗砂粒/良好/橙	口縁部外面難な横ナデで所々に接合痕がある。内底は丁寧なナデで平滑。脚部外側難な横ナデ。内面の横ナデは丁寧。脚部内のホ~部分に粘土充填して平坦に仕上げる。	
第61回 PL.66	22	上飾器 高杯	埋土 口縁部・脚部 1/2欠	口 底 13.9 9.2	高 11.3		粗砂粒/良好/橙	杯部横ナデ。外底は握形的なへラ削りで回転利用の可 能性。内底は一方向の幅広の難なナデ。脚部内外面と も横ナデ。	
第61回 PL.66	23	上飾器 高杯	埋土 口縁部3/4欠	口 底 (19.0) 12.0	高 11.0		粗砂粒、赤褐色粗 砂粒/良好/橙	口縁部外面は難なナデで指頭痕や工具痕の凹みが 不規則に残る。内底は丁寧な横ナデの上に難な斜放射 状のへラ磨き。脚柱部外面は難位のへラ削り。脚部内 面は短なへラ削りを加えている。内面柱部は幅広の へラ削り。底部は横ナデ。	
第61回 PL.66	24	上飾器 高杯	埋土 口縁部1/2欠	口 底 (17.4) 10.8	高 13.2		赤褐色粗砂粒や 多/良好/橙	口縁部内外面とも丁寧な横ナデ。内面に右傾の 斜放状のへラ磨きを加える。底部外側に難位のへラ磨 き。柱部と底部で別に磨す。脚部内面柱部は長身工具の へラ削り。底部横ナデ。	
第61回 PL.67	25	上飾器 高杯	埋土 口縁部3/4、脚 部1/2欠	口 底 (17.0) 11.5	高 13.2		粗砂粒、赤褐色粗 砂粒/良好/明赤褐色	杯部口縁部内外面とも丁寧な横ナデ。内面に右傾の 斜放状のへラ磨きを加える。底部外側に難位のへラ磨 き。柱部と底部で別に磨す。脚部内面柱部は長身工具の へラ削り。底部横ナデ。	内底部剥落著 しい。
第61回 PL.67	26	上飾器 高杯	埋土 脚部端部大半欠	口 底 16.0 11.0	高 12.7		赤褐色粗砂粒/良 好/橙	口縁部内外面とも難なナデ。外面下平にハケ目状の工具 痕が残る。外底部は微調整で弱い指頭痕が残る。脚部外 面は難ナデで、内面柱部は幅広の難なへラ削り。内面横 ナデ。	杯部内面口縁 部中程以下で 剥落著しい。
第62回 PL.67	27	上飾器 高杯	埋土 脚部1/2欠	口 底 18.0 12.0	高 13.7		粗砂粒、混入物少 /良好/橙	杯部口縁部内外面とも横ナデ。外底部に弱いへラナデ の跡跡。脚部外側難な横ナデ。内面柱部は幅広のへラ削 り。ホ~のナデ付け。	口縁部外面に 黒斑。
第62回 PL.67	28	上飾器 高杯	埋土 口縁部1/2欠	口 底 16.0 11.0	高 11.3		粗砂粒、石英粒/ 良好/橙	口縁部外面横ナデ。内底部方向不定のナデ。口縁部は 横ナデ。内面柱部は幅広の難なへラ削り。内面横ナデ。	
第62回 PL.67	29	上飾器 壺	埋土 完形	口 底 11.3 15.7	底 5.0 高 14.9		粗砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部下位に段を作る。口縁部は横ナデ。胸部上位は ナデ、中位から下位はへラナデ、底部はへラ削り。内 面底部から胸部にへラナデ。	
第62回 PL.67	30	上飾器 壺	埋土 口縁部~脚部1/2	口 底 13.6 10.8	脚 17.6 底 10.8		粗砂粒/良好/赤 褐色	口縁部中程に段をつくる。口縁部は横ナデ、胸部はへ ラナデ。器面摩滅のため単位不明。内面は胸部にへラ ナデ。	
第62回 PL.67	31	上飾器 壺	埋土 ほぼ完形	口 底 14.9 16.2	底 6.3 高 17.7		粗砂粒、粗砂粒/ 良好/にふ~黄褐色	口縁部は横ナデ、脚部は上位から下位はへラナデ、中程は器面摩滅のため単位不明。	
第62回 PL.67	32	上飾器 壺	埋土、造模外 1/2	口 底 16.6 26.3	底 7.2 高 34.7		粗砂粒、粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は器面摩滅のため単位不明。下位と底部はへラ削 り。内面は底部から脚部にへラナデ。	
第63回 PL.67	33	上飾器 小型壺	埋土 ほぼ完形	口 底 12.6 14.0	底 5.4 高 12.6		粗砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部から脚部は横ナデ、脚部はへラナデ、中程は器 面摩滅のため単位不明。底部はへラ削り。内面は口縁 部にハケメ。底部から脚部にへラナデ。	
第63回 PL.68	34	上飾器 鉢	埋土、道模外 4/5	口 底 11.8 6.3	高 10.3		粗砂粒/良好/にふ い橙	口縁部から脚部は横ナデ、胸部上位はナデ、中位から 下位と底部はへラ削り。内面は底部から脚部にへラナ デ。	

## 遺物観察表

種類 Pl.No.	種類 器種	出土位置 埋土 裏	出土位置 埋土 裏	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考	
第63回 PL.68	上飾器 裏	埋土 口縁部～胸部 1/3	埋土 口縁部～胸部 1/3	□14.0	細砂粒、粗砂粒/ 良好にぶい赤褐色	頭部外面に接合痕。口縁部外面に横ナデ。胸部外面 弱いへラ削り。胸部内上面には強いへラナデ。	胸部内面剥落 著しい。	
第63回 PL.68	上飾器 裏	埋土 口縁部～胸部 1/3	埋土 口縁部～胸部 1/3	□14.6	細砂粒/良好にぶ い赤褐色	口縁部は横ナデ。胸部はへラ削り。内面は胸部にへラ ナデ。		
第63回 PL.68	上飾器 裏	埋土 ほぼ完形	埋土 胸4.8	□19.7	底 8.0	細砂粒、粗砂粒/ 良好にぶい赤褐色	口縁部は横ナデ。胸部は器面剥離により不鮮明。下位 にはくナデ。底部はへラ削り。内面は底部から胸部にへ ラナデ。	
第63回 PL.68	上飾器 裏	埋土 4/5	埋土 胸2.75	□23.8	高 24.9	細砂粒/良好にぶ い赤褐色	口縁部は横ナデ。胸部はへラナデ。器面摩滅のため單 位不明。内面は底部から胸部にへラナデ。	
第63回 PL.68	上飾器 裏	埋土 ほぼ完形	埋土 上半1/4	□20.5	細砂粒/良好/明赤 褐色	底4.8は外側側器が剥落。口縁部は横ナデ。胸部はへ ラ削り。内面は底4.8から胸部にへラナデ。		
第63回 PL.68	上飾器 裏	埋土 上半1/4	埋土 高(9.9)	□(15.0)	細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤褐色	口縁部外面横ナデ。胸部外面に接合痕が残る。口縁部内面横ナデ。胸 部下面下～上の軸/底4.8へラ削り。内面弱いへラナデ。		
第63回 PL.68	上飾器 裏	埋土 口縁部1/2	埋土 1/2	□23.0	細砂粒、石英粒/ 良好/浅黄褐色	口縁部外面横ナデ。胸部内面にへラ状工具の擦痕 が残る。口縁部外側の形状は下方へ尖る所と丸味のあ る所があり一様ではない。		
第64回 PL.68	上飾器 裏	埋土 底部分	底 高(7.9)	10.0	細砂粒、粗砂粒/ 良好/深赤褐色	内面に接合痕あり。外表面に近い丁寧なへラ削り。 内面強なへラ削り。		
第64回 PL.68	羽口	埋土 破片	長 幅	(5.1) (4.2)	厚 1.2	細砂粒、ローマー ーのような土粒/先 端部はガラス化/ 灰白	成形形崩は観察できないが。外面は横断面が多角形状 になっている。	
第64回 PL.68	須恵器 高杯形器台	埋土 六建物、遺構外 受部分	埋土 1・10号堅	□29.4	底 10.0	細砂粒/還元焰/灰 色	受部分下は明き細め成形。上半はロクロ整形。回転は 右回りか。口唇部は上下に引き出され。口縁部上位に 波状紋が巡り、その下位はカキメ。内面は下に同心円 状カチ貝痕が残る。	
第64回 PL.68	須恵器 無蓋高杯	埋土 六建物 杯部口縁部～胸 部片	埋土 2・2号堅			細砂粒/還元焰/灰 色	ロクロ整形。回転は右回りか。口縁部下に1段の棱を つくる。	
第64回 PL.68	須恵器 高杯形器台	埋土 脚部分				細砂粒/還元焰/灰 色	5区4号遺構出土の高杯形器台と接合。詳細は第5章 第3節参照。	
第64回 PL.68	須恵器 杯身	遺構外 蓋受け～胸部片	受 14.6			細砂粒/還元焰/灰 色	ロクロ整形。回転は右回り。底部から胸部、蓋受けを 成形口縁部を粘付。	
第64回 PL.68	須恵器 無蓋高杯	遺構外 口縁部片				細砂粒/還元焰/灰 色	ロクロ整形。回転は右回りか。口縁部は外反。	
第64回 PL.69	石製品 白玉	埋土 完形	径 高	0.7 0.4	重 0.28	滑石	上面側は略平坦、若い頬条痕が残る。下面側は溝状に 凹み、片斜削する。胸部は太鼓状に膨らみ、斜削する 若い頬条痕が残る。裏面側の孔洞には広がっているが、 円錐形削されたものか。孔径0.3	
第64回 PL.69	石製品 白玉	埋土 完形	径 高	0.7 0.5	重 0.36	滑石	下側とも平坦で、同程度の摩耗状況にある。内面と ともなく溝状の痕跡がある。孔径0.3	
第64回 PL.69	石製品 白玉	埋土 完形	径 高	0.7 0.5	重 0.40	滑石	下面側は右辺側を斜め方向に整形されているほかは略 平坦に研磨。上面側は凹凸がある。胸部研磨痕は斜め 方向だが、胸部中央で若い種を形成する。孔径0.3	
第64回 PL.69	石製品 白玉	埋土 完形	径 高	0.7 0.4	重 0.35	滑石	上・下ともも摩耗し、上面にはやや深い頬条痕が残る。 胸部と接する外輪エッジはシャープで、下面側は浅く 溝状に窪んでいる。孔径0.3	
第64回 PL.69	石製品 白玉	埋土 完形	径 高	0.7 0.4	重 0.34	滑石	上面側は部分的に溝状に窪んでいたが、概ね平坦。裏 面側側面は片傾斜斜、全体としては片側がいたり湾曲す るよう見える。胸部に接する上下面のエッジはシャー プ。孔径0.3	
第64回 PL.69	石製品 白玉	埋土 完形	径 高	0.7 0.3	重 0.28	滑石	上面側は略平坦だが、裏面側は片傾斜する。上・下面 ともも摩耗しており、制部に接する平坦面エッジも弱 く摩耗しているように見える。孔径0.3	
第64回 PL.69	石製品 白玉	埋土 完形	径 高	0.7 0.5	重 0.47	滑石	上面側は平坦だが、下面側は若干だけ頬斜気味。胸部外 面には弱い研磨痕が残る。孔径0.3	
第64回 PL.69	石製品 白玉	埋土 完形	径 高	0.7 0.6	重 0.45	滑石	上面側は平坦で、下面側は片傾斜氣味。断面台形状を 呈し、下面側を折り取る等して素村としたものとみら れる。胸部外側中央の棱は明瞭ではない。孔径0.3	
第64回 PL.69	石製品 白玉	埋土 完形	径 高	0.7 0.5	重 0.42	滑石	上面側は平坦で、下面側は片傾斜氣味。断面台形状を 呈し、下面側を折り取る等して素村としたものとみら れる。胸部外側中央には弱い棱がある。孔径0.3	
第64回 PL.69	石製品 白玉	埋土 完形	径 高	0.7 0.4	重 0.27	滑石	上・下とも平坦で、摩耗する。胸部研磨痕は斜め、達 中右側を突き、中央付近に棱を形成する。	
第64回 PL.69	石製品 白玉	埋土 完形	径 高	0.7 0.5	重 0.37	滑石	上面側は平坦で、胸部と接する外輪エッジは角が取れ ている。裏面側は摩耗しているが、凹面となってしまおり、 孔の穿孔法に関わる可能性がある。孔径0.3	
第64回 PL.69	石製品 白玉	埋土 完形	径 高	0.7 0.5	重 0.34	滑石	上面側は平坦で、下面側は丸レンガ状に窪んでいたが、 摩耗の程度差は指摘できない。制部に付近に弱い棱がある。	
第64回 PL.69	石製品 白玉	埋土 完形	径 高	0.7 0.4	重 0.27	滑石	上面側は平坦で、左側を突き、中央付近に棱を形成する。 上面側は平均で、胸部と接する外輪エッジは角が取れ ている。裏面側は摩耗しているが、凹面となってしまおり、 孔の穿孔法に関わる可能性がある。孔径0.3	

遺物観察表

種類 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	土石/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第664回 PL.69	62	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.4 重0.23	滑石	上面側は平坦、裏面側は片傾斜する。上・下面とも同程度に摩耗しているが、凹凸が残る雰囲気。	
第664回 PL.69	63	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.5 重0.33	滑石	上面側が平坦であるのに対し、下面側は弱く片傾斜する。上下面の摩耗度は同程度で、摩耗状況に差はない。制外中央付近に弱い棱がある。孔径0.3	
第664回 PL.69	64	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.2 重0.17	滑石	上面側は部分的に凹凸が残されているが、研磨され概ね平坦となっている。制部は粗く研磨され、微妙に棱が形成されている。裏面は片傾斜する。孔径0.3	
第665回 PL.69	65	石製品 白玉	埋土 一部欠損	径0.7 高0.3 重0.14	滑石	上面は平坦だが、下面は斜め片傾斜する。上・下面外縁と制部の接する辺はシャープで、棱の摩耗は見られない。制部研磨痕は斜め方向。孔径0.3	
第665回 PL.69	66	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高(0.3) 重0.12	滑石	上面は平坦で、摩耗が明らか。上面同様に制部と接する外縁エッジおよび下面部分の裏面はシャープで、鋒利に見える。孔径0.3	
第665回 PL.69	67	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.5 重0.32	滑石	上面側が平坦であるのに対し、下面側は弱く片傾斜する。制部研磨痕は直角に施される。	
第665回 PL.69	68	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.5 重0.39	滑石	上面は平坦で、ごく弱い線条痕が残る。下面側は片傾斜が強くなる。下面側周辺には切断時の跡跡とみられる凹凸が残る。孔径0.4	
第665回 PL.69	69	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.4 重0.12	滑石	上面側に浅く溝状や窪んだ部分があるほかは、概ね平坦で研磨されている。断面形状はV字形を呈し、裏面側は直角状に削り、弱く摩耗する。孔径0.4	
第665回 PL.69	70	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.6 重0.40	滑石	上面は平坦で、制部と接するエッジはシャープ。これに対し下面側はV字が激しい。このV字は棱が摩耗しているが、平坦部となるよう研磨はされていない。制部は研磨痕で削り、棱が形成されている。孔径0.3	
第665回 PL.69	71	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.3 重0.22	滑石	断面形状を呈し、上面側が抉り、上・下面とも摩耗、摩耗の差は見られないが、断面直角(太股)状を呈した臼を分割したように見える。	
第665回 PL.69	72	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.5 重0.35	滑石	上面側は片傾斜気味で、下面側は孔を挟んで浅く溝状に窪んだ部分があり、これが工具痕になる可能性がある。制外側面の棱は不規則。	
第665回 PL.69	73	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.4 重0.28	滑石	上面側が平坦で棱の摩耗するのに対して、下面側は円凸状である。上・下面とも風化状態に変わらない。制部研磨痕は同方向だが、棱を形成する。孔径0.3	
第665回 PL.69	74	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.4 重0.29	滑石	上・下面とも平頂で、風化・光沢感は変わらない。両面とも制部と接する外縁はシャープ。制部研磨痕は途中で面が変わり、稜形成。断面はV字型。孔径0.3	
第665回 PL.69	75	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.4 重0.26	滑石	上・下面とも平頂で、風化・光沢感は変わらない。両面とも制部と接する外縁はシャープ。制部には弱い棱がある。断面形状はV字型。孔径0.3	
第665回 PL.69	76	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.3 重0.21	滑石	上面は平坦だが、上面側が片傾斜するタイプの白玉。裏面側は円レンズ状に窪んでいる。制部研磨痕は粗く、中段付近で棱を形成する。孔径0.3	
第665回 PL.69	77	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.4 重0.28	滑石	上面側は比較的の平頂で、裏面側は円レンズ状に別れている。制部研磨痕は粗く、中央付近に叩たたいた棱を形成している。孔径0.3	
第665回 PL.69	78	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.4 重0.29	滑石	上面側は平坦で研磨されているが、裏面側は片傾斜しており、そのまま円凸が残されている。制部研磨痕は粗く、制部中央付近に弱い棱を形成している。孔径0.3	
第665回 PL.69	79	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.3 重0.20	滑石	上・下面とも平頂で、風化・光沢感は変わらない。両面とも制部と接する外縁はシャープ。制部研磨痕は途中で面が変わり、稜形成。	
第665回 PL.69	80	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.4 重0.20	滑石	下面外縁の破損部に剥離時、破損部の棱が摩耗してエッジが現れる。断面はV字型。孔径0.3	
第665回 PL.69	81	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.3 重0.19	滑石	最大限は下面最大輪印と同じ。下面より、上面の風化が進む。上・下面とも柔軟性より摩耗痕が卓立。制部の研磨痕は斜め方向。部分的に棱形成。孔径0.3	
第665回 PL.69	82	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高(0.3) 重0.17	滑石	上面側は平坦に研磨整形されているが、裏面側は片傾斜で棱がある。制部研磨痕は粗く雑だが、中央付近に叩たたいた棱を形成する。孔径0.3	
第665回 PL.69	83	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.4 重0.23	滑石	上面側が平坦で、棱が摩耗するのに対して、下面側は円凸があり風化が強い。制部研磨痕は同方向だが、微妙に面が異なり、棱を形成する。孔径0.3	
第665回 PL.69	84	石製品 白玉	埋土 完形	径0.8 高0.3 重0.18	滑石	上面側は平坦だが、下面側が片傾斜するタイプの白玉。制部と接する上・下面外縁のエッジの摩耗は同程度で、差はない。孔径0.3	
第665回 PL.69	85	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.4 重0.26	滑石	片面側が平坦で、制部側が片傾斜する白玉。上面側は浅く窪んだ跡跡が残る。制部には弱い研磨痕が残る。孔径0.3	
第665回 PL.69	86	石製品 白玉	埋土 完形	径0.7 高0.3 重0.25	滑石		

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第65回 PL.69	87	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.6 0.5	重 0.29	滑石	上面側の片傾斜は明らかであるが、裏面側にもその可能性は否定できない。制部の研磨痕は粗略を残す程度に残している。孔径0.4
第65回 PL.69	88	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.2	重 0.18	滑石	上・下面とも似た風化状況で、継条痕より摩耗痕が卓越する状況も変わらない。上・下面とも制部に接する辺縁はシャープ。制部研磨痕は斜め方向。孔径0.3
第65回 PL.69	89	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.3	重 0.2	滑石	上面側の継条痕があり光沢があるのにに対して、下面の研磨痕は弱く、新鮮に見える。制部研磨痕は上・下面で方向が異なる。断面は片傾斜する。孔径0.3
第65回 PL.69	90	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 (0.5)	重 0.34	滑石	上面側は平坦に研磨されている。下面側も研磨されているが、研磨が難しく、凹凸は解消されていない。制部には斜め方向の研磨痕が残されている。孔径0.3
第65回 PL.69	91	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 (0.5)	重 0.34	滑石	上・下面とも片傾斜しており、同程度に摩耗する。制部の研磨痕は摩耗して研磨程度を止まる。孔径0.3
第65回 PL.69	92	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.4	重 0.29	滑石	片側が平坦で、別の片側が片傾斜する白玉。裏面側には先端の彫り工具を押し込んだような研磨痕が残る。制部には粗い研磨痕、中央付近に棱形成。
第65回 PL.69	93	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.5	重 0.33	滑石	上面側は平坦だが、下面側は凹レンズ状に窪む。上下面とも摩耗が同程度で、大きな差はない。制部は粗く研磨される。孔径0.4
第65回 PL.69	94	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.3	重 0.16	滑石	上面側は平面で、全体として凹レンズ状になる点で、白玉を分割したのかもしれない。孔径0.3
第65回 PL.69	95	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.4	重 0.25	滑石	上・下面とも平坦で、摩耗差なく仕上がる。孔の周囲には両面とも浅く凹んだ部分があり、これが工具痕になる可能性も否定できない。孔径0.3
第65回 PL.69	96	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.2	重 0.18	滑石	上・下面とも略平坦に整形研磨。外縁のエッジは回程度・摩耗状態となっているが、台形状を呈す断面形状から、白玉を分割している可能性もある。孔径0.3
第65回 PL.69	97	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.5	重 0.39	滑石	片側が片傾斜気味なので、両面とも摩耗の程度ではない。制部外縁の研磨痕は粗く中央付近で方向を変えているが、棱を形成するほどではない。孔径0.3
第65回 PL.69	98	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.4	重 0.27	滑石	両面とも平坦だが、下面側平坦面と制部の接する外縁エッジは粗く摩耗して棱が取れる。制部研磨痕は粗く、制部中央には弱い棱が残っている。孔径0.3
第65回 PL.69	99	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.6	重 0.45	滑石	孔径0.3
第65回 PL.69	100	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.6	重 0.26	滑石	上面側は平坦で、裏面側が片傾斜する。制部研磨痕は上半側と下半側で若干方向が異なっており、弱い棱を形成する。孔径0.3
第65回 PL.69	101	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.4	重 0.25	滑石	下面側が片傾斜気味だが、上面側に摩耗の程度差はない。制部外縁には粗い研磨痕が残されているが、棱を形成するほどではない。孔径0.4
第65回 PL.69	102	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.3	重 0.19	滑石	上面側は平坦で、裏面側は片傾斜する。制部に接する上面側外縁エッジは下面側外縁エッジに比べ摩耗しているように見える。断面台形状を呈する。孔径0.3
第65回 PL.69	103	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.3	重 0.2	滑石	上面側が平坦で、裏面側が片傾斜するタイプ。裏面側は摩耗はしているが、継条痕は見られない。制部外縁には粗い研磨痕が残る。孔径0.3
第65回 PL.69	104	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.2	重 0.09	滑石	上面は光沢があり、継条痕が残り、下面側は片傾斜する。制部に接する種はシャープ。上・下面是継条痕より摩耗痕が目立つ。孔径0.3
第66回 PL.69	105	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.5	重 0.41	滑石	上面には孔辺凹陷入となり、片傾斜気味。上下面で摩耗状況の差はない。制部外縁の研磨痕は粗い。孔径0.3
第66回 PL.69	106	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.3	重 0.21	滑石	上面側は平坦であるに対し、裏面側が片傾斜するタイプの白玉。摩耗は下面側が顕著で、上面側の摩耗は弱い。孔径0.3
第66回 PL.69	107	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.3	重 0.16	滑石	上面は光沢があり、下面に比べ摩耗しているように見える。制部研磨痕は上・下面で方向が異なり、棱を形成する。断面厚は左方に違い、台形状を呈する。孔径0.3
第66回 PL.69	108	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.5	重 0.38	滑石	上・下面とも平坦だが、上面側が若干片傾斜気味になる。制部には斜面内の粗い研磨痕が残る。孔径0.3
第66回 PL.69	109	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.6	重 0.48	滑石	上・下面とも平坦。上面側が若干片傾斜気味で、下面側は強く溝状に窪む。制部には斜面する粗い研磨痕が残る。孔径0.3
第66回 PL.69	110	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.6	重 0.4	滑石	上面側は平坦だが、下面側は片傾斜する。制部外縁には粗い研磨痕が残り、中央付近は弱い棱となる。孔径0.4
第66回 PL.69	111	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.3	重 0.23	滑石	上・下面とも平坦で、摩耗痕が全面を覆い、丁寧に仕上がっている。制部外縁に粗い研磨痕が残り、中央付近には弱い棱が形成されている。孔径0.4
第66回 PL.69	112	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.3	重 0.18	滑石	上面側は平坦で、裏面側が片傾斜する。摩耗の程度差はない。制部研磨痕は向かっているが、上半部と下半部では方向が複雑に異なる。

遺物觀察表

種類 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考	
第66回 PL.69	113	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.3	重 0.34	滑石	上面側は平坦で、裏面側が片傾斜する傾向は変わらない。胸部研磨痕は上半部と下半部で若干方向が異なり、弱いV字を形成する。孔径0.3	
第66回 PL.69	114	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.2	重 0.13	滑石	上・下面とも似た風化状況で、継ぎ痕より摩耗痕が卓越する状況も変わらない。胸部研磨痕は同じ方向だが微妙な方向が異なり、種をなす。孔径0.3	
第66回 PL.69	115	石製品 白玉	埋土 完形	径 高 0.7 0.4	重 0.3	滑石	上面側は平坦で、裏面側が片傾斜する。摩耗の程度差はない。胸部研磨痕は斜に向しているが、上半部と下半部では方向が微的に異なる。孔径0.3	
第66回 PL.69	116	石製品 石製模造品 崩形	埋土	長 幅 (2.0) (1.2)	厚 重 0.4 1.29	滑石	左辺側を欠き全様子不明だが、右辺の長い整形痕を重现して倒形模造品を擬える。表面側とも斜向する継ぎ痕が残る。孔は竹脚空孔。	
第66回 PL.69	117	粒状物	埋土	長 幅 1.6 1.1	厚 重 0.7 1.6	砂岩	礫形状は裏面側が平坦で、背面側に棱を持った円錐。斜面側に隙があり、全面に光沢がある。	
第66回 PL.69	118	粒状物	埋土	長 幅 1.3 1.0	厚 重 0.7 1.22	砂岩	砂岩特有のザラッとした感が見られず、全体的に光沢感がある。	
第66回 PL.69	119	粒状物	埋土	長 幅 1.0 1.0	厚 重 0.8	チャート	小形円錐で、色調は赤褐色の強い茶褐色。黒色の縞状構造を取り込み、全面に強い光沢がある。	
第66回 PL.69	120	石製品 台石	埋土 完形	長 幅 33.3 28.5	厚 重 15.5 23500	粗粒輝石安山岩	全面に平滑面をもつ原石で、表面面が認められる。一側面に磨り面が形成され、作業用台石の転用の可能性がある。	
7区1号墓								
種類 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考	
第72回 PL.69	1	土師器 杯	埋土 口縁部1/4	口径 高 12.0 (4.0)		細砂粒、 赤褐色粗砂粒/良好/相 好/相	口縁部内外面横ナデ。外面制部下部に弱い手持ちヘラ削りを施すが不明瞭。内面左傾斜放射状へら磨き。	
第72回 PL.69	2	土師器 杯	埋土 口縁部1/6、底 部1/4	口径 高 13.0 5.0		細砂粒、 赤褐色粗 砂粒/良好/相	外面口縁部横ナデ。制部上端に無調整部分が残り、その上は手持ちヘラ削り。内面横ナデの上に制部に左傾斜放射状へら磨き。	
第72回 PL.69	3	土師器 杯	埋土 口縁部～制部下 位1/4	口径 高 14.0 (4.7)		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒少 少/良好/明赤褐	外面口縁部～制部上端横ナデ。制部手持ちヘラ削り。内面横ナデの上に制部左傾斜放射状のヘラ磨き。	
第72回 PL.69	4	土師器 杯	埋土 口縁部～底部 1/3	口径 高 (11.4) (4.5)		細砂粒、 赤褐色粗 砂粒、混入物少 少/良好/明赤褐	外面口縁部横ナデ。底部手持ちヘラ削りが不明瞭。外側横ナデ。	外面底部縫部削除。
第72回 PL.69	5	土師器 杯	埋土 口縁部小片			細砂粒、赤褐色粗 砂粒/良好/にふ 赤褐色	外面口縁部横ナデ。制部中位に手持ちヘラ削りを施すが不明瞭。内面横ナデの上に口縁部～制部に右傾斜放射へら磨き。	推定口径13cm 前後。外面一部削落。
第72回 PL.69	6	土師器 杯	埋土 口縁部～制部中 位1/4			細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/相	外面口縁部～制部上端横ナデ。制部上位無調整。制部中位手持ちヘラ削り。内面横ナデの上に制部に右傾斜放射付のヘラ磨き。	推定口径11.6cm。
第72回 PL.69	7	土師器 高杯	埋土 口縁部若干、制 部1/4			細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/相	口縁部外面および正面全面右回転利用横ナデ。外面制部倒置状態での右回転利用ヘラ家削り。	
第72回 PL.69	8	土師器 高杯	埋土 口縁部～制部小 片			細砂粒や多、混 入人物少/良好/混 入赤褐色	外面口縁部横ナデ。制部付近に手持ちヘラ削りを施すが不明瞭。内面横ナデ。	推定口径13cm 前後。
第72回 PL.69	9	土師器 高杯	埋土 口縁部小片			細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/相	口縁部内外面横ナデ。	推定口径18cm 前後。
第72回 PL.69	10	土師器 高杯	埋土 口縁部小片			細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/相	口縁部内外面横ナデ。内面右傾気味放射状のヘラ磨き。	推定口径18cm 前後。
第72回 PL.69	11	土師器 鉢か	埋土 口縁部小片			細砂粒、混入物少 少/良好/にふい黃 褐色	外面口縁部横ナデ。制部上位で縦位の手持ちヘラ削り。内面口縁部横ナデ。制部ヘラナデと思われるが不明瞭。	推定口径15cm 前後。
第72回 PL.69	12	土師器 鉢	埋土 口縁部～制部 1/3			細砂粒多、他の混 入人物少/良好/にふ い黃褐色	口縁部内外面横ナデ。外面制部に弱い手持ちヘラ削りが不明瞭。内面制部削りヘラナデ。	推定口径15cm 前後。
第72回 PL.69	13	土師器 鉢	埋土 口縁部小片			細砂粒、粗砂粒、 石英/良好/相	口縁部内外面横ナデ。外端部にはカキ目状の整美な擦痕が残る。	口縁部上端や 底齊磨
第72回 PL.69	14	土師器 高杯	埋土 口縁部小片			細砂粒、粗砂粒/ 良好/相	口縁部内外面横ナデ。	推定口径17cm 前後。
第72回 PL.69	15	土師器 高杯	埋土 口縁部小片			細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/相	口縁部形、回転は右回り。口縁部に断面四角形の小凸部を貼付か。内面は内傾する平坦面をつくる。	推定口径14cm 前後。
第72回 PL.69	16	土師器 高杯	埋土 口縁部小片			細砂粒多、混人物 少/良好/にふい黃 褐色	口縁部内外面横ナデ。	断面灰色味帯 びる。
第72回 PL.69	17	須恵器 無蓋高杯	埋土 杯部口縁部小 片	口径 13.7		細砂粒/還元焰/黃 褐色	ロクロ形、回転は右回りか。口縁部下に凸帶をつくり、制部に波状文が残る。	
第72回 PL.69	18	須恵器 無蓋高杯	埋土 杯部口縁部～制 部片			細砂粒/還元焰/黃 褐色		

## 遺物観察表

種 国 Pl.No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第72回 PL.69	須恵器 高杯	埋土 口縁部小片		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ形、回転は右回りか。口脣部には段を作り、先端を尖らせる。	
第72回 PL.69	須恵器 無蓋高杯	埋土 杯部口縁部小片		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ形、回転は右回りか。口縁部下に2条の小凸帯をつくる。上位の凸帶は断面四角形を呈し貼付か。下位は削り出しがある。	
第72回 PL.69	須恵器 無蓋高杯 蓋 か	埋土 天井部小片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面には同心円状アテ具痕が残る。	

## 7区5号遺物集中

種 国 Pl.No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第73回 PL.70	1 上師器 鉢	埋土 口縁部～脚部片	口 14.3 底 14.6	細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤褐色	口縁部は横ナデ、脚部はヘラ削り後ヘラナデ、単位不明。内面は脚部にヘラナデ。	
第73回 PL.70	2 上師器 杯	埋土 3/4	口 13.3 底 14.0	高 12.3 細砂粒、粗砂粒/ 良好/にぶい黄 灰	口縁部から脚部は横ナデ、脚部から底部はヘラ削り。内面は底部から脚部にヘラナデ、表面が荒れており単位不明。	
第73回 PL.70	3 上師器 瓶か	埋土 3/4	口 18.5 底 8.2	高 28.2 細砂粒/良好/にぶ い黄	口縁部から脚部は横ナデ、脚部は上半がヘラナデ。下半はヘラ削り、中位は器面摩滅のため単位不明。内面は脚部にヘラナデ、内面も中程は器面摩滅のため単位不明。費の転用の可能性あり。	

## 7区5号施上

種 国 Pl.No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第74回 PL.70	1 上師器 口上師 器 高杯	埋土 口縁部～脚部片	口 32.9	細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色和砂粒/良 好/赤褐色	外画面横ナデ。タガ合接にはアテ具使用し、下側にヘラ削りのような擦痕が残る。内面横ナデの上に左斜傾斜のヘラ磨き。	

## 7区1号竪穴建物

種 国 Pl.No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第79回 PL.70	1 上師器 杯	周溝 口縁部1/3、底 部1/2	口 (14.0) 高 6.2	細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤褐色	外画面横部上端のみ横ナデで脚部の大半は無調整、底部手持ちヘラ削り。内面横ナデの上にまばらに不規則な放射状ヘラ磨き。	断面は黒色味帯びる。
第79回 PL.70	2 上師器 杯	埋土 口縁部1/6、底 部1/4	口 (11.0) 高 (4.6)	細砂粒、赤褐色和 砂粒/良好/赤褐色	外画面横部横ナデ。脚部弱手持ちヘラ削りが不明瞭。内面横ナデの上に左傾斜放射状ヘラ磨き。	外画面脚部にスヌットの付着物。
第79回 PL.70	3 上師器 杯	坂方 口縁部1/6、底 部1/4		細砂粒、粗砂粒/ 良好/赤褐色	外画面横部横ナデ。底部弱手持ちヘラ削り。内面全周横ナデ。	破損後に被覆。
第79回 PL.70	4 上師器 杯	床直 口縁部～脚部下 端1/3	口 (14.0) 高 (5.3)	細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色和砂粒/良 好/にぶい赤褐色	外画面横部無横ナデ。無調整部分をほとんど残さず脚部より手持ちヘラ削り。内面横ナデの上に右傾斜放射状ヘラ磨き。	外画面黒色味帯びる。
第79回 PL.70	5 上師器 杯	埋土 1/3		細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色和砂粒/良 好/明赤褐色	外画面横部～脚部下端横ナデ。無調整部分を残さず脚部より手持ちヘラ削り。内面横ナデで脚部に左傾斜放射状ヘラ磨き。	推定口径13cm 前後。
第79回 PL.70	6 上師器 杯	埋土 2/3	口 (14.0) 高 4.7	細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色和砂粒/良 好/赤褐色	外画面横部横ナデ。脚部上端無調整。脚部中位以下手持 ちヘラ削り。内面横ナデの上に脚部にやや幅太の右傾斜放射状ヘラ磨き。	
第79回 PL.70	7 上師器 杯	床直 口縁部小片		細砂粒、混入物少 /良好/橙	外画面横部横ナデ。底部手持ちヘラ削り。内面全面横 ナデ。	
第79回 PL.70	8 上師器 杯	埋土、道模外 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒/ 良好/暗赤褐色	外画面横ナデ。残存部分にヘラ削りの痕跡なし。内面横 ナデ。	推定口径14cm
第79回 PL.70	9 上師器 杯	周溝 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒、 鉛石/良好/にぶい 黄褐色	口縁部下端に2条の突縫。内外面とも横ナデで残存部 分には外面にもヘラ削りの痕跡なし。	推定口径14cm 前後。口縁部内端やや磨 減。
第79回 PL.70	10 上師器 高杯	埋土 杯部3/4	口 18.0 高 (7.1)	細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色和砂粒/良 好/橙	口縁部外面左傾気味の放射状ヘラ磨き。底部外面横ナ デが中央部分は無調整、内面口縁部左傾の斜放射状 ヘラ磨きで一部放射状となっている。内底部一方傾 向のヘラ磨き。脚部内面はホソを指すて押し潰す。	
第79回 PL.70	11 上師器 高杯	埋土 杯部1/3	口 18.2 高 (6.5)	細砂粒、赤褐色和 砂粒/良好/橙	口縁部外面横ナデ。内面左傾の斜放射状ヘラ磨きが 一部で残存するが不平整。内底部分方向不定のナデ。	杯部内面は器 表が薄く剥 がれた可能性。
第79回 PL.70	12 上師器 高杯	埋土 脚柱部片	高 (9.5)	細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色和砂粒/良 好/明赤褐色	内底部分ナデで平滑。脚部外面右傾氣味位へラ磨き。 脚柱部内面長身工具によるヘラ削り。脚部横ナデ。	
第79回 PL.70	13 上師器 高杯	埋土 脚柱部片		細砂粒、赤褐色和 砂粒少/ごく良好/ 明赤褐色	脚柱部外面横ナデ。内面長身工具によるヘラ削り。	
第79回 PL.71	14 上師器 高杯	埋土 脚部1/4	底 (14.0) 高 (4.1)	細砂粒、石英粒/ 良好/橙	内外面とも左回転利用の横ナデ。部の張り出しがな い。接地面は平坦。	推定径14.0 cm。
第80回 PL.71	15 上師器 高杯	埋土 脚部片		細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤褐色	内外面とも右回転利用の横ナデ。	推定径11.0 cm。

## 遺物観察表

種 国 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第80回 PL.71	16 上師器 甕	埋土 口縁部～胴部中 位1/4	口 高 16.0 (10.5)	細砂粒、粗砂粒 石英/良好/明赤褐色	外面部縁部～胴部上端横ナデ。肩部ハケ目状擦痕が残る ハラ削り。肩部内面は外面以上に顯著なハケ目。	ハケ目は15mm 幅に溝7条。
第80回 PL.71	17 上師器 甕	周溝 口縁部～肩部 1/6		細砂粒、粗砂粒等 や多/良好/褐	外面部横ナデで無い擦痕巡る。内面部縁部横ナデ。肩部 内面は口縁部接合時の粘土上にはみ出し部分を削りに近い粒 いハラナデ。	推定口径18.5 cm。
第80回 PL.71	18 上師器 甕	埋土 口縁部1/4		細砂粒、粗砂粒/ 良好/褐	口縁部外面部横ナデ。外面肩部上端に手持ちヘラ削り。 内面部縁部端上側に肥厚。	推定口径17cm 前後。肩部内 面磨滅。
第80回 PL.71	19 上師器 杯	埋土 口縁部～底部 1/6		細砂粒、粗砂粒/ 良好/赤褐色	口縁部外面部横ナデ。外面胴部手持ちヘラ削り。内面 胴部幅広工具の横擦へラナデ。	推定口径12cm 前後。
第80回 PL.71	20 上師器 甕	埋方 口縁部小片		細砂粒多、粗砂粒 ごく良好/にぶい 橙	外面部口縁部上端横ナデ。直下よりハケ目状の擦痕が残 る横擦の手持ちヘラ削り。内面は上端までハケ目状の 擦痕が残る。	推定口径19cm 前後。ハケ目 は14mm幅に溝 6条。
第80回 PL.71	21 上師器 杯	埋土 口縁部1/6		細砂粒多、粗砂粒/ 良好/好暗紅	口縁部外面部横ナデ。外面胴部手持ちヘラ削り。胴部 内面横擦へラナデ。	推定口径4cm 前後。
第80回 PL.71	22 上師器 有孔鉢か	周溝 1/4		細砂粒、粗砂粒 石英、輝石/良好 赤	口縁部端部内外面とも横ナデ。胴部外面ごく弱いヘラ 削り。内面部へラ状工具が残る横ナデ。	内面下方に灰 白色の付着物。
第80回 PL.71	23 上師器 杯	埋土 口縁部～胴部上 半1/6		細砂粒多、粗砂粒/ 良好/黑褐色	外面部口縁部横ナデ。胴部強い手持ちヘラ削り。内面部 縁部横ナデ。胴部削りに近い横擦へラナデ。	推定口径16cm 前後。内面色 調明度高い。
第80回 PL.71	24 上師器 甕	埋土 底部片	底 7.0 高 1.3	細砂粒、粗砂粒/ 石英/良好/にぶい 橙	内底面へラ工具使用の方向不定ナデ。胴部下端に暗 い斜め手削りで内付近に削り跡なし。外底強かな手持ちヘラ削り で中央付近に削り跡なし。部分あり。	内面黒色味を 帯びる。
第80回 PL.71	25 石製品 臼玉	周溝 完形	径 0.6 高 (0.3)	重 0.14	滑石	上面側は平坦だが、下面側は片傾斜する。上面側に比 べて、下面側擦耗は強い。孔径0.3
第80回 PL.71	26 石製品 石製模造品	埋土 石製模造品一部欠損	長 (2.9) 幅 2.6	厚 0.4 重 80.5	滑石	手門側は石製模造品。左辺側は直線的だが、右辺側は 多角形となる。表面裏とも粗い擦痕痕が残る。孔は片 側穿孔によるものか。孔径0.2

7区2号竪穴建物

種 国 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徵	備 考	
第83回 PL.71	1 上師器 杯蓋	床直 口縁部1/8	口 13.0 高 4.8	細砂粒、粗砂粒/ 良好/にぶい/褐	外面部縁部～縁部上で右回転利用横ナデ。右回転利用 ヘラ削り。外面部右回転利用同心円状ナデ。		
第83回 PL.71	2 上師器 杯	周溝 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色粗砂粒/良 好/褐	外面部1部横ナデ。胴部ごく弱い手持ちヘラ削り。内面部 縁部横ナデ。胴部削りに近い横位へラ磨き。		
第83回 PL.71	3 上師器 杯	周溝 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色粗砂粒/良 好/褐	口縁部端部外面部横ナデ。胴部外面部横ナデ。下半 手持ちヘラ削り。内面部横ナデの上に右袖の斜放 削りへラ磨き。		
第83回 PL.71	4 上師器 杯	周溝 口縁部小片		細砂粒、石英まじ りの粗砂粒/良好 明赤褐色	口縁部内面および内底は右回転利用の横ナデか。外 底は倒置で右回転利用のヘラ削り。薄手。	推定口径19cm 前後。	
第83回 PL.71	5 上師器 高杯	周溝 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色粗砂粒/良 好/赤褐色	外面部横ナデ。内面部左縫の斜放削りへラ磨き。下端 削りは平坦で乾燥がかなりすんだ状態で接合したもの のか。厚手。		
第83回 PL.71	6 上師器 杯	周溝 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒/ 石英/良好/明赤褐色	内面とも右回転利用と思われる横ナデ。内面黒色 化の可能性。	内面黒色味を 帯びる。推定 口径15cm前 後。	
第83回 PL.71	7 上師器 高杯	周溝 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色粗砂粒/良 好/明赤褐色	外面部とも丁寧な横ナデ。内面に弱い斜削の右袖斜 削りへラ磨きやや薄手。		
第83回 PL.71	8 上師器 脚付楕か	埋土 脚柱部		細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色粗砂粒等 や多/良好/明赤褐色	内底は丁寧なナデで平滑。低割見か。脚部外面部丁寧な 横ナデ。内面丁寧な横ナデだが奥部は無調整。		
第83回 PL.71	9 上師器 甕	埋土 ほぼ完形	口 9.1 胴 11.5	高 10.4	細砂粒/良好/にぶ い赤褐色	口縁部は右縫のハラミガキ。胴部上半は左縫のハラミ ガキ。胴部下半から底部はヘラ削り。内面は口縁部に ハラミガキ。器面が荒れており単位不明。底部から胴 部へラナデ。	
第83回 PL.71	10 上師器 鉢	埋土 上半1/3		細砂粒、粗砂粒多 /良好/灰褐色	口縁部の横ナデ確々。外面部接合痕が残る。胴部幅広工 具の倒伏手持ちヘラ削りで、器面は比較的の平滑。胴部 内面は横ナデの上に器面を若干削りほど強いヘラナデ。	口縁部外端に 刻目状の線み あり。推定口 径22cm前後。	
第83回 PL.71	11 上師器 鉢	周溝、椭方、埋 土 口縁部～肩部 1/4		細砂粒、粗砂粒/ 良好/赤褐色	口縁部外面部とも横ナデ。肩部外面部弱い丁寧な手持 ちヘラ削りで、器面は比較的の平滑に仕上げる。内面ヘラ 削りのよう工具利用の淮いナデ。	推定口径15cm 前後。	
第83回 PL.71	12 上師器 甕か	周溝 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒等 多く良好/に ぶい黄褐色	外面部口縁部横ナデ。底部付近から幅広工具による横位 の強い手持ちヘラ削り。内面口縁部横ナデで胴部には 上側から帶状にはみ出た粘土が見られる。	内面にモニ 穂。推定口径 18cm前後。	

## 遺物観察表

種 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第83回 PL.71	13	須恵器 杯身	床直 3/4	口 受 10.6 13.3	高 5.4 細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ形、回転は右回り、底部から蓋受けまでを成 形後蓋受けの内側に口縁部を貼付するように成形。底 部は回転へラ削り。口部は内縮する平坦面をつくる。	
第83回 PL.71	14	須恵器 杯身	床直 口縁部～底部片	口 受 13.0 15.2	細砂粒・還元焰/灰 灰	ロクロ形、回転は右回り、底部から蓋受けまでを成 形後蓋受けの内側に口縁部を貼付するように成形か。 底部は回転へラ削り。口部は内縮する平坦面をつくる。 その下位に凹部を造らす。	
第83回 PL.71	15	須恵器 有蓋高杯	圓溝、埋土上、4 号窓穴建物周 溝、2号窓穴建 物集中、道構 外、杯部1/3片	口 縫 14.2 14.2	横 3.3 細砂粒・還元焰/灰 灰	ロクロ形、回転は右回り。天井部は回転へラ削り。 口縁部上に棱をつくる。摘はボタ状の粘土板を貼付 し周縁を僅かにつぶみ上げている。内面中程に同心円 状アテ具痕が残る。外腹天井部に隙が付着。	
第83回 PL.71	16	須恵器 無蓋高杯	圓溝、4号窓穴 建物周溝、2号 窓穴建物集中、道 構外、杯部1/3片	口 縫 13.8 12.8	細砂粒・還元焰/灰 白	ロクロ形、回転は右回り。口縁部下に棱をつくる。 底部は回転へラ削り。脚部は貼付、脚上端径は5.0cm。 口縁部はやや外反し、端部は丸く作る。	
第83回 PL.71	17	須恵器 高杯	埋土 脚部片		細砂粒・還元焰/灰 白	ロクロ形、回転は右回り。杯部とは貼付。脚端部の 脚部をつまみ上げて脚を造らす。脚柱部下位に円形 の孔を3方に穿る。	16と同じ体 か。

## T-X 3号窓穴建物

種 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第86回 PL.72	1	土師器 杯	埋土 口縁部片		細砂粒、赤褐色 砂粒/良好/橙	口縁部横ナデ、外底強い手持ちへラ削り。内面間隔の あたる右縫斜放付は手持ちへラ削り。	推定口径13cm 前後。
第86回 PL.72	2	土師器 杯	埋土 口縁部片		細砂粒、赤褐色 砂粒や多/良好/ 明赤	口縁部横ナデ。底部は幅かな手持ちへラ削りで、 縫辺に無調整部分が残る。内面丁字手横ナデで平滑に 上げた上に口縁部右縫の斜放射状のへら磨き。	推定口径12cm 前後。
第86回 PL.72	3	土師器 杯	周溝 口縁部片		細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤	口縁部外面横ナデ。底部ナデつけるような弱い手持ち へラ削り。内面全横ナデ。	推定口径13cm 前後。
第86回 PL.72	4	土師器 杯	周溝 杯部 高杯	口 15.9	輝石、石英まじ の粗砂粒や多/良 好/明赤	口縁部外面上は回転利用と思われる横ナデ。下平 は同じ回転利用へラ削り。内面は回転利用と思わ れ横ナデ後、底部にはハケ目状の擦痕が一部に残る へラ磨き。	
第86回 PL.72	5	土師器 杯	埋土 口縫部2/3片	口 14.0 高 5.6	細砂粒、赤褐色粗 砂粒や多/良好/ 白	内側口縫、外側口縫部横ナデ。底部弱い手持ちへラ削り。 内面脚部上半に右縫斜放射状へら磨きが確認できる。	内面の剥落顯 著。
第86回 PL.72	6	土師器 杯	埋土 1/8		細砂粒、粗砂粒少 く/良好/白	内側口縫、口縫部横ナデ。外面手持ちへラ削りだが口 縫右縫斜放射状のへら磨き。	
第86回 PL.72	7	土師器 杯	周溝 口縁部片		細砂粒、赤褐色粗 砂粒/良好/明赤	内側口縫、口縫部横ナデ。外面手持ちへラ削りだが口 縫部下に無調整部分が残る。内面丁寧な横ナデの上 に右縫斜放射状へら磨き。下から上へのハラ痕が一 部で確認できる。	推定口径13cm 前後。
第86回 PL.72	8	土師器 杯	埋土 口縁部片		細砂粒、粗砂粒や 多/良好/明赤	内側口縫。口縫部端横ナデ。外底やや強い手持ちへ ラ削り。内面横ナデで器面平滑に整えた上に右縫斜放 射状のへら磨き。	
第86回 PL.72	9	土師器 杯	埋土 口縁部片		細砂粒、粗砂粒や 多/良好/明赤	内側口縫で外縫は平坦。外面手持ちへラ削り。内面横 ナデで器面平滑に整えた上で上半にのみ右縫斜放射 状のへら磨き。	
第86回 PL.72	10	土師器 杯	埋土 1/4	口 14.0 高 (5.3)	細砂粒、赤褐色粗 砂粒/良好/明赤	口縫部外側面とも横ナデ。底部不明。	外底および内 面口縫部下位以下 の剥落顯著。
第86回 PL.72	11	土師器 高杯	埋土 杯部1/2	口 (17.0) 高 (6.5)	細砂粒、粗砂粒、 輝石/良好に/5.5 明赤	口縫部外面横ナデ。底部強な手持ちへラ削り。内面横 ナデの上に口縫部下半から底部にかけてハケ目状の擦 痕の残るへラ磨き。	内底部にスス 付着。
第86回 PL.72	12	土師器 高杯	埋土 脚部3/4		細砂粒、粗砂粒/ 良好に/5.5/白	内外面とも左回転利用の横ナデで織かな擦痕が残る。	
第86回 PL.72	13	土師器 高杯	周溝 脚部1/2		細砂粒、粗砂粒、 輝石/良好/白	内外面とも左回転利用と思われる横ナデ。脱い擦痕が 同じ対称に残る。	
第86回 PL.72	14	土師器 鉢	周溝 口縫部～脚部 1/4		細砂粒、粗砂粒や 多/良好/にぶ 開	口縫部内外面横ナデ。脚部外面弱い手持ちへラ削り。 内面もへラ状の工具使用と思われるナデ。	
第86回 PL.72	15	土師器 壺か	埋土 1/3	口 (8.0) 高 (15.3)	細砂粒、混入物少 く/良好に/ふく 開	外側口縫部横ナデ。底部下端に履けへラ削り痕が一部 に残る。脚部横位のへラナデで、下半はへラ削りに近い。 内面口縫部横ナデ。内面幅広工具の跡なへラナデ。	口縫部上端に モミ痕。
第86回 PL.72	16	土師器 鉢	埋土 口縫部片		細砂粒、粗砂粒、 白英/良好に/ふく 開	内外面とも横ナデで、布目のような織かな擦痕が残る。	推定口径16cm 前後。
第86回 PL.72	17	土師器 鉢か	埋土 口縫部片		細砂粒、粗砂粒多 く/良好に/白 黄褐	口縫部横ナデ。底部内外面とも弱いハケ目状の擦痕が 残る織かなナデ。	推定口径20cm 前後。
第86回 PL.72	18	土師器 鉢	埋土 口縫部～脚部上 半1/4		細砂粒、粗砂粒/ 良好/白黒	口縫部内外面横ナデ。脚部外面縫位の手持ちへラ削り で同付近にハケ目状の擦痕が確認できる。内面斜位 のナデで平滑に仕上げる。	推定口径13cm 前後。

## 遺物観察表

種 因 PL.No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 殊	備 考	
第87回 PL.72	19 上師器 甕	埋土 口縁部～肩部片			細砂粒、粗砂粒、 赤褐色/粗砂粒、良 好/にぶい黄褐	口縁部外側とも横ナデ。胴部外面丁寧な横ナデで平 滑。内面へラ状の工具使用の強いナデ。	推定口径25cm 前後。	
第87回 PL.72	20 上師器 甕	埋土 底部3/4	底 高 (1.4)	7.0	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色/粗砂粒、石 英/良好/にぶい黄褐	外底弱い手持ちヘラ削り。内底器表は残存僅かだが、 ナデで平滑に仕上げ。	内底剥落覗 若。被熱。	
第87回 PL.72	21 頭患器 高杯	埋土 脚部片			細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転は右回り。脚端部の屈面部は引き出 しの下に凹線をつくる。透孔を穿孔しているが、残 存状態が不良のため配置不明。		
第87回 PL.72	22 頭患器 無蓋高杯	床直 杯部口縁部小片			細砂粒/還元焰/黃 灰	ロクロ整形、回転は右回りか。残存部下端に凸筋が貼付。 外底を2段巡らす。		
第87回 PL.72	23 頭患器 高杯	埋土 脚部片			細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転は右回り。脚端部の屈面部は引き出 しの下に凹線をつくる。透孔を穿孔しているが、残 存状態が不良のため配置不明。		
第87回 PL.72	24 頭患器 無蓋高杯	埋土 杯部口縁部～脚 部片	矮 13.0		細砂粒/還元焰/灰 灰	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部下に断面三角形の 凸筋を2段巡らす。胴部に1条からなる波状紋が巡る。 表面は酸化焼成状。	8号21と同一 個体か	
第87回 PL.72	25 頭患器 無蓋高杯	埋土、道模外 杯部口縁部～脚 部片	矮 12.6		細砂粒/還元焰/灰 灰	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部下に断面三角形の 凸筋を2段巡らす。		
第87回 PL.72	26 頭患器 高杯	周溝 脚部片	脚 8.8		細砂粒/還元焰/褐 灰	ロクロ整形、回転は右回り。脚端部の屈面部は引き出 しの下に凹線をつくる。透孔を上方に穿孔。		
第87回 PL.72	27 頭患器 高杯	周溝 脚部片			細砂粒/還元焰/黃 灰	ロクロ整形、回転は右回りか。残存部は内側に透孔が 確認。4方に穿孔か。		
第87回 PL.72	28 頭患器 無蓋高杯	埋土、道模外 杯部底部～脚部 柱狀片			細砂粒/還元焰/灰 灰	ロクロ整形、回転は右回り。杯部と脚部は貼付。杯部 底膨らカキム。脚部の残存状態は不良であるが、脚部 底膨らカキムの状態から透孔を5方に穿孔。杯部内面に開 拓跡がある。		
第87回 PL.72	29 石製品 臼玉	掘方 完形	径 高 0.6	0.4	重 0.27	滑石	上面側は平坦だが、下面側は片傾斜する。上面側に比 べて、下面側摩耗は弱い。石材感としてはやや赤味が 強い。孔径0.2	
7区 4号竪穴建物								
種 因 PL.No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 殊	備 考	
第92回 PL.72	1 上師器 杯	埋土 口縁部～底部 2/3	口 (12.0) 高 (4.7)		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色/粗砂粒/良 好/明赤褐	外底口縁部横ナデ。底部手持ちヘラ削り。内面丁寧な ナデ上に左頸へラ磨き。		
第92回 PL.72	2 上師器 杯	甕 1/4	口 (12.0) 高 (5.8)		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色/粗砂粒/良 好/赤褐	外底口縁部横ナデ。胴部上半無調整だが比較的平滑。 底部方向不定の手持ちヘラ削り。内面器面荒れて調整 不能。		
第92回 PL.72	3 上師器 杯	埋土 口縁部～底部 1/4	口 (12.4) 高 (11.9)	(4.8)	細砂粒、赤褐色粗 砂粒/ごく良好/相 模	外底口縁部横ナデ。底部手持ちヘラ削り。底縁部は無 調整だが盤面平滑。内面横ナデ。	内面モミ痕。	
第92回 PL.72	4 上師器 高杯	甕 上半ば完存	口 (17.4) 高 (8.0)		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色/粗砂粒/や や多/良好/明赤褐	口縁部外側斜位の不規則なハケ目状のナデ痕が残るが、 外底一部に手持ちヘラ削り。脚柱部に縦位のヘラ磨き。 口縁部内面左頸へラ磨き。内底一方的にヘラ磨き。	内底、混入物 が埋せた痕の ような器面の 荒れ多い。	
第92回 PL.72	5 上師器 高杯	埋土 口縁部1/3、底 部～脚部上端完 存	口 (14.6) 高 (5.5)		細砂粒、粗砂粒、 砾石/良好/相 模	外面右回転利用横ナデ。底部右回転利用。楕円なヘラ 削り。内面横ナデで回転利用横ナデ。内底工具利用や 手取い跡が残る。方向不定のナデ。		
第92回 PL.72	6 上師器 杯	掘方 口縁部小片			細砂粒、粗砂粒、 赤褐色/粗砂粒/良 好/明赤褐	外表面横ナデ。内面横ナデで平滑に上げた上に右頸の ナデが附着。	外表面黒斑。	
第92回 PL.72	7 上師器 高杯	甕 杯部底部小片			細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤褐	外表面全体丁寧な横ナデで平滑。内面も横ナデでごく平 滑に上げた上に右頸になると思われる幅広のヘラ磨 き。		
第92回 PL.72	8 上師器(口 上口上師 器) 高杯	甕 脚部完存	脚 17.5		細砂粒、粗砂粒/ ごく良好/赤褐色	内外面とも全体に左回転利用のナデ。内底部方向不定 のナデのようで、同心円状のナデの痕跡なし。	杯部が外れた 後に脚部に同 色付着物。	
第92回 PL.73	9 上師器 脚部1/2	埋土 脚部1/2			細砂粒、粗砂粒/ 良好/相 模	外表面脚部横ナデ。脚柱部縦位のヘラ磨き。		
第92回 PL.73	10 上師器 高杯	貯 藏 穴 底部小片	底 (11.0) 高 (0.8)		細砂粒、粗砂粒、 石英/良好/明赤 褐	内外面とも丁寧な横ナデ。		
第92回 PL.73	11 上師器 甕	甕 ほぼ完形	口 18.7 脚 25.0	底 6.8 高 29.6	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部上半は斜め、瓶方向のヘラ磨き。脚下半はヘラ ナデ、底部はヘラ削りか。内面は底部から脚部にヘラ ナデ、器面摩滅のため單位不明。	破損後に被 熱。	
第93回 PL.73	12 上師器 甕	埋土 口縁部～脚部完 存	口 (17.0) 高 (9.4)		細砂粒、石英/良 好/浅黄褐	口縁部横ナデ。脚柱部縦位のヘラ磨き。		
第93回 PL.73	13 上師器 甕	埋土 口縁部～脚部 1/8			細砂粒、粗砂粒/ やや多/ごく良好/明 赤褐	口縁部内外とも横ナデで、外表面は中央に強い段がで きる。内面不規則な弱い削りで一部に指痕痕が残る。	推定口径16cm 前後。	

## 遺物観察表

種 国 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考	
第03回 PL.73	14	上師器 鉢	周堤 口縁部～肩部 1/8		細砂粒、粗砂粒、 石英/良好/にふい 黄褐	外面横ナデ。肩部途中から磨きに近い繊かな手持ちヘラ削り。内面口縁部横ナデ。肩部斜位のナデ。	肩部内面削落 あり。推定口径14cm前後。	
第03回 PL.73	15	上師器 甕	甕 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒や 多、片岩細粒/良好/ 良好/にふい 黄褐	13回円。口径や段の形状から別個体と判断したが胎土や焼成など近似している。	推定口径20cm 以上。	
第03回 PL.73	16	上師器 甕	埋土 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒、 卵石、細粒/良好/ 良好/にふい 黄褐	内外面とも横ナデ。内面に接合痕が一部に見られる。	外面にスヌ付 着。推定口径 24cm前後。	
7区8号墳穴建物								
種 国 Pl.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考	
第100回 PL.73	1	上師器 杯	床直 口縁部1/3、底 部完存	口 (10.0) 底 3.0	5.7	細砂粒多、粗砂粒 赤褐色粗砂粒/ご く良好/にふい 黄褐	口縫部内外面横ナデ。胴部外面剥落し整形痕不明。内 面ヘラナデ。厚手。	内底中央付近 若干磨滅。
第100回 PL.73	2	上師器 杯	床直 ほぼ完形	口 12.8 高 5.8		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/黄褐色	器全体剥落し、整形痕不明瞭。胴部内面は放射状の へた磨き、外面上に引いた跡が僅かに残る。	外底に広く黒 斑。
第100回 PL.73	3	上師器 杯	床直 口縁部～胴部下 端1/3	口 (11.0) 高 (7.8)		細砂粒、粗砂粒少、 陶人物少/良好/に ふい 黄褐色	口縫部内外面横ナデ。胴部外面削り、器面平滑。	
第100回 PL.73	4	上師器 杯	床直、土坑2、 理土 ほぼ完形	口 14.0 高 4.6		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒や少 多、石英/良好/用 赤褐色	口縫部端部外表面横ナデ。外面部横方向、底部はぼ う一方の手持ちヘラ削り。内面部左右傾斜放射状の丁 寧なへた磨き。底部は布目状擦痕が残るナデで平滑に 仕上げる。	
第100回 PL.73	5	上師器 杯	床直 口縁部～底部 1/2	口 13.4 高 4.9		細砂粒/良好/赤褐色	やや厚手。外面口縁部横ナデ。底部手持ちヘラ削り。 内面に左側の放射状へた磨き。	
第100回 PL.73	6	上師器 杯	床直 完形	口 12.5 高 8.0		細砂粒、粗砂粒/ 良好/明黄褐色	外面口縁部～胴部中央に横ナデ。胴部上半に難なへた 磨き。底部手平一下部手持ちヘラ削り。内面口縁部横 ナデ。胴部粗ヘラ削き。	外面部底部広 く黒斑。
第100回 PL.73	7	上師器 杯	床直 口縁部若干、胴 部～底部2/3	口 (13.0) 高 7.5		細砂粒、粗砂粒、 石英/良好/にふい 黄褐色	口縫部内外面横ナデ。胴部外面横位のヘラ削き。底部 弱ヘラ削り。胴部内面難な横ナデの上に右傾斜気味放 射状へた磨き。	
第100回 PL.73	8	上師器 杯	床直 1/2	口 13.6 高 6.2		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/橙	口縫部～胴部外表面横ナデ上に丁寧な左傾の斜位のヘ タ磨き。底部手持ちヘラ削り、内面丁寧な横ナデ後、底 部幅広工具によるヘ タ磨き。全体的に平滑に仕上げる。	
第101回 PL.73	9	上師器 杯	床直 ほぼ完存	口 12.0 高 8.0		細砂粒、粗砂粒/ 良好/橙	外面部縫部～胴部上端横ナデ。胴部中央横位。底部は ぼう一方の手持ちヘラ削り。内面口縁部横ナデ。胴部 ヘラ削き。	外底部黒斑。
第101回 PL.73	10	上師器 鉢	床直、理土 2/3	口 12.6 底 14.1	8.7	細砂粒/良好/橙	口縫部は横ナデ、胴部上位はナデ、中段から底部はヘ タ削り。内面は底部分から胴部に斜めにヘラナデ。	
第101回 PL.73	11	上師器 小型甕	埋土 頭部～底部	頭 鉢 11.0 14.1	底 6.3	細砂粒/良好/赤褐色	口縫部は横ナデ、胴部はヘラミガキ。一部器面摩滅の ため単位不明、底部分はヘラ削り。内面は底部分から胴部 にヘラナデ。器面摩滅のため単位不明。	
第101回 PL.73	12	上師器 杯	貯藏穴 口縁部小片			細砂粒や多、粗 砂粒、赤褐色粗砂 粒/良好/橙	口縫部端部内外面横ナデ。外面胴部上半調整だが器 面比較的平滑。	口縫部内面や 磨滅。推定 口径11.5cm前 後。
第101回 PL.73	13	上師器 杯	掘方 口縁部僅か、肩 部1/4			細砂粒、粗砂粒、 卵石/良好/にふい 赤褐色	口縫部は内面削り返し、接合痕をそのまま残す。肩部 内面へた磨きに近い、弱い手持ちヘラ削り。内面工具 使用の弱いナデか。	
第101回 PL.74	14	上師器 杯	甕 口縁部小片			細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/ 良好/橙	外面部端部端横ナデ。胴部横位の手持ちヘラ削り 一部に不規則なヘタ磨き。内面右傾斜放射状のヘ タ磨き。	口縫部上端外 縫ナデ。
第101回 PL.74	15	上師器 鉢	床直 台付鉢	底 (10.2) 高 (5.4)		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/ 良好/橙	内面不明。台部外面縱方向のヘタ磨き。内面横ナデ で比較的平滑。奥底のみ無調整。	内底部削落顯 著。
第101回 PL.74	16	上師器 甕	床直 口縁部～胴部	口 (17.9) 底 15.1	25.7	細砂粒/良好/に ふい黄	口縫部は横ナデ。胴部はヘラナデか、器面摩滅のため 不規則。内面は制動の上位と下位のヘラナデはわかる が、中位は器面摩滅のため単位不明。	
第101回 PL.74	17	上師器 甕	床直 口縁部～肩部 1/2	口 (16.0) 高 (10.0)		細砂粒、石英/ チャート混じりの 粗砂粒/良好/明 白	口縫部内外面横ナデ。胴部外面横位の手持ちヘラ削り で弱いナデ。内面横ナデで指標状の凹みが残る。	
第101回 PL.74	18	上師器 甕	床直 口縁部～肩部 1/4	口 24.0 高 (8.9)		細砂粒、粗砂粒、 チャート/ごく良 好/明白色	口縫部内外面横ナデ。胴部外面横位の手持ちヘラ削り で弱いナデ。内面横ナデで指標状の凹みが残る。	断面は黒色味 が強い。
第101回 PL.74	19	上師器 甕	床直 口縁部～肩部 1/4	口 19.6 高 (9.1)		細砂粒、粗砂粒、 チャート/ごく良 好/明白色	口縫部内外面横ナデ。胴部外面横位の纏かなヘラ削り で弱いナデ。内面横ナデで指標状の凹みが残る。	口縫部内面下 半、若干剥落 あり。
第102回 PL.74	20	上師器 杯	甕 口縁部小片			細砂粒、粗砂粒、 石英/良好/浅褐色	口縫部横ナデで、外面に幅広の工具痕と布目状の擦 痕が残る。	推定口径19cm 前後。

遺物観察表

種類 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考	
第1028 PL.74	須恵器 高杯	埋土 杯部口縁部～胴 部片	口 横 14.5 13.0	細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ形、回転は右回り。口縁部下に断面三角形の凹凸を2段巡らす。胴部に1条にからなる波状文が巡る。断面は酸化鉄状。	3号24と同一 個体か。	
第1028 PL.74	須恵器 杯蓋	埋土、10号窓穴 建物	口 横 11.5 11.1	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回り。天井部と口縁部間に棱と凹部をつくり、天井部中程に柄突文を巡らす。	造構外33の蓋 か。	
第1028 PL.74	須恵器 盤	床直、周溝、1・ 10号窓穴建物、 造構外、 頭部～胴部片	頭 幅 4.8 16.6	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回りか。胴部下位～中軸へラ削り、中軸に2段の刺突文を巡らす。外輪の大部分に降灰が厚く付着。内面はほとんど異なり、胴部にはナデはみられずコロコロ痕だけである。		
第1028 PL.74	須恵器 盤	床直、埋土、9・ 11号窓穴建物、 頭部～底部片	頭 幅 5.4 17.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回りか。底部から胴部下位は回転ヘラ削り、底部は墨面磨滅のため単位不明。胴部中軸部の位置に2段の刺突文を巡らす。胴部上位から口縁部は降灰が厚く付着。内面は底部に強いナデ、頭部もナデ。		
第1028 PL.74	須恵器 鏡	床直、 頭部～底部片	底 7.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回り。底部ナナデ。		
第1028 PL.74	石製品 菅玉	埋土 完形	長 径 0.5	重 0.84	蛇紋岩	良く研磨された良品打は、全体的にキズつき光沢感は欠ける。線条痕ほんtramだが、なかには長軸に直交するものがあるが、性格つけられない。	
第1028 PL.74	石製品 巖石	埋土	長 幅 (1.5) (2.6)	厚 重 (1.0) 5.00	珪化凝灰岩	上面の穂面に打痕や凹窪に残る。背面の剥離面構成は両極端によることを示している。緑色石材で、石製品類の製作に用いたものか。	
第1028 PL.74	粒状瑪 瑙	龜	長 幅 1.3 1.2	厚 重 0.5 1.1	チャート	赤褐色の薄層を含んで薄い黒褐色が表面を覆う。粒状瑪瑙の表面には、線条痕が無数に広がっているが、使用法を示唆するものではない。	
7号K9号窓穴建物							
種類 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考	
第1078 PL.74	上師器 杯	床直 ほぼ完形	口 底 (12.2) 3.7	高 5.4	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒、齊 石/良好/明赤	内外面口縁部～胴部上半横ナデ。外面胴部下半は手持ちヘラ削りが底辺周辺以外不明瞭。	内底広く若干磨滅する。
第1078 PL.74	上師器 杯	床直 2/3	口 底 (12.0) 3.8	高 7.0	細砂粒、粗砂粒や 多。チャート/良 好/概	外面上半平調整で接合痕が一部に残る。下平は弱い手持ちヘラ削り。胴内面はヘラ状工具によるナデで幅広の其具痕が残る。	内底若干磨滅する
第1078 PL.74	上師器 杯	床直 ほぼ完形	口 高 (13.6) 5.0	高 7.0	細砂粒や多。他 の混入物少./良 好/明赤	口縁部外面横ナデ。外面胴部無調整だが器面比較的 柔軟。底部手持ちヘラ削り。内面はばらばらな放射状ヘラ 削き。ヘラナデ時のヘラのアタリ痕が顯著に残る。	
第1078 PL.74	上師器(口 クロ上師 器)高杯	埋土 杯部1/4	口 横 12.4 11.6	高 (5.1)	細砂粒、混入物少. /良好/明赤	外側右回転利用横ナデ。底部中央から近側累積状態で右回転利用ヘラ削り。内面口縁部横ナデ。底部同一方向のナデ。	
第1078 PL.74	上師器 鉢	床直 3/4	口 底 13.4 8.0	高 7.9	細砂粒、粗砂粒/ 良好/赤	口縁部は横ナデ、頭部から胴部上半はハケメが残る。 頭部から胴部下半は手持ちヘラ削り。内面は底部から 外側下半にヘラナデ。胴部上半は擦痕削除のため不規 則。	
第1078 PL.74	上師器 鉢	床直 4/5	口 高 15.5 9.9	9.9	細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤	内側頭部から横筋引出する。口縁部から頭部は横ナデ、 胴部は上位がハケメ、中位がヘラナデ。底部から下位 は手持ちヘラ削り。内面は底部から胴部にヘラナデ。	
第1078 PL.75	上師器 小型鉢	床直、埋土 4/5	口 底 11.2 12.0	底 3.2 高 9.4	細砂粒、粗砂粒/ 良好/灰	口縁部は横ナデ、頭部にハケメが残る。胴部はヘラ ナデ、単位不明。底部と底部下位は手持ちヘラ削り。 内面は底部から胴部にラナデ。	
第1078 PL.75	上師器 鉢	床直、埋土 4/5	口 底 14.1 8.4	高 8.4	細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤	口縁部から頭部は横ナデ、胴部はヘラナデ、単位不明。 底部手持ちヘラ削り。内面は口縁部にハケメが残る。 底部から胴部はラナデ。	
第1078 PL.75	上師器 鉢	床直、 ほぼ完形	口 高 14.3 8.3	9.3	細砂粒、粗砂粒/ 良好/にふ/赤	口縁部から頭部は横ナデ、胴部は上位がハケメ、中位 がラナデ。底部から下位は手持ちヘラ削り。内面は 底部から胴部にヘラナデ。	
第1078 PL.75	上師器 鉢	床直、 口縁部～胴部上 半1/3	口 高 (14.0) (6.5)	高 6.5	細砂粒、粗砂粒/ 良好/褐灰	外面口縁部横ナデ。胴部弱い手持ちヘラ削り。内面口 縁部横筋ナデ。頭部広い工具によるヘラナデが接合痕 を消しきれない。	
第1078 PL.75	上師器 鉢	床直、埋土 半1/3	口 高 13.0 (7.3)	高 7.3	細砂粒、粗砂粒/ 良好/黑褐	口縁部内側で切り落し。口縁部は横ナデ、胴部はヘ ラナデ、単位不明。底部と底部周囲は手持ちヘラ削り。 内面は底部から胴部にヘラナデ。	ハケメは18mm 幅に満8条。
第1078 PL.75	上師器 鉢	床直 2/3	口 底 11.7 4.4	高 8.6	細砂粒、粗砂粒/ 良好/にふ/黑褐	外側脚柱部横ナデ。外面胴部ハケ目状の擦痕が残る 部位の手持ちヘラ削りの上にナデに近い横位の弱い手 持ちヘラ削り。内面胴部広い工具によるヘラナデが接合 痕を消しきれない。	
第1078 PL.75	上師器 高杯	床直、 脚柱部完存、 脚部1/3	口 底 (13.0) (8.5)	高 8.5	細砂粒、赤褐色粗 砂粒/良好/赤	外側脚柱部横ナデ。脚柱部底面斜度が強いため、 内面脚柱部横筋ナデ。脚柱部底面斜度が強いため、 内面脚柱部横筋ナデ。	
第1078 PL.75	上師器 高杯	床直、 脚柱部完存、 脚部3/4	口 底 (13.0) (9.2)	高 9.2	細砂粒、粗砂粒/ ごく良好/概	外側脚柱部左脚柱の横斜度が強いため、内面脚柱部横筋 ナデ。脚柱部上に上下的脚柱部横筋ナデ。内面脚柱部横筋 ナデ。	

## 遺物観察表

種類 PL.No.	種類 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考	
第107回 PL.75	15	上師器 高杯	床直 脚柱部完存、裏 部3/4	底 高(13.8) (10.5)	14C近似/ごく良 好/相	14に同巧。脚柱部内面のヘラ削りは下平のみで、上半 には絞り目と押さえつけたようなヘラ先工具痕が残っ ている。		
第108回 PL.75	16	上師器 鉢	床直 口縁部～胴部中 位2/3	口 高(18.8) (16.1)	細砂粒、粗砂粒多 片岩微見/良好/に よい赤褐色	口縫部内外面横ナデ、剥部外面手持ちヘラ削り。内面 弱いナデで器腹は平滑さやや欠け。	剥部外面刮落 跡有。二次被 熱。	
第108回 PL.75	17	上師器 鉢	床直 口縁部欠損	頭 底 24.3	12.0 7.3	細砂粒/良好/に よい赤褐色	脚部内側ケイメイ(1cm当たり4~5本)。器面摩滅のため ほとんど単位不明。底部はヘラ削り、内面は底部から 脚部木目の残るハラナデ。	
第108回 PL.75	18	上製品 手捏ね土器	床直 完形	口 底 7.0 5.0	3.5	細砂粒、粗砂粒、 砾石/良好/相	輪積み、手づくね。口縫部内外面とも輪積痕が残る。 結合面明瞭。外底に弱い手持ちヘラ削りの可能性があ る工具痕が残るが、それ以外にヘラ削りの痕跡なし。	内面黒斑広 い。

## 7K10号堅穴建物

種類 PL.No.	種類 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考	
第111回 PL.75	1	上師器 杯	床直 完形	口 高 13.5 5.4	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/ご く良好/相	外面部口縫部横ナデ。胴部上半無調整だが器面平滑。底 部手持ちヘラ削り。内面横ナデの上に脚部上縫のヘラ 磨き。		
第111回 PL.75	2	上師器 杯	床直 口縫部小片		細砂粒、混入物少 /良好/によい赤褐色	外面部口縫部横ナデ。胴部ナデに近づく弱い手持ちヘ ラ削り。内面部口縫部横ナデ。胴部削正工具による丁寧 なハラナデで器面平滑。	推定口径12cm 前後。	
第111回 PL.75	3	上師器 高杯	肧 完形	口 底 13.2 10.0	高 11.2	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/ご く良好/明赤褐色	脚部前面口縫部横ナデ。胴部手持ちヘラ削りで底部に 近づくほど弱くなる。脚部横ナデ。杯部正面丁寧な横 ナデの上に脚部に左傾斜放射状のヘラ磨き。内面横ナ デ。	
第111回 PL.75	4	上師器 甕	埋土 口縫部小片		細砂粒、石英、 チャート混じりの 粗砂粒/良好/相	口縫部内外面とも横ナデ。脚部は頭部接合痕。	口縫部内面上 半の割落痕 有。	
第111回 PL.75	5	須恵器 無蓋高杯	埋土 杯部削正片	縫 13.7	細砂粒/還元焰/灰	口クロ形、回転方向不明。口唇部は上下に引き出され、 底部下面に断面V字形の凸帯が巡る。外外面に降灰有。 断面は赤褐色を呈す。		
第111回 PL.75	6	須恵器 甕	埋土 口縫部片		細砂粒/還元焰/灰	口クロ形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。胴 部に小凸帶をつくり、その下に2条の門線を巡らす。		
第111回 PL.75	7	須恵器 杯蓋	埋土 口縫部小片		細砂粒/還元焰/灰	口クロ形、回転右回りか。口縫部上面に棱をつくり、 それを凹線につくる。断面は赤褐色を呈す。口唇部 は平坦面をつくる。		

## 7K11号堅穴建物

種類 PL.No.	種類 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第116回 PL.76	1	上師器 杯	床直 ほぼ完形	口 高 13.0 5.0	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/明赤褐色	口縫部内外面横ナデ。胴部下半～底部手持ちヘラ削り。 内面不透明だが左傾斜放射状のヘラ磨き痕が一部で確認 できる。	内面剥部刮落 跡有。
第116回 PL.76	2	上師器 甕	肧床直 1/6	口 高 12.6 (4.5)	細砂粒、粗砂粒/ 良好/相	口縫部内外面横ナデ。外面胴部上半無調整だが比較的 の平滑。胴部下半手持ちヘラ削り。胴部内面横ナデの上 に右傾斜放射状の丁寧なヘラ磨き。	口縫部内端帶 状に磨滅。内 底部に斑状の 剥落あり。
第116回 PL.76	3	上師器 高杯	床直 杯部下半1/3	高 (3.6)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒やや 多く/良好/明赤褐色	外面部口縫部横ナデの上に左傾方向のハケ目状擦痕が残 る。底部横ナデ。内面横ナデの上に左傾斜放射状の ヘラ磨き。	
第116回 PL.76	4	上師器 甕	肧床直 口縫部～胴部片	口 縫 16.1 20.0	細砂粒/良好/に よい相	内面胴部に輪積みが残る。脚部から頭部は横ナデ、 胴部上位から中心にヘラナデ、下位はヘラ削り。内 面は面脚部にヘラナデ。	
第116回 PL.76	5	上師器 鉢	床直 口縫部～胴部 1/4		細砂粒、赤褐色 砂粒/良好/相	口縫部内外面横ナデ。外面部無調整。胴部弱い持 ち手ナデ。脚部上面や幅広工具のヘラ磨き。	内面頭部や や磨滅。推定口 径12cm前後。
第116回 PL.76	6	須恵器 無蓋高杯	埋土 杯部片	口 底 14.9 13.6	細砂粒/還元焰/灰	口クロ形、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。口 縫部下に2段の棱をつくり、胴部に波状文を巡らす。	

## 7K31号土坑

種類 PL.No.	種類 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第117回 PL.76	1	上師器 杯	埋土 口縫部小片		細砂粒、粗砂粒、 黄白/良好/赤褐色	外面部口縫部～胴部上半横ナデ。胴部中位に弱く。胴部 下位にやや強く、手持ちヘラ削り。	

## 7K12号遺物集中

種類 PL.No.	種類 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第118回 PL.76	1	上師器 甕	埋土 口縫部小片		細砂粒、粗砂粒、 石英/良好/赤褐色	口縫部内外面横ナデ。外面胴部手持ちヘラ削り。内面全 体ナデ。	推定口径14cm 前後。
第118回 PL.76	2	上師器 甕	埋土 口縫部小片		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒やや 多く/良好/相	外面調整痕不明瞭。口縫部内面横ナデ。胴部右傾斜放 射状ヘラ磨きと思われるが不明瞭。	器體全体にや や磨滅。推定口 径13cm前後。
第118回 PL.76	3	上師器 高杯	埋土 脚部小片		細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤褐色	据部内外面とも横ナデ。外面に左傾斜位のヘラ磨き。	推定脚径13 cm前後。

## 遺物観察表

種類 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第11886 PL.76	上師器 高杯か	埋土 口縁部小片		細砂粒、赤褐色粗 砂粒やや多/良好 明赤褐色	口縁部内外面横ナデ。	
第11885 PL.76	上師器 高杯か	埋土 杯底部1/3		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/にぶい赤褐色	底部内外面とも丁寧なナデの上に、外面左傾、内面右傾の斜放射状へラ磨き。	推定底径12cm 前後。
第11886 PL.76	上師器 高杯	埋土 最端部を欠く脚 高	(6.9)	輝石混じりの細砂 粒、粗砂粒/良好/ 相	内外面とも右回転利用の横ナデ。	
第11884 PL.76	上師器 鉢か	埋土 直縁部～胴部中 位1/3	口 高 14.0 (7.7)	細砂粒、粗砂粒/ 良好/黒褐色	口縁部内外面横ナデでハケ目のような粗い擦痕が残る。 胴部外縁位のヘラ削り。内面幅広工具のヘラナデ。	二次被熱。
第11884 PL.76	上師器 鉢か	埋土 頭部～肩部小片	高 (7.7)	細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤褐色	外縁横ナデで平滑に仕上げた上に胴部外縁位肩部左傾氣 味の履位のヘラ磨き。内面不明瞭だが頭部など平滑。	内面黒色處理 の可能性。内 面黒色粘土のよ うな付着物多 い。
第11884 PL.76	上師器 鉢	床直 口縁部～肩部小 片		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒、石 英/良好/にぶい赤 褐色	口縁部外縁横ナデでハケ目状の擦痕が残る。肩部外縁 手持ちヘラ削り。口縁部内面横ナデ。肩部内面右へラ 磨き。	推定口径19cm 前後。外面頭 部にモミ痕。
第11886 PL.76	上師器 鉢か	埋土 口縁部小片		細砂粒、片岩、 石英/良好/にぶい黃 褐色	口縁部外縁横ナデ。口縁部上端の凹みは先端がギザ ギザの棒状工具使用。胴部外縁部分は横ナデ。胴 部内斜位の弱いナデ。	推定口径20cm 前後。
第11886 PL.76	上師器 鉢か	埋土 胴部下端～底縁 位1/3	底 8.0 (2.9)	細砂粒、粗砂粒、 チャート/良好/に ぶい黒褐色	外面調整不正確。正面手持ちヘラ削り。内面ハケ目状 の深い擦痕が残るナデ。	外面やや剥 落。
第11884 PL.76	須恵器 高杯	埋土 脚部片	脚 9.8	細砂粒/還元塗/黃 褐色	ロクロ整形、回転は右回り。杯部とは貼付。脚部は 頭部をつまみ上げ円錐上につくる。脚中部に四方透 孔をあける。	
7区2号遺物集中						
種類 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第11986 PL.76	上師器 杯	埋土 1/2	口 (10.4) 高 (4.1)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/明赤褐色	外面口縁部横ナデ。胴部～底部手持ちヘラ削り。内面 横ナデの上に右傾斜放射状のヘラ磨き。	
第11986 PL.76	上師器 杯	埋土 口縁部～胴上部 小片		輝石混じりの細砂 粒/良好/赤褐色	口縁部内外面横ナデ。外面胴部上半無調整。胴部中央 手持ちヘラ削り。内面不明瞭だが右傾斜放射状へラ磨 き。	推定口径13cm 前後。内面胴 部下半一部剥 落。
第11986 PL.76	上師器 杯	埋土 口縁部～胴部小 片		細砂粒、赤褐色粗 砂粒、混入物少 量/良好/赤褐色	口縁部内外面横ナデ。胴部外面弱い手持ちヘラ削り。 胴部内面横ナデで平滑に仕上げた上に左傾斜放射状へ ラ磨き。	推定口径14cm 前後。
第11986 PL.76	上師器 高杯	埋土 口縁部1/4、底 ～脚部ほぼ完全	口 (17.6) 底 (10.4)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒、石 英/良好/明赤褐色	外側口縁部横ナデ。底面手持ちヘラ削り。脚部右傾 斜放射状へラ磨き。脚部右傾斜位のヘラ磨き。内面口縁部右 傾斜位へラ磨き。脚部横幅広。工具のヘラ削りで奥部には絞り目が残る。	口縁部内面や しわ。
第11986 PL.76	上師器 高杯	埋土 口縁部1/2、底 部3/4	口 (18.0) 高 (5.8)	細砂粒、粗砂粒/ 良好/暗褐色	口縁部外縁横ナデ。外底部無調整で指頭痕状の凹凸が 残る。口縁部内面横ナデ上に左傾斜放射状のヘラ磨き。 内底部方向不定のナデ。	口縁部上半 内に部分的に 剥落。
第12086 PL.76	上師器 高杯	埋土 杯部1/3、上端 僅か	口 (19.0) 高 (5.1)	細砂粒、混入物少 量/良好/明赤褐色	口縁部外縁面とも丁寧な横ナデだけ合宿が残る。外 底無調整。	
第12086 PL.77	上師器 高杯	埋土 杯部1/2	口 (17.0) 高 (5.6)	細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色粗砂粒、暗 褐色/良好/相	口縁部外縁横ナデ。外底部無調整で指頭痕状の凹凸が 残る。内底部方向安定のナデ。	
第12086 PL.77	上師器 高杯	埋土 口縁部1/6		細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色粗砂粒/良 好/相	口縁部外縁横ナデで右傾斜放射状へラ磨き。	推定口径17cm 前後。
第12086 PL.77	上師器 鉢か	埋土 口縁部～肩部 1/4		細砂粒、粗砂粒/ 良好/にぶい黒 褐色	口縁部内外面横ナデ。肩部外面手持ちヘラ削り。肩部 内面削りに近い強いヘラナデ。	推定口径13.5 (cm)。
第12086 PL.77	上師器 杯	埋土 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒/ 良好/灰褐色	口縁部内外面横ナデ。	推定口径13cm 前後。外側又 付着。
第12086 PL.77	上師器 鉢	埋土 胴部下端1/4、 底部完存	底 8.0 (6.3)	細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色粗砂粒/良 好/相	外側胴部下半手持ちヘラ削り。外底部もヘラ削りと思 われるが不明確。内面幅広工具によるヘラナデ。	
第12086 PL.77	須恵器 杯身	埋土 胴部片	受 14.1	細砂粒/還元塗/黃 褐色	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部は欠損。	
第12086 PL.77	須恵器 杯蓋	埋土 天井部片		細砂粒/還元塗/黃 褐色	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転へラ削り。 内面には同心円状アツ貝痕が残る。天井部には障が 厚く付着。	有蓋高杯の蓋 か。

## 遺物観察表

## 7区3号遺物集中

種類 PL.No.	種類 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第121回 PL.77	1	上飾器 杯	埋土 ほぼ完形	口 高 13.6 4.6	細砂粒、粗砂粒や 多、赤褐色和田 粒/良好/楕	口縁部内外面横ナデ。外面脚部上半無調整。脚部下半 以下手持ちヘラ削り。内面脚部左頸斜放射状へラ磨き。 底部は針先のような鋭い工具により脚部と逆方向の斜 放射状削制。	内面黒色味、 断面灰色味を 帶びる。
第121回 PL.77	2	上飾器 杯	埋土 ほぼ完形	口 高 13.6 5.3	細砂粒、粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部内外面横ナデ。外面脚部上半無調整。脚部下半 以下手持ちヘラ削り。内面脚部右頸斜放射状へラ磨き。 底部はナデ平滑。	外面口縁部の 一部と内面に 漆塗りの可能 性。
第121回 PL.77	3	上飾器 杯	埋土 口縁部小片		細砂粒、赤褐色 砂粒/良好/明赤褐色	口縁部内外面横ナデ。脚部外面ごく弱い手持ちヘラ削り。 内面右頸の斜放射状へラ磨き。	推定口径13cm 前後。
第121回 PL.77	4	上飾器 杯	埋土 口縁部小片		細砂粒、赤褐色 砂粒/良好/明赤褐色	口縁部内外面横ナデ。脚部外面手持ちヘラ削り。内面 左頸の斜放射状へラ磨き。	推定口径13.5 (cm)前後。
第121回 PL.77	5	上飾器 高杯	埋土 口縁部3/4		細砂粒、粗砂粒/ 良好/楕	口縁部内外面右回転利用横ナデ。脚部外面倒置状態での 右回転利用ヘラ削り。	焼成段階で口 縁部にヒビ 生じるか、内底 にモミ痕。
第121回 PL.77	6	上飾器(口 クロ土上 器) 高杯	埋土 1/2	口 底 17.5 11.2	細砂粒、粗砂粒、 石英、輝石/良好/ 明赤褐色	杯部内外面右回転利用横ナデ。外面部に倒置状態での 左回転利用ヘラ削り。脚部外面右回転利用横ナデ。	焼成段階で口 縁部にヒビ 生じるか、内底 にモミ痕。
第121回 PL.77	7	上飾器 高杯	埋土 杯部ほぼ完 脚部欠	口 高 17.2 (11.9)	細砂粒、粗砂粒、 石英、輝石/良好/ 明赤褐色	杯部の外側面右回転利用横ナデ。外面部は倒置状態での 左回転利用ヘラ削り。内底部脚部結合時の凹凸を消す ための広範囲ヘラ削り。脚部内外面右回転利用横ナデ。	外面部は倒置 状態での左回 転利用ヘラ削 り。内底部脚部 結合時の凹凸 を消すための 広範囲ヘラ削 り。
第122回 PL.77	8	上飾器 高杯	埋土 口縁部1/4、 脚部1/2	口 高 19.0 13.6	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒、良 好/にぶい赤褐色	杯部前面口縫部横ナデ。底部方向不正の弱い手持ちヘ ラ削り。杯部外面右回転横ナデの上半分の左頸斜放 射状へラ磨き。底部一方向のヘラ磨き。脚部外面柱 部から脚部まで長い低い位置へラ磨き。内面柱部は脚 部柱上による離すつかナデ。	杯部前面口縫部 横ナデ。杯部外 面右回転横ナ デ。
第122回 PL.77	9	上飾器 高杯	埋土 口縁部1/2	口 高 15.0 (5.2)	細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤褐色	口縁部内外面右回転利用横ナデ。脚部外面倒置状態での 左回転利用ヘラ削り。内底部粗大擦痕が残る工具よ うなツバナデ。	内面黒色味 理。
第122回 PL.77	10	上飾器 高杯	埋土 口縁部1/3	口 高 (18.0) 4.3	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/明赤褐色	口縁部内外面も左頸斜放射状へラ磨き。内底部に一 方向のヘラ磨きを加えた可能性。厚手。	内面黒色味 理。
第122回 PL.77	11	上飾器 高杯	埋土 杯部1/2	口 高 14.2 (5.2)	細砂粒、粗砂粒、 混入物少/良好/ 明赤褐色	杯部外面右回転利用横ナデ。外面部に倒置状態での 右回転利用丁寧なナデ削り。内底部指進の強いナデで 脚部結合時の凹凸ナデ削り。	内面黒色味 理。
第122回 PL.77	12	上飾器 鉢か	埋土 1/3	口 高 22.0 (23.5)	細砂粒、粗砂粒や 多/良好/にぶい 黄橙	口縁部内外面横ナデ。脚部外面下上の斜位手持ちヘ ラ削りで難いハカリのような擦痕を残す。内面も下→上 の間に近い斜位のハラナデの上に中位以外でヘラ磨 きに近い離位のハラナデを加える。下端は横位ヘラ削 り。	内面黒色味帶 びる。
第122回 PL.77	13	須恵器 有蓋高杯蓋	埋土 道構外 2/3	口 高 13.8 14.1	細砂粒/還元焰 灰	口縁部、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。 口縁部に模をつくる。模はボタン状の粘土棒を粘付 し周縁を僅かにつまり上げている。内面内程に同心円 状アーチ痕が残る。外面部天井部に降灰が付着。	

## 7区4号遺物集中

種類 PL.No.	種類 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第123回 PL.78	1	上飾器 杯	埋土 口縁部1/6		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/ご く良好/楕	外面口縫部端部横ナデで脚部上端無調整。脚部中位以 下は手持ちヘラ削り。内面全面横ナデで脚部に右頸斜 放射状のヘラ磨きを施すようだが不明瞭。	
第123回 PL.78	2	上飾器 高杯	埋土 口縁部1/4	口 (17.0) 高 (4.9)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/にぶい赤褐色	口縫部内外面横ナデの上に右頸斜放射状へラ磨き。	口縫部内面下 半や削落。
第123回 PL.78	3	上飾器 高杯	埋土 口縁部1/2	口 高 16.0 (5.6)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/楕	外面口縫部横ナデ。底部細かな手持ちヘラ削り。内面 右頸へラ磨き。	外面にモミ 痕。

## 7区2号焼土

種類 PL.No.	種類 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第124回 PL.78	1	上飾器 鉢か	埋土 脚部小片		細砂粒多/良好/楕	外面脚部ナデに近い幅狭な手持ちヘラ削り。内面横ナ デ。	断面や黒色 味帯びる。

## 7区3号焼土

種類 PL.No.	種類 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第124回 PL.78	1	上飾器 杯	埋土 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/楕	口縫部上端は二重沈線状の凹み。口縫部内外面横ナデ。	

## 7区4号焼土

種類 PL.No.	種類 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第125回 PL.78	1	上飾器 杯	道構外 口縁部1/4、底 部1/2	口 (12.6) 高 5.5	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/楕	外面口縫部横ナデ。脚部手持ちヘラ削り。内面横ナ デの上に脚部に左頸斜放射状へラ磨き。	内面黒色 味理。脚部下 半や削落。

遺物観察表

種類 PL.No.	種類 No.	出上位置 種類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第125回 PL.78	2	上師器 杯	遺構外 口縁部～底部	口 (13.0) 高 (5.2)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒・良好/橙	口縁部外側横ナデ。底部手持ちヘラ削り。内面口縁部に粗雑なヘラ磨き。	
第125回 PL.78	3	上師器 一	遺構外 口縁部～胴部下 半1/3	口 (14.0) 高 (5.5)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒・良好/橙	外面口縁部～胴部上半横ナデ。胴部下半手持ちヘラ削り。内面横ナデの上に胴部に右傾斜放射状マッキ。	口縁部内端や 底盤。
第125回 PL.78	4	上師器 杯	遺構外 口縁部～底部 1/3	口 (13.2) 高 5.0	細砂粒、粗砂粒や や多、赤褐色粗砂粒 粒/良好/明赤褐	外面口縁部横ナデ。胴部手持ちヘラ削り。内面横ナデの上に放射状のヘラ磨きをまばらに施すようだが不明瞭。	内面黒色化 現。推定口径 18cm。
第125回 PL.78	5	上師器 杯	遺構外 口縁部～胴部下 端1/4		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒・良好/橙	外面口縁部横ナデ。胴部手持ちヘラ削り。内面ヘラナデの上に放射状のヘラ磨きをまばらに施すようだが不明瞭。	外面部脚部底盤方向へ磨き。底盤横ナデ。内面奥部は大きなホツを他の工具で押しつぶす。脚部柱半幅広工具によるヘラナデ。底盤横ナデ。
第125回 PL.78	6	上師器 高杯	遺構外 脚部ほぼ完存	底 11.2 高 (6.0)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒・良好/橙	外面部脚部底盤方向へ磨き。底盤横ナデ。内面奥部は大きなホツを他の工具で押しつぶす。脚部柱半幅広工具によるヘラナデ。底盤横ナデ。	外底部を除き 内面部赤色塗 彩。口縁部上 端やや鈍減。
第125回 PL.78	7	上師器 一	遺構外 口縁部2/3次	口 (10.0) 高 5.0	4.6 細砂粒/良好にふ い赤褐	外面部脚部底盤方向へ磨き。脚部柱半幅広工具で握持 マッキ削り。脚部の底盤位のヘラ磨き。底盤横調整。	内面横～斜位のヘラ磨き。
第125回 PL.78	8	上師器 高杯	遺構外 口縁部1/4	口 (18.0) 高 (3.6)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒・良好/橙	厚手。底部との接合部より削離。口縁部内外横ナデ。 内面頭部付近に左傾斜放射状マッキ。	内面口縁部下 端やや鈍削。
第125回 PL.78	9	上師器 高杯	遺構外 脚部欠く脚部		細砂粒やや多/明 赤褐	外面部脚部底盤位の柱幅横ヘラ削り。脚部横ナデ。突起部 は削り残す。脚部柱半幅広工具のヘラナデ。小ぶりはヘラ状工具でつぶす。脚部横ナデで幅7mmの 小孔が残る。	
第125回 PL.78	10	上師器 高杯	遺構外 脚部底盤1/4、 脚部1/2次	底 (11.0) 高 (8.7)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒・良好/明赤褐	外面部底盤、脚部は全面に右傾斜放射状ヘラ磨きの痕跡。脚部柱 半幅広工具のヘラナデ。ホゾがそのまま残る。脚部横 ナデ。	
第125回 PL.78	11	上師器 震	遺構外 口縁部1/6	口 (24.0) 高 (9.5)	細砂粒、粗砂粒、 細礫/良好/明赤褐	口縁部内外横ナデ。外面脚部底盤位の強いヘラ削り。 内面口縁部下端に右傾斜放射状ヘラ磨きの痕跡。脚部柱 半幅広工具のヘラナデ。	推定口径22cm 前後。
第125回 PL.78	12	上師器 震か	遺構外 口縁部4/6		細砂粒、チャート じりの粗砂粒/ 良好にふい・橙、 黒褐	厚手。外面横ナデ。上側に明瞭な段。内面横ナデで頭 部付近はヘラ状の工具痕。	推定口径20cm 前後。
第125回 PL.78	13	上師器 一	遺構外 上半1/6		細砂粒、混入物少 ない/良好/黄灰	手づくれ。外面天井部は平坦。脚部柱頭の強いナデツク。 外見より穿孔。内面無調整で器面不整。	最大径5cm前 後か。
第125回 PL.78	14	上師器 震か	遺構外 口縁部1/4		細石粒、粗石粒/ 良好にふい・橙	口縁部上端平坦。口縁部内外横ナデ。脚部柱頭手持 マッキ削り。肩部内面脚部底盤工具のヘラナデ。	推定口径18 cm。
第125回 PL.78	15	上師器 震	遺構外 口縁部小片		細砂粒多/良好に ふい・黄褐	口縁部内外ともと端部のみ横ナデ。端部直下よりハケ 工具痕が残るヘラナデ。	推定口径18cm 前後。
第125回 PL.78	16	上師器 震か	遺構外 底部～胴部下端 1/2	底 7.5 高 (2.5)	細砂粒、粗砂粒、 チャート/良好に ふい・褐	底面外周方向不定の手持ちヘラ削り。脚部下端弱い手 持ヘラ削り。内面方向不定のヘラナデ。	
第125回 PL.78	17	上師器 高杯	遺構外 脚部3/4	底 9.6 高 (5.2)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒・良 好/明赤褐	内面底部残存部分は平滑に仕上げられている。脚部外 面横ナデ。内面下半横ナデ。上半無調整。	内底部剥落。
第125回 PL.78	18	須恵器 把手手機	遺構外 把手	細砂粒/還元焰/灰 白	表面削痕ともナデ。把手断面径は1.2～1.3mm。		
第125回 PL.78	19	須恵器 無蓋高杯	遺構外 口縁部片	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ形整、回転は右回りか。口縁部下に2段の小凸 部をつくる。		
第125回 PL.78	20	須恵器 高杯	遺構外 脚部片	細砂粒/還元焰/灰 灰	ロクロ形整、回転は右回りか。腹部上端は透孔下端、 残存部下端は端部袖曲部に相当し、凸部がつくられ ている。		
第125回 PL.78	21	須恵器 杯身	遺構外 底部小片	細砂粒(白色粒)/ 還元焰/灰灰	ロクロ形整、回転は右回りか。底部は回転ヘラ削り。	22と同様な胎 土	
第125回 PL.78	22	須恵器 杯身	遺構外 胴部片	細砂粒(白色粒)/ 還元焰/灰灰	ロクロ形整、回転は右回りか。口縁部は貼付。	21と同様の胎 土	
第125回 PL.78	23	須恵器 杯蓋	遺構外 天井部片	細砂粒/還元焰/灰 黄褐	ロクロ形整、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。 内面には同心円状の手目痕が残る。天井部には降灰が 厚く付着。		
第125回 PL.78	24	須恵器 無蓋高杯	遺構外 杯部底部～胴部 片	細砂粒/還元焰/灰 灰	ロクロ形整、回転は右回り。底部は回転ヘラ削り。胴 部上に凹線を造らす。		
第125回 PL.78	25	須恵器 震	遺構外 口縁部片	細砂粒/還元焰/灰 灰	ロクロ形整、回転は右回りか。口縁端部は上下に引き 出されている。外底は降灰が付着。		
第125回 PL.78	26	須恵器 震	遺構外 口縁部片	細砂粒/還元焰/灰 灰	ロクロ形整、回転は右回りか。口縁端部は凹面をもつ て面をつくり、口縁端部下に断面三角形の凸沿を引き出 していく。		
第125回 PL.78	27	須恵器 震	遺構外 口縁部片	細砂粒/還元焰/灰 灰	ロクロ形整、回転は右回りか。口縁端部は上下に引き 出紙面を作り、2条の線縫を造らす。		

## 遺物観察表

種類 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考	
第1268 PL.78	須恵器 縛形罐	遺構外 口縛部小片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転方向不明。口縛部(残存部下端)に凹みが造り、その上には波状文が施されている。口縛部外傾し、内面は平面につくる。内面は降灰が付着。		
第1268 PL.78	須恵器 杯蓋	遺構外 天井部～口縛部 片	縦 12.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回り。天井部は中程まで回転へうけり。口縛部上に棱をつくり、その下に凹線をつくる。断面は赤褐色を呈す。		
第1268 PL.78	須恵器 高杯	遺構外 脚部片		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ形、小片のため詳細不明。		
第1268 PL.78	須恵器 杯蓋	遺構外 天井部片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回りか。脚部の屈曲部に小凸脊をつくる。端部は尖らず丸みをもつ。		
第1268 PL.78	須恵器 杯身	遺構外 ほぼ完形(口縛 部1/5欠損)	口 9.7 受 11.8	細砂粒/還元焰/灰 5.5	ロクロ形、回転は右回り。天井部は中程まで回転へうけり。口縛部上に棱をつくる。		
第1268 PL.78	須恵器 有蓋高杯蓋	遺構外 天井部～口縛部 片	口 15.8 縦 16.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回り。天井部は中程まで回転へうけり。口縛部上に棱をつくる。天井部の痕跡、外側天井部に降灰が付着。		
第1268 PL.78	須恵器 杯蓋	遺構外 口縛部片	口 13.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回りか。口縛部上に棱をつくり、その下に凹線をつくる。断面は赤褐色を呈す。		
第1268 PL.78	須恵器 杯蓋	遺構外 天井部～口縛部 片	口 12.8 縦 13.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回り。口縛部は内面に段差つくる。口縛部は内面に棱をつくる。		
第1268 PL.78	須恵器 杯蓋	遺構外 口縛部片	口 13.4	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回り。口縛部は面をつくる。		
第1268 PL.78	須恵器 杯身	遺構外 口縛部片	口 13.2	細砂粒/還元焰/灰 黄褐色	ロクロ形、回転は右回りか。口縛部は平面をつくる。		
第1268 PL.78	須恵器 杯身	遺構外 口縛部片	口 10.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回りか。口縛部は平面をつくる。		
第1268 PL.79	須恵器 無蓋高杯	遺構外 杯部口縛部片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回りか。口縛部下に棱をつくる。外側に降灰が付着。断面は赤褐色を呈す。		
第1268 PL.79	須恵器 無蓋高杯	遺構外 杯部口縛部片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回りか。口縛部は丸くつくる。		
第1268 PL.79	須恵器 無蓋高杯	遺構外 杯部口縛部片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回りか。口縛部下に1段の棱をつくる。口縛部は平面をつくる。		
第1268 PL.79	須恵器 無蓋高杯	遺構外 杯部口縛部片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回りか。底部は回転へうけり。制御部に2条の凹溝が認める。		
第1268 PL.79	須恵器 無蓋高杯	遺構外 杯部口縛部片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回りか。口縛部下に断面三角形の凹溝をつくる。		
第1268 PL.79	須恵器 杯身	遺構外 蓋受け～脚部片		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ形、回転は右回りか。蓋受け面はほぼ水平に陥入されている。		
第1268 PL.79	須恵器 無蓋高杯	遺構外 杯部制御部片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回りか。脚部上に2条の凹溝が巡る。		
第1268 PL.79	須恵器 無蓋高杯	遺構外 杯部口縛部～脚 部片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回りか。口縛部下に2段の凸溝をつくる。		
第1268 PL.79	須恵器 杯身	遺構外 蓋受け～脚部片		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ形、回転は右回りか。蓋受け面はほぼ水平に陥入されている。		
第1268 PL.79	須恵器 無蓋高杯	遺構外 杯部制御部片		細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回りか。底部は回転へうけり。制御部に2条の凹溝が認める。		
第1268 PL.79	須恵器 一	遺構外 小片		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ形。		
第1268 PL.79	須恵器 高杯	遺構外 脚部	脚 10.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回り。脚部は屈曲部に凸筋、その下位を凹線部上につくる。脚注部には透孔を4方に穿孔。		
第1268 PL.79	須恵器 高杯	遺構外 脚部	脚 10.8	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ形、回転は右回り。脚部は屈曲部に凸筋、その下位を凹線部上につくる。脚柱部には透孔を3方に穿孔。		
第1268 PL.79	須恵器 高杯	遺構外 杯部底脚部片		細砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ形、回転は右回り。底部は回転へうけり。脚部には透孔を3方に穿孔か。透孔は幅の狭い長方形か。		
第1268 PL.79	石製品 臼玉	遺構外 完形	径 0.8 高 0.6	重 0.73	滑石	半円型の石製模造品。左辺側は直線的で、右辺側は多角形となる。表面質とも相い縫隙や隙が残る。孔は片側穿孔。破損部は青味の強い石材感。孔径0.2	
第1268 PL.79	石製模造品 半円形	遺構外 完形	長 2.5 幅 2.2	厚 0.6 重 5.90	滑石		

## 7.5号竪穴建物

種類 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第1308 PL.79	上師器 杯	埋土、4号遺物 集中 口縛部～底部 1/3	口 13.0 高 (5.0)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒、良 好に/よい赤褐色	外面口縛部横ナード。底部以下磨きに近い手持ちへうけり器面平滑。内面横ナードの上に口縛部左傾斜放射状へうけり。	

遺物観察表

種 国 Pl.No.	種 類 器 類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第1308 Pl.79	上師器 椀	埋土 3/4	口 13.2 高 7.5	細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部上半はハケメ(1cm当たり5本)、 胴部下半から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から 胴部下半にへらナデ。	
第1308 Pl.79	上師器 椀	埋土 4/5	口 12.3 底 6.5	細砂粒、粗砂粒/ 良好/にぶい・相 良	内外面の口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ。 内部はハケメ後へらナデ、底部はヘラ削り。内面は底 部から胴部にへらナデ。器面が荒れており単位不明。	
第1308 Pl.79	上師器 ミニチュア 鉢形	埋土 ほぼ完形	口 7.9 底 5.8	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半から胴部はナデ、底部はヘ ラナデ。内面は巡回剥離のため整然不明。	
第1308 Pl.79	上師器 杯	埋土 底部ほぼ完存		細砂粒、石英、輝 石等複数な粒物/ 良好/暗赤褐色	内外面の口縁部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ。 内部はハケメ後へらナデ、底部はヘラ削り。内面は底 部から胴部にへらナデ。器面が荒れており単位不明。	厚手で重量。
第1308 Pl.79	上師器 杯	土坑1 口縁部小片		細砂粒、赤褐色相 粗砂粒/良好/にぶい ・赤褐色	外表面横位、底部方向不定の手持ちヘラ削り。胴部 の一部にハケ目状の擦痕。内面横位、底面螺旋を描く ような強い幅広ヘラナデ。	
第1308 Pl.79	上師器 杯か	土坑1 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒/ 良好/黒褐色	外表面横位の弱い削り。内面粗いハケ目状の擦痕が残 るヘナデ。	
第1308 Pl.79	上師器 高杯	埋土 杯部3/4	口 18.0 高 (5.5)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/相良	口縁部の外表面丁寧な横ナデ。外底部弱い手持ちヘラ削 り。内底部方向不定のナデ。	内底部剥落。
第1308 Pl.79	上師器 高杯	埋土 脚部3/4	底 (14.0) 高 (9.2)	細砂粒、粗砂粒、 黑色粗砂粒/ごく良 好/相良	脚柱脚部側、堅柱足柱の斜放射削ヘラ磨き。内面脚 柱足柱工具のヘラ削りだが、無調整部分が所々に残る。 据部横ナデ。	
第1308 Pl.79	上師器 高杯	埋土 脚柱部完存		細砂粒、粗砂粒、 輝石/良好/にぶい・相 良	脚柱足柱の丁寧なヘラ磨き。外面下半は棍棒工具の ヘナデ。上半は棍棒工具で絞り目が残る。	厚手で重量、 内底部剥落顯著。
第1308 Pl.79	上師器 高杯	埋土 脚柱部3/4	底 14.0	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/明赤褐色	外表面横ナデの上に左側の斜放射状ヘラ磨き。内面横ナ デ。	
第1308 Pl.79	上師器 高杯	土坑1 脚柱部完存		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/相良	外表面柱足柱棍棒工具によるヘラナデ。脚柱足柱横ナデ。 内面難な調整で手持ちヘラ削り痕ヘラ先状の仕上がりと不規則な調整。	
第1308 Pl.79	上師器 甕	埋土 ほぼ完形	口 19.0 底 6.7 胸 27.2 高 31.5	細砂粒、粗砂粒/ 良好/にぶい・相 良	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後中位下半を残して ヘナデ、ヘラナデの単位不鮮明。底部はヘラ削り。 内面は底部から胴部にへらナデ。	
第1308 Pl.79	上師器 甕	埋土 ほぼ完形	口 17.9 底 5.8 胸 19.4 高 21.3	細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤褐色	口縁部から頭部は横ナデ、胴部はハケメ(1cm当たり5 本)後脚部は半の一部にへら削り、底部はヘラ削り。内 面は底部から胴部にへらナデ。	
第1318 Pl.80	上師器 甕	埋土 ほぼ完形	口 19.3 底 5.5 胸 24.2 高 27.0	細砂粒、粗砂粒/ 良好/相良	内外面に輪積み痕が残る。口縁部から頭部は横ナデ、 胴部はヘラ削り後ヘマギキ。底部はヘラ削り。内面 は底部から胴部にへらナデ。	
第1318 Pl.80	上師器 甕	埋土 ほぼ完形	口 17.2 底 7.0 胸 23.8 高 27.6	細砂粒/良好/赤褐色	口縁部は横ナデ、頭部から胴部はハケメ(1cm当たり5 本)後脚部は横ナデ、胴部と脚と下位にへら削り、底部 もヘラ削り。内面は底部から胴部にへらナデ。	
第1318 Pl.80	上師器 甕	埋土 ほぼ完形	口 17.5 底 6.5 胸 20.0 高 24.8	細砂粒、粗砂粒/ 良好/にぶい・赤褐色	内面に輪積み状の擦痕。外表面横にハケ目状の擦痕 が残る部位を持つちヘラ削り後、中位付近にナデに近い 弱い削り削り。内面胴部ハケ目状擦痕跡著なヘナデ。 底部履位～斜位の弱いハケ目状擦痕が残るヘラ ナデ。	外底付近やや 磨滅。
第1318 Pl.80	上師器 甕か	埋土 脚部～底部1/3	底 (8.2) 高 (12.2)	細砂粒、粗砂粒/ 良好/にぶい・赤褐色	外表面脚部下端横位、底部方向不定の手持ちヘラ削り。 内面粗い擦痕が残るナデ。	内面剥落。
第1318 Pl.80	上師器 甕か	埋土 底部1/2	底 6.5	細砂粒、粗砂粒、 輝石/良好/にぶい ・赤褐色		

7-2号6号穴建物

種 国 Pl.No.	種 類 器 類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第1348 Pl.80	上師器 杯	埋土 口縁部～胴部下 半2/3	口 12.0 高 (4.9)	細砂粒、片岩等の 混じる粗砂粒や少 量の良好/相良	口縁部横ナデ。胴部外表面手持ちヘラ削り、内面不明。	内面全体に剥 落。
第1348 Pl.80	上師器 椀	埋土 ほぼ完形	口 12.9 底 6.0	細砂粒、粗砂粒/ 良好/赤褐色	口縁部は横ナデ。口縁部と胴部はナデ、底部と底部周 縁は手持ちヘラ削り。内面は口縁部が横ナデ、底部か ら胴部はヘラナデが、表面が荒れており不鮮明。	
第1348 Pl.80	上師器 椀	埋土 口縁部1/2、胴 部1/3	口 12.0 高 (7.7)	細砂粒や多量、粗 砂粒/良好/明赤褐色	口縁部内外面横ナデ。外面上半横位の手持ちヘラ削り 後上部はハケ目状。下半は方向不定の強いヘラ削り。 内面横ナデ。	細かな接合痕 が内外面とも 残る。
第1348 Pl.80	上師器 甕	埋土 完形	口 15.4 底 14.7	細砂粒、粗砂粒/ 良好/赤褐色	口縁部は横ナデ。頭部下にハケメが残る。胴部はヘラ ナデ、底部はヘラ削り。内面は底部から胴部にへらナデ。	
第1348 Pl.80	上師器 高杯	埋土 杯部ほぼ完存	口 17.5 高 (6.3)	細砂粒、赤褐色相 粗砂粒/良好/明赤褐色	外面上部左頸斜放射状のヘラ磨き。底面ナデのよう な弱いヘラ削り。内面右頸気味の放射状ヘラ磨き。	内面口縁部下 半～底部剥落。
第1348 Pl.81	上師器 高杯	埋土 杯部1/3	口 19.0 高 (6.0)	細砂粒少、粗砂粒 赤褐色粗砂粒/良 好/相良	外面上部左頸斜放射状のヘラ磨き。底面ナデのよう な弱いヘラ削り。内面右頸気味の放射状ヘラ磨き。	
第1348 Pl.81	上師器 高杯	埋土 口縁部1/3	口 20.0 高 (4.8)	細砂粒少、粗砂粒 赤褐色粗砂粒/良 好/相良	外面上部左頸斜放射状のヘラ磨き。底面ナデのよう な弱いヘラ磨き。	

## 遺物観察表

種 因 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考	
第134回 PL.81	8	土師器 壺	埋土 ほぼ完形	口 深 17.3 29.6	底 高 6.7 34.8	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は上位が横ナデ、中・下位はナデ。胴部は全体的に表面摩滅のため不鮮明であるが、上半はヘラ削り。中程のヘラ削りは当初の整形か、底部と底部削痕はヘラ削り。内面も表面摩滅のため不鮮明であるが、底部から胴部にへラナデ。	
第134回 PL.81	9	土師器 壺	埋土 口縁部～胴部上半	口 深 16.4 20.8	底 高 24.8	細砂粒/良好/にぶい赤	口縁部から胴部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部へラナデ。	
第135回 PL.81	10	土師器 壺	埋土、 構外 口縁部～胴部	口 深 16.0 20.8	底 高	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第135回 PL.81	11	土師器 壺	埋土 口縁部～胴部	口 深 16.0 20.7	底 高	細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤褐色	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後ヘラナデ、単位不明。 内面胴部はヘラナデ。	
第135回 PL.82	12	土師器 壺	埋土 口縁部～胴部上半	口 深 16.8	底 高	細砂粒/良好/明赤 褐色	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部にヘラナデ。	
第135回 PL.82	13	土師器 壺	埋土 口縁部～胴部下半 1/4	口 深 24.0 (16.8)	底 高	細砂粒、粗砂粒や や多、石英、輝石/ 良好/にぶい赤褐色	口縁部と内面横ナデで頭部外側に接合痕明顯。軸部外側に頭部喉嚨部喉嚨のハケ目。下から上方向か。内面に横位のハケ目で粗さは外側に似る。	厚手で重量。 内面胴部下半に部分的に広い削痕。
第135回 PL.82	14	土師器 壺か	埋土 胴部下半/4、 底部完形	底 高 6.0 (5.4)	底 高	細砂粒、粗砂粒/ 石英、輝石/良好/ にぶい赤褐色	外面部に弱い削りを施すが無調整部分が広く、指紋が残る。器面不整。内面、ヘラ状工具によるナデで比較的の滑。	内底部若干削減。
第135回 PL.82	15	土師器 壺か	埋土 胴部下端～底部 完存	底 高 7.0 (2.7)	底 高	細砂粒、粗砂粒や や多/良好/にぶい赤 褐色	外面部横方向、底部方向不定の手持ちヘラ削り。内面軸部工具によるヘラナデで工具のアタリ痕が放射状に残る。	
第135回 PL.82	16	土師器 壺か	埋土 胴部下端～底部 3/4	底 高 7.0 (2.9)	底 高	細砂粒や多 チャート混じりの 粗砂粒少/良好/ にぶい橙	外面部横ごく弱いヘラ削りで、押しつぶされたような粘土粒が残る。底部は丁寧な手持ちヘラ削り。内面幅広工具によるヘラナデ。	
第135回 PL.82	17	石製品 資玉	床直 完形	長 径 2 0.4	重 0.43	珪質岩質	深緑色を呈す良質石材を用いた管玉で、丁寧に研磨され、表面に線条痕は残さない。孔(径2mm)は内面穿孔による。	
第135回 PL.82	18	ガラス製品 小玉	床直 完形	径 高 0.5 0.3	重 0.07	ガラス	色調は黄緑色。黄褐色の筋が筋状に伸びる。引き伸ばしによるものとみられるが、気泡による確認はできていない。	

## 7区12号堅穴建物

種 因 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考	
第139回 PL.82	1	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 高 14.0 (5.2)	底 高	細砂粒多、他の泥 物入り少/良好/明赤 褐色	外面部横ナデは上半のみで下半は無調整。外底は斜め手持ちヘラ削り。内面不明瞭だが器面は平滑に仕上げる。厚手で重量。	内面広くスス付着物、口 縁部内端磨滅。
第139回 PL.82	2	土師器 鉢か	口 口縁部4/4、底 部3/4	口 底 (13.0) (4.0)	高 (7.1)	細砂粒、粗砂粒、 石英/良好/橙	口縁部内外横ナデ。外面部上半無調整。胴部下半以下で手持ちヘラ削り。内面ヘラ状工具によるナデで平坦化が複数回ある。	
第139回 PL.82	3	土師器 杯	床直 口縁部1/3、底 部完全	口 高 (14.0) (5.6)	底 高	細砂粒、粗砂粒、 石英/良好/橙	口縁部内外横ナデ。胴部も弱いナデで底部付近に方舟型の弱い手持ちヘラ削り。内面ナデで仕上げるが器面の平滑さ欠く。	
第139回 PL.82	4	土師器 杯	口 口縁部～胴部小 片	口 底 (17.0) (14.0)	高 13.5	細砂粒、赤褐色粗 砂粒/良好/橙	外面部下まで横ナデ。胴部斜めの弱い削りのようだ が不明確。内面ナデで平滑に仕上げ。	推定口径12cm 前後。
第139回 PL.82	5	土師器 高杯	埋土、 埋土杯部口縁部2/2、 脚部1/4欠	口 底 (17.0) (14.0)	高 13.5	細砂粒、粗砂粒/ 良好/橙	外面部1脚部を傾斜放射状のヘラ削き。外底部に弱いナ デ。脚部傾向方向、脚部左傾斜放射状のヘラ削き。内底部に中 央を除いて口縁部左傾斜放射状のヘラ削き。脚柱部下側は 軸部工具によるハケ削りで上半に比較目が残る。	脚部部の一部 に赤色斑彩の 痕跡が残る。
第139回 PL.82	6	土師器 高杯	口 口縁部2/3	口 高 (18.0) (4.9)	底 高	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/明赤褐色	口縁部外側強烈な横ナデ。口縁部下端、突帶の貼付け丁寧。 内面横ナデの上に左傾斜放射状のヘラ削き。	
第139回 PL.82	7	土師器 高杯	埋土 口縁部1/4	口 底 (22.0) (14.0)	高 6.0	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/明赤褐色	外面部脚柱部磁力方向へラ削き。脚柱部には弱いヘラ削 りがあるようだ。内面脚柱部は楕円1具による複数のヘラ 削り。段り目は見えないが一部に複合削痕が残る。	
第139回 PL.82	8	土師器 高杯	床直 脚柱部完存			細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/橙	外面部脚柱部磁力方向へラ削き。脚柱部上半位。胴部下半斜 め手持ちヘラ削りで。脚柱部付近にはハケ目状の工具痕 跡が残る。	
第139回 PL.82	9	土師器 壺か	口 口縁部～胴部下 端1/4	口 底 (14.0) (17.4)	高 14.0	細砂粒、粗砂粒、 石英/良好/暗赤褐色	口縁部内外横ナデ。外面部下端の器具の手持ちへ ラ削り。脚部はナゲの下に部分的なハケ目あり。内面 横方向のナデでハケ目状の擦痕が残る。	外面部下半 削落。
第139回 PL.82	10	土師器 壺か	埋土 口縁部1/8、胴 部上半1/2	口 底 (16.3) (13.1)	高 16.3	細砂粒、粗砂粒、 石英/良好/明赤褐色		ハケ目は12mm 幅に溝7条。

## 遺物観察表

種 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第139回 PL.82	11	上師器 鉢	床直 口縁部～胴部上 半小片	口 (19.4) 高 (7.6)	細砂粒、粗砂粒/ 良好/赤褐色	口縁部内外面横ナデ。外面方向不定の弱い手持ちヘラ削りの上にナデに近い、纏のヘラ削りを加える。内面も横位の削りに近いヘラナデの上に纏のヘラナデを加える。	推定口径22cm 前後。
第140回 PL.83	12	上師器 鉢	炉、瓶方、床直 口縁部～胴部上 半1/2	口 (18.0) 高 (12.0)	細砂粒、石英混 りの粗砂粒/良好 橙	口縁部内外面横ナデで外面頭部にはハケ目のような擦痕が残る。外面頭部ハケ目。内面ハケ目が残る横位ナデ。接合痕が残る。	ハケ目は16mm 幅に溝10条。
第140回 PL.83	13	上師器 鉢	炉 口縁部1/6	口 (13.0) 高 (5.8)	細砂粒、粗砂粒/ 良好/赤褐色	口縁部外面横ナデで外面頭部にはハケ目のような擦痕が残る。外面頭部の手持ちヘラ削りにはハケ目と工具痕が残る。内面1/6部横ナデ。頭部削りに近いヘラナデで接合痕が残る。	ハケ目は16mm 幅に溝6条。
第140回 PL.83	14	上師器 甕	埋土 頭部～肩部小片	口 (19.0) 高 (4.3)	細砂粒、粗砂粒/ 石英/ごく良好/灰 白	外表面および斜め方向の粗いハケ目。内面横位のナデ。	ハケ目は16mm 幅に溝6条。
第140回 PL.83	15	上師器 鉢	埋土 口縁部1/6		細砂粒、粗砂粒/ 石英/良好/灰 黄橙	口縁部外面とも横位のナデ。外面の段の造り出しにはヘラ状の工具を用いる。	内面一部剥落。断面灰色を帯びる。 推定口径5cm 前後。
第140回 PL.83	16	上師器 甕	埋土 口縁部～肩部片		細砂粒、粗砂粒/ 良好/橙	口縁部内外面横ナデ。外面頭部にごく弱い纏の手持ちヘラ削り。内面横～斜位のナデ。	推定頭部内径 13cm前後。
第140回 PL.83	17	上師器 甕	PT、床直 胴部下端1/3、 底部完存	底 底 (11.0) (11.4)	細砂粒、片岩の少 ない目立つ粗砂粒/ 良好/橙	外表面下端に手持ちヘラ削り。内面調整不明瞭。	二次的被熱で 器面部剥落。
7/13号祭穴建物							
種 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第141回 PL.83	1	上師器 杯	床直 口縁部小片		細砂粒、混入物少 く/良好/にぶい黃橙	内外面とも横位のヘラ磨きで内面の方が丁寧。	外外面赤色 彩。断面灰色 帶びる。
第141回 PL.83	2	上師器 甕	床直 底部完存	底 7.2	細砂粒や多、混 入物少/良好/灰 青	外表面下端端位の纏かなヘラ削り。一部にハケ目状の擦痕が残る。底部無調整。内底部は指頭による強い印。	
7/14号祭穴建物							
種 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第144回 PL.83	1	上師器 杯	床直 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒/ 赤褐色粗砂粒/良 好/赤褐色	外面口縁部横ナデ。胴部無調整部分はほとんど残さず。底部では長い長い手持ちヘラ削り。内面横位の上に口縫部左斜斜放射状。底部はほぼ一向向のヘラ磨き。	全体的に剥落。
第144回 PL.83	2	上師器 椀	床直 ほぼ完形	口 8.3 高 11.4	細砂粒/良好/赤 褐色	口縫部は横方向、胴部上位から口縁部は斜放射状ヘラ ミガキ。胴部中央から底部はヘラ削り。内面は胴部上位からヘラミガキ。中位以下は器面摩滅のため整形不規。	
第144回 PL.83	3	上師器 椀	床直 ほぼ完形	口 12.1 高 13.2	細砂粒/良好/柏 葉	口縫部は横ナデ。胴部は丁寧なナデ。底部と底部周縁は手持ちヘラ削り。内面は器面が剥れており整形不規。	
第144回 PL.83	4	上師器 小型盤	床直 口縫部上半欠	胴 12.8	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縫部は横ナデ。胴部は丁寧なナデ。底部と底部周縁は手持ちヘラ削り。内面は底部から胴部へナダ。器面摩滅のため単位不規。内面は底部から胴部へナダ。接合部も使用か。	
第144回 PL.83	5	上師器 椀	床直 ほぼ完形	口 12.4 高 13.2	細砂粒/良好/に ぶい黄	口縫部は横ナデ。胴部は丁寧なナデ。底部と底部周縁は手持ちヘラ削り。内面は底部から胴部へナダ。胴部上位・中位は器面摩滅のため単位不明。	
第144回 PL.83	6	上師器 椀	床直 ほぼ完形	口 13.5 高 14.0	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縫部は横ナデ。胴部上半はヘラミガキ。胴部下半 から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から胴部はヘラミガキ。	
第144回 PL.83	7	上師器 椀	床直 ほぼ完形	口 12.1 高 13.1	細砂粒/良好/に ぶい褐	口縫部は横ナデ。胴部は放射状ヘラミガキ。底部は手 持ちヘラ削り。内面は底部から胴部にやや難な放射状 ヘラミガキ。	
第144回 PL.83	8	上師器 椀	床直 ほぼ完形	口 12.5 底 12.7	細砂粒/良好/に ぶい黄	口縫部は横ナデ。胴部はヘラナダ。底部は手持ちヘラ ナダ。	
第144回 PL.83	9	上師器 杯	床直 完形	口 (12.2) 高 6.9	細砂粒、粗砂粒/ 石英/良好/明赤褐	内外面とも口縫部～胴部上半横ナデ。外面胴部下半 へ斜滑きに近い事な手持ちヘラ削り。内底はヘラナ ダで平滑に仕上げる。	胴部内面下半 剥落者。
第144回 PL.83	10	上師器 杯	床直 完形	口 (12.4) 高 6.2	細砂粒、粗砂粒/ 石英/良好/橙に ぶい褐	外表面1/2部～胴部上半横ナデ。胴部下半～底部磨きに 近い事な手持ちヘラ削り。内面口縫部横ナデ。胴部 以下不明瞭だが平滑に仕上げてある。	内面全体剥落 者。二次被 熱の可能性。
第144回 PL.83	11	上師器 杯	床直 1/2	口 (12.0) 高 7.6	細砂粒、粗砂粒/ 石英/良好/明赤褐	外表面1/2部～胴部上半横ナデで平滑。胴部下半以下の 手持ちヘラ磨きに近い。内面口縫部横ナデ。胴部 以下不明瞭だが平滑に仕上げてある。	胴部内面や 底部剥落者。
第144回 PL.83	12	上師器 杯	床直 口縫部～胴部 1/6		細砂粒、粗砂粒/ 良好/にぶい褐	口縫部外面横ナデ。胴部外面磨きに近い纏かな手持 ちヘラ削りで器面磨。内面不明。	胴部内面剥落 者。推定口 径13cm前後。
第144回 PL.83	13	上師器 杯	床直、埋土 胴部上半1/4欠	口 (8.2) 底 5.0	細砂粒、粗砂粒/ 良好/灰褐色	口縫部は内外面無調整。胴部外面に弱い手持ちヘラ削 りを加えるが、他のビヒや指面磨状の凹み残る。外 底無調整。胴部内面難なヘラナダで器面不整。	

## 遺物観察表

種 因 Pl.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第1448 PL.83	14 上師器 裏	床直 口縁部～肩部 1/6				細砂粒、粗砂粒、 混入物少/良好/黒褐	口縫部内外面横ナデ。肩部外面横位の弱い手持ちヘラ削り。内面横ナデ。底部直下に接合痕が残る。	推定口径13cm 前後。
第1458 PL.84	15 上師器 高杯	床直 ほぼ完形	口 底 17.5 11.5	高 13.0		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/赤褐	外面部口縁部横ナデ。外底に弱い手持ちヘラ削り。脚柱部方向不定のヘラ磨き。脚部内面横位ナデ。杯内面横ナデの上に幅広工具による横位・斜位のヘラ磨きで平滑。脚柱部内面横部接合後は無調整。	
第1458 PL.84	16 上師器 高杯	床直、埋土 口縁部1/2欠	口 底 (18.6) 12.2	高 13.1		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/赤褐	外面部口縁部横ナデ。外底に弱い手持ちヘラ削り。脚柱部方向不定のヘラ磨き。脚部内面横位ナデ。杯内面横ナデの上に幅広工具による横位・斜位のヘラ磨きで平滑。脚柱部内面横部接合後は無調整。	
第1458 PL.84	17 上師器 高杯	床直 ほぼ完形	口 底 18.4 17.0	高 15.6		細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縫部外面弱い横ナデ。脚柱部斜位の斜位放射状のヘラ磨き。内底に十字を描くようなヘラ磨き。脚部内面柱部幅広工具によるヘラ削り。底面横ナデ。	
第1458 PL.84	18 上師器 高杯	床直、埋土 ほぼ完形	口 底 17.5 11.7	高 (12.0)		細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/明赤褐	口縫部外面弱い横ナデ。脚柱部方向不定のヘラ磨き。脚部内面横位ナデ。杯内面横位全体に放射状のヘラ磨き。口縫部端部は内側へ折り曲げる。脚柱部と堀部接合時の横位をそのまま残す。	
第1458 PL.84	19 上師器 高杯	床直、埋土、 ほぼ完形	口 底 17.5 11.6	高 13.0		細砂粒、粗砂粒/ 良好/赤褐	口縫部横ナデ。底面手持ちヘラ削り。脚柱部斜位・斜位のナデ。脚部横ナデ。内面柱部口縫部上手横ナデ。口縫部下半・底部指頭による左傾斜放射状のナデ。脚柱部斜位のナデ。脚部横ナデ。	杯部内面と口 縫部外赤色 塗彩か、内底 部や脇部。
第1468 PL.84	20 上師器 裏	床直 口縁部～肩部 1/4	口 (22.0) 13.8	高 (12.5)		細砂粒、粗砂粒、 石英/良好にぶい 黄褐	口縫部内外面横ナデ。外面部弱い手持ちヘラ削り。内底は複雑なヘラナデ。	
第1468 PL.84	21 上師器 碗蓋	床直 ほぼ完形	口 底 10.2 2.1	高 3.6		細砂粒/良好にぶ い赤褐	横穴付。口縫部端部はやや折り上げ。天井部は放射状・バミガキ。内面はヘラナデ後口縫部に斜放射状 ラミガキ。	2の蓋か。

## 7区15号竪穴建物

種 因 Pl.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第1498 PL.85	1 上師器 裏	床直、土坑1、 埋土 1/2	口 11.2 13.8	底 5.0 高 12.7		細砂粒、粗砂粒/ 良好/明黄褐	口縫部は横ナデ、肩部上直はヘラナデ、単位不明、肩部半下から底部はヘラ削り。内面は底部から肩部へヘラナデ。	
第1498 PL.85	2 上師器 小型盤	床直、P4 口縁部～胴部	口 7.8 10.1			細砂粒/良好にぶ い黄褐	内面肩部に輪積み痕が残る。口縫部から頭部は横ナデ、制御部上位から中位にヘラナデ、下位はヘラ削り。内面は頭部へヘラナデ。	
第1498 PL.85	3 上師器 裏	掘方、床直、 10号竪穴建物 口縁部～胴部上 位	口 14.8			細砂粒/良好にぶ い橙	口縫部から頭部は横ナデ、胴部はヘラナデ。内面は胴部へヘラナデ。	
第1498 PL.85	4 上師器 裏	床直 口縫部1/3 肩部 1/6	口 (13.4) (10.5)			細砂粒、粗砂粒、 石英/良好にぶい 黄褐	口縫部は外面横ナデ。外面部の沈殿は先端がギザギザの状況工具使用。肩部外面の手持ちヘラ削りはハケ目状の擦痕。肩部内面幅広工具によるヘラナデ。	口縫部赤み、 断面黒色味を 帯びる。
第1498 PL.85	5 上師器 高杯	床直、埋土 口縫部小片				細砂粒、粗砂粒/ 良好/明赤褐	口縫部内外面横ナデで調整の痕跡なし。	推定口径26cm 前後。
第1498 PL.85	6 上師器 杯	埋土 口縫部小片				細砂粒、混入物少 薄手。外面部とも横位のヘラ磨きを隙間なく施す。	外面部横位のヘラ磨き。内面全面に横位ヘラ磨き。	内外面赤色塗 彩。
第1498 PL.85	7 上師器 杯	土坑1 口縫部～胴部上 半小片				細砂粒、赤褐色粗 砂粒/良好/橙	口縫部内外面横ナデ。外面部弱い手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。	推定口径11cm 前後。
第1498 PL.85	8 上師器 杯	埋土 口縫部～胴部上 半小片				細砂粒、混入物少 薄手。外面部は横位のヘラ磨き。	内面全面に横位ヘラ磨き。	推定口径12cm 前後。
第1498 PL.85	9 上師器 杯	床直 制御部下半～底部 ほぼ完存		底 6.0 (5.9)		細砂粒、粗砂粒/ 良好/灰黄褐	外面部下半ヘラ磨きのような方向不定の手持ちヘラ削り。外底手持ちヘラ削り。内面ヘラナデ。	織襪土のよう な付着物が割 口まで見られる。
第1498 PL.85	10 上師器 裏	床直 底部ほぼ完形		底 (8.0) (2.6)		細砂粒、粗砂粒、 石英/良好/褐	外面部下端縦位の弱い手持ちヘラ削り。底部方向不 定の手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。	

## 7区1号掘立柱建物

種 因 Pl.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第1508 PL.85	1 上師器 杯	2号ピット 口縫部小片				細砂粒、粗砂粒/ 良好/橙	口縫部内外面横ナデ。外面部残存部下端に手持ちヘラ削 り痕。内面制御部幅広工具による斜位のヘラナデ。	

## 7区1号平地建物

種 因 Pl.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)			胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第1528 PL.85	1 上師器 杯	埋土 1/4				細砂粒、粗砂粒/ 良好/橙	口縫部内外面横ナデ。外面部上半無調整。底部手持 ちヘラ削り。内面制御部幅広工具による斜位のヘラナデ。	外底部、黒斑 広い。推定口 径14cm。

## 遺物観察表

種 因 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第1528 PL.85	2	上師器 杯	埋土 口縁部～胴部 1/3		細砂粒、赤褐色粗砂粒や 多/良好/橙	口縁部～胴部上半外側とも横ナデ。外面胴部下半手 持ヘラ削り。内部胴部右傾斜放射状の凹面の広いヘ ラ磨き。	推定口径13cm 前後。内面に電粘土物の付着物あり。
第1529 PL.85	3	上師器 杯	埋土 口縁部～底部 1/4		細砂粒、赤褐色粗 砂粒や多/良好/ 橙	手。外面口縁部横ナデ。底部手持ちヘラ削りで縁部 に無調整部分が残る。内面不明瞭。	推定口径13 cm。
第1529 PL.85	4	上師器 高杯	埋土、床直 口縁部1/4 底 部1/2	口15.0 高(5.5)	細砂粒、粗砂粒、 石英、輝石/良好/ 橙	外側口縁部右回転利用横ナデ。底部右回転利用ヘラ削 り。内面全体右回転利用横ナデ。	
第1529 PL.85	5	上師器 高杯	埋土 口縁部1/6	口13.6) 高(4.1)	細砂粒、粗砂粒、 赤褐色粗砂粒/良 好/明赤	外面口縁部横ナデ。中位以下に覆位～斜位の手持ちヘ ラ削り。内面横ナデの上に右傾斜放射状のヘラ磨き。	内底部の剥落 覗見。
第1529 PL.85	6	上師器 震	埋土 口縁部～肩部小 片		細砂粒、粗砂粒/ 良好/にぶい赤	口縁部内外面横ナデ。外面肩部手持ちヘラ削り。内面 肩部幅広工具によるヘラナデ。	推定口径18cm 前後。
第1529 PL.85	7	上師器 震	埋土、底直 口縁部～胴部上 位片、脚部下位 ～底部	口12.2 底5.1	細砂粒、粗砂粒/ 良好/にぶい赤	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。 底部と胴部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナ デ。	同一個体か、 接点はない。
第1529 PL.85	8	須恵器 杯蓋	床直 口縁部片		細砂粒/還元焰/灰	口クロ形態、回転は右回りか。口縁部上に棱をつくる。 口縁部は内縮し、僅かに門状の窓をつくる。	
第1529 PL.85	9	須恵器 杯蓋	床直 口縁部片		細砂粒/還元焰/灰	口クロ形態、回転は右回りか。口縁部上に棱をつくる。	
第1529 PL.85	10	須恵器 高杯	床直 脚部端部片		細砂粒/還元焰/灰	口クロ形態、回転は右回りか。脚端部は突り、屈曲部 に小凹槽をつくる。	
第1529 PL.85	11	須恵器 高杯	埋土 脚部端部片		細砂粒/還元焰/灰	口クロ形態、回転は右回りか。脚端部は突り、屈曲部 に小凹槽をつくる。残存部上端は透孔の下端。	
第1529 PL.85	12	須恵器 高杯	埋土 脚部柱状片		細砂粒/還元焰/灰	口クロ形態、回転は右回りか。上端は杯部との貼付面、 右端は透孔。	

## 7K29号土坑

種 因 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第1539 PL.85	1	上師器 杯	埋土 口縁部小片		細砂粒、粗砂粒/ 良好/橙	外側面とも残存範囲は横ナデ。	推定口径17cm 前後。
第1539 PL.85	2	上師器 高杯分	埋土 口縁部1/6		細砂粒、粗砂粒/ 良好/灰褐	外面1/6部～胴部上半横ナデ。胴部中位、幅広工具に よる手持ちヘラ削り。	推定口径17cm 前後。
第1539 PL.85	3	須恵器 高杯	埋土 杯部底部～胴部 片		細砂粒/還元焰/灰	口クロ形態、回転は右回りか。杯部底部は回転ヘラ削り。 口縁部下に棱をつくる。	

## 7K 4号燒土

種 因 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第1559 PL.85	1	上師器 杯	埋土 底部ほぼ完存	高(2.5)	細砂粒、粗砂粒/ 良好/にぶい赤	外側面を持ちヘラ削り。ヘラナデで平滑に仕上げる。口 縁部内面に左輪旋風の放射状ヘラ磨きが施されていた 可能性。	

## 7区7号壁式六建物

種 因 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第1594 PL.85	1	須文上器 深鉢	P3 胴部片		粗砂粒、白色粒子、 石英粒/良好/橙	三角文間にLR繩文重点施す。ナデ整形。	後期前葉。堀 之内式。
第1594 PL.85	2	須文上器 深鉢	埋土 胴部片		粗砂粒、白色粒子/ 良好/橙	LR帶状文間に單沈線文。ナデ整形。	後期前葉。堀 之内式。
第1594 PL.85	3	須文上器 深鉢	埋土 胴部片		粗砂粒、白色粒子、 石英粒/良好/橙	三角文間にLR繩文重点施す。ナデ整形。	後期前葉。堀 之内式。

## 7区縄文・弥生時代

種 因 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第1638 PL.86	1	須文上器 深鉢	8号室穴建物床 直 胴部片		粗砂粒、纖維含有/ 良好/橙	円形刺突文、蛇線文施文後、ボタン上の突起を貼り付け、 外面ナデ整形。	前期中期。浮 島式。
第1638 PL.86	2	須文上器 深鉢	道構外 胴部片		粗砂粒、白色粒子、 石英粒/良好/橙	LR繩文を施し、蛇行状の蛇線文施文後、円形刺突文。 ナデ整形。	前期後葉。諸 磯式。
第1638 PL.86	3	須文上器 深鉢	道構外 胴部片		粗砂粒、白色粒子、 石英粒/良好/橙	横位に半裁竹管文施文。ナデ整形。	前期後葉。諸 磯式。
第1638 PL.86	4	須文上器 深鉢	道構外 口縁部片		粗砂粒、石英粒、 輝石/良好/橙	横位に半裁竹管文施文。ナデ整形。	中期中期。勝 坂式。
第1638 PL.86	5	須文上器 深鉢	道構外 胴部片		粗砂粒、白色粒子、 石英粒/良好/橙	隙間文間に角押文施文。ナデ整形。	中期前葉。阿 玉田式。
第1638 PL.86	6	須文上器 深鉢	道構外 胴部片		粗砂粒、石英粒、 輝石/良好/橙	縦垂文。ナデ整形。	中期後葉。燒 町式。

## 遺物観察表

種類 No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第1638# PL.86	甕文土器 深鉢	遺構外 胴部片		粗砂粒、石英粒、 輝石/良好/相	懸垂文。ナデ整形。	中期後葉。燒 町式。
第1638# PL.86	甕文土器 深鉢	遺構外 胴部片		粗砂粒、石英粒少 雲母微/「良好」相	LR纏文、懸垂文施文。ナデ整形。	中期後葉。曾 利皿式。
第1638# PL.86	甕文土器 浅鉢	遺構外 口縁部片		粗砂粒、白色粒子、 石英粒/良好/相	口沿部を外側に肥厚。ミガキ整形	中期後葉。
第1638# PL.86	甕文土器 深鉢	1号墳記 口縁部		粗砂粒、白色粒子、 石英粒/良好/相	横位沈線文間LR纏文施文。ナデ整形。	後期初葉。称 名寺2式。
第1638# PL.86	甕文土器 深鉢	9号墳穴建物 胴部片		粗砂粒、石英粒/ 良好/相	渦巻き文施文後、LR纏文施文重点施文。ナデ整形。	後期前葉。埴 之内式。
第1638# PL.86	甕文土器 深鉢	遺構外 胴部片		粗砂粒、石英粒、 輝石/良好/相	菱形文間にLR纏文重点施文。ナデ整形。	後期前葉。埴 之内式。
第1638# PL.86	甕文土器 深鉢	遺構外 胴部片		粗砂粒、輝石/良 好/相	縦紋文を貼り付け、LR纏文施文。外面ミガキ整形。	後期前葉。埴 之内式。
第1638# PL.86	甕文土器 深鉢	13号口 口縁部		粗砂粒、輝石/良 好/相	重円文。外面ナデ整形。	後期前葉。埴 之内式。
第1638# PL.86	甕文土器 深鉢	14号口 口縁部		粗砂粒、石英粒、 輝石/良好/相	LR纏文による帶縄文。ナデ整形。	後期後葉。高 井東式古段階。
第1638# PL.86	甕文土器 深鉢	遺構外 口縁部片		粗砂粒、白色粒子、 石英粒/良好/相	折り返し口縁。ナデ整形。	晚中期中葉。粗 製土器。
第1638# PL.86	甕文土器 深鉢	遺構外 口縁部片		粗砂粒、石英粒、 輝石/良好/相	ナデ整形。底部横帯文。	後期。
第1638# PL.86	甕文土器 深鉢	1号墳穴建物 武部		粗砂粒、白色粒子、 石英粒/良好/相	口沿と口縁外面全體に纏文(LR)、頭部に横位沈線が見 える。内面はナデないミガキ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	10号墳穴建物 口縁部片		粗砂粒/良好/黄 褐	口沿と口縁外面全體に纏文(LR)を施し、沈線で円文を描く。内 面ナデ	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	5号墳穴建物 口縁部片		粗砂粒/良好/黄 褐	口沿と外面に纏文(LR)を施し、沈線で円文を描く。内 面ナデ	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	9号墳穴建物 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	2条の太沈線で横(区画、上位に回転纏文(LR)、下 位に3条前位による横位沈線文をめぐらす。内面は指オサ エナデ)。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	遺構外 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	上位に3条以上の横位沈線、下位に三角モチーフの 沈線文を描き刻文対列点文で充填する。内面ナデ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	1号地建物床 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	纏文(LR)を地文とし、太沈線で縱位羽状文を描く。 内面ナデ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	9号墳穴建物 口縁部片		粗砂粒/良好/黄 褐	太沈線で三角文を描き、刺突で充填する。内面ナデ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	1号墳穴建物 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	纏文(LR)を地文とし、横位太沈線で頭部下位、肩部域 界付2条沈線で画す。内面ナデ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	8号遺物集中 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	纏文(LR)を地文に、太沈線で波状文や山形文を描く。 肩部には横位沈線文をめぐらす。内面ナデ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	遺構外 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	纏文(LR)を地文に、下端(肩部附近)に円柱状具による押 し引き状の例文点をめぐらす。内面ケズリと粗いミガ キ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	8号墳穴建物 口縁部片		粗砂粒/良好/黄 褐	口沿と頭部外面に纏文(LR)、横描条痕による横線文 を3条(以上)めぐらす。内面粗いミガキ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	2号墳穴建物 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	纏文(LR)を地文とし、5条(以上)の横位沈線を隙間を 空けてめぐらす。内面は斑状具によるナデ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	12号墳穴建物 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	横位沈線区画内に刺突例文点、下位に3条(以上)の横 位沈線をめぐらす。内面ナデ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	9号墳穴建物 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	纏文(LR)を地文とし、6条(以上)の横位沈線をめぐらす。 内面は斑状具によるナデ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	9号墳穴建物 胴部片		粗砂粒/良好/黄 褐	纏文(LR)を地文に、太沈線で方形モチーフの単位文を 描く。内面ナデ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	10号墳穴建物 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	纏文(LR)を地文に、4条の横位太沈線をめぐらし、上 位には三角形か楕円形の単位文を描く。内面に粗いミ ガキ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	10号墳穴建物 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	不規則な纏文地文に、上位を太横位沈線で、下位 を刺突による方形モチーフ文を描く。内面ナデ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	9号墳穴建物 胴部片		粗砂粒/良好/黄 褐	4条(以上)の4角太沈線で重四角文を描き、内面ナデ。	中期中葉。内 面に棒状有機物 の圧痕。
第164# PL.86	弥生土器 壺	1号遺物集中 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	5条(以上)の細沈線で重四角文を描き、先端半月形の 加文点による刺突を充填。内面ナデ。	中期中葉。下端に 歪み、異形上 部器。
第164# PL.86	弥生土器 壺	12号墳穴建物 胴部片		粗砂粒/良好/黄 褐	横数条の沈線で横筋をめぐらし、C字形の刺突を充 填した細長方錐状加文点文を描く。内面ナデ。	中期中葉。中 央高地系か
第164# PL.86	弥生土器 壺	遺構外 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	纏文(付加条糸)地文に、太沈線で方形区画文を描く。 内区に横位1条沈線を充填。内面ナデ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	1号遺物集中 頭部片		粗砂粒/良好/黄 褐	4条(以上)の4角太沈線で方形か台形状の区画文を描き、 内区に刺突を充填。内面ナデ。	中期中葉
第164# PL.86	弥生土器 壺	9号墳穴建物 胴部片		粗砂粒/良好/黄 褐	4条(以上)の4角太沈線で方形か台形状の区画文を描き、 内区に刺突を充填。内面ナデ。	中期中葉

遺物觀察表

種 因 Pl.No.	No.	種類 種	出土位置 遺 留 有	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特 徴	備 考
第164回 PL.86	40	弥生上器 壺	遺構外 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文に、浅い太辺線で三角形と思われる区画を描き、内区に浅く太い刺突を充填。内面ナデ。	中期中葉
第164回 PL.86	41	弥生上器 壺	遺構外 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文に、浅い太辺線で三角形を描き、交点部に縦位短線を加える。内面ナデ。	中期中葉
第164回 PL.86	42	弥生上器 壺	1号堅穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文に、横位沈線で区画した上位に横幅条線による横線文。下位に太辺線による造状文ないし三角形と子ノフの区画文を描く。内面ナデ。	中期中葉
第164回 PL.86	43	弥生上器 壺か蓋	8号堅穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文に、2条沈線で三角連繋文を描き、交点部に短線を加える。内面ナデ。	中期中葉
第164回 PL.86	44	弥生上器 壺	12号堅穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	応酬によるメガネ状文をめぐらし、内区の円文内には平行刺突を充填。下位に4条(以上)の沈線による連弧状の文様をめぐらす。内面ナデ。	中期中葉
第164回 PL.86	45	弥生上器 壺	13号堅穴建物床 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文に、横位沈線で区画した内に円文を描き、内区は横位の浅い线条。縄文施文部尚赤彩の可能性あり。内面ケズリとナデ。	中期中葉
第164回 PL.86	46	弥生上器 壺	遺構外 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文に、横位沈線で区画した内に円文を描き、内面底状文によるナデ。	中期中葉
第164回 PL.86	47	弥生上器 壺	遺構外 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文に、横位沈線と円文区画文を描き、円形文を横幅条線で充填。内面ナデ。	中期中葉
第164回 PL.87	48	弥生上器 壺か小型壺	10号堅穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文に、5条の横位沈線をめぐらして磨り消す。内面ケズリとナデ。	中期中葉
第164回 PL.87	49	弥生上器 壺	6号堅穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文に、浅い櫛状具による斜線と垂下線の組合せ。内面ナデ。	中期中葉
第164回 PL.87	50	弥生上器 壺か小型壺	遺構外 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文による縦位羽状文と思われる。内面ナデ。	中期
第164回 PL.87	51	弥生上器 壺	遺構外 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	肩部に、波形の大きな櫛状波状文を2帯(以上)めぐらす。施文具は太×3箇/12mm。内面整形は浅いハケメ形。	中期中葉
第164回 PL.87	52	弥生上器 壺	遺構外 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)により横幅文と波状文を交互にめぐらす。内面ともハケメ整形。	中期、異系統
第164回 PL.87	53	弥生上器 壺	12号堅穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文に、横位沈線をはさむ山形文をめぐらす。下位に3条沈線による連弧状の文様を描く。内面ナデ。	中期中葉、中部高地系と思われる。
第164回 PL.87	54	弥生上器 壺	13号堅穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	複数横線による横位沈線帶区画に長方形文を描き、内区に沈線波状文を加える。内面ナデ。	中期中葉
第165回 PL.87	55	弥生上器 壺	5号堅穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文に、下位に横位沈線で画し、上位に重三角文を描いて交互に磨り消す。内面ナデ。	中期中葉
第165回 PL.87	56	弥生上器 壺	6号堅穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	不規則な縄文を地文に、浅い沈線で連弧文状の文様を重ねる。弧線頂部には円形刺突をえた円形貼付を付す。	中期中葉
第165回 PL.87	57	弥生上器 短腹壺	6号堅穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文に、横位沈線で区画して頭部を磨り消す。肩部には沈線でU字状文様を描き、寄り消す。内面ミガキ。	中期中葉
第165回 PL.87	58	弥生上器 短腹壺	遺構外 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	肩部に丸みの横長U形文を描き、縄文(LR)を充填して焼文を磨り消す。内面胴部ケズリ、口縁部~頸部はミガキ。	中期中葉、頭部外面に柿子压痕
第165回 PL.87	59	弥生上器 小型壺か蓋	8号堅穴建物床 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	6条(以上)の沈線で、コの字k札文か重四角文状の文様を描く。内面はハケメ後横ミガキ。	中期
第165回 PL.87	60	弥生上器 小型壺か小 型壺	9号堅穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	交互の磨し消し縄文(LR)回転によるコの字重ね状の文様を描く。内面整形は荒れて不明	中期中葉
第165回 PL.87	61	弥生上器 壺か蓋	9号堅穴建物床 直 口縁部~胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文に、2条単位の沈線で横線と波状文をめぐらす。内面ナデ。	中期中葉
第165回 PL.87	62	弥生上器 壺か蓋	13号堅穴建物床 直 口縁部片		細砂粒/良好/黄褐色	例り矢字による波状口縁。横位沈線文をめぐらし、交叉する縄文(LR)を充填して、無文帶を磨り消す。内面ミガキ。	中期中葉
第165回 PL.87	63	弥生上器 壺か蓋	7号堅穴建物 口縁部片		細砂粒/良好/黄褐色	口縁部に沈線をめぐらせ、縄文(LR)を施す。胴部には沈線による連弧状の文様を描く。内面ナデ。	中期中葉
第165回 PL.87	64	弥生上器 壺	1号堅穴建物 胴部~頸部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文とし、中央無文部を磨り消す。胴部にはヒトテ文上の八組み文を描き内区を磨り消す。内面は旋状具のナデ。	中期中葉
第165回 PL.87	65	弥生上器 壺	13号堅穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄褐色	縄文(LR)を地文とし、2条の横位沈線で画して無文帯とする。内面ミガキ。	中期中葉
第165回 PL.87	66	弥生上器 壺	遺構外 胴部~頸部片		細砂粒/良好/黄褐色	横長方形の沈線区画文を描き、内区を無文部として残し、それ以外はカムナゲラと思われる複縄文を充填。複縄文部分は赤彩。内面ミガキ。	中期中葉
第165回 PL.87	67	弥生上器 壺	遺構外 口縁部片		細砂粒/良好/黄褐色	口縁とやや肥厚させた幅広い口縁部に縄文(LR)。頭部には櫛状具による横位沈線。下位に刺突列点文をめぐらす。内面ミガキ。	中期中葉
第165回 PL.87	68	弥生上器 壺	遺構外 口縁部片		細砂粒/良好/黄褐色	口縁とやや肥厚させた幅広い口縁部に縄文(LR)。内面ケズリとナデ。	中期中葉
第165回 PL.87	69	弥生上器 壺	遺構外 口縁部片		細砂粒/良好/黄褐色	口縁と口縁部外側に縄文(LR)。3箇の櫛状具による押引文を重し、間に横位の同一文様を2帯描く。内面ナデ。	中期中葉

## 遺物観察表

種類 PL.No.	種類 No.	出上位置 遺存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第16598 PL.87	70	赤生土器 甕	8号窓穴建物床 直掘方 口縁部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	口唇に縦状具による押捺。口縁部～胴部は、縄文(LR)を地に、2条沈線による波状文をめぐらす。内面ナデミミガキ。	中期中葉
第16598 PL.87	71	赤生土器 甕	3号窓穴建物 口縁部～胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	口縁部下に1条沈線をめぐらせ、胴部には曲輪的な入組み。口縁部と人面形みに縄文(L)を充填し、赤彩。文様を磨り消す。内面ケズリとミガキ。	中期中葉。72 と同一個体 と思われる。
第16598 PL.87	72	赤生土器 甕	3号窓穴建物 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	ヒビ文状の入組み文を磨り消し縄文(L)で描く。縄文部にヒビが見える。内面ミガキ。	中期中葉
第16598 PL.87	73	赤生土器 甕	9号窓穴建物 口縁部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	今や削りされた幅広い口縁部に沈線波状文で画し、上位に縄文(LR)を充填。無文部磨り消す。胴部には縄文(LR)を描く。内面ミガキ。	中期中葉
第16598 PL.87	74	赤生土器 甕	8号窓穴建物 口縁部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	口縁部下に横位沈線と沈線山形文をめぐらし、上下に縄文(LR)を充填。中間を無文部として磨り消す。内面ナデ。	中期中葉
第16598 PL.87	75	赤生土器 甕	遺構外 口縁部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	口縁部下と頭部を横位沈線で画し、中央に2条沈線による山形文をめぐらす。口縁部下と山形文中に縄文(LR)を充填。無文部を磨り消す。内面ナデ。	中期中葉
第16598 PL.87	76	赤生土器 甕	5号窓穴建物 口縁部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	頭部に横位沈線と山形文をめぐらし、肥厚した口縁部と頭部、及び山形文間に縄文(LR)を施す。内面ミガキ。	中期中葉
第16598 PL.87	77	赤生土器 甕	9号窓穴建物 口縁部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	口縁部と外側に縄文(LR)を施し、口縁部に沈線波状文。頭部に2条以上の横位沈線をめぐらす。内面ミガキ。	中期中葉
第16598 PL.87	78	赤生土器 甕か深鉢	11号窓穴建物 口縁部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	2条の横位沈線で画した内に沈線山形文をめぐらす。口縁部下と山形文中に縄文(LR)を充填し、無文部を磨り消す。内面ナデ。	中期中葉
第16598 PL.87	79	赤生土器 甕	8号窓穴建物 口縁部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	頭部に、沈線による廣丸横長方形の文様を描く。口唇と2条頭部直下に縄文(LR)を充填。長方形区画内は磨り消す。内面ミガキ。	中期中葉
第16598 PL.87	80	赤生土器 甕	1号窓記 口縁部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	口唇に丸棒状具による刻み。やや肥厚させた幅広い口縁部は縄文(LR)地に、2条沈線の連弧文を描く。内面ナデ。	中期中葉
第16598 PL.87	81	赤生土器 甕	遺構外 口縁部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	縄描波状文を2帶(以上)めぐらす。内外面ナデ。	中期中葉
第16598 PL.87	82	赤生土器 甕	15号窓穴建物 坑1 口縁部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	外面全体に横齒状具による斜位条痕。内面ナデ。	中期中葉
第16598 PL.87	83	赤生土器 甕	11号窓穴建物 口縁部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	口縁に縦状具による刻み。外面は横齒状具による横位条痕。ケズリ後、内面は粗いミガキ。	中期中葉
第16698 PL.87	84	赤生土器 甕	9号窓穴建物 口縁部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	口縁部直下から胴部にかけて、縱位柳眉羽状文を描いたと思われる。ハゲ面内面ミガキ。	中期中葉
第16698 PL.87	85	赤生土器 甕	10号窓穴建物 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	2条の横位沈線をめぐらせ、上位区画帯に縄文(LR)を充填。内面ケズリ。	中期中葉
第16698 PL.87	86	赤生土器 甕	遺構外 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	上位から沈線波状文、2条の横位沈線文をめぐらせ。沈線文間を交互に縄文(LR)充填。無文部磨り消す。内面ナデ。	中期中葉
第16698 PL.87	87	赤生土器 甕	遺構外 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	上位から横位沈線、波状文、山形文、横位沈線文をめぐらせ。内面は横齒状具による横位条痕。	中期中葉
第16698 PL.87	88	赤生土器 甕	5号遺物集中 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	横位沈線具による縱位条痕を縄文に、2条と思われる沈線波状文で埋み。無文部を磨り消す。内面ナデ。	中期中葉
第16698 PL.87	89	赤生土器 甕	5号遺物集中、 遺構外 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	上位から縦位沈線(LR)を充填した2条沈線による波状文帶、横位沈線と山形文をめぐらせ、無文部を磨り消す。内面ナデ。	中期中葉。外 面に煤付着。
第16698 PL.87	90	赤生土器 甕か深鉢	10号窓穴建物 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	縦位沈線(LR)を充填する磨り消し縄文手法により肋骨文状の文様とみられる。内面ケズリ、ナデ。	中期
第16698 PL.88	91	赤生土器 甕	遺構外 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	横位沈線と横長方形文を並列し、交叉元に縄文(LR)を充填し、無文部を磨り消す。内面ナデ。	中期中葉。外 面に煤付着。
第16698 PL.88	92	赤生土器 甕	遺構外 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	縦位沈線(LR)を地に、下を横位沈線で画し、内区の文様間に2条沈線による三角連弧文を描く。交点部には縦位条痕を加える。内面はナデと粗いミガキ。	中期中葉。外 面に煤付着。
第16698 PL.88	93	赤生土器 甕	8号窓穴建物 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	縦位沈線(LR)を地に、下を横位沈線で画し、内区の文様間に2条沈線による三角連弧文を描く。交点部には縦位条痕を加える。内面はナデと粗いミガキ。	92と同一個体
第16698 PL.88	94	赤生土器 甕	8号窓穴建物 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	沈線(LR)より縦長い精円文を描き、周囲を縄文(L)で充填。内面ナデ。	中期中葉
第16698 PL.88	95	赤生土器 甕	3号窓穴建物 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	縦位沈線(LR)充填磨り消しによる長方形文を描く。内面はナデと粗いミガキ。	中期中葉
第16698 PL.88	96	赤生土器 甕	10号窓穴建物 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	縦位沈線(LR)を地に、2条単位の沈線波状文を描く。内面ナデ。	中期中葉
第16698 PL.88	97	赤生土器 甕	3号窓穴建物 直 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	縦位沈線(LR)充填磨り消しによる横線文帯と横長方形文を描く。内面ケズリ。	中期中葉
第16698 PL.88	98	赤生土器 甕	遺構外 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	大・小・縦状具条線による波状文を2带(以上)めぐらす。内面に粗いミガキ。	中期中葉
第16698 PL.88	99	赤生土器 甕	14号窓穴建物 胴部片	細砂粒/良好/黄柏 -根	間隔を開けて横線文帯を2带(以上)めぐらす。横状具は3箇/12mm。内面はケズリとナデ。	中期中葉

遺物觀察表

種類 Pl.No.	種類 No.	出土位置 遺物	出上位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第1665 PL.88	100	赤生土器 甕	遺構外 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	段状となる横位沈線で上下を溝し、上位は柳描縦線を充填。下位は柳描横線を充填し、柳描直線を垂下する。内面ナデ。	中期中葉。中部高地系と思われる。
第1665 PL.88	101	赤生土器 甕	9号窓穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	柳状具による条痕を複数に充填する。内面ナデ。	中期中葉。中部高地系と思われる。
第1665 PL.88	102	赤生土器 甕	14号窓穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	柳状具条縫による段位羽状文か斜格子文。内面横ミガキ	中期中葉
第1665 PL.88	103	赤生土器 甕	遺構外 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	角ぼった柳状具による斜位条痕。内面整形は荒れて不明。	中期
第1665 PL.88	104	赤生土器 甕	6号窓穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	頭に鋸い笠先状具による横位条痕。内面ナデ。	中期
第1665 PL.88	105	赤生土器 甕	10号窓穴建物 口縁部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	口縁部は横位沈窓の繩文帯。その下位に繩文(LR)充満の方形区画文。文様構成は窓縁区画による入組み文と思われる。外面無文部ミガキ。内面ナデ。	中期中葉
第1665 PL.88	106	赤生土器 圓形	遺構外 口縁部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	口縁部は横位沈窓の繩文帯。その下位に繩文(LR)充満の方形区画文。文様構成は窓縁区画による入組み文と思われる。内面ナデ。	中期中葉
第1665 PL.88	107	赤生土器 圓形	1号窓穴建物 口縁部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	口縁部は横位沈窓の繩文帯(L)。その下位に繩文充満の入組み文とと思われる。外面無文部ミガキ。内面ナデ。	中期中葉
第1665 PL.88	108	赤生土器 圓形	8号窓穴建物 口縁部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	全体に横位沈窓の繩文帯。その下位に重ね文と思われるモチーフを沈線で描く。一部を磨消す。内面ナデ。	中期中葉
第1665 PL.88	109	赤生土器 圓形	遺構外 口縁部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	口縁部は横位沈窓の繩文帯(L)。下位に入組み文の一部と思われる縱長方形区画を書き、繩文充満。外面無文部ミガキ。内面ナデ。	中期中葉
第1665 PL.88	110	赤生土器 圓形	1号窓穴建物 口縁部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	5素(?)による横位条痕をめぐらし、交互に繩文充満(L)と、無文帶をねる。外面無文部ミガキ。内面ナデ。	中期中葉
第1665 PL.88	111	赤生土器 圓形	5号窓穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	入組み文の一部と思われる縱長方形区画内に繩文充満(L)。外面無文部ミガキ。内面ナデ。	中期中葉
第1665 PL.88	112	赤生土器 圓形	4号窓穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	コの字の形状を中心とした方形区画構成による入組み文。区画内の交互に繩文充満(L)。外面無文部ミガキ。内面ナデ。	中期中葉
第1665 PL.88	113	赤生土器 圓形	15号窓穴建物P1 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	繩文(L)施後、方形区画構成の入組み文を描く。区画内の一部に繩文を残し磨消し。外面無文部ミガキ。内面ナデ。	中期中葉
第1675 PL.88	114	赤生土器 圓形	遺構外 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	方形区画構成の入組み文と円文を書き、交互に繩文充満(L)。外面無文部ミガキ。内面ナデ。	中期中葉
第1675 PL.88	115	赤生土器 圓形	15号窓穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	縦長条形を基調とした方形区画構成の入組み文を書き、交互に繩文充満(L)。外面無文部ミガキ。内面ナデ。	中期中葉
第1675 PL.88	116	赤生土器 圓形	9号窓穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	繩文(R)を施し。横長方形と横位文帯で構成する入組み文を描いて、交互に磨消し。内面ケズリ。	中期中葉
第1675 PL.88	117	赤生土器 甕	遺構外 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	繩文(L)施後に、大抵の方形区画構成の入組み文を描き、交互に磨消す。内面ナデ。	中期中葉
第1675 PL.88	118	赤生土器 甕	3号窓穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	方形区画構成の入組み文を描き、交互に繩文充満(原体不明)内面ミガキ。	中期中葉
第1675 PL.88	119	赤生土器 甕	4号窓穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	横(?)曲線を加えた方形区画構成の入組み文を書き繩文充満(L)。又位に磨消し。内面ケズリ。	中期中葉
第1675 PL.88	120	赤生土器 甕	1号窓穴 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	中央が横位の直線で画し、上下に縦位沈線を充填する。内面は、板状れによるナズ。	中期中葉
第1675 PL.88	121	赤生土器 甕	8号窓穴建物 胴部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	縦(?)曲線(?)にやや太めの沈線で内文を描く。内面ナズ。	中期中葉
第1675 PL.88	122	赤生土器 甕	遺構外 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	頭部に加えられた区画構成の入組み文を書き繩文充満(?)。又位に磨消し。内面ナデ。	後期前葉
第1675 PL.88	123	赤生土器 甕	遺構外 底部1/3		細砂粒/良好/黄柏 -柏	底面に細かい網代底。	中期
第1675 PL.88	124	赤生土器 甕	15号窓穴建物 底部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	底面に浅い網代底。	中期
第1675 PL.88	125	赤生土器 甕	15号窓穴建物 底部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	底面に細かい網代底。	中期。内面におこげ付着。
第1675 PL.88	126	赤生土器 甕	8号窓穴建物 口縁部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	L口剖部に板小口による刻み。内外面ナデ。	後期前葉
第1675 PL.88	127	赤生土器 甕	遺構外 口縁部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	受け口の外面に柳描波状文。内外面ハケメの後、施文部ナデ。	後期前葉
第1675 PL.88	128	赤生土器 甕	1号窓 口縁部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	内面気味口縁部の外面に柳描波状文。口剖部に刻み。内面ナデ。	後期前葉
第1675 PL.88	129	赤生土器 甕	8号窓穴建物 口縁部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	内側口縁の外面に柳描波状文。内面ミガキ。	後期前葉
第1675 PL.88	130	赤生土器 甕	8号窓穴建物 口縁部片		細砂粒/良好/黄柏 -柏	内側口縁の外面に柳描波状文。内面ミガキ。	後期前葉

## 遺物観察表

種類 器種 No.	出上位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第16784 PL.88	131 弥生土器 壺	6号窓穴建物 口縁部片	細砂粒/良好/黄 褐色	受け口の外側に反時計回り縦状文。下位に管状具による刺突列文。内面無ナデ。	後期前葉
第16785 PL.88	132 弥生土器 壺	8号窓穴建物周 囲 口縁部片	細砂粒/良好/黄 褐色	内側口縁部の口凹部に刺突。頭部に時計回り縦状文をめぐらす。内面無ナデ。	後期前葉。内 面に棒子、压 痕か。
第16786 PL.88	133 弥生土器 壺	遺構外 口縁部片	細砂粒/良好/黄 褐色	内側口縁部に板状具小口による刺突。ハケメ後 内面無ナデ。	後期前葉
第16787 PL.88	134 弥生土器 壺	遺構外 頭部片	細砂粒/良好/黄 褐色	頭部に突出した頭部文様帶に櫛描波状文をめぐら す。内面無ナデ。	後期前葉
第16788 PL.88	135 弥生土器 壺	8号窓穴建物 頭部片	細砂粒/良好/黄 褐色	2条一组の横沈線を2帯めぐらし、下位に1条の横沈 線。横沈線区間に斜綫充填。矢羽状文の可能性あり。上 位にも沈線文が見られるがモチーフは不明。内面ナデ。	後期前葉
第16789 PL.88	136 弥生土器 壺	遺構外 頭部片	細砂粒/良好/黄 褐色	横沈線区間に斜綫充填。矢羽状文の可能性あり。上 位にも沈線文が見られるがモチーフは不明。内面ナデ。	後期前葉
第16790 PL.88	137 弥生土器 壺	9号窓穴建物 頭部片	細砂粒/良好/黄 褐色	時計回り縦状文を頭部を空けて2带(以上)めぐらし、下 位に口縁文と見られる沈線。内面ハケメ。	後期前葉
第16791 PL.88	138 弥生土器 壺	3号窓穴建物 頭部片	細砂粒/良好/黄 褐色	時計回り縦状文を頭部を空けて2带(以上)めぐらし、下 位に口縁文と見られる沈線。内面ハケメ。	後期前葉
第16792 PL.89	139 弥生土器 壺	遺構外 頭部片	細砂粒/良好/黄 褐色	時に横沈線。下位に時計回り縦状文をめぐらし、間 隔の短線で充填する。内面ハケメ、ナデ。	後期前葉
第16793 PL.89	140 弥生土器 壺	遺構外 胸部片	細砂粒/良好/黄 褐色	深い沈線で不整同心円文を描く。外側ハケメ。内面整 形は不明。	中期末～後期 前葉。淡文系 土器の模倣品。
第16794 PL.89	141 弥生土器 壺	3号窓穴建物 胸部片	細砂粒/良好/黄 褐色	深い沈線で不整同心円文を描く。外側ハケメ、内面ナデ。	中期末～後期 前葉。真系統 土器の模倣品。
第16795 PL.89	142 弥生土器 壺	8号窓穴建物 胸部片	細砂粒/良好/黄 褐色	丸棒状具による沈線で不整同心円文を描く。内面ナデ。	中期末～後期 前葉。淡文系 土器の模倣品。
第16796 PL.89	143 弥生土器 壺	11号窓穴建物 胸部片	細砂粒/良好/黄 褐色	深い沈線で不整同心円文を描く。外側ハケメ、内面ナデ。	中期末～後期 前葉。淡文系 土器の模倣品。
第16797 PL.89	144 弥生土器 壺	8号窓穴建物 頭部片	細砂粒/良好/黄 褐色	内側口縁の口凹部に刺突、頭部に時計回り縦状文をめ ぐらす。口縁部横ナデ、胸部は内面横ミガキ。	後期前葉
第16798 PL.89	145 弥生土器 壺	1号窓穴建物 頭部片	細砂粒/良好/黄 褐色	口凹部に刺突、頭部は時計回り縦状文。ハケメ後内外 面横ナデ。	後期前葉
第16799 PL.89	146 弥生土器 壺	1号島 壺	細砂粒/良好/黄 褐色	受け口の口凹部に擬擬文。口縁部外面に櫛描波状文、 頭部に反時計回り縦状文。口縁部ナデ。胸部内面横ミ ガキ。	後期前葉
第16800 PL.89	147 弥生土器 壺	遺構外 口縁部片	細砂粒/良好/黄 褐色	口縁部の外側に櫛描波状文、頭部にも波状文の可 能性。口縁部横ナデ。胸部内面ミガキ。	後期前葉
第16801 PL.89	148 弥生土器 壺	8号窓穴建物 口縁部片	細砂粒/良好/黄 褐色	細砂粒/良好/黄 褐色	後期前葉
第16802 PL.89	149 弥生土器 壺	3号窓穴建物 口縁部片	細砂粒/良好/黄 褐色	内側口縁の口凹部に櫛描波状文、外側に櫛描波状文、 頭部以下に櫛 描波状文。内面ミガキ。	後期前葉
第16803 PL.89	150 弥生土器 壺	6号窓穴建物 口縁部片	細砂粒/良好/黄 褐色	口縁部外面に櫛描波状文。外側はハケメ後。ナデ。内面 ナデ。	後期前葉
第16804 PL.89	151 弥生土器 壺	8号窓穴建物 口縁部・胸 部片	細砂粒/良好/黄 褐色	頭部・胸部外面に櫛描波状文を重ね、内側する口縁内 面に赤彩。内面削離で整形不明。	後期前葉か
第16805 PL.89	152 弥生土器 壺	13号窓穴建物 頭部片	細砂粒/良好/黄 褐色	頭部・胸部外面に櫛描波状文を重ね、胸部に櫛描波状文をめぐらす。	中期末～後期 前葉
第16806 PL.89	153 弥生土器 壺	8号窓穴建物 頭部片	細砂粒/良好/黄 褐色	頭部・胸部外面に櫛描波状文を重ね、胸部に櫛描波状文をめぐらす。	中期末～後期 前葉
第16807 PL.89	154 弥生土器 壺	遺構外 胸部片	細砂粒/良好/黄 褐色	頭部に櫛描波状文、胸部に複位櫛描羽状文。内面ミ ガキ。	中期末～後期 前葉
第16808 PL.89	155 弥生土器 壺	8号窓穴建物 頭部片	細砂粒/良好/黄 褐色	頭部に縦状文、胸部に複位櫛描羽状文。内面横ミガキ。	中期末～後期 前葉
第16809 PL.89	156 弥生土器 壺	1号窓穴建物 胸部片	細砂粒/良好/黄 褐色	頭部に時計回り縦状文、胸に説文式文具で大振りの割 ぬ文。内面ナデ。	後期前葉
第16810 PL.89	157 弥生土器 壺	遺構外 胸部片	細砂粒/良好/黄 褐色	頭部に時計回り縦状文、胸部に斜綫充填三角文。内面 横ミガキ。	後期前葉
第16811 PL.89	158 弥生土器 壺	遺構外 胸部片	細砂粒/良好/黄 褐色	頭部に時計回り縦状文、胸部に斜綫充填三角文。内面 横ミガキ。	後期前葉
第16812 PL.89	159 弥生土器 壺	遺構外 胸部片	細砂粒/良好/黄 褐色	頭部に縦状文、刻尖を加えた円形貼付文を頂点とし斜 綫充填三角文。内面横ミガキ。	後期前葉
第16813 PL.89	160 弥生土器 壺	8号窓穴建物 胸部片	細砂粒/良好/黄 褐色	側面に加文の円形貼付文を頂点に、深い沈線で三角形状 の文様を描く。内面ナデ。	中期末～後期 前葉
第16814 PL.89	161 弥生土器 壺	遺構外 胸部片	細砂粒/良好/黄 褐色	側面に加文の円形貼付文による集合沈線充填の三角文。外側 ハケメ後、無部横ミガキ。内面横ミガキ。	後期前葉

## 遺物觀察表

種類 Pl.No.	種類 No.	出土位置 遺存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第16886 PL.89	162 弥生上器 (台付費)	2号室穴建物掘 方 台付費		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	縦く深い施文具による斜線充填の三角文。外面部ハケメ 後、無文部彫ミガキ。内面部横ミガキ。	後期前葉
第16888 PL.89	163 弥生上器 (台付費)	道構外 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	頭部に時計回り纏状文、側部に櫛描によるコ字の重ね 文。内面部横ミガキ。	中期後葉
第16889 PL.89	164 弥生上器 (台付費)	1号島 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	頭部に時計回り纏状文、側部に丸棒状による三角文と思 われる。内面部ハケメ後、横ミガキ。	中期末~後期 前葉
第16890 PL.89	165 弥生上器 費	道構外 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	頭部に間隔の広い時計回り纏状文、側部に複数櫛描羽 状文。内面部横ミガキ。	中期末~後期 前葉
第16891 PL.89	166 弥生上器 費	3号室穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	頭部に時計回り纏状文、側部に複数櫛描羽状文。施文 部は右から。内面部横ミガキ。	中期末~後期 前葉
第16892 PL.89	167 弥生上器 費	12号室穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	頭部に時計回り纏状文、側部にまばらな複数櫛描羽状 文。内面部横ミガキ。	中期末~後期 前葉
第16893 PL.89	168 弥生上器 費	道構外 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	頭部下に櫛描波状文をめぐらし、側部に櫛描格子文 を描く。内面部ハケメ後、縦ミガキ。	中期末~後期 前葉
第16894 PL.89	169 弥生上器 費	3号室穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	頭部に時計回り纏状文、直下に説い沈線による斜線充 填纏状文。内面部ナデ。	後期前葉
第16895 PL.89	170 弥生上器 費	道構外 頭部~肩部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	頭部に時計回り纏状文、直下に丸棒状による斜線充 填纏状文。内面部横ミガキ。	後期前葉
第16896 PL.89	171 弥生上器 費	9号室穴建物 頭部~肩部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	頭部に2帯の反時計回り纏状文、直下に説い沈線によ る斜線充填纏状文。内面部ナデ。	後期前葉
第16897 PL.89	172 弥生上器 費	8号室穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	斜線充填纏状文、無文部に赤彩。内面部横ミガキ。	後期前葉
第16898 PL.89	173 弥生上器 費	1号室穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	丸棒状による横線充填纏状文。内面部ハケメ。	後期前葉
第16899 PL.89	174 弥生上器 費	道構外 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	丸棒状による横線充填纏状文。内面部ナデ。	後期前葉
第16900 PL.89	175 弥生上器 費	8号室穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	反時計回り纏状文をめぐらし、直下に重V字の断面文。 内面部ナデ。	後期前葉
第16901 PL.89	176 弥生上器 費	道構外 頭部~肩部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	2帯(以上)の反時計回り纏状文をめぐらし、直下に横 線充填の断面文。内面部ハケメ、ナデ。	後期前葉
第16902 PL.89	177 弥生上器 費	6号室穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	上下に反時計回り纏状文をめぐらし、その間に刺突充 填纏状文。内面部ミガキ。	後期前葉
第16903 PL.89	178 弥生上器 費	3号室穴建物 頭部~肩部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	説い沈線による複数充填横帶文を3帯(以上)めぐらす。 内面部ハケメ、ナデ。	後期前葉
第16904 PL.89	179 弥生上器 費	9号室穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	説い沈線による矢羽状文をめぐらす。内面部ハケメ、 ナデ。	後期前葉
第16905 PL.89	180 弥生上器 費	5号室穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	縦く深い沈線による矢羽状文をめぐらす。内面部ナデ。	後期前葉、内 面に刺突痕
第16906 PL.89	181 弥生上器 費	2号室穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	縦く深い沈線による矢羽状文か斜線充填文をめぐらし、 直下に刺突充填の断面文。内面部ハケメ、ナデ。	後期前葉
第16907 PL.89	182 弥生上器 費	道構外 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	縦く深い沈線による矢羽状文か斜線充填文をめぐらし、 直下に刺突充填の断面文。その下に斜線充填文をめぐらし、 さらに下に刺突充填断面文。	後期前葉
第16908 PL.89	183 弥生上器 費	1号祭祀 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	時計回り纏状文の下に縦沈線による矢羽状文をめぐらし、 直下に刺突充填の断面文。内面部ナデ。	後期前葉
第16909 PL.89	184 弥生上器 費	1号島 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	時計回り纏状文の下に縦沈線による矢羽状文をめぐらし、 下位に斜線充填断面文。	後期前葉
第16910 PL.90	185 弥生上器 費	2号室穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	アーチ形による斜線充填文をめぐらし、直下に刺突充 填断面文。内面部ナデ。	後期前葉
第16911 PL.90	186 弥生上器 費	道構外 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	縦沈線による斜線文をめぐらす。内面部ナデ。	後期前葉
第16912 PL.90	187 弥生上器 費	道構外 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	時計回り纏状文を間隔を空けて2帯(以上)めぐらす。 外面部ハケメ、内面部ナデとハケメ。	後期前葉
第16913 PL.90	188 弥生上器 費	8号室穴建物、 11号室穴建物掘 方		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	時計回り纏状文を重ねて2帯(以上)めぐらす。内面部 ナデ。	後期前葉
第16914 PL.90	189 弥生上器 費	8号室穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	時計回り纏状文をめぐらす。内面部ナデ。	後期前葉
第16915 PL.90	190 弥生上器 費	3号室穴建物 頭部~肩部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	時計回り纏状文を重ねて2帯(以上)めぐらし、直下に 横沈線による斜線文。	後期前葉
第16916 PL.90	191 弥生上器 費	道構外 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	時計回り纏状文を重ねて2帯(以上)めぐらす。内面部 ハケメ。	後期前葉
第16917 PL.90	192 弥生上器 費	3号室穴建物、 道構外 頭部~肩部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	頭部に時計回り纏状文を重ねて2帯(以上)めぐらし、肩に櫛 描状文。内面部ナデ。	後期前葉
第16918 PL.90	193 弥生上器 費	4号室穴建物 頭部~肩部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	頭部に間隔を空けた時計回り纏状文を2帯(以上)めぐら す。外面部ハケメ、内面部ナデ。	後期前葉、 187と同一個 体か。
第16919 PL.90	194 弥生上器 費	道構外 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~柏	時計回りの2連め巻状文をめぐらす。内面部ナデと横 ミガキ。	後期前葉

種類 PL.No.	種類 No.	出土位置 遺物	出土地点 遺物	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	特徴	備考
第1698 PL.90	193	弥生土器 遺物	6号窓穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~橙	反時計回り彫状文を2帯めぐらす。内面整形は剥離で不明。	後期前葉
第1698 PL.90	196	弥生土器 遺物	6号窓穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~橙	反時計回り彫状文、直下に櫛描波状文。内外面ともハケメ、ナデ。	後期前葉
第1698 PL.90	197	弥生土器 遺物	6号窓穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~橙	細く深い楕円状の下位に櫛描波状文を重ねる。内面整形は剥離で不明。	後期前葉
第1698 PL.90	198	弥生土器 遺物	8・10号窓穴建物 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~橙	上位に時計回り彫状文をめぐらし、下位に波形の小さい櫛描波状文。外面部ハケメ。	後期前葉
第1698 PL.90	199	弥生土器 遺物	10号窓穴建物、 遺構外 頭部片		細砂粒/良好/黄柏 ~橙	櫛描波状文を2帯めぐらす。外面部ハケメ、内面部ナデ。	後期前葉
第1698 PL.90	200	弥生土器 遺物	1号窓穴建物、 遺構外 頭部~肩部片		細砂粒/良好/黄柏 ~橙	頭部に反時計回り彫状文、肩にコンパス手法による櫛描波状文。内面部ミガキ。	後期前葉
第1698 PL.90	201	弥生土器 遺物	遺構外 頭部~肩部片		細砂粒/良好/黄柏 ~橙	頭部に反時計回り彫状文、肩にコンパス手法による櫛描波状文。内面部ミガキ。	後期前葉 200と同一個体か。
第1698 PL.90	202	弥生土器 遺物	遺構外 肩部片		細砂粒/良好/黄柏 ~橙	櫛描波状文、無文部に赤彩。内面部ハケメ。	後期前葉
第1698 PL.90	203	弥生土器 遺物	3号窓穴建物 肩部片		細砂粒/良好/黄柏 ~橙	櫛描波状文の下位を横比線で塗し、無文部に赤彩。内面部ハケメとナデ。	後期前葉
第1708 PL.90	204	剥片石器 石鑿	5号窓穴建物 完形	長 幅 厚 重 (3.8) 2.1 0.6 2.6	黒色頁岩 ~橙	表面右辺・裏面左辺は斜向押圧剥離となり、加工はなし。石器基部の作出は最終段階と見られ、純い返し部に小さな基部の取り付く。凸筋有茎端。	
第1708 PL.90	205	剥片石器 石鑿	遺構外 一部欠損	長 幅 (3.1) 1.7 0.5 1.8	黒色頁岩	風化が激しく剥離の状態は不明確。側縁は直線的だが、基部側の側縁は開き気味で、純い返し部に至る。凸筋有茎端。基部欠損。	
第1708 PL.90	206	剥片石器 石鑿	遺構外 一部欠損	長 幅 (3.6) 0.8 0.5 1.6	黒色頁岩	石器は針状を呈し、両端が尖る。断面形状は菱形状を呈し、下端削先端に弱い摩耗痕がある。	
第1708 PL.90	207	剥片石器 石鑿	8号窓穴建物 直 完形	長 幅 厚 重 18.1 12.0 3.0 692.2	細粒輝石安山岩	有肩状を呈す石鑿で、右辺側縁は割れんでいるが、左辺側縁は再加工され、直線的形状を呈す。刃部は著しく摩耗、側縁は両側縁ともエッジが潰れる。薄い板状剣刃を用いる。	
第1708 PL.90	208	剥片石器 石鑿	遺構外 完形	長 幅 厚 重 16.3 8.1 2.0 370.4	細粒輝石安山岩	側縁は直線的で開き気味で、石器の最大幅は刃部にある。再加工は器体中央より刃部側に見られる。側縁および刃部に弱い摩耗痕が広がる。	
第1708 PL.90	209	剥片石器 打斧	3号窓穴建物 堤 一部欠損	長 幅 厚 重 (9.3) (5.6) 2.4 131.0	黒色頁岩	表面側とも器体中央附近に側縁、下端側の刃部に擦耗がある。上端側も刃部としての可能性が否定できないが、欠損して側縁部は確認できない。	
第1708 PL.90	210	剥片石器 削器	遺構外 完形	長 幅 厚 重 5.8 4.0 1.7 43.3	黒色安山岩	櫛凹溝を横位に用い、内側縁を加工する。両辺が刃部になりうるが、現状では右辺を刃部と見たい。側縁の粗化は極めて弱く、櫛文削器とは異なる。	

## 第6章 自然科学分析

金井下新田遺跡の調査では、遺構を被覆する火山灰、古墳時代の畠、竪穴建物の炭化材・炭化種実、灰、赤色顔料等が出土している。これらは遺跡の理解に必要な情報であると共に、記録保存として資料化するための同定を行つたために自然科学分析を実施した。

### 1 火山灰分析

これまでの調査により金井東裏遺跡、金井下新田遺跡において棟名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)に被災した古墳遺跡が確認され、「甲を着た古墳人」や「匂い状遺構」の発見により全国的に注目されている。このことは、遺跡を被覆するHr-FAの火山学上の層序理解が必要であり、そのため専門業者に分析を委託した。その結果、S<sub>1</sub>、S<sub>2</sub>が被覆した上位に火碎流であるS<sub>3</sub>、S<sub>4</sub>が堆積し、さらに旗下火山灰S<sub>5</sub>も確認された。

### 2 畠耕作土の自然科学分析

7区1号畠について、植物珪酸体分析と種実遺体同定を行つた。分析結果からはイネ科の珪酸体が検出されたが微量であるため、概に栽培していたとは言い難い。またヨシなども産出しており、遺跡周辺には草地が広がっていたと想定される。

### 3 炭化材・炭化種実同定

焼失建物から炭化材が出土し、炭化種実も竪穴建物内から確認された。分析の目的は、出土した木材の樹種や種実の種類を明らかにすることによって、遺跡周辺の環境や食生活などを知る手掛かりを得ることである。同定の結果、7種類の樹種が確認された。中でもクヌギやコナラの利用が8号竪穴建物や14号竪穴建物で確認された。一方で11号竪穴建物では、3種類の木材を利用するなど様相が異なっていた。またイネ科が2、11号竪穴建物で確認され、屋根材など異なった用途による利用が想定される。

分析結果からは、イネ科以外の樹種については、重硬で強度が高い材質を選択しており、建築材として利用したと考えられる。8と14号竪穴建物はコナラ属、10はエノキ属、11号竪穴建物はヤマグワを利用しており、竪穴建物によって利用樹種の差異が認められた。8号竪穴建

物以外は竪穴建物の一部が確認されたため、利用樹種をすべて反映しているとは言い難い。コナラ属の利用については、既報告の金井下新田遺跡や周辺遺跡でも同様の傾向が確認されている。

炭化種実は、すべてモモで炭化していた。カマド内からの出土例は、二次的な廃棄が想定される。

### 4 動物遺体同定分析

遺存状態の比較的良好な2点を抽出した。動物遺体の様相を明らかにすることによって、当時の遺跡周辺の環境や人々の食生活の在り方などを知る上で、有力な手掛かりを得ることができるものと考えられる。

分析No1はウマ、分析No2はニホンジカの角という結果が明らかになった。分析No1が出土した3面は、S<sub>3</sub>面の火碎流層に相当する層位から出土しており、棟名山の噴火によって被災したウマと考えられる。分析No2は5号竪穴建物の床面から出土し、鹿角利用に関わる資料と考えられる。

### 5 赤色顔料分析

竪穴建物から出土した赤色顔料を蛍光X線分析によって成分を明らかにし、顔料の種類を検討すること目的に分析を行つた。分析の結果、両試料ともバイブ状ベンガラが検出された。

### 6 灰・土壌の自然科学的分析

出土した灰試料をプラント・オパール分析、土壌試料を微細分析することによって、遺跡周辺の環境や当時の人々の食生活のあり方の復元、植生や栽培植物を明らかにすることを目的に行つた。灰像分析では、イネ科が多く確認されており、建物内への貯蔵などの用途が想定される。微細分析では、種実の検出には至らず、本試料は窓内から出土しており、火熱による消失が考えられる。

## 1. 火山灰分析

株式会社 火山灰考古学研究所

## 1. はじめに

渋川市金井東裏遺跡の発掘調査では、わが国で初めての甲着装人骨が検出されて大きな話題となっている。この人骨を産出したテフラ層は、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)と呼ばれている(新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992など)。金井下新田遺跡の令和元年度の発掘調査でもHr-FAの良好な堆積が認められたほか、より下位の土層も観察できた。そこで、発掘調査区において地質調査を実施して、Hr-FAの層相を詳細に記載することになった。層相記載の際、テフラ・メンバーの名称については、現段階における金井東裏遺跡での区分(早田, 2017)に従っている。また、合わせてHr-FAの主要構成層のほか、保存状態の良い堅穴式建物の覆土についてテフラ分析(テフラ検出分析)を実施した。調査対象地点は、Hr-FAの標準的な土層が認められた調査区壁堅穴式建物覆土断面である。

## 2. 調査区壁堅穴式建物覆土断面の土層層序

調査区壁で覆土断面を観察できた堅穴式建物の覆土は、下位より黒色土(層厚23cm)、黒灰色土(層厚28cm)、焼土ブロック粒子や暗灰褐色土のブロックを含む黒灰褐色土(層厚9cm)、焼土ブロックを含む黒灰褐色土(層厚14cm)、黒灰色土(層厚11cm)からなる(図1)。

その上位にはHr-FAが堆積しており、それは、下位より桃褐色細粒火山灰層(層厚5cm, S<sub>1</sub>)、成層した火山灰層(層厚2.5cm, S<sub>2</sub>)、細粒火山灰層を挟むする火山砂層(層厚12.2cm, S<sub>3</sub>)、粗粒の軽石や石質岩片(以上, S<sub>4</sub>)を含む細粒火山灰層(層厚0.4cm、軽石の最大径64mm、石質岩片の最大径28mm, S<sub>5</sub>)、成層した厚い火碎流堆積物成層(層厚55cm)、細かく成層した火山灰層(部分的、最大層厚21.4cm、以上S<sub>7</sub>)、粗粒の白色軽石や石質岩片を含む黄灰色および黄褐色細粒火山灰層(層厚4cm, S<sub>8</sub>)からなる。

このうち、S<sub>2</sub>は、下位より灰色細粒火山灰層(層厚0.3cm)、桃褐色細粒火山灰層(層厚0.1cm)、黄白色細粒

火山灰層(層厚0.1cm)、層理が発達した灰色砂質細粒火山灰層(層厚2cm)からなる。このうち、最上部の層理が発達した灰色砂質細粒火山灰層は、層相から水流による二次堆積物の可能性がある。

S<sub>5</sub>は、下位より灰色粗粒火山灰層(層厚4cm)、軽石の最大径0.2mm、石質岩片の最大径11mm)、やや灰色がかかった桃色細粒火山灰層(層厚0.2cm)、ところどころに層理が見られる灰色粗粒火山灰層(層厚5cm)、桃色砂質細粒火山灰層(層厚3cm)からなる。上部の灰色粗粒火山灰層にはパイプ構造が認められ、それには上位の桃色砂質細粒火山灰層に達しているものがある。層相にこれまでの周辺での調査成果を合わせると、下部の灰色粗粒火山灰層とやや灰色がかかった桃色細粒火山灰層がS<sub>3</sub>-1、上部の灰色粗粒火山灰層と桃色砂質細粒火山灰層がS<sub>3</sub>-3に対比される。

S<sub>7</sub>の主体部は、下位より層理が発達した灰色粗粒火山灰層(層厚5cm)、やや桃色がかかった灰色の比較的細粒の下部(層厚13cm)、軽石の最大径3mm、石質岩片の最大径5mm)と比較的粗粒で淘汰が悪いやや桃色がかかった灰色部からなる火碎流堆積物(層厚37cm)、軽石の最大径28mm、石質岩片の最大径27mm)からなる。また、部分的に認められるS<sub>7</sub>の上部は、下部に灰色粗粒火山灰層(層厚0.3cm)をもつ淘汰の良い白色軽石層(層厚3cm)、軽石の最大径10mm、石質岩片の最大径6mm)、層理の発達した灰白色粗粒火山灰層(層厚1cm)、桃色粗粒火山灰層(層厚3cm)、軽石の最大径5mm、石質岩片の最大径5mm)、淘汰の良い灰色粗粒火山灰層(層厚0.3cm)、灰白色粗粒火山灰層(層厚2cm)、淘汰の良い灰色粗粒火山灰層(層厚1cm)、灰白色粗粒火山灰層(層厚3cm)、やや淘汰の良くない桃色砂質火山灰層(層厚4cm)、軽石の最大径4mm、石質岩片の最大径16mm)、灰白色粗粒火山灰層(層厚2cm)、黄灰色細粒火山灰層(層厚1cm)、層理をもつやや黄色がかかった灰色粗粒火山灰層(層厚0.8cm)からなる。

S<sub>9</sub>の基底には石質岩片岩片(S<sub>9</sub>、石質岩片の最大径20mm)が散在している。その上位には、黄灰色細粒火山灰層(層厚2cm)、黄褐色細粒火山灰層(層厚2cm)が認め

られ、層界付近にS<sub>m</sub>に由来する可能性が高い粗粒の白色軽石(最大粒径39mm)や石質岩片(最大粒径33mm)が認められる。

### 3. テフラ検出分析

#### (1)分析の目的と分析方法

Hr-FAのうちの特徴的な構成層と、その下位の土壤中に含まれるテフラ粒子の記載を目的としてテフラ検出分析を実施した。分析は次の手順で行った。

1)砂分に応じて5~7 gを秤量。

2)超音波洗浄装置を用いて泥分を除去。

3)80°Cで恒温乾燥。

4)実体顕微鏡でテフラ粒子などを観察。

#### (2)分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。Hr-FAについては、S<sub>1</sub>(試料1)が細粒で、S<sub>2</sub>(試料g, f, e)が比較的粗粒の傾向にある。S<sub>1</sub>には白色のスponジ状軽石型ガラスが少し含まれている。S<sub>2</sub>の中ではS<sub>2</sub>-1下部(試料g)がもっとも粗く、S<sub>2</sub>-3の中では下部がより粗い傾向にある。S<sub>2</sub>には軽石が含まれているものの、その粒径は大きくない(最大径2.7mm)。火山ガラスとしては、白色や灰白色のスponジ状軽石型ガラスが少し含まれている。含まれる不透明鉱物以外の重鉱物は、いずれの試料でも角閃石や斜方輝石である。

試料2をのぞくHr-FAより下位の土壤試料からは、量は少ないものの灰色や灰白色のスponジ状軽石型ガラスが検出された。また、試料2で比較的目立つものの、試料18、試料12、試料7で白色のスponジ状軽石型ガラスがわずかずつ認められた。これらの土壤試料に含まれる不透明鉱物以外の重鉱物の多くは、Hr-FAと異なって斜方輝石や單斜輝石である。また、多くの試料に角閃石が微量ながら含まれている。

### 4. 考察

Hr-FAのうち、S<sub>1</sub>-1とS<sub>2</sub>-3の構成物をみると、S<sub>1</sub>-1の軽石や石質岩片がもっとも粗粒で流走力が強かった可能性がある。また、S<sub>1</sub>の最下部の層理をもつ灰色粗粒火山灰層は、その層位から火碎流堆積物の基底に認められるグラウンドサーボ(ground surge)堆積物と考えられる。したがって、ここではS<sub>1</sub>主体部を3層に区分しているが、

一度の火碎流の堆積物の可能性が高い。

Hr-FAの下位の土壤試料のうち、最下位の試料18を含む多くの試料から、灰色や灰白色のスponジ状軽石型ガラスが検出された。この火山ガラスは、岩相から3世紀後半に浅間火山から噴出した浅間C軽石(荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010)に由来すると考えられる。とくにその顯著な濃集が認められないことから、竪穴式建物の層位はAs-Cより上位と考えられる。このことは、本遺構に関して出土遺物から5世紀と推定されていることと矛盾しない。

また、やはり最下位の試料18を含むいくつかの試料から、白色のスponジ状軽石型ガラスが検出された。この火山ガラスに関しては、岩相から5世紀に榛名火山から噴出した榛名有馬テフラ(Hr-AA, 町田ほか, 1984)に由来するように思われる。しかしながら、その検出量がわずかで、その降灰層準を推定することは困難である。

### 5.まとめ

渋川市金井下新田遺跡令和元年度調査区において、地質調査とテフラ分析(テフラ検出分析)を行って、榛名ニッカ渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)の層序記載を実施した。また、浅間C軽石(As-C, 3世紀後半)や、榛名有馬テフラ(Hr-AA)に由来する可能性が高い火山ガラスなどを検出できた。Hr-AAの可能性が高い火山ガラスの検出量がわずかで、Hr-AAの降灰層準の把握は難しいものの、調査分析の対象となった竪穴式建物の層位はAs-Cより上位と推定される。

#### 文献

- 新井房夫(1979)関東地方北西部の绳文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
- 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質。地団研報導, no.14, p.1-45.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重大(1984)テフラと日本考古学—考古学研究と開拓するテフラのカタログ。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
- 坂口一(1986)榛名ニッカ伝記Hr-FA層下の土器層と須恵器。群馬県教育委員会編「荒北祇道跡、今井神社古墳群、荒北青柳道路」, p.103-119.
- 坂口一(2010)高崎市・中町一丁目遺跡周辺集落の動向―中町一丁目遺跡跡22の水田耕作地と周辺集落との関係―。群馬県歴史文化財調査事業団編「中町一丁目遺跡3」, p.17-22.
- 早田 雄(1989)6世紀における榛名火山の回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 雄(2017)金井東裏遺跡出土甲着装入骨火山灰分析。群馬県教育委員会編「金井東裏遺跡ー甲着装入骨等詳細調査報告書」, p.429-435.

表1 金井下新田遺跡におけるテフラ検出分析結果

試料採取地点・試料	軽石・スコリア 量	色調	火山ガラス 量	形態	色調	石質鉄片 量	最大径 (不透明鉄物以外)	重鉱物	淘汰度	テフラ	
調査区壁・壁穴式建物覆土・試料e	(*) 白	2.0mm	***	pm (sp)	白, 灰白	**	1.2mm	an, opx	△	Si-3上部	
調査区壁・壁穴式建物覆土・試料f	(*) 白	2.1mm	***	pm (sp)	白, 灰白	**	2.2mm	an, opx	△	Si-3下部	
調査区壁・壁穴式建物覆土・試料g	*	白	2.7mm	***	pm (sp)	白, 灰白	***	3.7mm	an, opx	○	Si-1下部
調査区壁・壁穴式建物覆土・試料h	*	白	2.7mm	***	pm (sp)	白, 灰白	***	1.1mm	an, opx	○	Si
調査区壁・壁穴式建物覆土・試料j	(*)	pm (sp)	白	***	pm (sp)	白	***	3.9mm	opx, cpx, an	×	Bt-AA混在
調査区壁・壁穴式建物覆土・試料k	(*)	pm (sp)	灰	***	pm (sp)	灰	***	2.5mm	opx, cpx	×	As-C混在
調査区壁・壁穴式建物覆土・試料l	*	pm (sp)	灰, 白	***	pm (sp)	灰, 白	***	2.2mm	opx, cpx, (an)	×	As-C混在・Bt-AA混在?
調査区壁・壁穴式建物覆土・試料m	*	pm (sp)	灰, 灰白, 白	***	pm (sp)	灰, 灰白, 白	***	2.3mm	opx, cpx, (an)	×	As-C混在・Bt-AA混在?
調査区壁・壁穴式建物覆土・試料n	*	pm (sp)	灰, 灰白, 白	***	pm (sp)	灰, 灰白, 白	***	3.2mm	opx, cpx, (an)	×	As-C混在・Bt-AA混在?

\*\*\*\*: とくに多い, \*\*\*: 多い, \*\*: 少ない, (\*): 非常に少ない, lm: バブル型, ad: 中間型, pm: 軽石型, sc: スコリア型, sp: スポンジ状, fb: 細胞束状, ol: カンラン石, opx: 角方輝石, cpx: 单斜輝石, an: 角閃石, 重鉱物(): 量が非常に少ないとすることを示す, 淘汰度。

○: 非常に良い, ○: 良い, △: やや不良, ×: 不良。

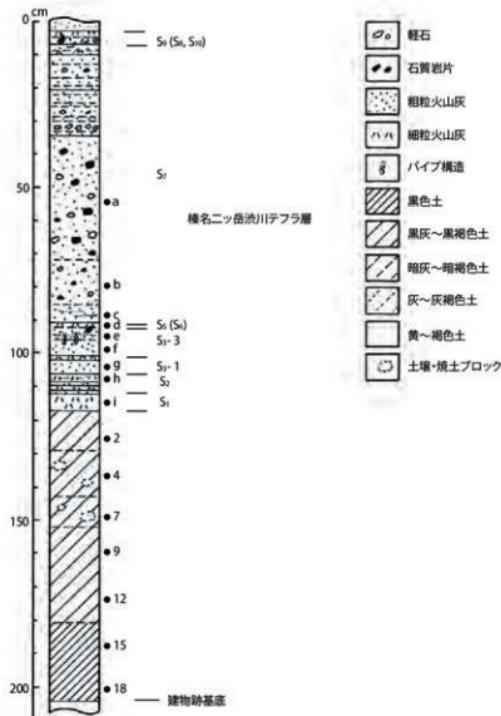


図1 調査区壁壁穴式建物覆土の土層柱状図  
●: テフラ分析試料の層位, 数字: テフラ分析の試料番号。

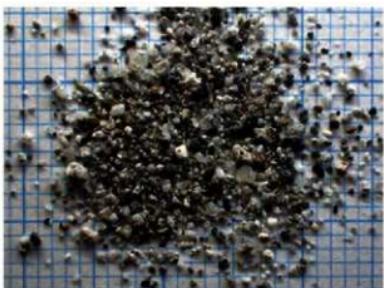


写真1 調査区壁堅穴式建物覆土断面・試料e

S-3上部、落射光で撮影。背後は1mmメッシュ。白色や灰白色のスポンジ状軽石型ガラスが多く含まれている。

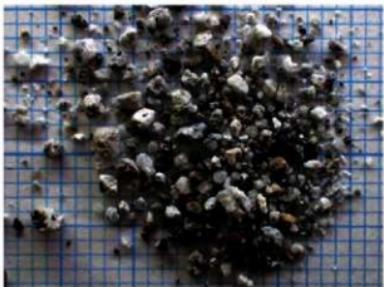


写真2 調査区壁堅穴式建物覆土断面・試料f

S-3下部、落射光で撮影。背後は1mmメッシュ。S-3上部より粗粒。

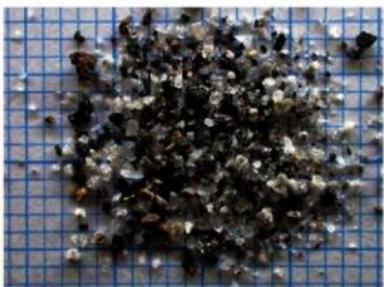


写真3 調査区壁堅穴式建物覆土断面・試料18

覆土最下部、落射光で撮影。背後は1mmメッシュ。灰色や灰白色のスポンジ状軽石型ガラスが少量含まれている。

## 2. 岩耕作土の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ 株式会社

## はじめに

群馬県渋川市金井字下新田に所在する金井下新田遺跡では、縄文時代～古墳時代の遺構・遺物が確認されている。本分析調査では、6世紀初頭の榛名火山の噴火に伴う榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA: 新井, 1979; 早田, 1989)の直下から検出された岩覆土について、植物珪酸体分析と種実遺体同定を実施し、栽培や周辺植生に関する情報を得る。

## 1. 試料

分析試料の詳細を表1に示す。

調査対象は、7区北の8面で検出された1号畠である。畠跡は、調査区の東壁側に位置し、Hr-FA直下から検出された。東壁側には5世紀後半の竪穴建物が構築されて窓んでおり、そこにも畠が作られている。また畠跡を区画する溝が構築されている。

1号畠からは、土壤試料3点(サンプルNo.1～3)が採取された。分析時の観察では、いずれも黒褐色を呈する砂混じりシルトである。

表1. 分析試料

サンプル No.	発掘区	検出面	遺構	重さ (kg)	土質 (分野時所見)
1	7区北	8面	1号畠	1.9	黒褐色 砂混じりシルト
2	7区北	8面	1号畠	1.8	黒褐色 砂混じりシルト
3	7区北	8面	1号畠	1.4	黒褐色 砂混じりシルト

## 2. 分析方法

各試料について、植物珪酸体の産状を調べる。各試料を5g前後(湿重)で秤量する。次に過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタンゲスタン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪

酸体と呼ぶ)を、近藤(2010)の分類を参考に同定・計数する。分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量(同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算)を求める。結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個体以下は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸める(100単位にする)。なお、今回は杉山(2000)を参考として主な分類群の推定生産量(kg/m<sup>2</sup>・cm)を求める。推定生産量は機動細胞珪酸体の含量(個/g)に土壤の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個当たりの植物体乾重: 単位: 10-5g)をかけて、面積1m<sup>2</sup>で層厚1cm当たりの植物体の生産量を求めたものである。分類群の換算係数は、イネ属(赤米の地上部)が2.94、キビ連(ヒエ属として)が8.4、クマザサ属(チシマザサ節として)が0.75、メダケ属(ネザサ節として)が0.48、ヨシ属が6.31、ススキ属が1.24を用いる。また、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

併せて、同一試料について種実遺体の産状を調べる。種実遺体を分離・抽出するために、試料200ccを水に浸し、0.5mm筋に通して水洗する。水洗時に炭化種実が確認される状況を受け、さらに試料500gを追加して常温乾燥後、水を満たした容器内に投入し、容器を傾けて浮いた炭化物を0.5mm筋に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌し、容器を傾けて炭化物を回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す(約20回)。残土を0.5mm筋に通して水洗する。水洗後、水に浮いた試料(炭化物主体)と水に沈んだ試料(砂礫主体)を、それぞれ粒径別に常温乾燥させる。2つの方法の水洗・乾燥後の試料を、大きな粒径から順に双眼顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭化種実や炭化材(主に2mm以上)、土器片などの遺物をピンセットで抽出する。種実遺体の同定は、現生標本や石川(1994)、中山ほか(2010)、鈴木ほか(2012)などを参考に実施する。結果は一覧表と図で示す。また、同定された分類群の写真を添付し、一部の種実遺体の大きさをデジタルノギスで計測した結果を一

表中に示して同定根拠とする。種実遺体以外は、炭化材は重量と最大径、土器片は重量と個数、最大径、炭化材主体と砂礫主体は粒径別重量を一覧表に併記する。分析後は、抽出物と残渣を容器に入れて保管する。

### 3. 結果

#### 植物珪酸体の産状を表2、図1に示す。

各試料からは植物珪酸体が検出される。ただし、概して保存状態が悪く、分類群を区別できない不明が多くを占める。3点の植物珪酸体含量は、10万個/g前後が多い。各試料からは、栽培植物であるイネ属が産出している。その含量は、試料番号1と2の短細胞珪酸体が200個/g程度、機動細胞珪酸体が200～500個/g程度、試料番号3が他試料よりもやや多く、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体がそれぞれ700個/g程度である。また栽培種を含む分類群であるキビ連やコムギ連も産出する。その含量は、イネ属と同等あるいは多い。また珪化組織片として、イネ属の頸珪酸体やイネ属短細胞列およびキビ連やコムギ連の頸珪酸体も検出される。この他にクマザサ属やメダケ属を含むタケア科、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亞科などが見られる。この中ではタケア科とヨシ属の含量が多い。なお主な分類群の推定生産量(kg/m<sup>2</sup>・cm)は、イネ属が0.06～0.18、キビ連が0.34～0.67、クマザサ属やメダケ属が0.07～0.11、ヨシ属が2.65～5.36、ススキ属が0.05である。またイネ科起源(棒状珪酸体、長細胞起源、毛細胞起源)も多く見られるものの、由来となつた分類群は明確にならない。他の草本類としてカヤツリグサ科も検出される。

一方、種実遺体の産状を表3に示す。一部の種実遺体については、計測値を備考欄に示して同定根拠とする。また試料1kg当たりに換算した種実遺体群集組成を図2に示す。

3点(合計2,493g)を洗い出した結果、種実遺体として木本1分類群(ブナ科)1個、草本5分類群(イネ、イヌビエ属(ヒエ?)、ヒゴクサ類、マツカサススキ類、アカザ属)14個の合計15個が同定される。13個は保存状態不良の微細片で、同定ができない。このうち4個は緻密・硬質の炭化物で、堅果類の核に似る。1個は果皮か種皮の破片と考えられ、断面は柵状を呈す。種実遺体の保存状態は、イネ類の一部とマツカサススキ類、アカザ属を除いて炭

表2. 1号畠の植物珪酸体

分類群	個/g)		
	7区北8面	1号畠	No.1 No.2 No.3
イネ科葉部短細胞珪酸体			
イネ属	200	200	700
キビ連	700	400	1,300
クマザサ属	1,800	2,400	1,100
メダケ属	1,200	1,500	1,300
タケア科	13,400	11,000	6,400
ヨシ属	9,700	3,500	7,300
ススキ属	1,400	1,300	1,300
コムギ連	700	700	900
イチゴツナギ亞科	700	1,300	200
不明	27,600	27,300	36,600
イネ科葉身機動細胞珪酸体			
イネ属	500	200	700
キビ連	500	900	400
クマザサ属	1,600	1,100	1,300
メダケ属	2,300	2,400	1,600
タケア科	11,100	11,500	5,100
ヨシ属	9,400	5,700	4,700
ススキ属	500	400	400
不明	19,800	23,600	13,100
合計			
イネ科葉部短細胞珪酸体	57,300	49,800	57,300
イネ科葉身機動細胞珪酸体	45,600	45,800	27,300
植物珪酸体含量	102,900	95,600	84,600
単位面積(厚幅1cm)当たりの植物体生産量(単位: kg/m <sup>2</sup> ・cm)			
イネ属	0.12	0.06	0.18
キビ連	0.35	0.67	0.34
クマザサ属(チマザサ節などとして)	0.11	0.07	0.09
メダケ属(ネザサ節として)	0.10	0.10	0.07
ヨシ属	5.36	3.25	2.65
ススキ属	0.05	0.05	0.05
珪化組織片			
イネ属頸珪酸体	*	*	**
キビ連頸珪酸体	*	*	-
コムギ連頸珪酸体	*	*	*
イネ属短細胞列	-	-	*
イネ科起源(その他)			
棒状珪酸体	***	***	**
長細胞起源	*	*	*
毛細胞起源	**	***	**
草本起源			
カヤツリグサ科	*	*	*

含量は、10の位を丸めている(100単位にする)

合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている

-: 未検出、\*: 含有、\*\*: 多い、\*\*\*: 非常に多い

化しており、破片・欠損・発泡など概ね不良である。栽培種は、イネの玄米4個、稻(穀)4個、栽培の可能性があるイヌビエ属(ヒエ?)の穎果1個が確認される。種実以外には、炭化材0.30g(最大7.55mm)、炭化材主体0.09g、砂礫主体138.77g、土器片2個1.65g(最大17.32mm)が認められる。

以下、試料別状況を述べる。

#### • No.1

試料835gより、栽培種のイネの炭化玄米3個(残存幅2.13mm)、木本のブナ科(クリ?)の炭化果実1個、合計4個が同定される。その他、不明4個(うち堅果類2個)、炭

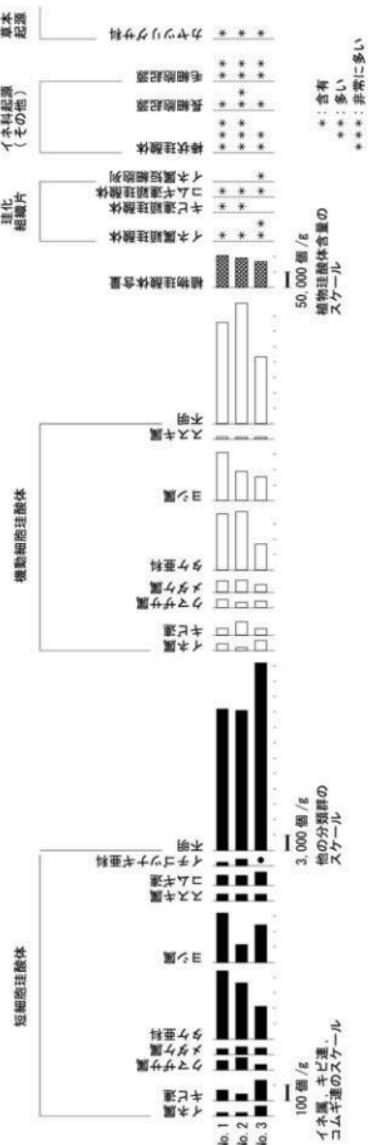


図1. 7区1号畠の植物粗細胞壁抽出物含量

乾土 1kgあたりの個数で示す。この図ではイネ属、キビ属、コムギ属の産出を強調している。

表3. 7区北1号畠の種実遺体

分類群	部位	状態/粒径	7区北 8面-1				備考	
			1号畠		No.1	No.2		
			No.1	No.2				
木本種実								
ブナ科	果実	破片 炭化	1	-	-	-	クリ?, 残存径2.16mm	
草本種実								
イネ	玄米	破片 炭化	1	2	-	-	残存幅: No.1: 2.13mm, No.3: 1.50mm	
	稻(基部)	破片 炭化	-	-	1	-		
	稻	破片	-	-	-	-	残存長1.63mm	
イヌビエ属(ヒエ?)	穀果	完形未溝 炭化	-	-	-	-	状態不良, 残存長1.50mm, 幅1.08mm	
ヒゴクサ類	果実	完形 炭化	-	-	1	-	長さ1.50mm, 3面体, 平滑	
マツカサススキ類	果実	完形	-	-	-	2		
アカザ属	種子	破片	-	-	1	-		
不明種実								
堅果類?	核?	破片 炭化	-	2	-	1	微密, 硬質, No.1: 1.61mm, No.2: 0.97mm, No.3: 3.43mm	
不明	果皮か種皮	破片 炭化?	-	-	1	-	残存径0.92mm, 断面槽状	
不明	不明	破片 炭化	1	1	-	-		
合計(不明を除く)			2	2	3	2	3	
分析残渣								
炭化材			7.55	4.50	4.75	4.49	最大径(mm)	
			0.04	0.03	0.03	0.04	乾重(g)	
炭化材主体	1-0.5mm	-	-	0.02	-	0.02	0.05	
砂礫主体	4-2mm	1.85	2.94	3.43	4.28	7.20	10.15	
	2-1mm	4.33	6.02	5.24	6.94	8.80	9.77	
	1-0.5mm	9.13	14.22	7.99	13.75	6.88	15.80	
土器片		-	-	-	-	1.65	乾重(g), 2個, 最大17.32mm	
分析量			200	-	200	-	容積(cc)	
			335	500	311	500	湿重(g)	

(注)計測はデジタルノギスを使用した。

化材0.07g (最大7.55mm)、炭化材主体0.02g、砂礫主体38.49gである。

#### • No.2

試料811gより栽培種のイネの炭化稻(基部)1個、草本のヒゴクサ類の炭化果実1個、マツカサススキ類の果実2個、アカザ属の種子1個、合計5個が同定される。その他、不明2個(堅果類? 1個、果皮か種皮1個)、炭化材0.07g (最大4.75mm)、炭化材主体0.02g、砂礫主体41.63gである。

#### • No.3

試料847gより、栽培種のイネの炭化玄米1個(残存幅1.50mm)、炭化稻(基部)1個、2個、栽培の可能性があるイヌビエ属(ヒエ?)の炭化穀果1個(残存長1.50mm、幅1.08mm)、マツカサススキ類の果実1個、合計4個が同定される。その他、不明7個(うち堅果類? 1個)、炭化材0.16g (最大6.51mm)、炭化材主体0.05g、砂礫主体58.66g、土器片2個1.65g (最大17.32mm)である。



試料 1kgあたりの個数で示す。

図2. 1号畠の種実遺体群集

#### 4. 考察

7区北の8面で検出された1号畠では、栽培種のイネ(イネ属)の種実や植物珪酸体が産出した。イネ属の含量や推定生産量は少なく、1号畠での栽培の可能性を積極的

に支持することは難しい。仮に栽培されていたとしても、収穫後の植物体が耕土に還元されず、植物珪酸体が蓄積しにくかったと思われる。また稻藁は古くから農業資材(敷き藁など)として利用される場合もあり、今回のイネ属の産状はその痕跡である可能性も考えられる。なお、当社が過去に分析調査を実施した金井東裏遺跡ではHr-FA被災以前とされる2区の2号祭祀遺構、4区の26号住居跡、4号人骨、3号祭祀遺構より、イネの稻(穂)や玄米(胚乳)などの炭化種実が確認されている。

また、栽培の可能性があるイヌビエ属(ヒエ?)の種実、キビ連やコムギ連の短細胞珪酸体や穎珪酸体も産出した。これらが栽培種に由来するものであれば、当時利用された植物質食糧であった可能性が示唆される。No.3のイネ類2個を除いた種実遺体は被熱して炭化するが、島で被熱したものか、別の場所で被熱したものが持ち込まれたかは、現時点では不明である。

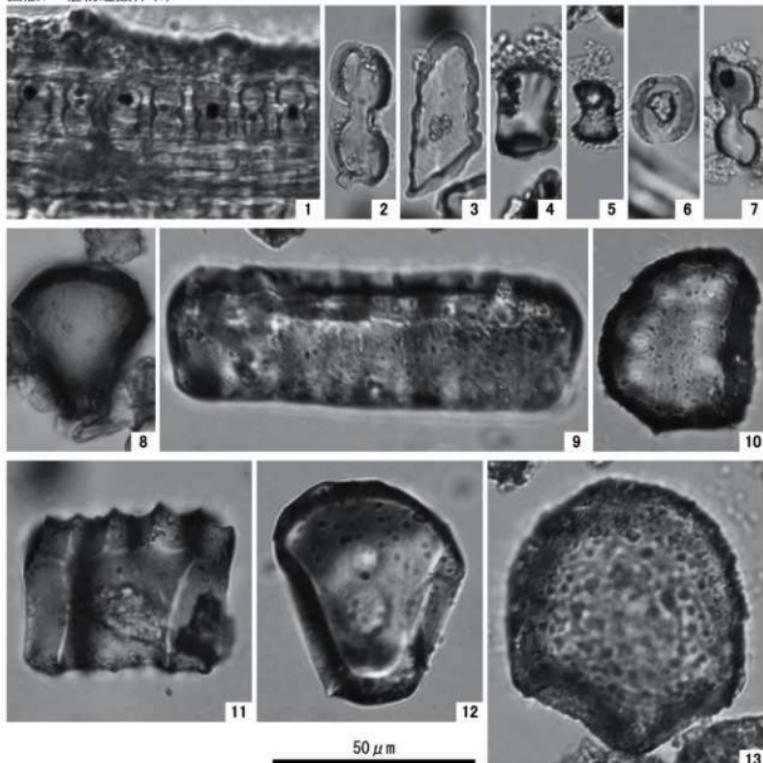
この他、No.1からはブナ科の種実が確認された。金井東裏遺跡では4区の27号住居よりクリが確認されており、本分析調査で確認されたブナ科もクリであった可能性も考えられる。

No.2およびNo.3より確認された湿生植物のマツカサススキ類、No.2より確認された中生植物のヒゴクサ類やアカザ属については、調査区周辺域の湿地を含む草地に生育していたと考えられる。また抽水～湿生植物のヨシ属の植物珪酸体が比較的多く、湿地に多いカヤツリグサ科も検出された。これらを考慮すると、Hr-FAの降灰以前に1号島周辺で湿地環境が存在した可能性が挙げられる。また、タケ亜科やスキ属には乾いた草地に生育する種類も多く、周辺にこれらが生育する草地の存在も示唆される。1号島周辺の環境については、周囲の遺構配置や微地形も考慮して検討する必要がある。

## 引用文献

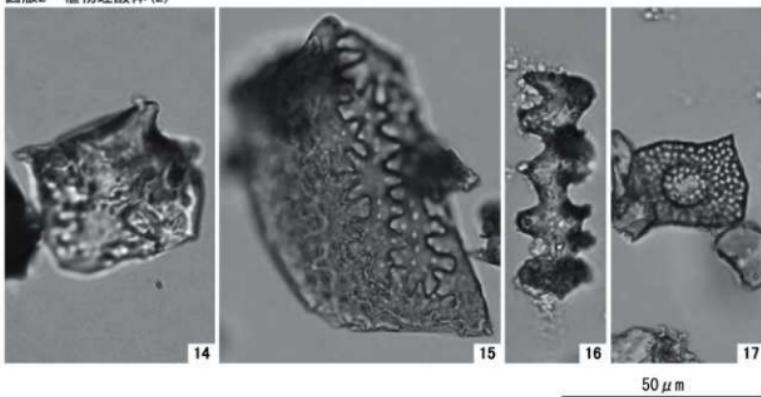
- 新井房大、1979、関東地方北西部の縄文時代以降の指標。テフラ層、考古学ジャーナル、157、41-52。  
 石川茂雄、1994、原色日本植物種子写真図鑑、石川茂雄図鑑刊行委員会、328p.  
 近藤謙三、2010、プラント・オ・パール図譜、北海道大学出版会、387p.  
 中山至大、井之口希秀・南谷忠志、2010、日本植物種子図鑑(2010年改訂版)、東北大出版社、678p.  
 早田勉、1989、六世紀における榛名火山の二回の噴火とその災害、第4紀研究、27、297-312。  
 鈴木康夫・高橋冬一・安延尚文、2012、ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実－形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実632種－、誠文堂新光社、272p.

図版1 植物珪酸体(1)



1. イネ属短細胞列 (1号晶:3)
2. キビ連短細胞珪酸体 (1号晶:2)
3. コムギ連短細胞珪酸体 (1号晶:2)
4. クマザサ属短細胞珪酸体 (1号晶:1)
5. メダケ属短細胞珪酸体 (1号晶:1)
6. ヨシ属短細胞珪酸体 (1号晶:1)
7. ススキ属短細胞珪酸体 (1号晶:1)
8. キビ連機動細胞珪酸体 (1号晶:2)
9. クマザサ属機動細胞珪酸体 (1号晶:1)
10. イネ属機動細胞珪酸体 (1号晶:1)
11. メダケ属機動細胞珪酸体 (1号晶:3)
12. ススキ属機動細胞珪酸体 (1号晶:1)
13. ヨシ属機動細胞珪酸体 (1号晶:1)

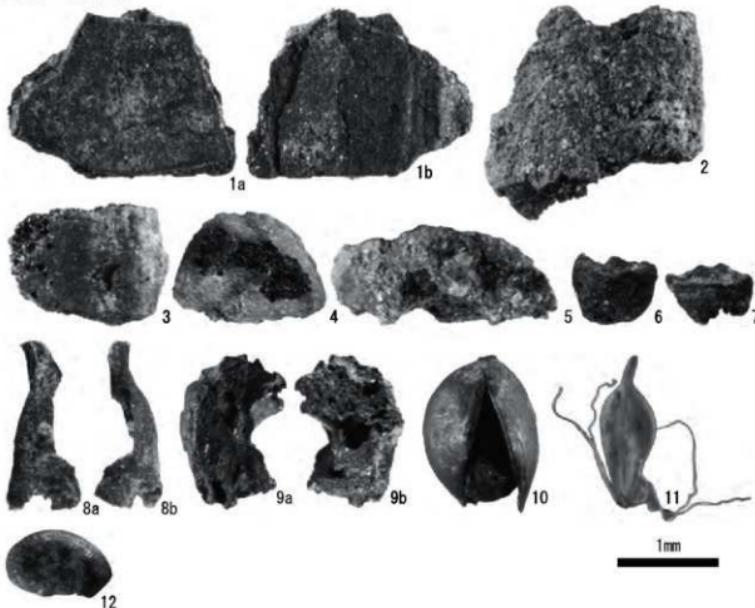
図版2 植物珪酸体(2)



14. イネ属頸硅酸体(1号畠:3)  
16. コムギ連頸硅酸体(1号畠:2)

15. キビ連頸硅酸体(1号畠:2)  
17. カヤツリグサ科葉部硅酸体(1号畠:1)

図版3 種実遺体



- |                         |                     |
|-------------------------|---------------------|
| 1. ブナ科 果実(1号窟:1)        | 2. イネ 玄米(1号窟:1)     |
| 3. イネ 玄米(1号窟:1)         | 4. イネ 玄米(1号窟:3)     |
| 5. イネ 玄米(1号窟:1)         | 6. イネ 穂(基部)(1号窟:3)  |
| 7. イネ 穂(基部)(1号窟:2)      | 8. イネ 穂(1号窟:3)      |
| 9. イヌビエ属(ヒエ?) 穗果(1号窟:3) | 10. ヒゴクサ類 果実(1号窟:2) |
| 11. マツカサススキ類 果実(1号窟:2)  | 12. アカザ属 種子(1号窟:2)  |

## 3. 炭化材・炭化種実同定

株式会社 古環境研究所

## 1. 炭化材同定

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

本報告では、金井下新田遺跡の豊穴建物から出土した炭化材について、用材選択を検討するために樹種同定を実施する。

## (1) 試料

試料は、豊穴建物から出土した炭化材14点(№1～14)である。

## (2) 分析方法

炭化材を自然乾燥させた後、横断面(木口)・放射断面(柵目)・接戦断面(板目)の3断面について剖断面を作製し、アルミ合金製の試料台にカーボンテープで固定する。炭化材の周囲を樹脂でコーティングして補強する。走査型電子顕微鏡(低真空)で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

## (3) 結果

樹種同定結果を表1に示す。試料番号12には2種類が認められた。これらの炭化材は、広葉樹6分類群(エノキ属、ヤマグワ、サクランボ属、コナラ属クヌギ節、コナラ属コナラ節、クリ)とイネ科に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

表1 樹種同定結果							
No.	調査区	面数	遺構	位置	取上No.	形状	分類群
1	7区	9面	2号豊穴建物			丸木状	イネ科
2	7区	9面	4号豊穴建物	南側周壁下		破片	サクランボ属
3	7区	9面	4号豊穴建物		1	ミカン剖状	クリ
4	7区	9面	4号豊穴建物		2	芯持材	コナラ属コナラ節
5	7区	9面	8号豊穴建物	床直	1	ミカン剖状	コナラ属コナラ節
6	7区	9面	8号豊穴建物	床直	2	破片	コナラ属クヌギ節
7	7区	9面	8号豊穴建物	床直	3	破片	コナラ属コナラ節
8	7区	9面	8号豊穴建物	床直	4	ミカン剖状	コナラ属コナラ節
9	7区	9面	8号豊穴建物	床直	5	板目状	コナラ属コナラ節
10	7区	9面	8号豊穴建物		6	ミカン剖状	コナラ属コナラ節
11	7区	9面	8号豊穴建物		7	ミカン剖状	コナラ属クヌギ節
12	8区	9面	11号豊穴建物		1	破片	ヤマグワ
13	7区	9面	10号豊穴建物	床直		丸木状	イネ科
14	7区	10面	14号豊穴建物		1	破片	コナラ属コナラ節

・エノキ属 *Celtis* アサ科

環孔材。孔圈部は1～3列、孔圈外でやや急激に道管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は單穿孔板、壁孔は交互状となる。小径の道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～6細胞幅、1～50細胞高で鞘細胞が認められる。

・ヤマグワ *Morus australis* Poiret クワ科クワ属

環孔材で、孔圈部は3-5列、孔圈外への移行は緩やかで、晚材部では単独または2-4個が複合して斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列。小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。

・サクランボ属 *Prunus* パラ科

散孔材。道管は単独または2～6個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は單穿孔板、壁孔は交互状となる。道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～30細胞高。

組織の特徴から、広義のサクランボ属のうち、ヤマグワを含む落葉性の種類と考えられる。

・コナラ属クヌギ節 *Quercus sect. Cerris* ブナ科

環孔材。大型の道管が配列する孔圈部は1～2列、孔圈外で急激に道管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は單穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、單列、1～20細胞高のものと複合放射組織がある。

- ・コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科  
環孔材。大型の道管が配列する孔隙部は1～2列、孔隙外で急激に道管径を減じたのち、多数が集まって火炎状に配列し、年輪会に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は單穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、單列、1～20細胞高のものと複合放射組織がある。
- ・クリ *Castanea crenata Sieb. et Zucc.* ブナ科クリ属  
環孔材。大型の道管が配列する孔隙部は3～4列、孔隙外でやや急激に道管径を減じたのち、多数が集まって火炎状に配列し、年輪会に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は單穿孔板、壁孔は交互状となる。放射組織は同性、單列、1～15細胞高。
- ・イネ科 *Gramineae*

試料は、幅3～5mmの薄い板状を呈するが、圧密を受けて潰れており、本来は円筒状と考えられる。横断面では、1対の大型の道管と小径の道管の外側に師部細胞があり、これらを厚壁の繊維細胞(維管束鞘)が囲んで維管束を形成する。維管束は、維管束は柔組織中に散在し、不齊中心柱をなす。

#### (4) 考察

古墳時代前期と考えられる堅穴建物から出土した炭化材は、建物の建築部材等に由来すると考えられ、合計7種類が確認された。各種類の材質などについてみると、エノキ属とヤマグワは、河畔等に生育する落葉高木である。エノキ属の木材はやや重硬な部類に入る。ヤマグワは、重硬で強度と耐朽性が高い。サクラン属は、山地・丘陵地に生育する落葉低木～高木であり、木材は重硬・緻密で強度が高い。クヌギ節は、現在の植生や出土事例等を考慮すればクヌギの可能性が高い。クヌギは二次林や河畔に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い。コナラ節とクリは、二次林などに生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い。

分析点数が比較的多い8号堅穴建物についてみると、コナラ節を中心にクヌギ節が混じる組成を示す。一方、4号堅穴建物では、点数は少ないが、3種類が認められ、8号堅穴建物とは異なる傾向を示す。10号、11号、14号堅穴建物は、各1点の分析である。14号堅穴建物では、8号堅穴建物と同じコナラ節が確認された。一方、10号堅穴建物はエノキ属、11号堅穴建物はヤマグワであった。

住居別の種類構成については、出土状況等も含めて検討する必要がある。なお、2号堅穴建物と11号堅穴建物で確認されたイネ科は、材質等を考慮すれば、木材とは異なる用途・部位が推定される。このうち、試料番号2では、複数の桿が密集した状態であり、屋根を葺いた萱材等に由来する可能性がある。

隣接する金井東裏遺跡では、Hr-FAの被災よりも以前に廃絶していたとされる堅穴建物から出土した炭化材の樹種同定が実施されており、サワグルミ、クリ、エノキ属、キハダが確認されている(パリノ・サーヴェイ株式会社,2019.)。エノキ属やクリの利用は、今回の結果とも共通する。

また、伊東・山田(2012)のデータベースを用いて、周辺地域における古墳時代前期の住居跡出土炭化材の樹種同定結果をみると、中郷恵久保遺跡(旧子持村)ではクヌギ節、コナラ節を中心にケヤキ、ヤマウルシ、クスノキ科が僅かに混じる組成が報告されている。また、北町遺跡(旧北橋村)でもクヌギ節、コナラ節を中心として、キハダ、コクサギ、カエデ属、オニグルミ、カバノキ属が僅かに混じる組成が報告されている。このほか、点数は少ないが、長久保大畑・新田入口遺跡では4世紀とされる住居跡出土炭化材1点がクリに同定されている。クヌギ節やコナラ節の多い結果は、8号堅穴建物の結果とも類似しており、榛名山東麓地域でも同様の木材が利用されていた可能性がある。

#### 引文文献

- 林 明三,1991,日本産木材・顯微鏡写真集,京都大学本質科学研究所.  
伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ,木材研究・資料,31,  
京都大学木質科学研究所,81-181.  
伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ,木材研究・資料,32,  
京都大学木質科学研究所,66-176.  
伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ,木材研究・資料,33,  
京都大学木質科学研究所,83-201.  
伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ,木材研究・資料,34,  
京都大学木質科学研究所,30-166.  
伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ,木材研究・資料,35,  
京都大学木質科学研究所,47-216.  
伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース,海青社,44p.  
パリノ・サーヴェイ株式会社,2019,金井東裏遺跡 樹種同定・炭化材樹種同定・金属製品付着木質同定他,「金井東裏遺跡<古墳時代編>理化学分析編・考察編」(IR) 353号企画バイパス上信自動車道改築事業(国道・連携)に伴う理歴文化財発掘調査報告書(報告書),公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団第652集,群馬県渋川市事務所・公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団,145-183  
島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.

Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別  
 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩  
 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson  
 P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identifi-  
 cation].

## 2. 種実同定

植物の種子や果実は比較的強靭なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができます。本報告では、金井下新田遺跡の竪穴建物等から出土した炭化種実を同定し、当時の植物利用を検討する。

### (1) 試料

試料は、7区10面で検出された4号焼土から出土した1点、4号竪穴建物カマドの中から出土した6点、7区10面で検出された12号竪穴建物の床直から出土した1点の計3点である。

### (2) 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

### (3) 結果

樹木種実のモモ1分類群が同定された。学名、和名および粒数を表1に示し、写真を図版に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴と、各遺構の検出状況を記載する。

#### ・モモ *Prunus persica* Batsch 炭化核(略完形・破片)

表1 金井下新田遺跡における種実同定結果

No	調査区	面数	通構	位置	分類群	部位	個数
15	7区	10面	4号燒土		モモ	炭化核(破片)	1
16	7区	9面	4号竪穴建物カマド	かまどの中	モモ	炭化核(破片)	6
17	7区	10面	12号竪穴	床直	モモ	炭化核(略完)	1

#### バラ科

黒褐色で梢円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。

##### 1) 7区10面 4号焼土

樹木種実のモモ炭化核破片1個が同定された。

##### 2) 7区9面 4号竪穴建物カマドの中

樹木種実のモモ炭化核破片6個が同定された。

##### 3) 7区10面 12号竪穴建物床直

樹木種実のモモ炭化核略完形1個が同定された。

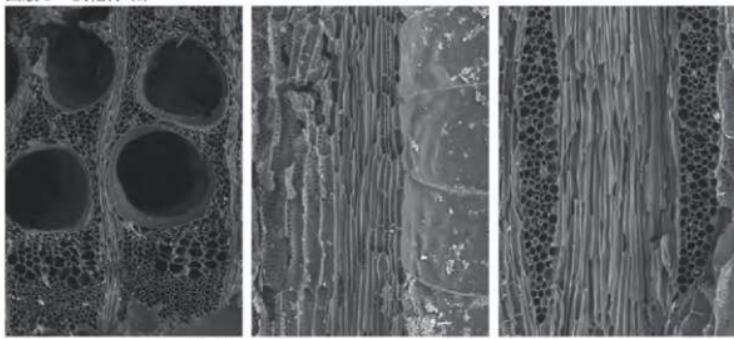
### (4) 所見

古墳時代前期と考えられる竪穴建物から出土した炭化種実は、いずれも樹木種実のモモ核に同定された。モモ核はすべて炭化していた。モモは古くから食用とされてきた植物で、栽培植物もあり、稲作と共に伝來した。多くの遺跡から出土し、弥生時代から古墳時代にかけて多くなり、食用、薬用、祭祀等に利用してきた。本試料は食用とした後にかまどなどの火中に投じられたものが残存したか、二次的に廃棄された可能性が考えられる。

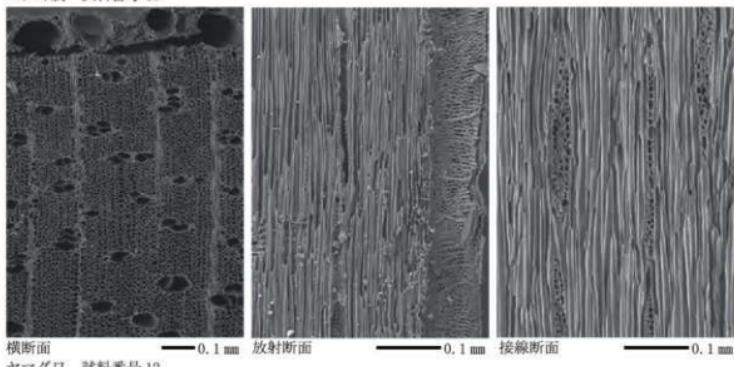
#### 参考文献

- 金原正明(1996)古代モモの形態と品種. 月刊考古学ジャーナルNo.409,  
 ニューサイエンス社, p.15-19.  
 南木睦彦(1991)栽培植物. 古墳時代の研究第4巻生産と流通I, 雄山閣  
 出版株式会社, p.165-174.  
 南木睦彦(1993)葉・果実・種子. 日本国第四紀学会編, 第四紀試料分析法,  
 東京大学出版会, p.276-283.

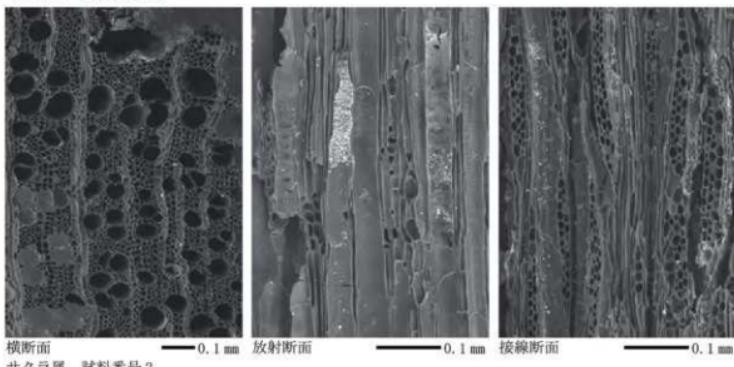
図版1 炭化材(1)



エノキ属 試料番号 13

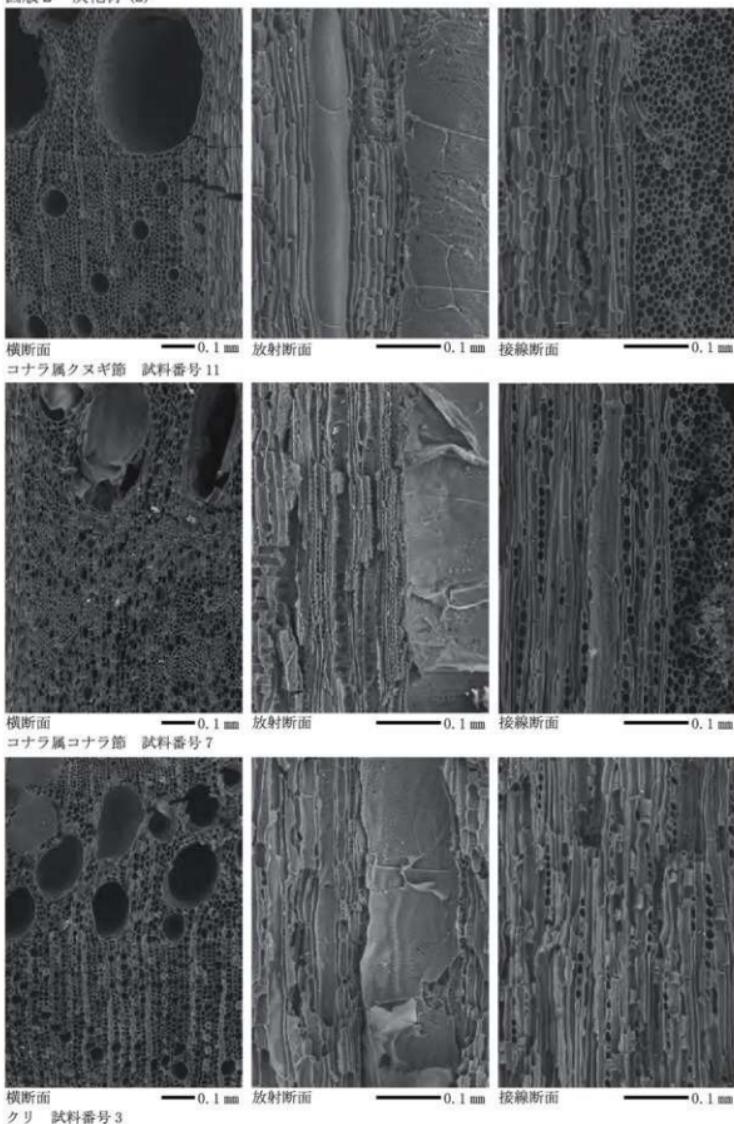


ヤマガワ 試料番号 12

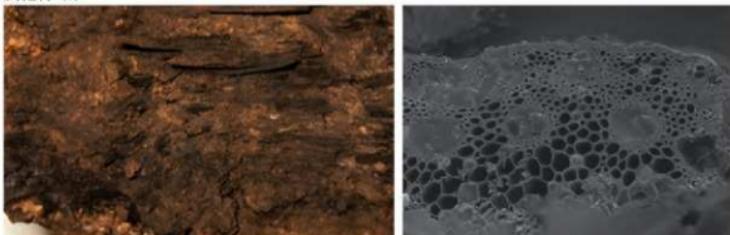


サクラ属 試料番号 2

図版2 炭化材(2)



図版3  
炭化材(3)



炭化種実

モモ炭化核



※検出箇所

- 1 4号焼土
- 2 4号堅穴建物かまどの中
- 3 12号堅穴床直

株式会社 古環境研究所

## 1. はじめに

金井下新田遺跡の発掘調査において、竪穴建物および包含層から動物遺体が出土した。ここでは、動物遺体の同定結果を報告する。

## 2. 試料と方法

試料は著しく保存状態が悪い。可能な限り付着する土を取り除き接合を行ったが、遺構から出土した骨については、土付きのまま観察せざるを得なかった。試料は肉眼で観察し、部位や分類群の同定を試みた。

## 3. 所見

同定されたのは、ウマの白歯破片と、ニホンジカと思われる角破片である。

包含層の3面から出土したのは、ウマの白歯である。咬合面の特徴から、右の上顎白歯と考えられる。比較的残りの良い試料番号5-1（写真1）は、頬側のエナメル質のみが残存する試料であり、試料番号5-2（写真2）は、舌側が残存する試料である。断片的であるため歯種の特

定はできないが、第3前臼歯から第2後臼歯のいずれかと思われる。これらの破片も含めて、少なくとも2本の上顎白歯が含まれていると考えられる。

10面で検出された5号竪穴建物からは、緻密質表面のみが残存した状態の骨が出土している。緻密質のみなら、顆粒状突起と思われる窪みや溝が認められたため、ニホンジカの角と思われた。

なお、いずれの試料も焼骨とされるが、色調は乳白色を呈し、積極的に焼骨といえる所見は見られなかった。

金井下新田遺跡は、6世紀初頭の棲名山の噴火に伴う火山灰や火碎流に覆われており、囲い状遺構と呼ばれる特別に区画された地区の内部からは、切断された多数の鹿角が出土している。今回同定された試料がニホンジカの角であるとすれば、こうした鹿角利用と関連する可能性のある貴重な試料といえる。

## 参考文献

松井 章(2008)動物考古学. 312p. 京都大学学術出版会.

松井 章・西本豊弘(1999)考古学と動物学. 210p. 同成社.

表1 金井下新田遺跡の動物遺体同定結果

発掘区	面	遺構	層位	試料番号	分類群	部位	左右	点数	状態	現存長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考
7北区	3面	—	5	1	ウマ	上顎第3前臼歯～第2後臼歯のいずれか	右	1	頬側面残	59.1	23.8	5.0	3.2	
				2	ウマ	上顎第3前臼歯～第2後臼歯のいずれか	右	1	舌側面残	48.6	25.5	12.1	8	
				3	ウマ	上顎臼歯	右	1	破片	48.1	12	8.9	2.8	少なくとも2本の上顎歯が含まれる
				4	ウマ	上顎臼歯	右	1	破片	40.8	9.8	6.7	1.4	
				5	ウマ	上顎臼歯	右	1	破片	43	11.4	8.3	1.4	
7区	10面	5号竪穴建物	—	40	ニホンジカ?	角?	不明	7	緻密質のみ残	120.5	21.8	—	—	顆粒状突起と思われる窪みや溝が認められる



図版1 金井下新田遺跡出土の動物遺体  
1~5.

## 5. 赤色顔料分析

株式会社 古環境研究所

## 1. はじめに

渋川市金井字下新田に所在する金井下新田遺跡より出土した赤色顔料について蛍光X線分析を行い、顔料の種類を検討した。

## 2. 試料と方法

分析対象は、竪穴建物より出土した赤色顔料2点である。試料の詳細を表1に、写真を図版に示す。

実体顕微鏡下で赤色部を微量採取し、分析試料とした。

分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置(株式会社堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type II)を使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV・1mAのロジウムターゲット、X線ビーム径が $100\mu\text{m}$ または $10\mu\text{m}$ 、検出器は高純度Si検出器(Xerophy)である。検出可能元素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪い。本分析での測定条件は、50kV、0.66～1.00mA(自動設定による)、ビーム径 $100\mu\text{m}$ 、測定時間500sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法(FP法)による半定量分析を装置付属ソフトで行った。さらに、採取した試料を観察試料として、生物顕微鏡で赤色顔料の粒子形状を確認した。

## 3. 結果

蛍光X線分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析結果を図1に示す。

分析の結果、ケイ素(Si)、リン(P)、硫黄(S)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)などが検出された。

生物顕微鏡観察により得られた画像を図版1b、2bに示す。両者とも赤色パイプ状の粒子が観察された。

## 4. 考察

赤色顔料の代表的なものとしては、朱(水銀朱)とベンガラが挙げられる。水銀朱は硫化水銀(HgS)で、鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、鉱物名は赤鉄鉱)を指すが、広義には鉄(III)の発色に伴う赤色顔料全般を指し(成瀬, 2004)、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約 $1\mu\text{m}$ のパイプ状の粒子形状からなるものが多く報告されている。このパイプ状の粒子形状は鉄バクテリア起源であると判明しており(岡田, 1997)、鉄バクテリア起源の含水硫酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す(成瀬, 1998)。鉄バクテリア起源のパイプ状粒子は、湿地などで採取できる。

今回分析した赤色顔料2点からは、ケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。一方で、鉄が極めて多く検出されていることから、赤い発色は鉄によるものと推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたる。さらに、生物顕微鏡観察ではパイプ状粒子が観察されており、いわゆるパイプ状ベンガラであった。

## 5.まとめ

竪穴建物2棟より出土した赤色顔料2点について検討した。その結果、2点とも鉄(III)による発色と推定され、鉄バクテリア起源の、いわゆるパイプ状ベンガラと判断された。

## 引用文献

- 成瀬正和(1998)縄文時代の赤色顔料—I赤彩土器一、考古学ジャーナル、43B、10-14。  
成瀬正和(2004)正倉院宝物に用いられた無機顔料、正倉院紀要、26、13-61。  
岡田文男(1997)パイプ状ベンガラ粒子の復元、日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集、38-39。

表1 分析対象遺物

試料番号	種別	状態	グリッド	面数	造構	取上No.	偏光	主な検出元素	分析・観察結果備考
1	赤色顔料	粉末	7区北	9面	8号竪穴建物	サンプル	床面	Si, Fe	パイプ状ベンガラ
2	赤色顔料	粉末	7区北	10面	12号竪穴建物	サンプル①	床面	Si, Fe	パイプ状ベンガラ

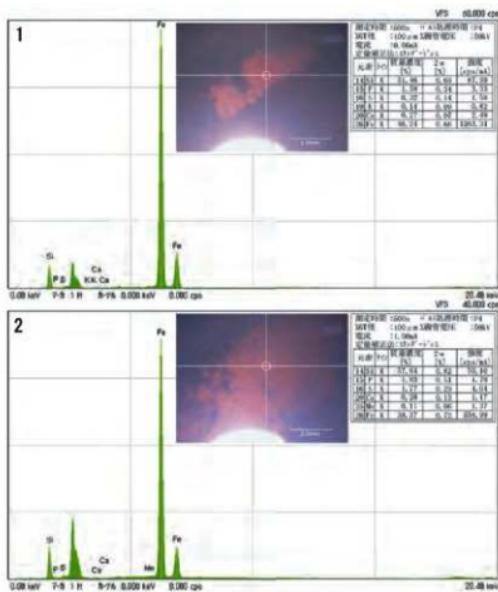
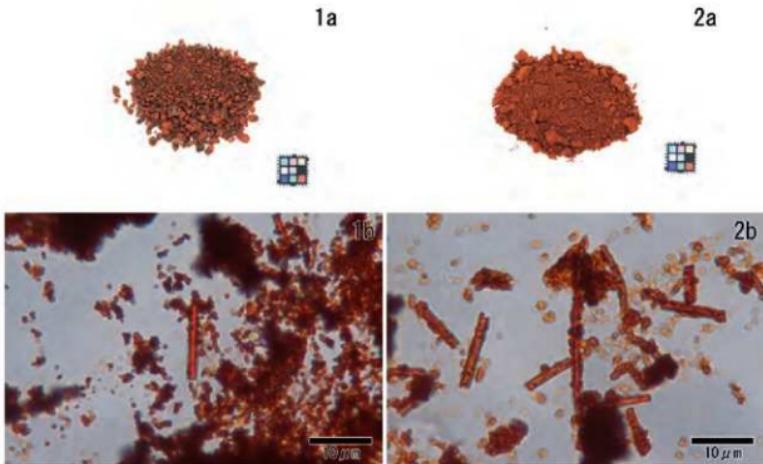


図1 採取試料の蛍光X線分析結果（左上数字は試料番号）



図版1 分析対象遺物 (a) と生物顕微鏡写真 (b) (右上数字は試料番号)

## 6. 灰・土壤の自然科学的分析

株式会社 古環境研究所

## 1. 灰像(植物珪酸体)分析

遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。本報告では、金井下新田遺跡の竪穴建物から出土した灰について、母植物を明らかにするために灰像(植物珪酸体)分析を実施する。

## (1) 試料

試料は、7区10面で検出された5号竪穴建物から出土した灰1点である。

## (2) 方法

灰像分析は、次の手順で行った。

1) 土壌試料の表面の白色部からカッターナイフを用いて灰試料を採取する。

2) 採取した灰試料を恒温乾燥機で乾燥する(105°C・24時間)。

3) 乾燥した灰試料を電気炉灰化法(550°C・6時間)により灰化する。

4) 灰化した試料を封入剤(オイキット)中に分散してペラートを作製する。

検鏡は、偏光顕微鏡を用いて100~400倍で行った。同定は、イネ科植物の機動細胞(葉身にのみ形成される)に由来する植物珪酸体を主体に行った。

## (3) 結果

観察結果を表1に示す。灰より検出された植物珪酸体は、イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族型、タケ亜科(メダケ節型、タケ亜科ネザサ節型、その他)の葉身の機動細胞に形成される植物珪酸体、イネ類(穀穀)表皮細胞に形成される植物珪酸体および未分類である。これらのうち、イネ類表皮細胞の珪酸体が多く確認され、イネ機動細胞の珪酸体もやや多い。その他の珪酸体は少量である。

## (4) 所見

5号竪穴建物から出土した灰からは、イネ類が多く確

認され、稲藁も含まれていたとみられる。こうしたことから、建物内にイネ類が貯蔵されていたか、何らかの用途で穀穀が利用されていたことが推定される。なお、その他の植物珪酸体はいずれも微量であることから、試料に付着していた土壌に由来するものと考えられる。

表1 金井下新田遺跡の灰像(植物珪酸体)分析結果

分類群(和名・学名)	7区10面 5号竪穴建物	
イネ科	Gramineae (Grasses) <i>Oryza sativa</i>	
イネ	機動細胞	○
	表皮細胞	○
キビ族型	Panicace type	△
ヨシ属	<i>Phragmites</i> type	△
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	△
ウシクサ族型	<i>Andropogoneae</i> type	△
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i> (Bamboo)	○
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	△
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	△
その他	Others	△
未分類等	Unknown	△

○: 多く検出、○: 検出、△: 少量検出

## 参考文献

杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オバール)、考古学と植物学、同成社、p.189-213。

杉山真二・藤原宏志(1986)機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として一、考古学と自然科学、19, p.69-84。

杉山真二・松田隆二・藤原宏志(1988)機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として一、考古学と自然科学、20, p.81-92。

藤原宏志(1976)プラント・オバール分析法の基礎的研究(I)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—、考古学と自然科学、9, p.15-29。

## 2. 微細物分析

植物の種子や果実は比較的強靭なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができます。本報告では、金井下新田遺跡の竪穴建物等から出土した炭化種実を同定し、当時の植物利用を検討する。

## (1) 試料

試料は、7区9面より検出された10号竪穴建物のかまどの中の土壌1点である。

## (2)方法

試料(堆積物)に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行う。

1) 試料500ml(全量)に水を加え放置し、泥化

2)攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25mmの篩で水洗選別

3)残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数

同定は、試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

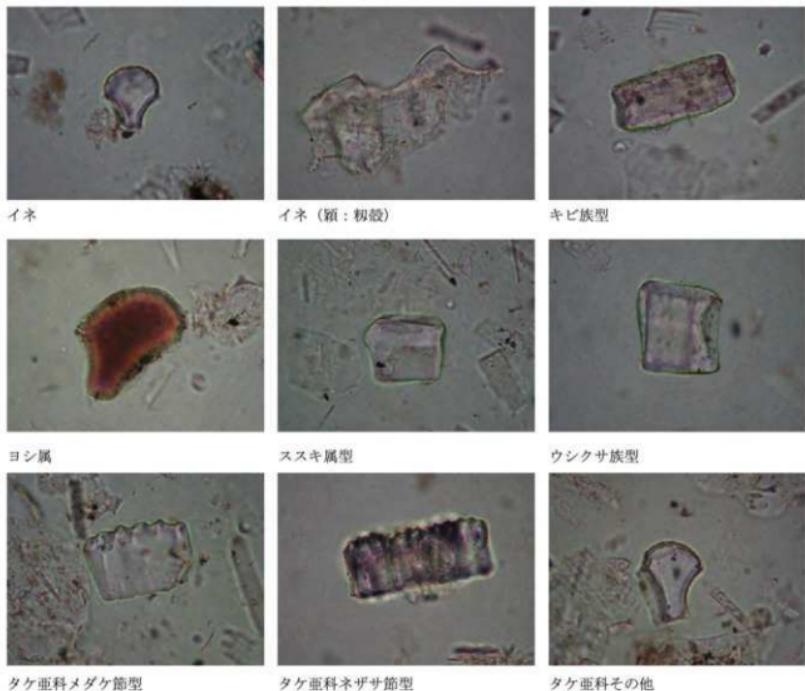
## (3)結果と所見

炭化材は確認できたものの、種実は検出されなかった。なお、試料となった堆積物が、今まで火を受けたことにより種実などの有機質遺体は焼失したか、分解されたと考えられる。

## 参考文献

南木健彦(1991)栽培植物、古墳時代の研究第4巻生産と流通1、雄山閣出版株式会社、p.165-174。  
南木健彦(1993)稲・果実・種子、日本第四紀学会編、第四紀試料分析法、東京大学出版会、p.276-283。

図版 金井下新田遺跡の植物珪酸体



# 写 真 図 版





1. 遺跡遠景（南西上空から望む）



2. 7区第1面上空から望む（北半部）



3. 7区第1面上空から望む（南半部）



4. 7区第2面上空から望む（北半部）



5. 7区第2面上空から望む（南半部）



1.7区第6面人足跡・馬蹄跡全景(上空から・上が北・合成写真)



1. 7区第6面上空から望む(北半部)



2. 7区第6面上空から望む(南半部)



3. 7区第6面南西から望む(南半部)



4. 7区第6面北東から望む(南半部)



5. 7区第6面上空から望む(北半部)



6. 7区第6面上空から望む(北半部)



7. 7区第6面北西から望む(南半部)



8. 7区第6面馬蹄跡の状況(北半部)

## PL.4



1. 7区第5面上空から望む(北半部)



2. 7区第5面南西から望む(北半部)



3. 7区第8面上空から望む(北半部)



4. 8区第1面・7区第9面南から望む



5. 7区第9面上空から望む(北半部)



6. 7区第9面上空から望む(南半部)



7. 7区第9面南から望む(北半部)



8. 7区第9面北から望む(南半部)



1. 7区第1面1号土坑土層断面  
(北西から)



2. 7区第1面1号土坑全景(北西から)



3. 7区第1面3・2号土坑土層断面  
(南西から)



4. 7区第1面2号土坑全景(南西から)



5. 7区第1面3号土坑全景(南西から)



6. 7区第1面4号土坑土層断面  
(南東から)



7. 7区第1面4号土坑全景(南東から)



8. 7区第1面5号土坑土層断面  
(北東から)



9. 7区第1面5号土坑全景(北東から)



10. 7区第1面6号土坑土層断面  
(北西から)



11. 7区第1面6号土坑全景(東から)



12. 7区第1面7号土坑土層断面  
(北西から)



13. 7区第1面7号土坑全景(東から)



14. 7区第1面8号土坑土層断面  
(南東から)



15. 7区第1面8号土坑全景(北東から)



1. 7区第1面9号土坑土層断面  
(南西から)



2. 7区第1面9号土坑全景(南から)



3. 7区第1面10号土坑土層断面  
(南西から)



4. 7区第1面10号土坑全景(南東から)



5. 7区第1面11号土坑土層断面(西から)



6. 7区第1面11号土坑全景(東から)



7. 7区第1面12号土坑土層断面(西から)



8. 7区第1面12号土坑全景(東から)



9. 7区第1面13号土坑土層断面  
(北東から)



10. 7区第1面13号土坑全景(東から)



11. 7区第1面14号土坑土層断面(東から)



12. 7区第1面14号土坑全景(東から)



13. 7区第1面15号土坑土層断面(東から)



14. 7区第1面15号土坑全景(東から)



15. 7区第1面16号土坑土層断面(東から)



1. 7区第1面16号土坑全景(東から)

2. 7区第1面17号土坑土断面  
(北東から)

3. 7区第1面17号土坑全景(北東から)

4. 7区第1面18号土坑土断面  
(南東から)

5. 7区第1面18号土坑全景(東から)

6. 7区第1面19号土坑土断面  
(北東から)

7. 7区第1面19号土坑全景(北東から)

8. 7区第1面20号土坑土断面  
(南から)9. 7区第1面20号土坑遺物出土状況  
(南東から)

10. 7区第1面20号土坑全景(南東から)



11. 7区第1面21号土坑全景(西から)

12. 7区第1面22号土坑土断面  
(南東から)

13. 7区第1面22号土坑全景(東から)



14. 7区第1面24号土坑土断面(南から)



15. 7区第1面24号土坑全景(北から)



1. 7区第1面25号土坑土層断面  
(北東から)



2. 7区第1面25号土坑全景(北東から)



3. 7区第1面26号土坑全景(南から)



4. 7区第1面27号土坑土層断面(東から)



5. 7区第1面27号土坑全景(北から)



6. 7区第1面37号土坑土層断面  
(南東から)



7. 7区第1面37号土坑全景(南東から)



8. 7区第1面38号土坑土層断面  
(南東から)



9. 7区第1面38号土坑全景(南東から)



10. 7区第1面39号土坑土層断面  
(南東から)



11. 7区第1面39号土坑全景(南東から)



12. 7区第1面40号土坑土層断面(南から)



13. 7区第1面40号土坑全景(南から)



14. 7区第1面41号土坑土層断面(南から)



15. 7区第1面41号土坑全景(南から)



1. 7区第1面42号土坑土層断面(南から)



2. 7区第1面42号土坑全景(南から)

3. 7区第1面43号土坑土層断面  
(南東から)

4. 7区第1面43号土坑全景(南東から)

5. 7区第1面44号土坑土層断面  
(南西から)

6. 7区第1面49号土坑土層断面(南から)



7. 7区第1面49号土坑全景(東から)



8. 7区第1面50号土坑全景(西から)

9. 7区第1面51号土坑土層断面  
(北東から)

10. 7区第1面51号土坑全景(北東から)



11. 7区第1面52号土坑全景(南西から)



12. 7区第1面53号土坑土層断面(東から)



13. 7区第1面53号土坑全景(南西から)

14. 7区第1面54号土坑土層断面  
(南東から)15. 7区第1面55号土坑土層断面  
(南東から)



1. 7区第1面54・55号土坑全景(南西から)



2. 7区第1面56号土坑土層断面(東から)



3. 7区第1面56号土坑全景(東から)



4. 7区第1面57号土坑土層断面(東から)



5. 7区第1面57号土坑全景(東から)



6. 7区第1面58号土坑土層断面(東から)



7. 7区第1面58号土坑全景(西から)



8. 7区第1面59号土坑土層断面(南から)



9. 7区第1面59号土坑全景(北から)



10. 7区第1面61号土坑土層断面(東から)



11. 7区第1面61号土坑全景(東から)



12. 7区第1面62号土坑土層断面(北から)



13. 7区第1面62号土坑全景(北から)



14. 7区第1面63号土坑土層断面(南から)



15. 7区第1面63号土坑全景(北から)



1. 7区第1面64号土坑土層断面(東から)



2. 7区第1面64号土坑全景(東から)

3. 7区第1面65号土坑土層断面  
(南東から)

4. 7区第1面65号土坑全景(南東から)



5. 7区第1面66号土坑土層断面(東から)



6. 7区第1面66号土坑全景(西から)

7. 7区第1面67・68号土坑土層断面  
(南東から)8. 7区第1面67号土坑土層断面  
(南東から)9. 7区第1面68号土坑土層断面  
(南東から)

10. 7区第1面67・68号土坑全景(北東から)

11. 7区第1面69号土坑土層断面  
(北東から)

12. 7区第1面69号土坑全景(北東から)

13. 7区第1面70号土坑土層断面  
(南東から)

14. 7区第1面70号土坑全景(北西から)



15. 7区第1面71号土坑全景(西から)



1. 8区第1面1号土坑土層断面(東から)



2. 8区第1面1号土坑全景(北から)



3. 9区第1面1号土坑全景(北東から)



4. 9区第1面2号土坑土層断面  
(北東から)



5. 9区第1面2号土坑全景(北東から)



6. 9区第1面3号土坑土層断面  
(南西から)



7. 9区第1面3号土坑全景(南西から)



8. 9区第1面4号土坑土層断面  
(北東から)



9. 9区第1面4号土坑全景(北東から)



10. 9区第1面5号土坑土層断面(東から)



11. 9区第1面5号土坑全景(東から)



12. 9区第1面6号土坑土層断面(東から)



13. 9区第1面6号土坑全景(南東から)



14. 9区第1面7号土坑土層断面  
(北東から)



15. 9区第1面7号土坑全景(北東から)



1. 9区第1面8号土坑土層断面(東から)



2. 9区第1面8号土坑全景(東から)



3. 9区第1面9号土坑土層断面(東から)



4. 9区第1面11号土坑土層断面(東から)



5. 9区第1面8~11号土坑全景(東から)

6. 9区第1面12号土坑土層断面  
(北西から)

7. 9区第1面12号土坑全景(北東から)



8. 9区第1面13号土坑土層断面(東から)



9. 9区第1面13号土坑全景(東から)



10. 9区第1面14号土坑全景(東から)



11. 9区第1面15号土坑土層断面(東から)



12. 9区第1面15号土坑全景(東から)

13. 9区第1面16号土坑土層断面  
(南東から)

14. 9区第1面16号土坑全景(東から)



15. 9区第1面17号土坑全景(東から)



1. 9区第1面18号土坑土層断面  
(北西から)



2. 9区第1面18号土坑全景(東から)



3. 9区第1面19号土坑全景(南東から)



4. 9区第1面20号土坑土層断面(南から)



5. 9区第1面20号土坑全景(南東から)



6. 9区第1面21号土坑土層断面(南から)



7. 9区第1面21号土坑全景(南から)



8. 9区第1面22号土坑土層断面(南から)



9. 9区第1面22号土坑全景(南から)



10. 9区第1面23号土坑土層断面  
(北東から)



11. 9区第1面23号土坑全景(東から)



12. 9区第1面24号土坑全景(北東から)



13. 9区第1面25号土坑全景(東から)



14. 9区第1面26号土坑土層断面  
(南西から)



15. 9区第1面26号土坑全景(南西から)



1. 9区第1面27号土坑全景(南から)



2. 9区第1面28号土坑全景(西から)



3. 9区第1面29号土坑土層断面(南から)



4. 9区第1面29号土坑全景(南から)



5. 9区第1面30号土坑土層断面(西から)



6. 9区第1面30号土坑全景(東から)



7. 9区第1面31号土坑全景(南から)



8. 9区第1面32号土坑土層断面(東から)



9. 9区第1面32号土坑全景(東から)



10. 9区第1面33号土坑全景(東から)



11. 9区第1面34号土坑土層断面(北から)



12. 9区第1面34号土坑全景(東から)



13. 8区第1面1号烟(上空から)



14. 8区第1面1号烟全景(南東から)



15. 8区第1面1号烟検出状況(西から)



1. 7区第9面30号土坑土層断面(南から)



2. 7区第9面30号土坑全景(東から)



3. 7区第9面31号土坑土層断面  
(北東から)



4. 7区第9面31号土坑全景(東から)



5. 7区第9面32号土坑土層断面(東から)



6. 7区第9面32号土坑全景(東から)



7. 7区第9面33号土坑土層断面  
(北東から)



8. 7区第9面33号土坑全景(北から)



9. 7区第9面34号土坑土層断面(西から)



10. 7区第9面34号土坑全景(東から)



11. 7区第9面72号土坑土層断面  
(北東から)



12. 7区第9面72号土坑全景(北東から)



13. 7区第10面28号土坑土層断面  
(南から)



14. 7区第10面28号土坑全景(北東から)



15. 7区第10面29号土坑土層断面(東から)



1. 7区第10面29号土坑全景(南から)

2. 7区第10面35号土坑土層断面  
(南東から)

3. 7区第10面35号土坑全景(南東から)

4. 7区第10面36号土坑土層断面  
(南東から)

5. 7区第10面36号土坑全景(南東から)

6. 7区第10面45号土坑土層断面  
(南西から)

7. 7区第10面45号土坑全景(南西から)

8. 7区第11面46号土坑土層断面  
(北東から)

9. 7区第11面46号土坑全景(北東から)



10. 7区第11面47号土坑土層断面(南から)



11. 7区第11面47号土坑全景(南から)



12. 7区第11面48号土坑土層断面(北から)



13. 7区第11面48号土坑全景(北から)

14. 7区第11面73号土坑土層断面  
(北東から)

15. 7区第11面73号土坑全景(北東から)



1. 7区1号竖穴建物全景（北西から）



2. 7区1号竖穴建物遺物出土状況（北西から）



3. 7区1号竖穴建物掘方（北西から）



4. 7区1号竖穴建物S<sub>2</sub>被覆状況



5. 7区1号竖穴建物埋土層（南東から）



1. 7区1号竪穴建物P1土層断面  
(北西から)



2. 7区1号竪穴建物P1全景(南東から)



3. 7区1号竪穴建物P2土層断面  
(北西から)



4. 7区1号竪穴建物P2全景(南東から)



5. 7区1号竪穴建物P3土層断面  
(北西から)



6. 7区1号竪穴建物P3全景(南東から)



7. 7区1号竪穴建物P4土層断面  
(南から)



8. 7区1号竪穴建物P4全景(南から)



9. 7区1号竪穴建物P5土層断面  
(南から)



10. 7区1号竪穴建物P5全景(南から)



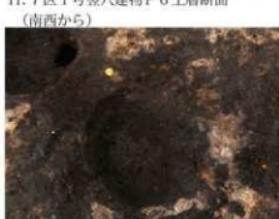
11. 7区1号竪穴建物P6土層断面  
(南西から)



12. 7区1号竪穴建物P6全景(南から)



13. 7区1号竪穴建物P7土層断面  
(南西から)



14. 7区1号竪穴建物P7全景(南から)



15. 7区1号竪穴建物遺物出土状況  
(西から)



1. 7区2号竪穴建物遺物出土状況（北西から）



2. 7区2号竪穴建物焼土検出状況（北東から）



3. 7区2号竪穴建物焼土検出状況（北西から）



4. 7区2号竪穴建物焼土検出状況（南西から）



5. 7区2号竪穴建物土層断面A（南西から）



1. 7区2号竪穴建物土層断面A  
(南西から)



2. 7区2号竪穴建物土層断面A  
(南西から)



3. 7区2号竪穴建物掘方土層断面  
(西から)



4. 7区2号竪穴建物掘方全景(北西から)



5. 7区2号竪穴建物掘方全景(南東から)



6. 7区2号竪穴建物全景(北西から)



7. 7区2号竪穴建物全景(北東から)



8. 7区2号竪穴建物遺物出土状況  
(東から)



9. 7区2号竪穴建物P1土層断面  
(南東から)



10. 7区2号竪穴建物P1全景(南東から)



11. 7区2号竪穴建物P2土層断面  
(南東から)



12. 7区2号竪穴建物P2全景(南東から)



13. 7区2号竪穴建物P3土層断面  
(南西から)



14. 7区2号竪穴建物P3全景(南東から)



15. 7区2号竪穴建物P3全景(西から)



1. 7区3号豊穴建物全景(東上空から)



2. 7区3号豊穴建物全景(北西から)



3. 7区3号豊穴建物全景(東から)



4. 7区3号豊穴建物掘方全景(北から)



5. 7区3号豊穴建物掘方全景(南西から)



6. 7区3号豊穴建物P1全景(北から)



7. 7区3号豊穴建物P2全景(北から)



8. 7区3号豊穴建物焼土1全景(北から)



1. 7区4号竪穴建物遺物出土状況(北東から)



2. 7区4号竪穴建物全景(北東上空から)



3. 7区4号竪穴建物検出状況(北東から)



4. 7区4号竪穴建物縦使用面全景(北東から)



5. 7区4号竪穴建物焼土内検出状況(北東から)



1. 7区4号竪穴建物炭化材検出状況  
(北東から)



2. 7区4号竪穴建物焼土検出状況  
(南西から)



3. 7区4号竪穴建物土層断面A  
(北東から)



4. 7区4号竪穴建物遺物出土状況  
(北東から)



5. 7区4号竪穴建物遺物出土状況  
(西から)



6. 7区4号竪穴建物貯藏穴全景  
(北東から)



7. 7区4号竪穴建物土坑1全景  
(南西から)



8. 7区4号竪穴建物掘方土層断面A  
(東から)



9. 7区4号竪穴建物掘方土層断面B  
(南東から)



10. 7区4号竪穴建物罐掘方土層断面D  
(北東から)



11. 7区4号竪穴建物罐出土状況  
(北東から)



12. 7区4号竪穴建物調査風景(東から)



13. 7区4号竪穴建物炭化材検出状況



14. 7区4号竪穴建物掘方全景(北東から)



15. 7区4号竪穴建物全景(南西から)



1. 7区8号堅穴建物全景(北東上空から)



2. 7区8号堅穴建物廻全景粘土崩落(北東から)



3. 7区8号堅穴建物廻検出状況(北東から)



4. 7区8号堅穴建物廻全景(北東から)



5. 7区8号堅穴建物廻全景桿道掘方(北東から)



1. 7区8号竪穴建物炭化材・焼土検出状況  
(北から)



2. 7区8号竪穴建物炭化材・焼土検出状況  
(北から)



3. 7区8号竪穴建物炭化材検出状況  
(北から)



4. 7区8号竪穴建物周溝土層断面  
(南から)



5. 7区8号竪穴建物西壁(南東から)



6. 7区8号竪穴建物遺物出土状況  
(南東から)



7. 7区8号竪穴建物遺物出土状況  
(東から)



8. 7区8号竪穴建物遺物出土状況  
(東から)



9. 7区8号竪穴建物遺物出土状況  
(北から)



10. 7区8号竪穴建物遺物出土状況  
(南から)



11. 7区8号竪穴建物遺物出土状況  
(南から)



12. 7区8号竪穴建物遺物出土状況  
(南から)



13. 7区8号竪穴建物管玉出土状況  
(西から)



14. 7区8号竪穴建物翡翠出土状況  
(東から)



15. 7区8号竪穴建物ベンガラ検出状況  
(東から)



1. 7区8号竪穴建物P1土層断面  
(南東から)



2. 7区8号竪穴建物P1全景(北西から)



3. 7区8号竪穴建物P2土層断面  
(南東から)



4. 7区8号竪穴建物P2全景(東から)



5. 7区8号竪穴建物P3全景(東から)



6. 7区8号竪穴建物P4土層断面  
(南東から)



7. 7区8号竪穴建物P4全景(南から)



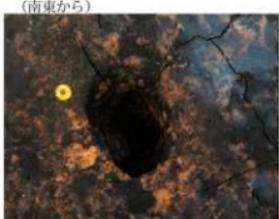
8. 7区8号竪穴建物P5土層断面  
(南東から)



9. 7区8号竪穴建物P5全景(南東から)



10. 7区8号竪穴建物P6土層断面  
(北東から)



11. 7区8号竪穴建物P6全景(北東から)



12. 7区8号竪穴建物P7土層断面  
(南から)



13. 7区8号竪穴建物P7全景(東から)



14. 7区8号竪穴建物P8土層断面  
(南東から)



15. 7区8号竪穴建物P8全景(南東から)



1. 7区8号竪穴建物P 9土層断面  
(南東から)



2. 7区8号竪穴建物P 9全景(南東から)



3. 7区8号竪穴建物P 10土層断面  
(南から)



4. 7区8号竪穴建物P 10全景(東から)



5. 7区8号竪穴建物P 11土層断面  
(南東から)



6. 7区8号竪穴建物P 11全景(南東から)



7. 7区8号竪穴建物土坑1土層断面  
(東から)



8. 7区8号竪穴建物土坑1全景(東から)



9. 7区8号竪穴建物土坑2土層断面  
(北から)



10. 7区8号竪穴建物土坑2遺物出土状況  
(北東から)



11. 7区8号竪穴建物貯藏穴土層断面  
(北東から)



12. 7区8号竪穴建物貯藏穴全景  
(北東から)



13. 7区8号竪穴建物窯全景(北から)



14. 7区8号竪穴建物窯焼道掘方(北から)



15. 7区8号竪穴建物窯掘方全景  
(北東から)



1. 7区9号竪穴建物掘方全景(西から)



2. 7区9号竪穴建物土層断面(南から)



3. 7区9号竪穴建物掘方全景(南から)



4. 7区9号竪穴建物遺物出土状況(北から)



5. 7区9号竪穴建物遺物出土状況(北から)



6. 7区9号竪穴建物遺物出土状況(北から)



7. 7区9号竪穴建物遺物出土状況(北から)



8. 7区9号竪穴建物土坑1(貯藏穴)土層断面(西から)



1. 7区9号竪穴建物土坑1(貯藏穴)全景  
(西から)



2. 7区9号竪穴建物土坑2 土層断面  
(北西から)



3. 7区9号竪穴建物土坑2 全景(南から)



4. 7区9号竪穴建物土坑3 土層断面  
(南東から)



5. 7区9号竪穴建物土坑3 全景(南から)



6. 7区9号竪穴建物P1 土層断面  
(南から)



7. 7区9号竪穴建物P2 土層断面  
(南から)



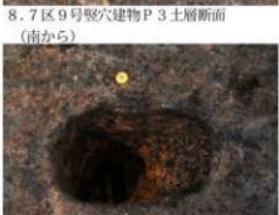
8. 7区9号竪穴建物P3 土層断面  
(南から)



9. 7区9号竪穴建物P4・P5 土層断面  
(南から)



10. 7区9号竪穴建物P6 土層断面  
(南から)



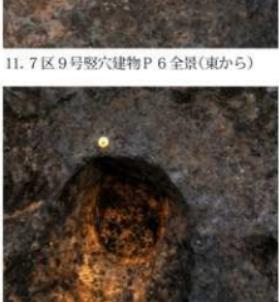
11. 7区9号竪穴建物P6 全景(東から)



12. 7区9号竪穴建物P7 土層断面  
(東から)



13. 7区9号竪穴建物P7 全景(東から)



14. 7区9号竪穴建物P9 全景(東から)



15. 7区9号竪穴建物P10 全景(東から)



1. 7区10号竪穴建物全景(南西から)



2. 7区10号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



3. 7区10号竪穴建物土層断面 A (南西から)



4. 7区10号竪穴建物遺物検出状況(南西から)



5. 7区10号竪穴建物遺物全景(南西から)



1. 7区10号竪穴建物炭化材検出状況  
(西から)



2. 7区10号竪穴建物土坑1(貯藏穴)土層  
断面(南西から)



3. 7区10号竪穴建物土坑1(貯藏穴)全景  
(南西から)



4. 7区10号竪穴建物土坑2土層断面  
(南東から)



5. 7区10号竪穴建物土坑2全景  
(南西から)



6. 7区10号竪穴建物P1土層断面  
(南西から)



7. 7区10号竪穴建物P1全景(南西から)



8. 7区10号竪穴建物P2土層断面  
(南西から)



9. 7区10号竪穴建物P2全景(南西から)



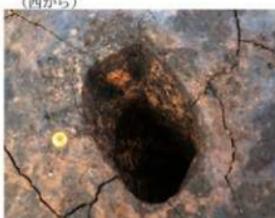
10. 7区10号竪穴建物P4土層断面  
(西から)



11. 7区10号竪穴建物P4全景(西から)



12. 7区10号竪穴建物P5土層断面  
(南西から)



13. 7区10号竪穴建物P5全景(南西から)



14. 7区10号竪穴建物P6土層断面  
(南西から)



15. 7区10号竪穴建物P6全景(南西から)



1. 7区10号竪穴建物P 7 土層断面  
(南西から)



2. 7区10号竪穴建物P 7 全景(南西から)



3. 7区10号竪穴建物P 8 土層断面  
(西から)



4. 7区10号竪穴建物P 8 全景(西から)



5. 7区10号竪穴建物P 9 土層断面  
(西から)



6. 7区10号竪穴建物P 9 全景(西から)



7. 7区10号竪穴建物P 10 土層断面  
(西から)



8. 7区10号竪穴建物P 10 全景(西から)



9. 7区10号竪穴建物P 11 土層断面  
(南西から)



10. 7区10号竪穴建物P 11 全景(南西から)



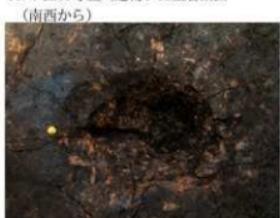
11. 7区10号竪穴建物P 12 土層断面  
(南西から)



12. 7区10号竪穴建物P 12 全景(南西から)



13. 7区10号竪穴建物P 13 土層断面  
(南西から)



14. 7区10号竪穴建物P 13 全景(南西から)



15. 7区10号竪穴建物窓掘方全景  
(南西から)



1. 7区11号堅穴建物全景(北から)



2. 7区11号堅穴建物掘方全景(北から)



3. 7区11号堅穴建物土層断面A(東から)



4. 7区11号堅穴建物掘使用面全景(北から)



5. 7区11号堅穴建物埴土層断面(北から)



6. 7区11号堅穴建物掘使用面全景(北から)



7. 7区11号堅穴建物P 1全景(南から)



8. 7区11号堅穴建物P 2全景(北西から)



1. 7区5号竪穴建物遺物出土状況(南から)



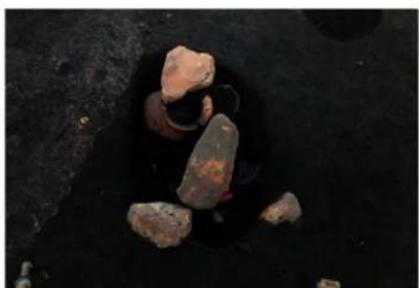
2. 7区5号竪穴建物全景(東から)



3. 7区5号竪穴建物土層断面A(南西から)



4. 7区5号竪穴建物遺物出土状況(南から)



5. 7区5号竪穴建物土坑1 番出土状況(南から)



6. 7区5号竪穴建物土坑1 番取り上げ後遺物出土状況(南から)



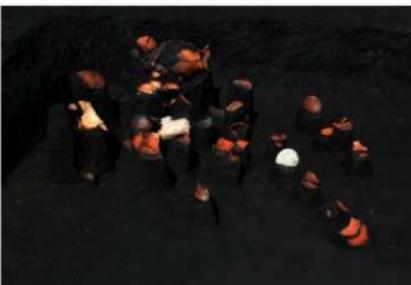
7. 7区5号竪穴建物P 2 遺物出土状況(北から)



8. 7区5号竪穴建物P 3周辺遺物出土状況(東から)



1. 7 区 6 号竪穴建物遺物出土状況(北西から)



2. 7 区 6 号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



3. 7 区 6 号竪穴建物焼土 1 検出状況(北西から)



4. 7 区 6 号竪穴建物焼土 1 土層断面 F (南西から)



5. 7 区 6 号竪穴建物焼土 1 全景(北東から)



6. 7 区 6 号竪穴建物 P 1 全景(南東から)



7. 7 区 6 号竪穴建物 P 2 全景(南東から)



8. 7 区 6 号竪穴建物掘方全景(北西から)



1. 7区12号竪穴建物か全景(北東から)



2. 7区12号竪穴建物か全景(北西から)



3. 7区12号竪穴建物か検出状況(北西から)



4. 7区12号竪穴建物土層断面A(北東から)



5. 7区12号竪穴建物掘方全景(北東から)



1. 7区12号竪穴建物遺物出土状況  
(南西から)



2. 7区12号竪穴建物遺物出土状況  
(南から)



3. 7区12号竪穴建物ベンガラ検出状況



4. 7区12号竪穴建物P 1 土層断面  
(北東から)



5. 7区12号竪穴建物P 1 全景(北東から)



6. 7区12号竪穴建物P 3 土層断面  
(北東から)



7. 7区12号竪穴建物P 3 全景(北東から)



8. 7区12号竪穴建物P 4 土層断面  
(北西から)



9. 7区12号竪穴建物P 4 全景(南西から)



10. 7区12号竪穴建物P 5 土層断面  
(北西から)



11. 7区12号竪穴建物P 5 全景(北東から)



12. 7区12号竪穴建物P 7 土層断面  
(南西から)



13. 7区12号竪穴建物P 7 全景(北東から)



14. 7区12号竪穴建物土坑1 土層断面  
(南西から)



15. 7区12号竪穴建物土坑1 全景  
(北東から)



1. 7区13号竪穴建物掘方全景(北西から)



2. 7区13号竪穴建物掘方全景(南から)



3. 7区13号竪穴建物掘方全景(西から)



4. 7区13号竪穴建物P1土層断面(南西から)



5. 7区13号竪穴建物P1全景(南西から)



1. 7区14号竪穴建物全景(東から)



2. 7区14号竪穴建物土層断面B(北から)



3. 7区14号竪穴建物遺物出土状況(東から)



4. 7区14号竪穴建物遺物出土状況(東から)



5. 7区14号竪穴建物遺物出土状況(東から)



1. 7 [区]14号竪穴建物遺物出土状況(北から)



2. 7 [区]14号竪穴建物遺物出土状況(東から)



3. 7 [区]14号竪穴建物灰検出状況(東から)



4. 7 [区]14号竪穴建物土層断面 A (東から)



5. 7 [区]14号竪穴建物土層断面 A (東から)



6. 7 [区]14号竪穴建物遺物出土状況(東から)



7. 7 [区]14号竪穴建物遺物出土状況(東から)



8. 7 [区]14号竪穴建物土層断面 B (南から)



1. 7区15号竪穴建物発掘状況(西から)



2. 7区15号竪穴建物全景(西から)



1. 7区15号竪穴建物土層断面B(南から)



2. 7区15号竪穴建物土坑1全景(南から)

3. 7区15号竪穴建物遺物出土状況  
(西から)

4. 7区15号竪穴建物罐検出状況(西から)



5. 7区15号竪穴建物罐全景(西から)

6. 7区15号竪穴建物罐土層断面C  
(北から)7. 7区15号竪穴建物P1土層断面  
(北から)

8. 7区15号竪穴建物P1全景(南から)

9. 7区15号竪穴建物P2土層断面  
(北西から)

10. 7区15号竪穴建物P2全景(南東から)

11. 7区15号竪穴建物P3土層断面  
(南東から)

12. 7区15号竪穴建物P3全景(南東から)

13. 7区15号竪穴建物P4土層断面  
(南東から)

14. 7区15号竪穴建物P4全景(南東から)



15. 7区15号竪穴建物掘方全景(西から)



1. 7区1号平地建物掘方断面A(南西から)



2. 7区1号平地建物遺物出土状況(南東から)



3. 7区1号平地建物土層断面D(南東から)



4. 7区1号平地建物遺物出土状況(南東から)



5. 7区1号平地建物遺物出土状況(北東から)



6. 7区1号掘立柱建物全景(北東から)



7. 7区1号掘立柱建物全景(北西から)



8. 7区1号掘立柱建物全景(南東から)



1. 7区7号竪穴建物全景（南東から）

2. 7区7号竪穴建物炉<sup>2</sup>全景（南東から）

3. 7区7号竪穴建物土層断面 A（南から）



4. 7区7号竪穴建物入口検出状況（南東から）



5. 7区7号竪穴建物石器出土状況（南から）



1. 7区7号竪穴建物P 1 土層断面(南東から)



2. 7区7号竪穴建物P 2 土層断面(南から)



3. 7区7号竪穴建物P 3 遺物出土状況(南東から)



4. 7区7号竪穴建物P 5 土層断面(南東から)



5. 7区7号竪穴建物P 6 土層断面(南東から)



6. 7区7号竪穴建物P 7 挖方全景(南から)



7. 7区7号竪穴建物P 3～P 6 全景(北西から)



8. 7区7号竪穴建物P 7 挖方全景(南東から)



1. 7区第2面北半部(上空から)



2. 7区第2面馬蹄跡1(南東から)



3. 7区第2面馬蹄跡5(北西から)



4. 7区第2面馬蹄跡11(南東から)



5. 7区第2面馬蹄跡14・15(東から)



6. 7区第2面馬蹄跡17・18(北東から)



7. 7区第2面馬蹄跡19・20(南から)



8. 7区第2面馬蹄跡21・22(東から)



9. 7区第2面馬蹄跡25・26(南東から)



10. 7区第2面馬蹄跡27(北から)



11. 7区第2面馬蹄跡28(東から)



12. 7区第2面馬蹄跡34(東から)



13. 7区第2面馬蹄跡36・37(北西から)



14. 7区第2面馬蹄跡38・39(北西から)



15. 7区第2面馬蹄跡40～43(北西から)



1. 7区第2面馬蹄跡41（北西から）



2. 7区第2面馬蹄跡378・376（南から）



3. 7区第2面馬蹄跡379（南から）



4. 7区第2面馬蹄跡386（南から）



5. 7区第2面馬蹄跡393（南から）



6. 7区第2面馬蹄跡406（南から）



7. 7区第2面馬蹄跡408（南から）



8. 7区第2面馬蹄跡421（南から）



9. 7区第2面馬蹄跡422（南から）



10. 7区第2面馬蹄跡421・422（南から）



11. 7区第2面馬蹄跡464（南から）



12. 7区第2面馬蹄跡465（南から）



13. 7区第2面馬蹄跡468（南から）



14. 7区第2面馬蹄跡469（南から）



15. 7区第2面馬蹄跡470（南から）



1. 7区第6面馬蹄跡57（南西から）



2. 7区第6面馬蹄跡60（南西から）



3. 7区第6面馬蹄跡62（南から）



4. 7区第6面馬蹄跡70（南西から）



5. 7区第6面馬蹄跡72（南から）



6. 7区第6面馬蹄跡80（南から）



7. 7区第6面馬蹄跡83（南から）



8. 7区第6面馬蹄跡108（南西から）



9. 7区第6面馬蹄跡137（南から）



10. 7区第6面馬蹄跡138（南西から）



11. 7区第6面馬蹄跡155（南から）



12. 7区第6面馬蹄跡162・163（北から）



13. 7区第6面馬蹄跡183（南から）



14. 7区第6面馬蹄跡185（南から）



15. 7区第6面馬蹄跡188・189（南東から）



1. 7区第6面馬蹄跡228（南東から）



2. 7区第6面馬蹄跡241（東から）



3. 7区第6面馬蹄跡563・564土層断面  
(南東から)



4. 7区第6面馬蹄跡579土層断面  
(南東から)



5. 7区第6面馬蹄跡579（南東から）



6. 7区第6面馬蹄跡580土層断面(南から)



7. 7区第6面馬蹄跡581（南から）



8. 7区第6面馬蹄跡583土層断面  
(南東から)



9. 7区第6面馬蹄跡583（南東から）



10. 7区第6面馬蹄跡581～583(南東から)



11. 7区第6面馬蹄跡600～608（南から）



12. 7区第6面馬蹄跡622（南から）



13. 7区第6面馬蹄跡629（南から）



14. 7区第6面馬蹄跡639（南から）



15. 7区第6面馬蹄跡641（南から）



1. 7区第6面人足跡遠景(北西から)



2. 7区第6面人足跡(西から)



3. 7区第6面人足跡1(北東から)



4. 7区第6面人足跡2(東から)



5. 7区第6面人足跡3(北東から)



6. 7区第6面人足跡5(西から)



7. 7区第6面人足跡7(西から)



8. 7区第6面人足跡11・38(西から)



9. 7区第6面人足跡15(北西から)



10. 7区第6面人足跡17(東から)



11. 7区第6面人足跡20(南西から)



12. 7区第6面人足跡33(北西から)



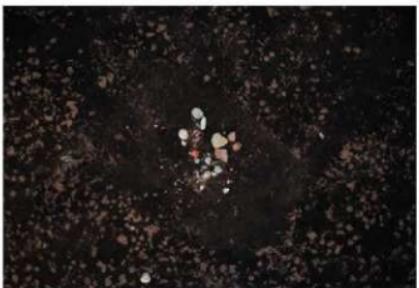
13. 7区第6面人足跡35(北西から)



14. 7区第6面人足跡37(南西から)



15. 7区第6面人足跡40(北東から)



1. 7区第8面1号祭祀検出状況(南西から)



2. 7区第8面1号祭祀土層断面A(東から)



3. 7区第8面1号祭祀全景(東から)



4. 7区第8面1号祭祀全景(南から)



5. 7区第8面1号祭祀遺物出土状況(東から)



6. 7区第8面1号祭祀遺物出土状況(東から)



7. 7区第8面1号祭祀遺物出土状況(東から)



8. 7区第8面1号祭祀遺物出土状況(西から)



1. 7区第8面1号祭祀遺物出土状況(東から)



2. 7区第8面1号祭祀遺物出土状況(北西から)



3. 7区第8面1号祭祀遺物出土状況(北から)



4. 7区第8面1号祭祀遺物出土状況(西から)



5. 7区第8面1号祭祀遺物出土状況(南から)



6. 7区第8面1号祭祀遺物出土状況(東から)



7. 7区第8面1号祭祀遺物出土状況(北西から)



8. 7区第8面1号祭祀遺物出土状況(南から)



1. 7 区第8面1号堤全景（西上空から）



2. 7 区第8面1号堤（上空から）



3. 7 区第8面1号堤（北上空から）



4. 7 区第8面1号堤壙の確認状況（南西から）



5. 7 区第8面1号堤寄敵断面状況（西から）



1. 7区1号ピット全景（北から）



2. 7区2号ピット全景（南から）



3. 7区3号ピット全景（南から）



4. 7区4号ピット全景（北東から）



5. 7区5号ピット全景（西から）



6. 7区6号ピット全景（西から）



7. 7区7号ピット全景（東から）



8. 7区8号ピット全景（西から）



9. 7区9号ピット全景（南から）



10. 7区10号ピット全景(南から)



11. 7区11号ピット全景(南から)



12. 7区12号ピット全景(南から)



13. 7区13号ピット全景(南から)



14. 7区16号ピット全景(北から)



15. 7区17号ピット全景(北から)



1. 7区18号ピット全景(東から)



2. 7区19号ピット土層断面(南東から)



3. 7区19号ピット全景(南東から)



4. 7区20・21号ピット土層断面(北東から)



5. 7区20・21号ピット全景(東から)



6. 7区22号ピット土層断面(北東から)



7. 7区22号ピット全景(北東から)



8. 7区23号ピット土層断面(北東から)



9. 7区23号ピット全景(北東から)



10. 7区24号ピット土層断面(北から)



11. 7区24号ピット全景(北から)



12. 7区25号ピット土層断面(北から)



13. 7区25号ピット全景(北西から)



14. 7区26号ピット土層断面(北から)



15. 7区26号ピット全景(北から)



1. 7区第10面1号集石検出状況(北東から)



2. 7区第10面1号集石検出状況(西から)



3. 7区第10面1号集石検出状況(北東から)



4. 7区第10面1号集石検出状況(南東から)



5. 7区第10面1号集石検出状況(北東上空から)



6. 7区第10面1号集石検出状況(南東から)



7. 7区第10面1号集石検出状況(北東から)



8. 7区第10面1号集石全景石除去後(北東から)



1. 7区第9面1号遺物集中土層断面(南東から)



2. 7区第9面1号遺物集中全景(東から)



3. 7区第9面2号遺物集中土層断面(南から)



4. 7区第9面3号遺物集中遺物出土状況(南から)



5. 7区第9面3号遺物集中遺物出土状況(南から)



6. 7区第9面4号遺物集中全景(東から)



7. 7区第9面4号遺物集中遺物出土状況(東から)



8. 7区第8面5号遺物集中遺物出土状況(西から)



1. 7区第2面1号焼土検出状況(北から)



2. 7区第2面1号焼土土層断面(北から)



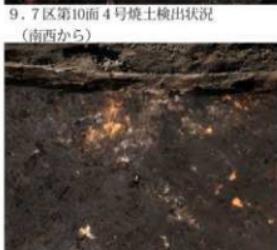
3. 7区第9面2号焼土全景(北西から)

4. 7区第9面2号焼土土層断面  
(北西から)5. 7区第9面3号焼土遺物出土状況  
(西から)

6. 7区第9面3号焼土土層断面(東から)

7. 7区第10面4号焼土検出状況  
(北から)8. 7区第10面4号焼土検出状況  
(北から)9. 7区第10面4号焼土検出状況  
(南西から)

10. 7区第8面5号焼土検出状況(西から)

11. 7区第8面5号焼土遺物出土状況  
(西から)

12. 7区第8面6号焼土検出状況(南から)



13. 7区第8面6号焼土掘方全景(南から)



14. 7区第8面7号焼土土層断面(西から)



15. 7区第8面7号焼土検出状況(南から)



1. 7区第1面7・8号溝(西上空から)



2. 7区第1面1～5号溝(西上空から)



3. 7区第1面1号溝土層断面(北西から)



4. 7区第1面3号溝土層断面(南東から)



5. 7区第1面3号溝全景(北西から)



6. 7区第1面4号溝土層断面(南東から)



7. 7区第1面4号溝全景(北から)



8. 7区第1面5号溝土層断面(北西から)



1. 7区第1面7号溝全景(西から)



2. 7区第1面8号溝土層断面(東から)



3. 7区第1面8号溝全景(東から)



4. 7区第1面9号溝全景(西から)



5. 7区第1面10号溝土層断面(東から)



6. 7区第1面10・11号溝土層断面(西から)



7. 7区第1面10・11号溝土層断面(西から)



8. 7区第1面10・12・13号溝土層断面(西から)



1. 7区第1面12号溝土層断面(北西から)



2. 7区第1面12号溝全景(西から)



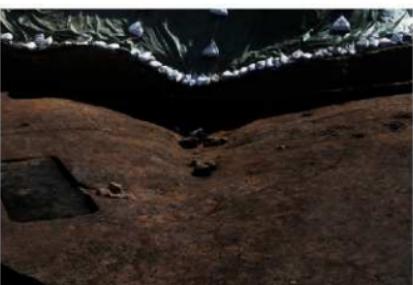
3. 7区第1面13号溝全景(北から)



4. 7区第1面14号溝土層断面(南東から)



5. 7区第1面14号溝全景(南東から)



6. 7区第11面6号溝全景(北から)



7. 7区第11面6号溝全景(北から)



8. 7区第11面6号溝全景(南から)



1. 8区第1面1号道(北上空から)



2. 9区第1面1号道掘方全景(西から)



3. 7区第2面1号道土断面(北から)



4. 7区第2面1号道全景(北から)



5. 7区第2面1号道全景(北から)



6. 7区第2面1号道掘方全景(北から)



7. 7区第2面1号道全景(南から)



8. 7区第2面1号道全景(南から)



1. 7区第5面上空から望む(北半部)



2. 7区第5面南から望む(北半部)



3. 7区第5面5号円状衝撃痕全景(東から)



4. 7区第5面5号円状衝撃痕全景(西から)



5. 7区第5面19号溝状・20号線状衝撃痕(南から)



6. 7区第5面19号溝状衝撃痕全景(南から)

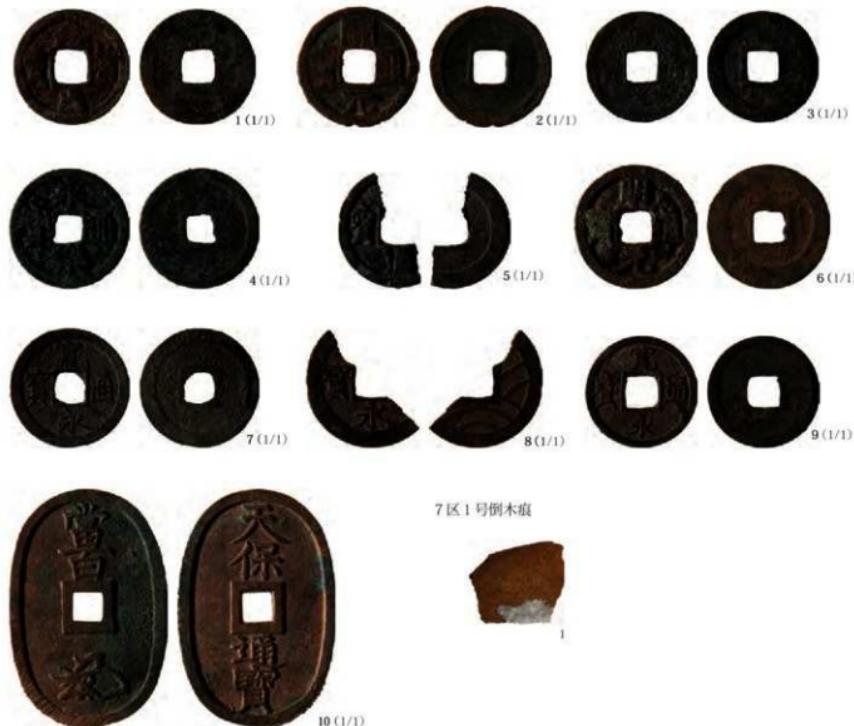


7. 7区第5面1号倒木痕土層断面(南から)



8. 7区第5面1号倒木痕土層断面(南から)

7区第1面遺構外



7区1号祭祀

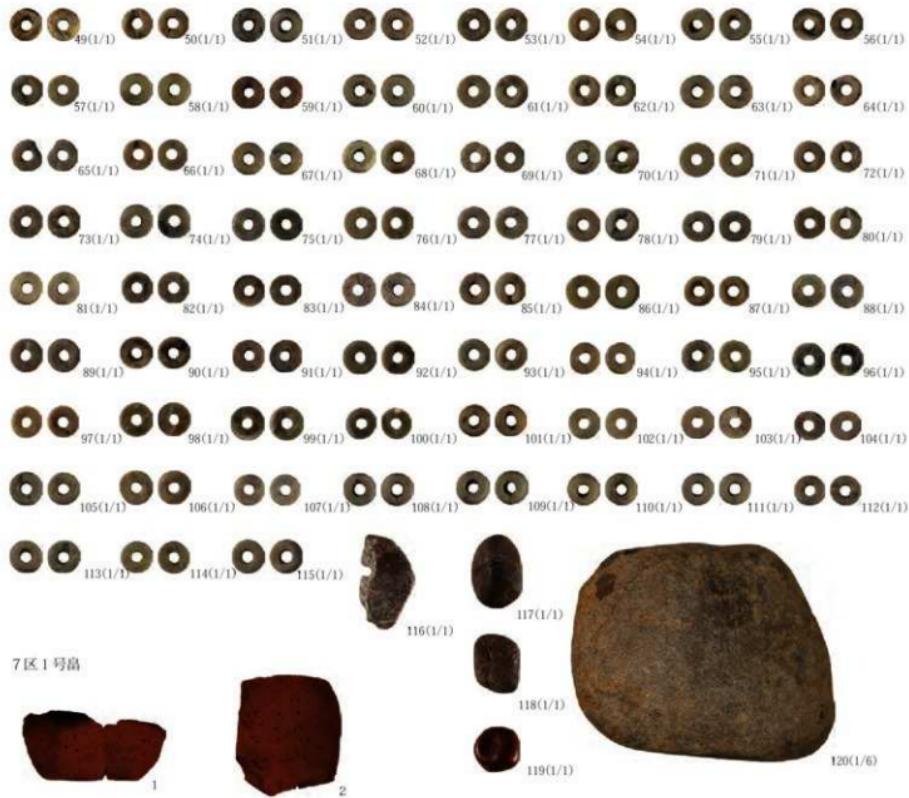








46



7区1号窑

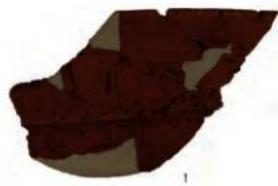


PL.70

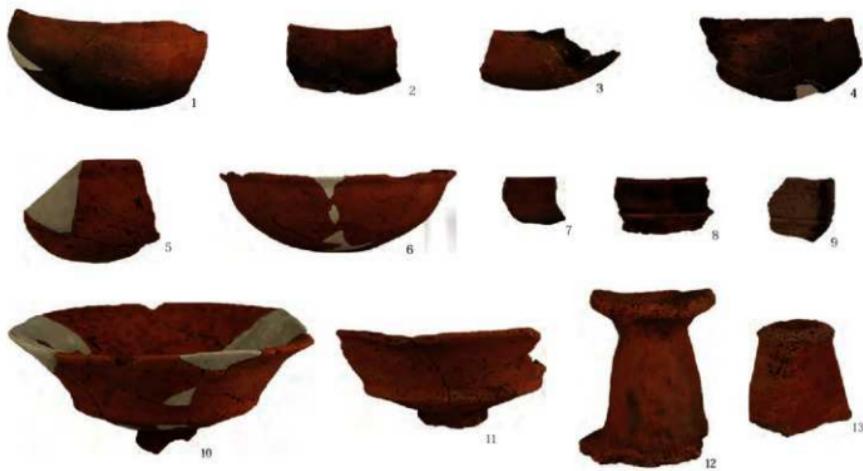
7区 5号遗物集中

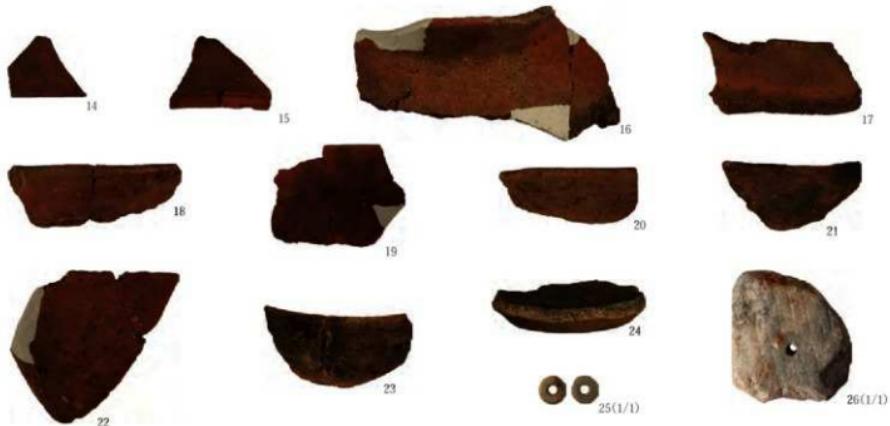


7区 5号烧土



7区 1号竖穴建物





7区2号略穴建物

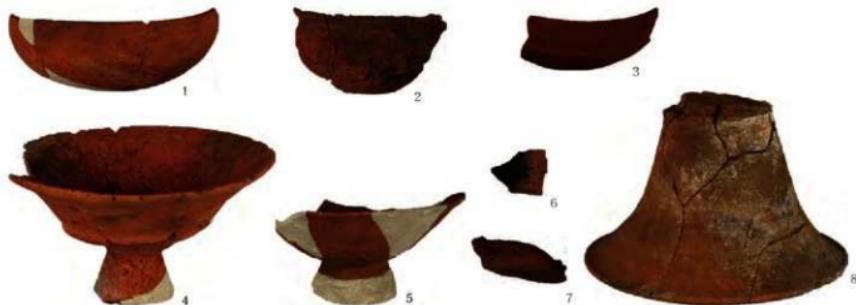


# PL.72

7区3号竖穴建物



7区4号竖穴建物





7区 8号窑穴建物





7区 9号竖穴建物





7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18

7区 10号竖穴建物



1



3



4



5



2



6



7

# PL.76

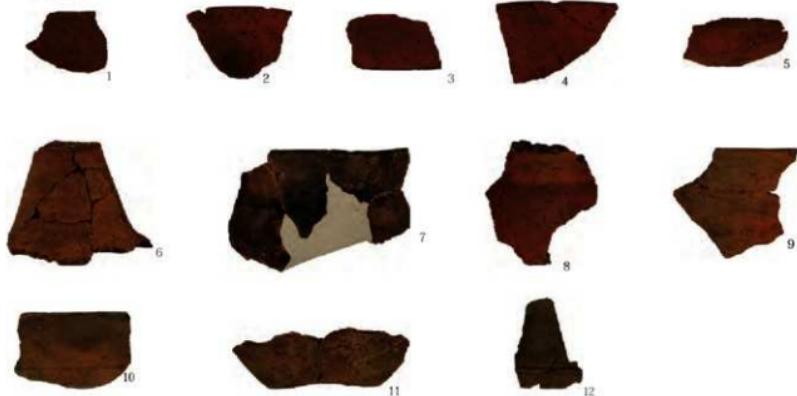
7区 11号竖穴建物



7区 31号土坑

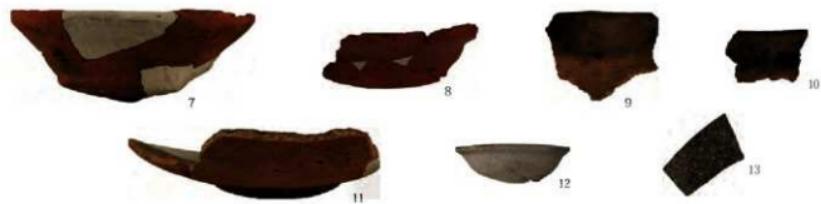


7区 1号遗物集中



7区 2号遗物集中





7区3号遗物集中



# PL.78

7区4号遗物集中



1



2



3

7区2号烧土



1

7区3号烧土



1

7区遗横外



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



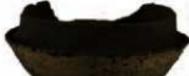
30



31



32



33



34



35



36



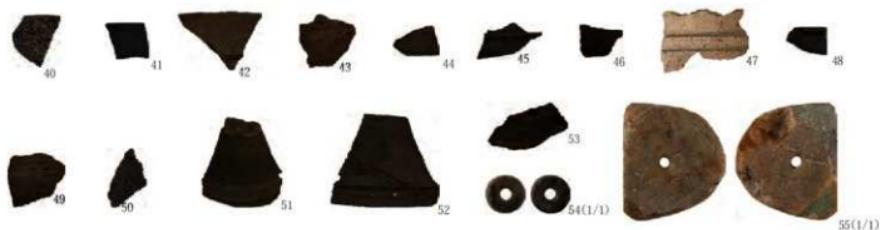
37



38



39



7区5号竖穴建物





15



16



17



18

7区 6号壁穴建物



1



2



3



4



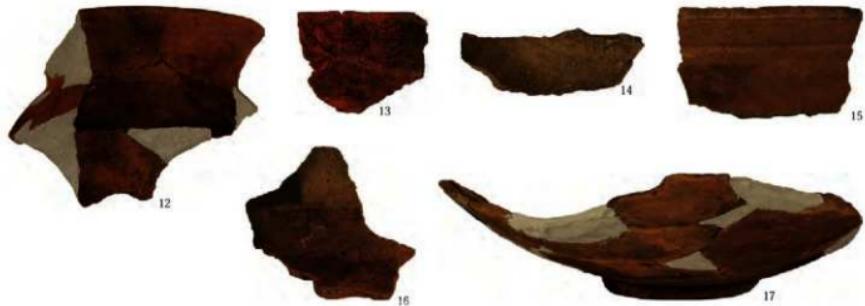
5





7区12号窑穴建物





7区13号竖穴建物



7区14号竖穴建物





15



16



17



18



19



20



21

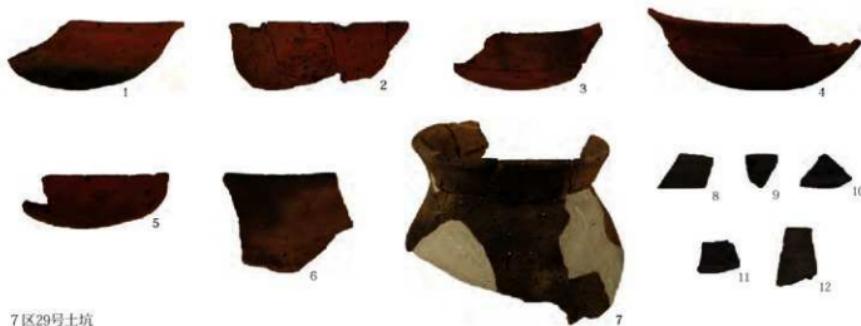
7区15号竖穴建物



7区1号掘立柱建物



7区1号平地建物



7区29号土坑



7区7号竖穴建物



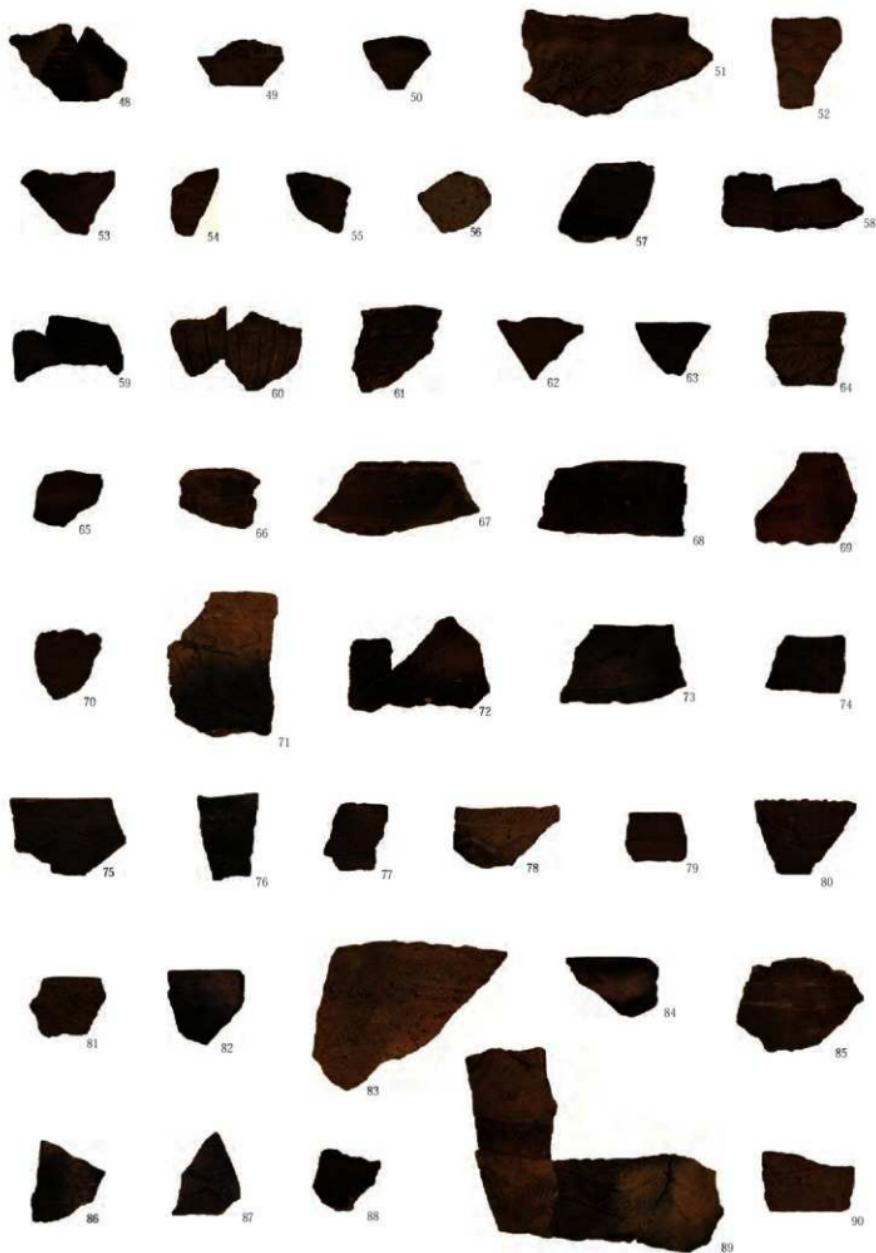
7区4号烧土

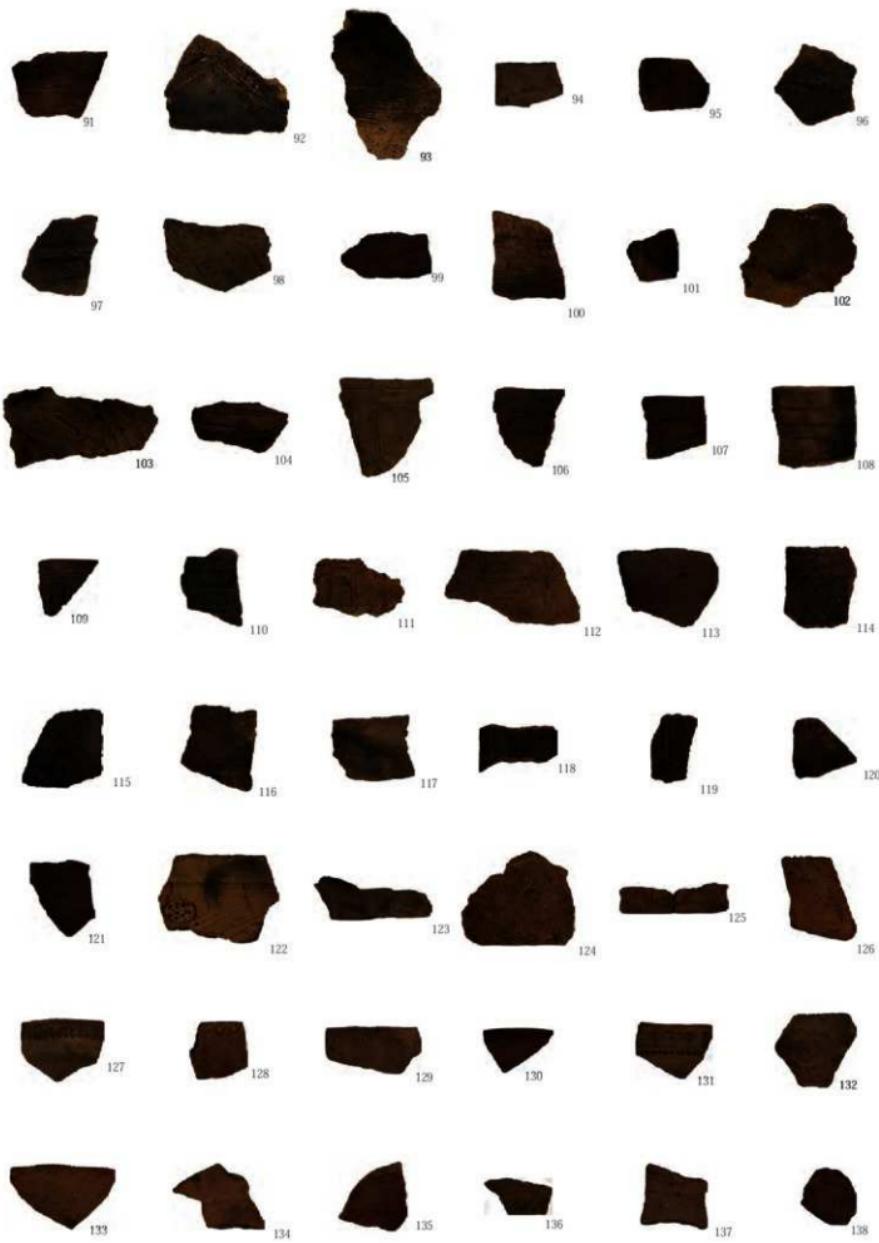


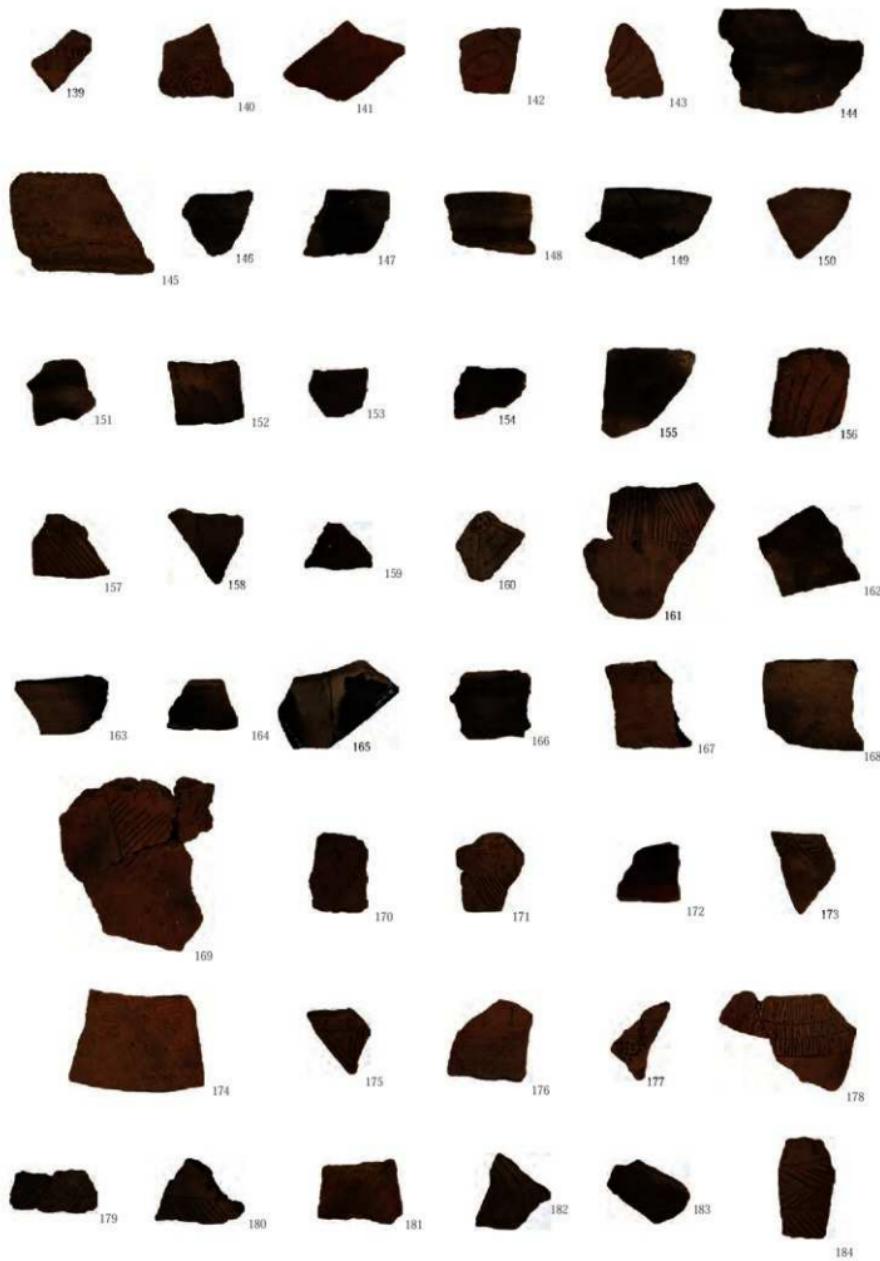
# PL.86

7区縄文・弥生時代













## 報告書抄録

書名ふりがな	かないしもしんでんいせき なな・はち・きゅうく
書名	金井下新田遺跡 7・8・9区
副書名	一般国道17号(渋川西バイパス)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	705
編著者名	鈴木佑太郎 原雅信 飯田陽一 藤野一之
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20220314
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	かないしもしんでんいせき
遺跡名	金井下新田遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんしぶかわし
遺跡所在地	群馬県渋川市
市町村コード	10202
遺跡番号	02748
北緯(世界測地系)	363100
東経(世界測地系)	1385911
調査期間	20181101 ~ 20190331 20190401 ~ 20190731
調査面積	4,314m <sup>2</sup>
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	縄文／弥生／古墳／近世
遺跡概要	集落－縄文－竪穴建物1+土坑4+ピット3その他+縄文土器+石器／弥生－弥生土器+石器／集落－古墳－竪穴建物14+平地建物1+掘立柱建物1+祭祀遺構1+土坑11+ピット20+集石1+遺物集中5+墓1+焼土7+道3+人足跡+馬蹄跡その他－須恵器+土師器+臼玉+石製模造品／近世－掘立柱建物1+土坑92+ピット3+溝14+道2+烟1+銭貨+铁滓
特記事項	古墳時代の拠点遺構である「囲い状遺構」が発見された金井下新田遺跡(5区)の西側に連続し、同じ6世紀初頭の火山灰下には、祭祀遺構や墓が検出された。特筆されることは、祭祀遺構出土の須恵器片が、5区出土の高杯形器台と接合することが確認された点である。古墳時代の祭祀行為の実態解明にに関して有効な資料が得られた。
要約	榛名山北東麓に形成された扇状地に立地する縄文時代から近世の複合遺跡。古墳時代に二度に亘って噴火した榛名山の火山噴出物に埋没した遺跡で、最初の噴火(6世紀初頭)による火山灰下から古墳時代集落が検出された。5世紀後半の竪穴建物も重複して検出され、榛名山麓の古墳時代集落形成と火山災害の経過が明らかにできる調査となった。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第705集

## 金井下新田遺跡《7・8・9区》

一般国道17号(渋川西バイパス)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和4(2022)年3月10日 印刷  
令和4(2022)年3月14日 発行

編集・発行/公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2  
電話(0279)52-2511(代表)  
ホームページアドレス <http://www.gumuibun.org/>  
印刷/上武印刷株式会社

